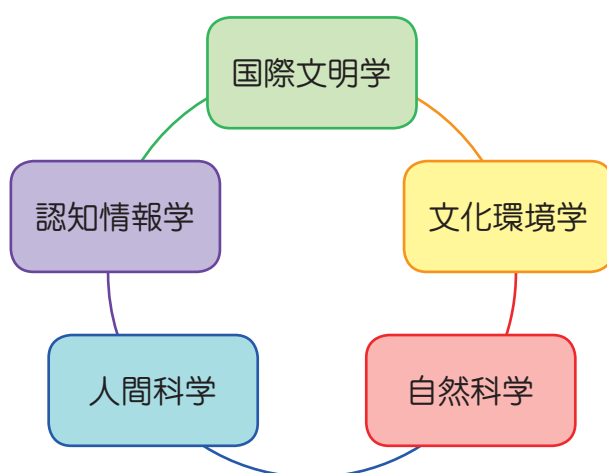


総合人間学部便覧

Faculty
of
Integrated Human Studies



平成 31（2019）年度

京都大学総合人間学部

本便覧に変更、訂正のある場合は、その都度掲示等によって通知しますので、掲示板等を確認してください。

平成31(2019)年度総合人間学部行事予定表

前

期

4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

後

期

10/1

後期授業開始

上旬

後期履修登録(掲示・便覧参照)

上旬

転学部資格照会

10/16

月曜日の授業実施

下旬

(1回生)分属ガイダンス

上旬

転学系願 受付

11/6

月曜日の授業実施

11月祭(授業休止)

12/27

休講等による振替授業実施可能日

12/29～1/3

冬季休業

上旬(1回生)「学系分属・アドバイザー希望調査」提出

1/14

月曜日の授業実施

1/16

金曜日の授業実施

1/17

大学入試センター試験前日(授業休止)

1/24

後期授業終了

1/27～1/31

試験期間

1/31 16:00

卒業論文・卒業研究提出期限

2/3～2/7

フィードバック期間

上旬

卒業論文・卒業研究発表会＆研究を他者に語る

2/24

入学試験前日(教務掛窓口業務休止)

2/25～26

入学試験(教務掛窓口業務休止)

下旬

後期成績表開示

3/24

卒業式

授業時間 1時限:8:45～10:15 2時限:10:30～12:00 3時限:13:00～14:30 4時限:14:45～16:15 5時限:16:30～18:00

目 次

京都大学総合人間学部の概要	2
5学系の理念・教育内容	3
教育研究上の目的、総合人間学部ディプロマ・ポリシー並びにカリキュラム・ポリシー	5
コースツリー	6
総合人間学部の教育制度について	11
●担任制及び教員アドバイザー制 ●学系分属(及び転学系) ●副専攻制度	
●指導教員 ●「研究を他者に語る」	
履修について	12
●履修上の注意事項 ●学研災について	
●卒業判定基準単位表	13
●履修登録について 履修登録・履修取消制度	15
●総合人間学部の定期試験について	16
●京都大学における災害等に伴う休講等の措置等に関する取扱い	17
●成績について 成績表の交付・成績評価・GPA制度	20
●卒業論文・卒業研究について	21
●「研究を他者に語る」について	21
●関係規程等	22
●総合人間学部規程	22
●学士入学について	23
●総合人間学部試験及び単位認定に関する内規	24
●主専攻科目表(人間科学系・認知情報学系・国際文明学系・文化環境学系・自然科学系)	25
●特殊講義(学部共通)科目表	42
●教科「保健体育」に関する科目表	
●総人ゼミ	
●副専攻科目表	43
授業科目概要一覧	44
教育職員免許状取得について	116
学生生活の諸手続きについて	117
●窓口業務時間について	
●学生証について	
●修学上の願出・届出について 休学願・復学願(届)・退学願・海外渡航届等	
●転学部について	
●各種証明書の発行について	
悩みごとの相談窓口について	119
その他	120
教員名簿	121
京都大学吉田キャンパス案内	125
●建物配置図	
●教室配置図	
●教室設備一覧	

京都大学総合人間学部の概要

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され、平成5年4月に第1期生を迎え入れた京都大学で最も新しい学部である。入学定員は120名であり、事実上の総合人間学部の大学院である人間・環境学研究科の教員が主として教育を担当している。

新学部を「総合人間学部」と名づけた理由は、本学部の研究・教育が、各専門分野に限定された個別的研究・教育を越え、自然と調和した人間の全体的形成を目標とするものだからである。

「総合人間学」とは、人間存在を人間の内面的な心理や価値、思想の面、あるいは身体面からだけでなく、人間のおかれた社会、政治、経済、文化、歴史的環境、さらには、物質や生物などの自然環境との関係を含めて、総合的に理解しようとする学問である。

現代社会に生きる人間が、人間自身とその人間の形成した文明とを最大の問題として探究しなければならないのは、この探究にこそ、これから人類生存の可能性が賭けられているからである。このような人類生存や文明の可能性という根本問題を解明していくには、これまでのように限定された狭い分野での研究・教育を進めるだけではもはや不可能となりつつある。つまり人間と人間をとりまく世界とを総体的に捉えていく新たな学問的営為を確立することが重要であり、これこそが総合人間学部における教育に求められている課題である。京都大学の自由の学風と伝統の上に立って、従来の個別科学の枠を越えたより多様で総合的な学問の場となることを本学部は目指している。

また、本学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、副専攻制度を設ける。これは各自の主専攻の他に異なる学問分野を系統的に履修することにより、幅広い知識を身につけるための制度である。副専攻を選択し、所定の単位を修得した場合には、卒業の際に、学士学位記とは別に副専攻を明記した認定書が発行される。

なお、従来総合人間学部には、人間学科、国際文化学科、基礎科学科、自然環境学科の4学科のもとに13講座23専攻が置かれていたが、平成15年4月よりは1学科(総合人間学科)制とし、5学系制を採っている。

人間をめぐる現代の複雑な状況は、過去の人間について蓄積された叢智の上に、人間についての根源的、総合的理解を緊急に行う必要性を提起している。このような必要性に応えるため、思想、社会、文化の3方面から人間の総体的な把握がなされねばならない。この3側面から現代の人間を系統的に学ぶことによって、従来存在しなかった新しいタイプの人材を養成するために、**人間科学系**が設置されている。

今日人間と機械の情報処理の問題を総合的に学ぶことは焦眉の急務となっている。脳の機能とは何か、から人間の認知、行動発現、言語機能の探究、その基礎にある情報科学と数理科学にいたるまで、深く学ぶために、**認知情報学系**が設置されている。

世界のグローバル化が進む状況のなかで、西洋と近代主義、ならびに非西洋とその固有の文明を複眼的に捉えることが要請されている。近代主義を主として社会科学領域や歴史文化研究の側面から分析し、いち早く近代化した日本のあり方を検討するとともに、東アジアとの比較を行うことによって、国際的で新しい文明の理念を構築するために、**国際文明学系**が設置されている。

世界各地の固有の民族性や地域性、あるいは人間にとって基本的な居住の視角から各文明の特質を解明し、文明相互の交流を理解するために**文化環境学系**が設置されている。

自然を理解し、人間と自然の共生を保持するために、多様な自然現象を物理科学、物質科学、生物科学、地球科学的手法によって探究し、自然の構造や自然法則の基本原則を明らかにする必要がある。自然科学の諸分野の基礎を学ぶとともに、自然と人間の共生関係を維持するための自然観・物質観を養成するために、**自然科学系**が設置されている。

5学系の理念・教育内容

● ● ● ● 人間科学系 Human Sciences ● ● ● ●

科学技術の加速度的進展や情報化といわれる社会過程の高度な発展に伴って、人間をめぐる社会的・物質的環境は過去数十年の間に著しく変化した。その変化に対応するかのように、既存の人間に対する知では十分説明しきれないような、さまざまな人間行動や社会現象が生起するに至っている。本学系は、人間をめぐるこうした現代的状況を背景にし、また個別科学において貯えられてきた人間についての知を前提にしながら、人間についての全体的で根底的な理解を獲得することを目的としている。この目的を実現していくための道筋としては三つのものが考えられる。第一は、人間の諸活動の成果をもとに人間そのものについての思索を深化させていくという方向、第二は、人間を徹底して社会的文脈の中に置き、その中で人間についての知見を貯えていくという方向、そして第三は、文学を含む文化現象全般から人間についての理解に迫るという方向である。第一の方向は「思想」研究の方向と名づけるべきものであり、そこからは哲学や倫理学の伝統を前提にした人間存在についての思想的解明、あるいは造形芸術や演劇などの人間の創造行為全般についての思想的・歴史的研究がなされる。また第二の「社会」研究の方向からは、人間形成の諸過程・諸問題に関する実証的・理論的解明、あるいは人間の社会行動についての実証的・理論的研究が行われ、第三の「文化」研究の方向からは、文学作品を中心とした表現文化についての研究、さらには歴史学と社会学を踏まえた文化・文学・映画研究が行われる。「思想」「社会」「文化」の三つの方向は相互に有機的に関連しあって、「人間についての全体的で根底的な理解」という本学系の目的を実現することをめざす。

本学系は、思想・社会・文化の三極構造において人間をトータルに把握しようとするものである。抽象度の高い思考（「思想」）と社会的現実についての冷静な分析（「社会」）、それに文学を含む諸文化現象への幅広い教養（「文化」）という三つの極によって構成される問題空間を系統的に学ぶことを通して、人間についての深い洞察と理解をもった、これまでにないタイプの人材が輩出することが期待される。こうした人材は、大学院、各種シンクタンク、教育界、公務員、家庭裁判所調査官、マスコミ関係、流通・広告業界、芸術界など広い範囲で活躍することが予想される。

● ● ● ● 認知情報学系 Cognitive and Information Sciences ● ● ● ●

脳・身体・言語・数理情報などに関する研究を通じて、人間および計算機の多様な創造世界に関する理解を深めることを目標とする。人間同士あるいは人間と環境との関わりは、脳、身体、言語等をインターフェースとして行われる。環境の認識と環境への働きかけは、脳内の認知機構と運動制御機構の発現によって実現されるのである。人間相互のコミュニケーションは、脳が構築した言語システムを媒体としており、それを媒介する計算機の情報処理は、情報処理の複雑な数理機構が関与している。また脳の知的作業の最も昇華された世界が、数学的認識であるということができよう。

本学系は、(1)ハードウェアおよびソフトウェアとしての脳の機能を、行動科学的・認知科学的・神経科学的手法を用いて解明し、人間の知性と創造性の基本原理を理解すること、(2)高度な機械文明の発達による超運動不足やエネルギー摂取・消費のアンバランスや偏った食生活と遺伝的要因により発症する生活習慣病の生理学的・病理学的・運動科学的メカニズムを探究し、予防医学の発展に寄与すること、(3)情報の表現とその処理に関する理論を考究し、実践的に応用すること。コンピュータによる学習、推論などの知的な情報処理について理論と応用の両面から探究すること、(4)種々の現象の数学的モデルを構築し、それを数理科学的手法を用いて解析し、我々を取りまく世界の認識を深めること、(5)我々の認識を反映している自然言語・人工言語の構造と機能、生成と理解のプロセスを明らかにし、自然言語や形式言語のメカニズムとその背後の認知のメカニズムを解明すること、(6)外国語習得のメカニズムを探究し、外国語教育の最適環境・政策・カリキュラム・指導法を研究し、外国語学習のための教材を開発することをめざしている。

このように、認知科学、行動制御学、身体機能論、情報科学や数理科学、言語科学、外国語教育論といった内容を総合的に学ぶ。従来の理系・文系という枠を越えた幅広い探究能力と、人間の認識行動の総合的理解に基づく科学的で柔軟な思考能力を身につけることにより、どのような職種に就いても、将来を見ずえることのできる人材の養成をめざす。

● ● ● ● 国際文明学系 Multi-Disciplinary Studies of Civilizations ● ● ● ●

西欧において発展してきた近代主義は、政治参加の大幅な拡大、経済的な繁栄、情報の利便化、そして世界の一体化などをもたらした。その反面で、例えば市場競争の文化・生活構造および人間の感性や価値観のありかたに対する影響、グローバル化と地方文化・生活文化との矛盾、そして深刻な環境問題など、さまざまな問題を生み出している。

本学系では、近代主義について多面的な検討を加えることを念頭に、その現状に対して、政治論・経済論・法律論・社会論・科学論・メディア論・環境論などを領域横断的に相関させた分析を加えるとともに、西洋史を通して、その歴史的背景を追求し、欧米文化の研究によって、近代主義の文化的表現の解明をめざす。また、日本史を通して、近代主義の受容以前

の独自の歴史・文化を分析するとともに、いち早く近代化した日本のあり方を検討する。さらに、東アジア文化との対照を行うことで、近代主義の相対化をめざす。これらを通して、近代主義が生み出した諸問題を解決するにふさわしい、国際的で新たな文明の理念を構築することを、本学系の目的とする。

現代の社会に関する社会科学系諸分野と、日本・東洋・西洋の歴史・文化に関する諸分野の知識・方法論を総合的に修得することをめざす。これによって、既存の文系諸学部とは異なる学際的な教養と柔軟な思考を有する学生を育成する。総合的な社会科学的思考方法を身につけた人材は、新しい学際的な研究分野の開拓をめざした大学院への進学や、民間企業をはじめ官庁・自治体、出版界、中・高教員、学芸員など、多彩な方面で活躍することが期待される。

● ● ● ● 文化環境学系 Cultural Environment Studies ● ● ● ●

世界の各地では、地域特有の自然環境に影響を受けつつ、言語・宗教や社会・経済などの諸条件のもとに、固有の民族性や地域性が長い歴史の過程で育まれてきた。これに加えて、とくに16世紀以降、非西欧世界の諸文明は、世界化しようとする西欧文明との衝突と受容を通して、みずからの地域文明の特性を維持しながらも、伝統文化の苦悩に満ちた消長を経験してきた。

本学系は、近代文明のグローバル化が進展する現代にあって、その基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な居住の諸相の実態と将来的な意義を見定める視座を打ち立てる一方で、各文明の地域的特性を多角的に比較しつつ、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対化の諸相を複眼的な視点から解明することをめざす。

世界の諸文明の特質を比較対照しつつ学び、それらを相対化して捉える習慣を身につける。同時に、文明社会の基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な居住の諸相の実態と将来的な意義についても理解を深める。人間社会に対する基本的な理解とグローバルな視点に立って、諸文明の交流を通時的かつ共時的に把握し、その交流の現場にかかわりうる包摂的能力を備えた学生を育成する。ジャーナリズム・メディア関連、地域計画関連、国際機関、図書館、博物館、官公庁、商社などの社会における主導的職種、そして、複数の専門領域に通ずることによって新たな問題提起を果敢に試みる学際性豊かな教育研究職に人材を供給する。

そのために、本学系では次の3点を教育の柱にすえる。

- ① 文明の問題に関しては、日本の常識がかならずしも世界の常識ではないことを理解する。
- ② 文明はたえず交わり合い変わってゆくのに、その自己同一性は長く保たれるという複雑な存在であることを理解する。
- ③ 文化や環境の諸問題を研究する上では、教室や図書館で学ぶことに加えて、現場で学ぶという姿勢が欠かせない。本学系ではフィールドワークに関するトレーニングを通して、現場で学ぶことの重要性を身につけることをめざす。

● ● ● ● 自然科学系 Natural Sciences ● ● ● ●

階層構造をなす自然を理解し、自然と人間との共生関係を探究するためには、一見多様で複雑に見える地球環境や物質の構造・性質、そしてヒトを含めた生物・生命現象を物理科学、物質科学、生物科学、地球科学的手法を用いて調べ、それらの成り立ちや物性・機能、そして変遷を明らかにすることが必要となる。さらに、その中に潜みそれらを支配している要因・基本原理を見だし、お互いの相関関係を論理的、統合的に把握することが重要となる。

本学系では、(1)物質のもつ基本的性質を原子、分子、電子およびその集合体のレベルから理解し、それらの織りなす多様な物性現象や新奇現象の本質を解明するとともに、今日の科学技術の発展の基礎を修得し、物理科学の新しい展開の方向を探究すること、(2)様々な無機および有機物質と生体との相関を解明し、それらの機能と微視的構造を明らかにするとともに、化学反応の仕組みや制御法を研究して、優れた機能をもつ材料や目的物質を環境負荷なく創製するための基礎を養うこと、(3)DNAレベルから生態系レベルまで、各階層の生命現象と生物の機能をさぐり、また生物の多様性と進化ならびに様々な種間関係とそれらが織りなす生態系の仕組みを探究すること、(4)自然界を構成する気圏・水圏・地圏の物質構成・構造や化学的・物理学的動態、地球・宇宙のダイナミクスを探究するとともに、宇宙の誕生から地球46億年の歴史を振り返り、地球環境の変遷とその仕組みを解明すること、さらに学系全体として、自然界の森羅万象を対象として、それらを統合的に理解することを目標とする。学生は、自然科学の諸分野の基礎を系統的に学修するとともに、他の学系と連携して人間と自然との共生関係を探究するための総合的な自然観と物質観を養うことをめざす。

これらの学修を通して、基礎研究や環境問題などの総合科学に携わることでできる研究者や科学行政官、博物館学芸員、科学ジャーナリスト、理科教育者等に要請される素養を身につけることができる。また、いずれかの専門を修める場合にも、既成の個別分野にとらわれない非境界的・流動的な新しい領域を開拓できる能力を培うことが期待される。

教育研究上の目的

(京都大学通則第3条の3の規定による)

総合人間学部は、人間と文明と自然との結び付きに新たな次元を確立するために、人類が直面する様々な問題を人間活動の広範な諸領域を通底させる形で問い直し、これまでの人文科学、社会科学、自然科学を融合した新しい学問の体系を構築することを、すなわち、新たな「人間の学」の創出を目指す。さらに、このような学問的探求を通じて、科学技術の急速な発展と国際化の進展など著しく変化するこれからの社会に対して、持続的かつ創造的に対処しうる広い視野を持った人材を育成することを目的とする。

総合人間学部 ディプロマ・ポリシー並びにカリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

総合人間学部は、人間と文明と自然との新たな結びつきを見出す「人間の学」の創出をめざしています。また、この学問的探究を通して、高い倫理性と幅広い視野から創造的かつ持続的に現代の諸問題と向き合い、多様な人々と協働しながらリーダーシップを発揮する人を育成することを目的としています。これを達成するため、以下の点に到達した者に総合人間学部学士号を授与します。

1. 総合人間学部が提供する学際的な学問の場において、人文科学・社会科学・自然科学を横断する幅広い知識と教養を身につけていること。
2. 他者や異文化に対する理解を深めた上で、自らの見解を形成し、それを豊かに表現するプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ならびにリーダーシップを培っていること。
3. 多様な学問分野を学ぶ中で、自らの知的な核となる特定の分野を選択し、その理解を深めていること。
4. 主たる専門分野とは異なる、もう一つの分野も重点的に学ぶことによって、人間・文明・自然に対する、多角的な視点や柔軟な発想力を培っていること。
5. 卒業論文・卒業研究において、問題の設定からその解決方法の提示に至る研究過程に取り組み、一定の成果を上げていること。

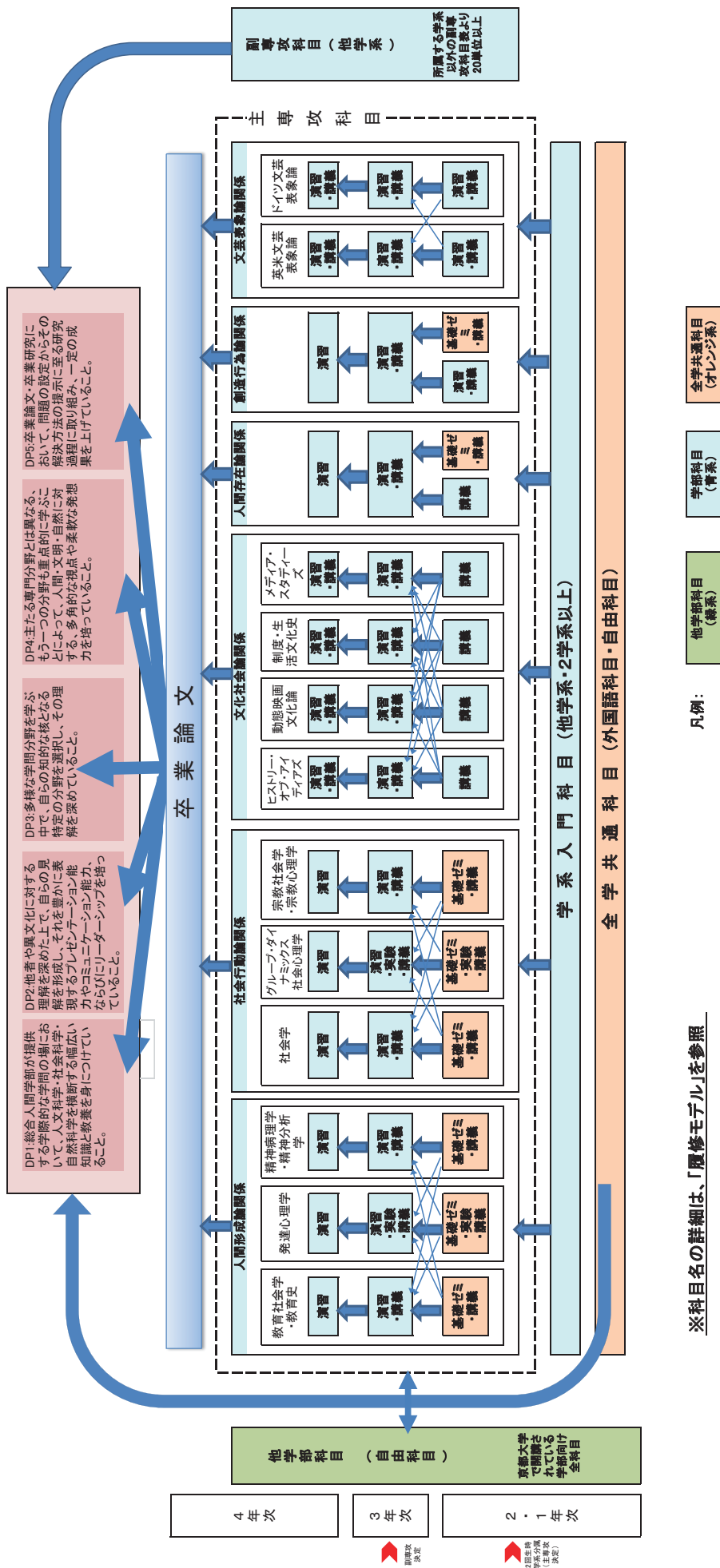
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

総合人間学部では、新たな「人間の学」の創出を主軸として、卒業の認定に関する方針に示した目的を達成するために、多様な学問分野を網羅する教員陣のもとで、教養教育・基礎教育と専門教育を体系的に一体化したカリキュラムを提供します。比較的近い学問分野で構成する学系を複数設置し、各学系のコースツリーならびに個別の学問分野の履修モデルを提示することにより、カリキュラム体系の構成を具体的に示します。講義や演習等として行われる個々の授業科目の内容および、定期試験・レポート・平常点による評価方法の詳細については、シラバスに記載します。

総合人間学部には、以下の指針に従って自律的に学修することを求めます。

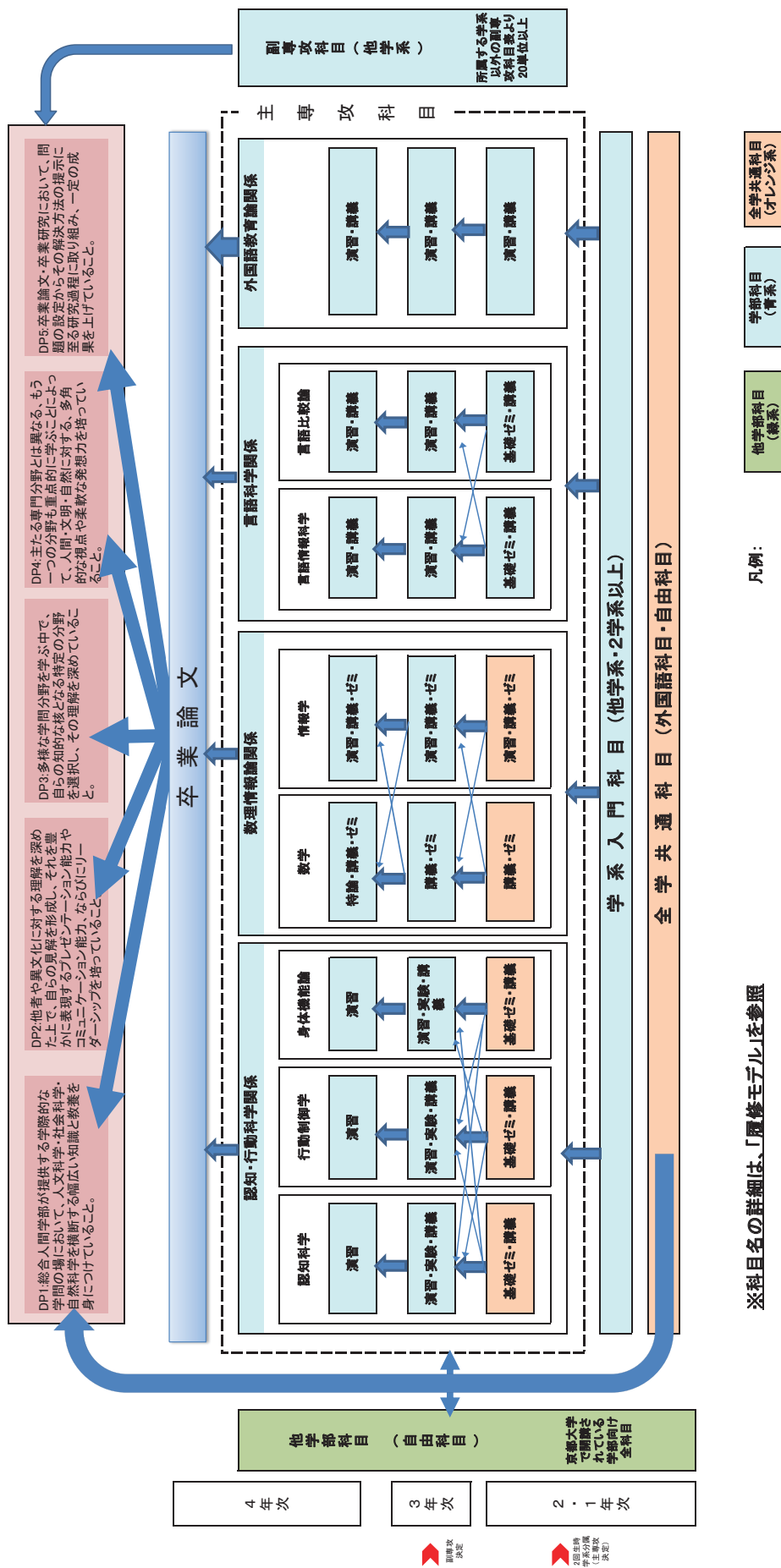
1. 文理にまたがる多様な教養・基礎科目、複数の学系の入門科目、複数の外国語科目等を幅広く学び、人間・文明・自然に対する幅広い知識と理解力を修得し、豊かな人間性と高い倫理性を育む。
2. ゼミ・演習等の少人数科目を履修し、教養・基礎から専門の領域にわたる知識と能力を濃密な議論の中で培うとともに、他者に自らの見解を表現するためのプレゼンテーション能力および対話能力を身につける。
3. 学年の進行とともに、自らの学問的関心に応じて一つの学系を主専攻として選択して系統的に学び、自らの知的な核となる専門性を修得する。
4. 主専攻とは異なる学問分野を副専攻として系統的に学び、自らの専門分野に捉われない柔軟で重層的な思考力を養う。
5. 主専攻の分野において指導教員を選び、そのもとで卒業論文・卒業研究に取り組む。学修成果は複数の教員により審査される。こうした研究過程を通して、専門性を深めるとともに、現代の諸問題の解決に挑戦する創造的姿勢と持続力を育む。

総合人間学部 人間科学系 コースツリー

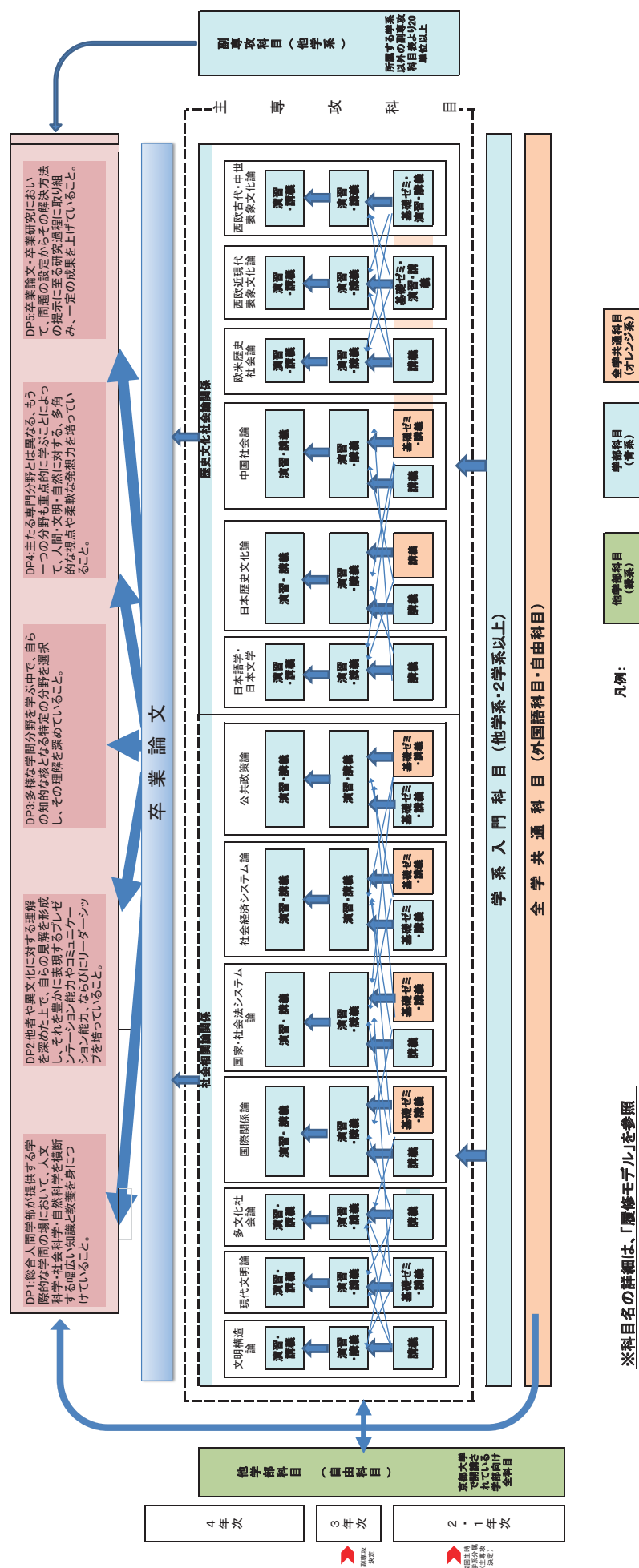


※科目名の詳細は、「履修モデル」を参照

総合人間学部 認知情報学系 コーサスシリーズ

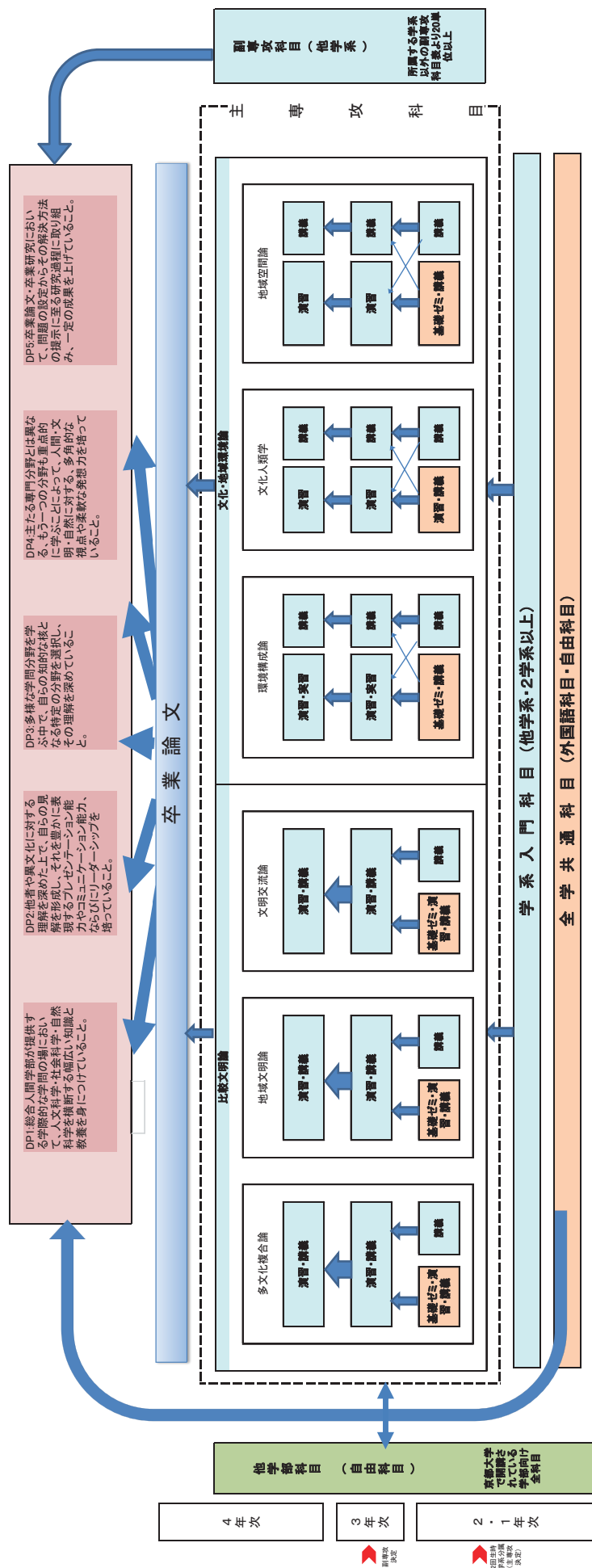


総合人間学部 国際文明学系 コースツリー



※科目名の詳細は、「履修モデル」を参照

総合人間学部 文化環境学系 コースツリー

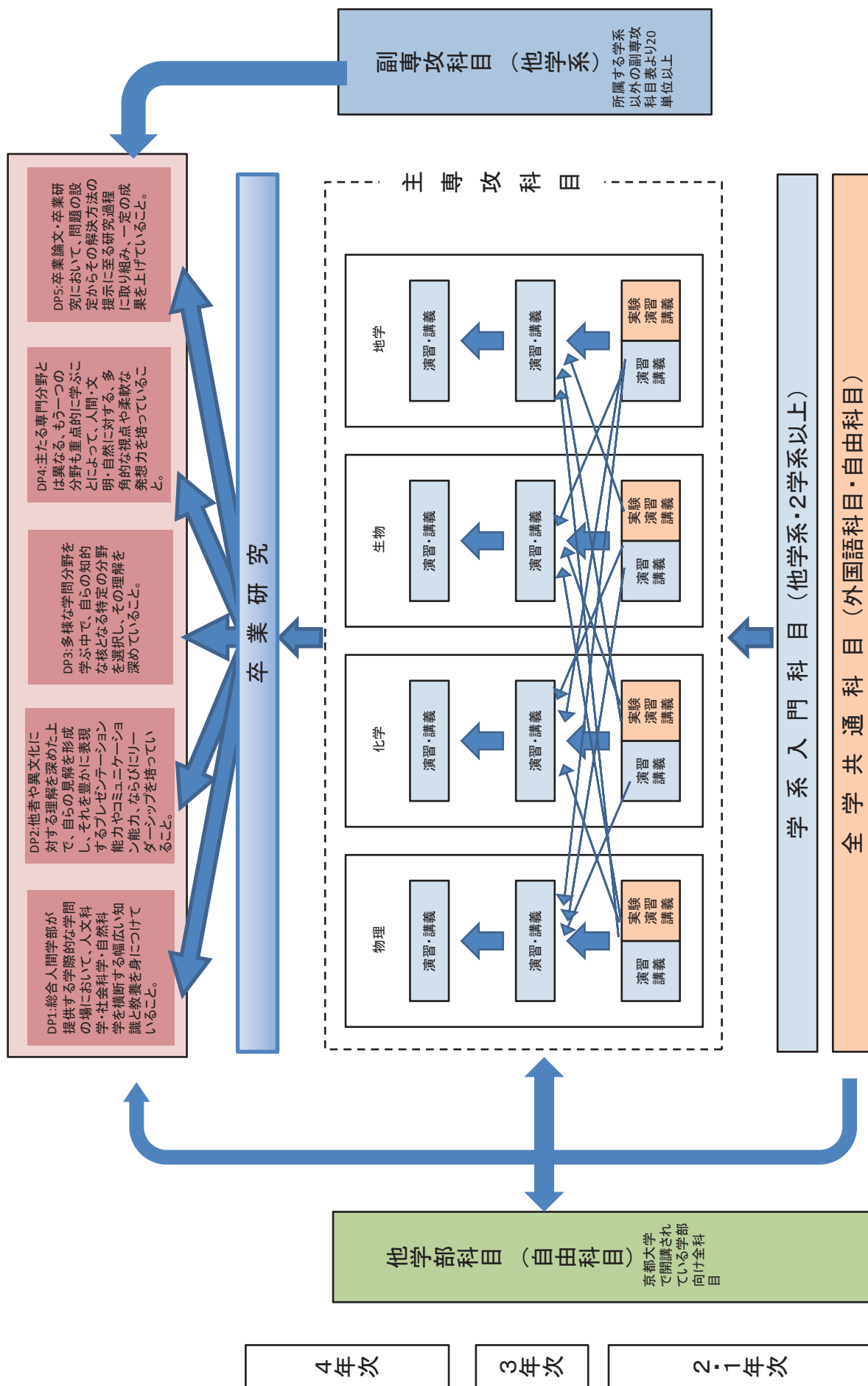


※科目名の詳細は、「履修モデル」を参照

凡例:



総合人間学部 自然科学系 コースツリー



※科目名の詳細は、「履修モデル」を参照

凡例:

他学部科目
(緑系)

学部科目
(青系)

全学共通科目
(オレンジ系)



副専攻
決定



2年生時
学系分属
(主専攻
決定)

総合人間学部教育制度について

● ● ● ● 担任制及び教員アドバイザー制 ● ● ● ●

総合人間学部では、担任制(1回生)・教員アドバイザー制(2回生以上)を設け、学生諸君の履修上の相談と学生生活上の相談に応じえています。各学年の始めにこれらの教員も参加するガイダンスを実施します。この時はもちろん、いつでも何かわからないこと等あれば、気軽に担任または教員アドバイザーに相談し、アドバイスを受けてください。

担任制により1回生の各クラスに5名の担任を配置します。受け持ちの担任の氏名については4月に掲示しますので各自確認してください。

教員アドバイザー制は、主に2・3回生の時に、履修等の相談をする教員を学生の希望により指名する制度です。教員アドバイザーは、原則として所属する学系の教員を指名し、そうでない場合は、所属する学系の教員を副として指名してください。一人の教員に希望が集中した場合は、学生の意向を聞き調整することがあります。

掲示による指示に従い、希望調査書を提出してください。

なお、提出しない者については、学系主任が教員アドバイザーを割り当てます。

＊3回生後期以降は指導教員が相談に応じます。

● ● ● ● 学系分属 ● ● ● ●

2回生進級時に、主専攻学系への分属が決定します。

この分属という制度は、各学系の主専攻科目の講義、演習等を履修し、4回生で指導教員の指導の下、最終的に卒業論文・卒業研究を完成させるために設けられています。

1回生の間にはできるだけ視野を広めるとともに、各学系が開講する「学系入門科目」などによって、各学系の特色や各教員の研究教育活動をよく観察して、初志に合うか吟味してください。

分属は、学生諸君の希望を最大限尊重しますが、学系によっては、設備の制約等のため希望者全員の分属を認めることができない場合もあります。その際の選考方法等については、必要が生じた時点で掲示等により周知します。

1回生に対し、10月頃に分属ガイダンスを行います。その後、前述した教員アドバイザーとともに学系分属の調査を実施しますので、1月上旬の期限までに調査書を教務掛へ提出してください。

<転学系について>

所属する主専攻学系を変える場合は、2回生の11月に転学系願を提出してください。許可された場合、3回生進級時から学系が変更されます。3回生以上についても原則として3回生受け入れになります。

詳細については、毎年10月上旬に掲示で周知しますので、注意してください。

● ● ● ● 副専攻制度 ● ● ● ●

副専攻は、主専攻分野とは別に特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって主専攻以外の分野にも深い知識と広い教養及び総合的な判断力を養い、豊かな人間性を身につける高度な一般教育の実現が期待されます。

副専攻は、【副専攻科目表】の一覧表から自分が所属する学系以外のいずれか1つを選び20単位以上を修得します。

「副専攻届」の提出は3回生の7月ですが、「1つの副専攻から20単位以上」というのはかなり厳しい条件ですので、各副専攻の履修条件等をよく読み、早めに履修計画を立ててください。

● ● ● ● 指導教員(卒業論文・卒業研究の指導)の決定 ● ● ● ●

卒業論文・卒業研究は本学部を卒業するために必須です。卒業論文・卒業研究の指導を受けるために、3回生の7月までに指導教員を決めて、「指導教員届」を提出します。(自然科学系については、平成31年度の提出までは3回生の1月提出も認めます。)

指導教員は、原則として総合人間学部学事会議構成員(『教員プロフィール』教員一覧表に載っている教員。助教は除く)です。『教員プロフィール』の「卒論指導を希望する方へ」を入学時からよく読んで参考にしてください。

3回生のはじめに、「指導教員届」の提出に先立ち、「指導教員希望調査」を行います。教員アドバイザーや希望する指導教員と十分な相談をした上で、希望調査を提出してください。希望者が集中した場合は、調整を行います。(平成30年度入学者からは、教員1人あたり3名以下を目安とします。)

必要な場合には指導教員を変更することができます。

● ● ● ● 「研究を他者に語る」 ● ● ● ●

総合人間学部では、卒業予定学生が、自身の卒業論文・卒業研究の内容を異分野の教員に向けて発表する「研究を他者に語る」と題した取組みを行っています。自分が取り組んでいる研究の内容を異分野の教員に対して「説得的に」語ることで、学術の知とその意義を専門外の人にわかりやすく語るコミュニケーション能力を身につけるとともに、自分の研究を相対化し客観視することで、多様かつ総合的な視点で物事を観る能力を培うことを目指します。

履修について

これから卒業に向けて各学系における必要単位を修得するために、この「総合人間学部便覧」を必ず精読してください。本学部の授業形態には、講義、演習、ゼミナール、実習、実験などがありますが、実際の形態は学系・関係・科目によって少しずつ異なっており、一律には定義できません。講義・演習・ゼミナールは半期単位で1講時(2時間)2単位です。また実験・実習(一部の演習を含む)は半期1講時で1単位ですが、多くの場合2講時連続で実施され、2単位となっています。

履修登録は、原則として前期(4月)・後期(10月)の2回実施されます。前期には前期・通年・前期集中・通年集中の科目を、後期には後期・後期集中の科目を、KULASISにより履修登録してください。

全学共通科目については、「全学共通科目履修の手引き」「全学共通科目授業内容」等を必ず精読してください。本学部では外国語(必修)以外は、特に群指定していません。履修登録等については、全学共通科目担当掛の掲示・KULASIS等に注意して指示に従ってください。

● ● ● ● 履修上の注意事項 ● ● ● ●

- ・ 1回生配当された総合人間学部科目は、できるだけ所定年次に履修しておくことが望めます。そうしておかないと、学系によっては、3回生以上の学部科目の履修が困難になる場合も生じますので注意してください。
2・3回生において大部分の学部科目を履修し、4回生ではできるだけ十分な時間を卒業論文・卒業研究の作成に充てることが望めます。
- ・ 【卒業判定単位基準表】【主専攻科目表】【副専攻科目表】、授業科目内容一覧を参照して履修してください。
- ・ 実験・実習科目の中には、履修可能人数の制約上、正式の履修登録に先立って受講申し込みの手続きをする必要のあるものがあります。こうした科目については、年度(または学期)初めに掲示等で詳細を案内しますので、必要な手続きを済ませた上で履修登録を行ってください。
- ・ 総合人間学部の主専攻科目表に掲載された学部科目の中には、全学共通科目として提供しているものがあります。このような科目を履修する場合、全学共通科目としてではなく、総合人間学部科目として手続きしてください。
- ・ 原則として、同じ授業科目名(科目名変更した科目を含む)の科目を2つ以上修得した場合、修得期の早いものを1つしか卒業に必要な単位として数えられません。ただし、重複履修が認められている科目(主専攻科目表に明示)は、この限りではありません。
- ・ 他学部科目の履修を希望する者は、所定の期間内(掲示で周知)に総合人間学部教務掛で「他学部聴講願」の手続きを行ってください。

学生教育研究災害傷害保険(学研災)について

学生教育研究災害傷害保険(略称:学研災)は、正課中、学校行事中、課外活動中、これらに伴う通学中等の事故において、学生が被った傷害に対し適用される保険であり、学生生活を送るうえで重要な役割を果たします。また、学研災の付帯保険として、上記活動中(一部除く)に学生が被った法律上の損害賠償責任(対人・対物)を対象とする学研災付帯賠償責任保険(略称:付帯賠償)があります。

本学では入学の際、原則として学研災・付帯賠償に全員が加入することになっています。

入学時に加入していないひとは下記URLを参照して加入してください。

*実験、実習、インターンシップ等の履修にあたり、加入が必要となる場合があります。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/campuslife/Insurance>

科目区分		履修区分	単位数	備 考
主専攻	主専攻科目	選択必修	48	所属する学系の主専攻科目表より。【注1～4】 以下の学系については、次の条件を付す。 ・人間科学系：「講義以外の科目」8単位以上を修得すること。 ・国際文明学系：「学部科目である講義科目」24単位以上 「基礎演習・基礎ゼミナール科目」4単位以上、および「演習科目」4単位以上を修得すること。 ・自然科学系：「演習科目（基礎演習は含まない）」8単位以上、 「学部科目である課題演習科目」8単位以上を修得すること。
	卒業論文／卒業研究	必修	12	【注5】
	「研究を他者に語る」	推奨*	—	「研究を他者に語る」の項を参照。 全員の実施を推奨する。*平成30年度以降入学者は、特別な理由がない限り、必ず実施するものとする。
副専攻		選択必修	20	所属する学系以外の副専攻より。 副専攻科目表参照。 副専攻番号①～⑩については、講義以外の科目を4単位以上含むこと。
学系入門科目		選択必修	4	所属する学系以外の入門科目より。 2学系以上にわたること。
外国語科目		選択必修	24	全学共通科目の外国語科目群より。 1外国語から12単位以上と その他の1または2外国語から12単位以上。 ・外国人留学生のみ「日本語」を選択することができる。 ・外国人留学生 (Kyoto iUPの学生を含む) の母語の科目は、外国語科目に含まれない。 ・全学共通科目各群のE科目で修得した単位を英語の単位に含めることができる。英語から12単位を履修する場合は、英語(リーディング)4単位、英語(ライティング・リスニング)A・B各2単位を含むこと。
自由科目		選択必修	32	京都大学において、学部学生向けに開講されているすべての科目より。【注6】 (他学部科目については、学系により科目数または単位数に制限を設けることがある)。
合計単位数			140	

【注1】 所属する学系の入門科目(主専攻科目に含まれる)の履修も強く推奨する。

【注2】 学系主任等の認定を受けた「他学系・他学部の学部専門科目」および留学により修得した単位は、16単位まで主専攻に含めることができる。(履修登録時または留学前に所定の手続きをすること。)

【注3】 「既修得単位」(本学に入学する以前に他の大学・短期大学または外国の大学・短期大学において修得した単位、もしくは科目等履修生として修得した単位のうち、本学入学時に本学部の卒業に必要な単位として認定した単位)については、留学により修得した単位と合わせて、30単位まで外国語科目または自由科目として認定することができる。ただし、外国語科目としての認定は、平成30年度以前入学者とする。

【注4】 「学部特殊講義」については、主専攻または副専攻として認めるものがあるので、「特殊講義(学部共通)科目表」を参照のこと。

【注5】 卒業論文・卒業研究のための演習を課す場合があるので、指導教員に確認のうえ履修すること。

【注6】 教育職員免許状「保健体育」取得に必要な体育実技Ⅰ～Ⅴ、教育学部開講の教職に関する科目および学芸員等の資格取得に必要な科目については、本学部の卒業単位に含まれない。

科目区分		履修区分	単位数	備 考
主専攻	主専攻科目	選択必修	48	所属する学系の主専攻科目表より。【注1～4】 以下の学系については、次の条件を付す。 ・人間科学系：「講義以外の科目」8単位以上を修得すること。 ・国際文明学系：「学部科目である講義科目」24単位以上「基礎演習・基礎ゼミナール科目」4単位以上、および「演習科目」4単位以上を修得すること。 ・自然科学系：「演習科目（基礎演習は含まない）」8単位以上、「学部科目である課題演習科目」8単位以上を修得すること。
	卒業論文／卒業研究	必修	12	【注5】
	「研究を他者に語る」	推奨	—	「研究を他者に語る」の項を参照。全員の実施を推奨する。
副専攻		選択必修	20	所属する学系以外の副専攻より。 副専攻科目表参照。 副専攻番号①～⑩については、講義以外の科目を4単位以上含むこと。
学系入門科目		選択必修	4	所属する学系以外の入門科目より。 2学系以上にわたること。
外国語科目		選択必修	12	全学共通科目の外国語科目群より。 1外国語から6単位以上とその他の1または2外国語から6単位以上。 ・外国人留学生のみ「日本語」を選択することができる。 ・外国人留学生 (Kyoto iUPの学生を含む) の母語の科目は、外国語科目に含まれない。
自由科目		選択必修	32	京都大学において、学部学生向けに開講されているすべての科目より。【注6】 (他学部科目については、学系により科目数または単位数に制限を設けることがある)。
合計単位数			128	

【注1】 所属する学系の入門科目（主専攻科目に含まれる）の履修も強く推奨する。

【注2】 学系主任等の認定を受けた「他学系・他学部の学部専門科目」および留学により修得した単位は、16単位まで主専攻に含めることができる。（履修登録時または留学前に所定の手続きをすること。）

【注3】 「既修得単位」（本学に入学する以前に他の大学・短期大学または外国の大学・短期大学において修得した単位、もしくは科目等履修生として修得した単位のうち、本学入学時に本学部の卒業に必要な単位として認定した単位）については、留学により修得した単位と合わせて、30単位まで外国語科目または自由科目として認定することができる。

【注4】 「学部特殊講義」については、主専攻または副専攻として認めるものがあるので、「特殊講義（学部共通）科目表」を参照のこと。

【注5】 卒業論文・卒業研究のための演習を課す場合があるので、指導教員に確認のうえ履修すること。

【注6】 教育職員免許状「保健体育」取得に必要な体育実技Ⅰ～Ⅴ、教育学部開講の教職に関する科目および学芸員等の資格取得に必要な科目については、本学部の卒業単位に含まれない。

● ● ● ● 履 修 登 録 に つ い て ● ● ● ●

毎学期始めの定められた期日に、単位を得ようとする授業科目について履修登録を行わなければなりません。履修登録のない科目については、原則として単位は認定されません。

● 履修登録 ●

履修登録手続きは、指定された期間内にKULASISで履修登録し、確認・修正期間に必ず確認してください。

詳細は教務掛掲示板・KULASISに掲示しますので、その指示に従ってください。

◎前期登録(登録科目:前期・通年・前期集中・通年集中)

◎後期登録(登録科目:後期・後期集中)

時間割作成期間(候補科目を設定)

※この期間に候補を設定しただけでは登録は終わっていません。履修登録期間に必ず決定してください。

※他学部科目を履修する場合は、所定の期間内(掲示で周知)に「他学部聴講願」の手続きを行ってください。

履修登録期間(履修登録科目を決定)

※集中講義も登録してください。登録不備科目があっても、この時点ではエラー表示されません。

履修登録確認・修正期間に必ず確認し、「履修登録入力確認リスト」を保管しておいてください。

履修登録確認・修正期間

※不備のあった場合はエラー科目として表示されます。ただし、修正期間中に修正した科目の再確認はできません。

修正のない場合は「履修登録確認表」を、修正した場合は「履修登録入力確認リスト」をプリントアウトし保管しておいてください。この期間以降は修正できません。

履修登録確定 My Pageの時間割には履修登録された科目のみ表示します。

● 履修取消制度 ●

平成 28 年度以降入学者を対象として GPA 制度を導入することになりました。それにあわせて全回生を対象として学期の途中で科目の履修登録を取り消すことができる「履修取消制度」を導入します。

(1) 取消手続きについて

原則として、履修取消期間中に KULASIS において学生本人が履修取消を申請します。

(2) 履修取消期間

教務掛掲示板・KULASISに掲示しますので、その指示に従ってください。

(科目の特別な事情に応じてこの期間以外に取消を認める場合があります)

(3) 履修取消を認めない科目

開講学部により履修取消を認めない科目がありますので、各学部教務掛に問い合わせてください。

(4) 履修取消の特例

病気・事故等により長期間にわたって授業に出席できないなどのやむを得ない事由がある場合に限り、特例として履修取消を認める場合があります。詳しくは教務掛窓口にお問い合わせください。

(5) 不受験科目の取扱い

成績判定時点で履修登録されているすべての科目を成績評価の対象とします。

すなわち、受験しなかった試験または提出しなかった課題等に対して最低評価を与えたうえで、シラバスに記載された成績評価基準に従って成績評価をおこないます。

※例:シラバスの成績評価方法・観点及び達成度に「小テスト 40 点満点、レポート 20 点満点、期末試験 40 点満点」と記載されている科目において、期末試験を受験しなかった学生の成績は、期末試験 0 点とした上で評価する。

● ● ● ● 総合人間学部の定期試験について ● ● ● ●

◆「総合人間学部の定期試験に関する実施要領」

総合人間学部の定期試験の実施に関しては「総合人間学部試験及び単位認定に関する内規」による他、この実施要領の定めるところによる。

なお、全学共通科目については「全学共通科目の定期試験に関する実施要領」によるものとする。

1. 試験は、原則としてアカデミックカレンダーの前期試験、後期試験の期間内に行う。
2. 試験は、原則として授業時間割と同じ曜日・時限で実施する。
3. 試験時間は60分を原則とする。ただし、担当教員の判断により90分以内で適宜行うことができる。
4. 試験開始後20分以上遅刻した者は、試験室への入室を許可しない
5. 試験開始後30分経過するまでは、試験教室からの中途退出を許可しない。
6. 受験に際しては、学生証を机上に提示させる。
なお、学生証を携帯していない者は、仮受験票により受験させる。仮受験票の発行は教務掛で行う。
7. 長机のある教室においては、原則として一列おきに着席させる。
8. 試験監督及び試験問題・解答用紙の準備については、担当教員の責任で行う。
9. 試験中に不正行為があれば、担当教員は教務掛へ連絡し、教務委員立会のうえ行為者に確認書を作成させる。
10. 教務委員は定期試験中交代で待機することとする。
11. 不正行為の措置については、「総合人間学部の試験における不正行為者に対する措置について」及び「総合人間学部の試験における不正行為者に対する措置手順」により行う。
12. 期間外試験及びレポート試験については、各教員の判断で実施することとし、あらかじめ試験調査書に記入する。

◆ 受験に際して不正行為があった場合、当該年度の全履修科目を無効にする等の措置を行います。

◆ 追試験は原則として行いません。ただし、次の場合はそれぞれ担当教員の判断により実施することがあります。

- (1) 履修授業科目の試験日時が重複した場合。ただし、事前に願い出たものに限る。
- (2) 負傷又は疾病による場合。ただし、医師の診断書により証明されたものに限る。
- (3) その他不可抗力による場合。

◆ 不合格になった科目の再試験は行いません。

●●●● 京都大学における災害等に伴う休講等の措置等に関する取扱い ●●●●

(趣旨)

第1条 この要項は、京都大学（以下「本学」という。）の学生の安全確保のため、災害又は不測の事態（以下「災害等」という。）が発生した場合における授業及び定期試験（以下「授業等」という。）の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

(気象等又は交通機関の運休による休講等の措置)

第2条 本学は、次の各号のいずれかに該当する場合、別表に定めるところにより、吉田キャンパス、宇治キャンパス及び桂キャンパスにおいて、授業休止又は定期試験延期の措置（以下「休講等の措置」という。）をとる。

- (1) 京都市又は京都市を含む地域に気象等に関する特別警報又は暴風警報（以下「気象警報等」という。）が発表された場合
- (2) 京都市営バスが全面的に運休した場合
- (3) JR 西日本（京都線、琵琶湖線、湖西線、奈良線及び嵯峨野線）、阪急電鉄（河原町駅～梅田駅間）、京阪電鉄（出町柳駅～淀屋橋駅又は中之島駅間）、近畿日本鉄道（京都駅～大和西大寺駅間）及び京都市営地下鉄のうち、3以上の交通機関が全面的に又は部分的に運休した場合

- 2 前項の場合において、教育担当の理事（以下「担当理事」という。）が吉田キャンパス、宇治キャンパス及び桂キャンパスの全部又は一部において授業等の実施が可能と判断したときは、当該キャンパスにおいては休講等の措置を終了する。
- 3 担当理事に事故があるときは、あらかじめ総長が指名する理事が、前項の規定により休講等の措置を終了するものとする。
- 4 担当理事又は前項の総長が指名する理事は、前2項の規定により休講等の措置を終了した場合は、速やかに総長に報告するものとする。

(部局長の判断による休講等の措置)

第3条 前条に定めるもののほか、授業等を実施する部局の長（以下「部局長」という。）が学生の安全確保のため必要があると判断した場合、当該部局の授業等について休講等の措置をとることができるものとする。

- 2 前項の規定により部局長が休講等の措置をとった場合の当該措置の終了は、当該部局長が決定する。
- 3 前項の規定にかかわらず、部局長が前項の規定により措置の終了を決定する前に、当該措置の原因となった災害等に関連して、前条第1項又は次条第1項の規定により当該措置の対象となった部局を含んだ範囲における休講等の措置がとられた場合、部局長がとった休講等の措置は前条第1項又は次条第1項の規定による休講等の措置に含まれるものとみなし、その終了は、別表又は次条第2項の規定によるものとする。
- 4 部局長は、第1項の規定により休講等の措置をとった場合及び第2項の規定により休講等の措置を終了した場合、速やかに担当理事に報告するものとする。

(不測の事態が発生した場合の休講等の措置)

第4条 前2条に定めるもののほか、吉田キャンパス、宇治キャンパス又は桂キャンパスを含む地域に不測の事態が発生し、担当理事が学生の安全確保のため特に必要があると判断した場合、吉田キャンパス、宇治キャンパス又は桂キャンパスの全部又は一部において、休講等の措置をとることができるものとする。

- 2 前項の規定により担当理事が休講等の措置をとった場合の当該措置の終了は、担当理事が決定する。
- 3 担当理事に事故があるときは、あらかじめ総長が指名する理事が、第1項の規定による休講等の措置をとり、又は前項の規定により休講等の措置を終了するものとする。
- 4 担当理事又は前項の総長が指名する理事は、第1項の規定により休講等の措置をとった場合及び第2項の規定により休講等の措置を終了した場合、速やかに総長に報告するものとする。

(危機対策本部を設置した場合における休講等の措置)

第5条 前3条に定めるもののほか、本学は、吉田キャンパス、宇治キャンパス及び桂キャンパスを含む地域で震度6弱以上の地震が発生した場合、危機管理計画に基づき、吉田キャンパス、宇治キャンパス及び桂キャンパスにおいて、当分の間、休講等の措置をとる。

- 2 前項に定めるもののほか、京都大学危機管理規程（平成23年達示第64号）第9条第1項に基づき危機対策本部が設置され、当該危機対策本部の本部長（以下「本部長」という。）が学生の安全確保のため必要があると判断した場合、吉田キャンパス、宇治キャンパス及び桂キャンパスの全部又は一部において、当分の間、休講等の措置をとる。

- 3 前2項の規定により休講等の措置をとった場合の当該措置の終了は、本部長が危機対策本部の設置の原因となった災害等に係る諸状況を勘案して決定する。
- 4 第2条第2項、第3条第2項及び第3項並びに前条第2項の規定にかかわらず、前3条の規定による休講等の措置後、当該措置を終了するまでの間に、当該措置の原因となった災害等に関連して危機対策本部が設置された場合の当該措置の終了は、本部長が、当該災害等に係る諸状況を勘案して決定する。
- (休講等の措置の周知方法)

第6条 第2条から前条までの規定による休講等の措置及び当該措置の終了については、KULASIS Information、本学ホームページ等を通じて、学生及び関係者に周知する。

(通学が困難な場合の救済措置)

第7条 第2条から第5条までの規定による休講等の措置をとらない場合であっても、次の各号のいずれかに該当する事態が発生したことにより学生が授業等に出席できなかったときは、当該学生からの別紙様式による申出により、部局長は当該学生に対して必要な措置をとることができる。

(1) 居住地を含む地域における震度6弱以上の地震の発生

(2) 居住地を含む地域における避難指示(緊急)又は避難勧告の発令

(3) 居住地を含む地域における気象警報等の発表

(4) その他居住地を含む地域又は通学経路における前3号に準ずる災害等の発生

(休講等の措置の代替措置)

第8条 災害等により休講となった授業は、原則として補講を行うものとする。ただし、授業担当教員の判断により、レポートその他の当該授業に相当する学修を課すこと等により代替措置とすることができる。

- 2 災害等により延期となった定期試験の実施方法は、必要に応じて部局間で調整を行った上で、当該定期試験を実施する部局が定める。
- (その他)

第9条 この要項に定めるもののほか、第3条第1項の休講等の措置及び同条第2項の措置の終了に関し必要な事項は当該措置をとった部局長が、その他災害等が発生した場合の授業等の取扱いに関し必要な事項は、総長が定める。

附 則

この要項は、平成31年3月12日から実施する。

別表

1・2時限の授業及び定期試験の取扱い

状況	授業及び定期試験の取扱い
(1) 午前6時30分の時点で第2条第1項各号のいずれかに該当する場合	1・2時限は、休講等の措置をとる。
(2) 午前6時30分から午前8時45分までの間に第2条第1項各号のいずれかに該当することとなった場合	
(3) 午前8時45分から午前10時30分までの間に第2条第1項各号のいずれかに該当することとなった場合	2時限は、休講等の措置をとる。 1時限の授業及び定期試験はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると担当理事が認める場合は、1時限の途中からでも休講等の措置をとる。
(4) 午前10時30分から午前12時00分までの間に第2条第1項各号のいずれかに該当することとなった場合	2時限の授業及び定期試験はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると担当理事が認める場合は、2時限の途中からでも休講等の措置をとる。

3・4・5時限の授業及び定期試験の取扱い

状況	授業及び定期試験の取扱い
(1) 午前6時30分から午前10時30分までの間に第2条第1項各号のいずれにも該当しなかった場合	3・4・5時限は、授業等を実施する。
(2) 午前10時30分の時点で第2条第1項各号のいずれかに該当する場合	3・4・5時限は、休講等の措置をとる。
(3) 午前10時30分から午後1時00分までの間に第2条第1項各号のいずれかに該当することとなった場合	
(4) 午後1時00分から午後2時45分までの間に第2条第1項各号のいずれかに該当することとなった場合	4・5時限は、休講等の措置をとる。 3時限の授業及び定期試験はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると担当理事が認める場合は、3時限の途中からでも休講等の措置をとる。
(5) 午後2時45分から午後4時30分までの間に第2条第1項各号のいずれかに該当することとなった場合	5時限は、休講等の措置をとる。 4時限の授業及び定期試験はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると担当理事が認める場合は、4時限の途中からでも休講等の措置をとる。
(6) 午後4時30分から午後6時00分までの間に第2条第1項各号のいずれかに該当することとなった場合	5時限の授業及び定期試験はそのまま続けるが、学生の安全確保上緊急を要すると担当理事が認める場合は、5時限の途中からでも休講等の措置をとる。

● ● ● ● 成 績 に つ い て ● ● ● ●

● 成績表の開示について ●

前期科目は9月中旬、後期科目は2月下旬に成績表をKULASISで開示します。

なお、採点結果について、次の場合に限り異議を申し立てることができます。

①採点の誤記入等、明らかに担当教員の誤りであると思われるもの。

②シラバス等により周知している成績評価の方法等から明らかに疑義があるもの。

前期・後期とも成績表開示期間初日から3日以内(土・日・祝日除く)に教務掛で手続きをしてください。

成績表開示及び採点結果についての異議申し立てについての詳細は、KULASIS及び掲示にて周知します。

● 成績評価について ●

成績は100点を満点とし、60点以上を合格、60点未満を不合格とします。ただし、授業科目によっては合、否の区分とします。また、成績を評語でもって表す場合は次のとおりとします。

<平成27年度以降入学者>

96～100点をA+、85～95点をA、75～84点をB、65～74点をC、60～64点をD、0～59点をF、合格をP、不合格をFとする。

<平成26年度以前入学者>

80～100点を優(A)、70～79点を良(B)、60～69点を可(C)とする。

● G P A 制 度 ●

学生の自律的な学修の促進及び学生に対する学修指導等に活用することを目的として、平成28年度以降入学者を対象としたカリキュラムが適用される学部生を対象に GPA (Grade Point Average) 制度を導入します。

(1) 成績評価と GP の対応

成績評価は下表に基づき GP に変換します。

評語	A+	A	B	C	D	F
GP	4.3	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

*2段階評価(合格／不合格)は対象外

(2) GPA に算入する科目

卒業要件に算入される科目のみ GPA に算入します。増加単位は対象外です。

(3) GPA の種別

本学在学中の全期間における学修の成果を示す指標として「累積 GPA」を、当該学期における学修成果を示す指標として「学期 GPA」を算出します。

(GPAは小数点第二位まで表示。小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入する。)

$$\boxed{\text{累積 GPA}} = \frac{(\text{在学全期間においてGPA算入科目のうち履修登録した科目の GP} \times \text{当該科目の単位数})\text{の総和}}{\text{在学全期間においてGPA算入科目のうち履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\boxed{\text{学期 GPA}} = \frac{(\text{当該学期においてGPA算入科目のうち履修登録科目した科目の GP} \times \text{当該科目の単位数})\text{の総和}}{\text{当該学期においてGPA算入科目のうち履修登録した科目の総単位数}}$$

(4) GPA の表示

成績表には、不合格となった科目も含めた全ての履修単位に係る成績、「学期 GPA」及び「累積 GPA」を記載します。

成績証明書には、修得した科目の成績のみを記載し、原則として GPA は記載しません。ただし、特に必要がある場合に限り、累積 GPA ならびに在学全期間において GPA 算入科目のうち履修登録した科目の総単位数を記載した成績証明書を教務掛窓口で発行します。(証明書自動発行機では発行されません。)

● ● ● ● 卒業論文・卒業研究について ● ● ● ●

卒業論文・卒業研究は本学部を卒業するために必須です。卒業論文・卒業研究の指導を受けるためには、必要な要件があります。その要件は各学系（またはその中の教員、またはそのグループ）により異なりますので、教員アドバイザー（2・3回生）、または指導教員（3・4回生）とよく相談し、卒業論文・卒業研究の指導を受けるために必要な単位を修得してください。

● 題目提出 ●

4回生の5月下旬に「卒業論文・卒業研究題目の報告」を**指導教員の承認印を得たうえで**、教務掛に提出してください。詳細については別途掲示します。

題目変更がある場合には、論文提出時に指導教員の承認を得たうえで教務掛に提出してください。

● 作成・提出 ●

- ① 「卒業論文・卒業研究」に用いる言語は、日本語、外国語のいずれでもよい。
- ② 日本語以外の言語を用いた場合は、表題に日本語の表題を併記し、日本語の要旨を付けること。
- ③ 用紙サイズはA4判とし、横書き、縦書きのいずれでもよい。
- ④ 提出の際、必ず1200字以内の要旨と目次を付け、ページ数を記載すること。
- ⑤ 表紙は必ず簡易表紙を使用し、所定用紙に卒業論文・卒業研究題目、入学年、主専攻学系、氏名、指導教員名を記載して、表紙全面に貼り付けること。
- ⑥ 卒業論文・卒業研究の提出部数は原則として3部とする。ただし、特に指示して4部以上とすることがある。
- ⑦ 参考資料は可能な限り「卒業論文・卒業研究」に綴り込み、別綴じする場合は本文の提出部数分を添付すること。
- ⑧ 卒業論文・卒業研究の**提出時期**は、4回生の**1月末日午後4時**とする。ただし、4年を超えて在学している者については、これ以外の時期に提出することを認める場合がある。
- ⑨ その他、学系（あるいは指導教員）ごとに指示する場合があるので、指導教員に確認すること。

● 審査等 ●

- ① 卒業論文・卒業研究の審査に当たっては、主査（主たる指導教員）が副査を選出し、複数で行なわれます。
- ② 審査の実施時期・方法等については、当該学系で決定します。
- ③ 卒業論文・卒業研究の発表会は公開で行います。その実施方法等については、当該学系で決定し、掲示で周知します。
- ④ 可否判定は当該学系会議で行い、学部教務委員会に報告されます。

※通常卒業月は3月ですが、卒業要件を満たした者については、6月、9月、12月の卒業を認めることがあります。希望者は指導教員と相談のうえ、卒業希望月の4ヶ月前の月末までに、手続きの詳細について教務掛に照会してください。照会が遅れた場合は、すみやかに教務掛に相談してください。

● ● ● ● 「研究を他者に語る」について ● ● ● ●

＊ 「研究を他者に語る」は、卒業予定学生が、自身の卒業論文・卒業研究の内容を異分野の教員（聞き役教員）に「説得的に」語ることを通じて、学術の知とその意義を専門外の人にはわかりやすく伝えるコミュニケーション能力を身につけるとともに、異分野の教員との議論を通じて自分の研究を相対化し客観視することで、多様かつ総合的な視点で物事を観る能力を培うことを目的とした制度です。

☆語る内容について

研究上の前提や概念などを共有していない専門外の教員が聞き役教員となります。そのことを十分に考慮した上で、自分の研究にどのような意義があるのか、何をを目指しているのか、どのような問題意識を持って研究に取り組んでいるのか、などの点を専門外の人には分かりやすく伝えることを目指してください。

研究の具体的な中身や詳細な論理をすべて理解してもらうことを目指す必要はありません。

発表の良否が卒業判定に影響を及ぼすことはありません。

※実施方法等の詳細については、今後さらに見直す可能性もあるため、ガイダンス、掲示等、ならびに指導教員からの連絡に注意してください。

● 総合人間学部規程 ●

第1 学 科

第1条 本学部の学科は、次に掲げるとおりとする。

総合人間学科

第2 入 学

第2条 入学者の選抜方法は、教授会で定める。

2 京都大学通則(昭和28年達示第3号。以下「通則」という。)第4条第1項ただし書の規定 による入学に関する事項は、教授会で定める。

第3条 入学候補者の決定は、教授会で行う。

第3 修 学

第4条 授業は、学部科目及び全学共通科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分けて行う。

第5条 学部科目及び全学共通科目の単位数、配当及び授業時間数は、別に定めるところによる。

第6条 通則第19条の規定により他学部の科目を履修しようとする者は、学年の始め又は学期の始めに学部長に願い出て、当該学部の学部長の許可を受けるものとする。

第7条 通則第20条第1項の規定により他の大学又は短期大学の科目を履修しようとする者には、教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、許可することがある。

第8条 通則第20条第2項又は第4項の規定により外国の大学又は短期大学に留学し、その科目を履修しようとする者には、教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、許可することがある。

第9条 修学期間は、4年とする。

2 前項の規定にかかわらず、第3年次に入学した者の修学期間は、2年とする。

第4 試 験

第10条 試験は科目試験及び論文試験とする。

2 科目試験は、受験の申出をした者に対して行う。

3 論文試験は、所定の科目試験に合格した者に対して行う。ただし、論文題目は、受験科目の範囲内に限る。

第11条 前条の論文は、教授会の指定した教員が審査する。

第12条 試験実施の期日その他については、あらかじめ告知する。

第5 学士の学位授与

第13条 4年以上在学し、学部の定めるところにより140単位以上を修得した者は、学士試験に合格した者とし、通則第54条に定める学士の学位を授与する。

2 次の各号に掲げる単位数は、教授会の議を経て、前項の単位数に算入することができる。

(1)第6条、第7条及び第8条の規定により他学部並びに他の大学又は短期大学及び外国の大学又は短期大学において履修し修得した単位数

(2)通則第21条第1項の規定により短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修により履修した単位数

(3)通則第22条第1項の規定により本学に入学する前に大学又は短期大学において履修し修得した単位数(大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第31条に定める科目等履修生として修得した単位数を含む。)

(4)通則第22条第2項の規定により本学に入学する前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修により修得した単位数

3 第15条の規定により本学他学部又は他大学から本学部に転学した場合における転学前に履修し修得した単位数は教授会の議を経て、第1項の単位数に通算することがある。

4 第1項の規定にかかわらず、第3年次に入学した者の学士の学位授与に必要な単位数は、別に教授会で定める。

5 第2項第3号の規定により科目等履修生として修得した単位数を第1項の単位数に算入するときは、通則第22条第4項の規定により、教授会の議を経て、一定の期間を第9条第1項の修学期間に通算することがある。

第6 在 学

第14条 在学は、8年を超えることができない。

2 前項の規定にかかわらず、第3年次に入学した者の在学は、4年を超えることができない。

第7 転学及び転科

第15条 本学他学部学生若しくは他大学の学生で本学部で転学を志望する者又は本学部学生で転科若しくは他学部で転学を志望する者があるときは、教授会の議を経て、許可することがある。

第8 科目等履修生及び特別聴講学生

第16条 通則第61条第1項の規定より科目等履修生として入学を志望する者には、教授会の議を経て、入学を許可することがある。

第17条 通則第63条第1項の規定より特別聴講学生として入学を志望する者には、教授会の議を経て、入学を許可することがある。

附 則 この規程は、平成4年10月1日から施行する。〔中間の改正規程の附則は、省略した。〕

附 則 1 この規程は、平成11年4月1日から施行する。

2 改正後の第13条第1項の規定は、この規程施行の日以後に入学した者から適用し、同日前に入学した者については、なお従前の例による。〔中間の改正規程の附則は、省略した。〕

附 則 1 この規程は、平成15年4月1日から施行する。

2 人間学科、国際文化学科、基礎科学科及び自然環境学科は、改正後の第1条の規定にかかわらず、平成14年度以前に入学した者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

3 人間学科、国際文化学科、基礎科学科及び自然環境学科は、改正後のこの規程にかかわらず、平成14年度以前に入学した者が当該学科に在学しなくなる日までの間、当該学科に学科長を置くものとする。

附 則 この規程は、平成25年12月12日から施行し、平成25年12月1日から適用する。（中間の改正規程の附則は省略した）

附 則 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

2 改正後の第13条第1項の規定は、この規程施行の日以後に入学した者から適用し、同日前に入学した者については、なお従前の例による。

● 学士入学についての内規 ●

第1条 本学卒業者（卒業見込者を含む。）は、本学部の第3年次への編入学の出願を認める。

第2条 編入学の出願者のあった学系は、収容人員と実員を考慮のうえ、選考するものとし、その結果に基づき、教授会の議を経て許可することができる。

第3条 前条における選考は、在学中の修得科目とその成績、卒業論文（卒業論文に準ずる研究報告書等を含む。）の内容等を参考にして行うものとする。

第4条 編入学を許可された者は、在学4年を超えることができない。また、休学は通算2年を超えることができない。

学士入学者の卒業要件について

学士入学者は、卒業判定基準単位表のうち下記の単位数を修得したものについて、学士の学位を授与する。

(1) 主専攻

- ・ 主専攻科目表より 48 単位
- ・ 卒業論文または卒業研究 12 単位

(2) 副専攻

- ・ 副専攻科目表より 20 単位
- 合 計 80 単位

備考 ① 主専攻及び副専攻の履修については、学士入学時に教務掛で相談すること。

② 既卒業学部における外国語科目の修得単位が、本学部の卒業判定基準の外国語科目単位に満たない場合は、不足単位を修得しなければならない。

● 総合人間学部試験及び単位認定に関する内規 ●

第1条 総合人間学部の試験及び単位認定に関することについては、この内規の定めるところによる。

第1章 履修登録

第2条 学生は毎学期始めの定められた期日に、単位を得ようとする授業科目について登録を行わなければならない。

第3条 履修登録の無い科目については、原則として単位は認定しない。

第2章 科目試験及び論文試験

第4条 定期試験は、アカデミックカレンダーの前期試験、後期試験の期間に行う。この他、期間外試験、レポート試験等適宜試験を実施することができる。

第5条 定期試験の監督は、教員相互に協力して行う。

第6条 不合格になった授業科目の再試験は行わない。

第7条 追試験は原則として行わない。ただし、次の場合はそれぞれ担当教員の判断により実施することがある。

(1) 履修授業科目の試験日時が重複した場合。ただし、事前に願い出たものに限る。

(2) 負傷又は疾病による場合。ただし、医師の診断書により証明されたものに限る。

(3) その他不可抗力による場合。

第8条 受験に際して不正行為があった場合、当該年度の全履修授業科目を無効にする等の措置を行う。

第9条 卒業論文及び卒業研究については、最終年度の定められた期日までに、そのテーマについて届け出をしなければならない。

第10条 卒業論文及び卒業研究報告は、最終年度の指定された期日までに提出しなければならない。

第3章 成績及び単位認定

第11条 教員は終了後、速やかに成績を評価し、これを総合人間学部長に報告するものとする。

第12条 成績は100点を満点とし、60点以上を合格、60点未満を不合格とする。ただし、授業科目によっては合、否の区分によることができる。

第13条 成績を評語でもって表す場合は、96～100点をA+、85～95点をA、75～84点をB、65～74点をC、60～64点をD、0～59点をF、合格をP、不合格をFとする。

第14条 一度認定した授業科目の成績は変更しない。また、当該単位の取消は行わない。

第15条 成績については、前期は9月に後期は4月に発表する。

第16条 卒業論文及び卒業研究については、審査及び試問を行って、その成績を判定する。

附 則 この内規は、平成5年7月15日から施行する。

附 則 この内規は、平成11年4月1日から施行する。

附 則 1 この内規は、平成19年4月1日から実施する。

2 改正後の第9条及び第16条の規定は、平成15年度以後に入学した者から適用し、平成14年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附 則 1 この内規は、平成27年4月1日から実施する。

2 改正後の第13条の規定は、平成27年度以後に入学した者から適用し、平成26年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

● 主専攻科目表

【注意事項】

* 学部科目・

・H31年度の不開講科目は、授業科目名を”グレー色”で表示

●・・・重複履修が認められている科目（一度すでに単位修得した科目を再度修得した場合に卒業単位として認められる。）

■・・・授業科目の代表を担当する教員

・（非）・・・非常勤講師

* 他学部学生の聴講の欄について

【可・不可・承認印】

空白・・・他学部学生の聴講が可能な科目

印・・・他学部学生の聴講が可能な科目（ただし授業担当教員の承認印を必要とする。）

×・・・他学部学生の聴講が不可能な科目

【全学に提供している学部科目】

全・・・他学部学生は全学共通科目としてKULASISで履修登録してください。他学部聴講申請はできません（但し、公認心理師科目を除く。）

人 間 科 学 系

関 係	授業科目名	授 業 形 態	開 講 期	対 象 回 生	単 位 数	週 時 間 数	担 当 教 員	重 複 履 修	旧科目名	備 考	他学部生 の聴講
入 門 科 目	人間科学入門	講義	前	1-2	2	2	大倉 得史 吉田 純 永田 素彦 柴田 悠 多賀 茂 青山拓央 武田 宙也 小島基洋			リレー講義	
人 間 形 成 論	人間形成論	講義	後	2-4	2	2	倉石一郎			人環と共通	
	人間形成論演習A	演習	前	3-4	2	2	倉石一郎	●	人間形成論演習IA		
	人間形成論演習B	演習	後	3-4	2	2	倉石一郎	●	人間形成論演習IB	人環と共通	
	人間形成史論	講義	前	3-4	2	2	石岡 学			人環と共通	
	人間形成史論演習A	演習	前	3-4	2	2	石岡 学	●			
	人間形成史論演習B	演習	後	3-4	2	2	石岡 学	●			
	関係発達論の応用	講義	前	2-4	2	2	大倉得史		関係発達論	人環と共通	
	関係発達論演習A	演習	前	3-4	2	2	大倉得史	●			
	関係発達論演習B	演習	後	3-4	2	2	大倉得史	●			
	関係発達論Ⅰ（発達心理学）	講義	前	1	2	2	大倉得史		関係発達論A 関係発達論の構築 関係発達論Ⅰ	H30年度より学部専門科目 (H29年度まで「関係発達論Ⅰ」として全 学共通科目で開講)	全
	心理学研究法	講義	後	1	2	2	齋木 潤 ■ 月浦 崇 船曳康子 板倉昭二 藤田和生 畑中千紘		心理学研究法入門 心理学研究法演習	文学部と共通	
	心理学実験	実験	前	2-4	2	4	齋木 潤 月浦 崇 山本洋紀 永田素彦 大倉得史 ■			複数講義	×
	心理学概論	講義	前	1	2	2	永田素彦 ■ 月浦 崇 齋木 潤 熊田孝恒 楠見 孝 佐藤 弥 水原啓暁 内田由紀子 積山 薫 山田剛史 足立幾磨 山本真也 田中康裕 梅村高太郎			リレー 文学部・教育学部と共通	
	精神病理学・精神分析学(障害者・障害児心理学)	講義	前	3-4	2	2	松本卓也		精神病理学・精神分析学講義 精神病理学・精神分析学		
	精神分析Ⅰ	講義	前	1-4	2	2	松本卓也		精神分析学Ⅰ		全
	精神分析Ⅱ	講義	後	1-4	2	2	松本卓也		精神分析学Ⅱ		全
	精神病理学・精神分析学演習A	演習	前	3-4	2	2	松本卓也	●		人環と共通	
	精神病理学・精神分析学演習B	演習	後	3-4	2	2	松本卓也	●		人環と共通	
	精神病理学Ⅱ(精神疾患とその治療)	講義	後	1-4	2	2	松本卓也		精神保健学基礎論B 精神病理学Ⅱ	H30年度より学部専門科目 (H29年度まで「精神病理学Ⅱ」として全 学共通科目で開講)	全
	PsychoanalysisⅡ	講義	後	1-4	2	2	TAJAN, Nicolas Pierre			新設科目	全
	基礎演習・教育・社会・国家	ゼミ	前	1-4	2	2	倉石一郎		教育学基礎ゼミナールA・Ⅰ	ILASセミナーと同一科目	全
	基礎演習・ジェンダー論	ゼミ	前	1-4	2	2	石岡 学		ジェンダー論基礎ゼミナールA・Ⅰ	ILASセミナーと同一科目	全
	基礎演習・発達心理学	ゼミ	前	1-4	2	2	大倉得史		発達心理学基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目	全
	基礎演習・現代思想と精神分析	ゼミ	前	1-4	2	2	松本卓也			ILASセミナーと同一科目	全
	基礎演習:Frontiers in psychopathology(精神病理学のフロンティア)	ゼミ	前	1-4	2	2	TAJAN, Nicolas Pierre			新設科目 ILASセミナーと同一科目	全
	★ 精神病理学Ⅰ								精神保健学基礎論A	H30年度より学部専門科目 (H29年度まで全学共通科目)	
	★								精神保健学基礎論B		
	★ 精神分析学								精神病理学Ⅱ		
	★ 教育学Ⅰ								精神分析学基礎論		
									教育学基礎論 現代教育論		
									教育学Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ		
	★ 教育学Ⅱ								教育学基礎論 教育的関係論入門		
									現代教育論		
	★ 教育学基礎ゼミナール								教育学Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ		
	★ ジェンダー論基礎ゼミナール								教育学基礎ゼミナールB・Ⅱ		
	★ 行動病理学Ⅰ								ジェンダー論基礎ゼミナールB・Ⅱ		
	★ 行動病理学Ⅱ								行動病理学基礎論Ⅰ		
									行動病理学基礎論Ⅱ		
	★ 心理学Ⅰ								行動病理学基礎論Ⅱ		
	★ 心理学Ⅱ								精神病理学入門		
	★								心理学概論A・心理学基礎論A	心理学ⅠA・ⅡA こころの科学 臨床心理学入門	
	★								心理学ⅠB・ⅡB こころの科学		
	★								心理学実験Ⅰ 心理学研究法Ⅰ		
	★								心理学実験Ⅱ 心理学研究法Ⅱ		
	★										

左記の★印の科目は**全学共通科目**に提供される科目です。学部科目としてではなく、**全学共通科目として認定**されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。
注)E2科目は、左記の日本語科目に対応する科目であっても、主専攻科目・副専攻科目としては認定されません。

関 係	授業科目名	授業 形態	開 講 期	対 象 回 生	単 位 数	週 時 間 数	担当教員	重 複 履 修	旧科目名	備 考	他学部生の聴講		
											可・不可・承認印	全いるに学部科目として提供している	
人間形成論	★ 精神病理学・精神分析学講読演習	左記の★印の科目は 全学共通科目 に提供される科目です。学部科目としてではなく、 全学共通科目として認定 されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。 注)E2科目は、左記の日本語科目に対応する科目であっても、主専攻科目・副専攻科目としては認定されません。										H30年度より学部専門科目 (H29年度まで全学共通科目)	
	★												
	★ 関係発達論Ⅱ												
	★ 発達心理学基礎ゼミナール												
	★ Psychopathology I-E2												
	★ Psychoanalysis -E2												
社会行動論	グループ・ダイナミクス演習A	演習	前	3-4	2	2			グループ・ダイナミクス実習A			×	
	グループ・ダイナミクス演習B	演習	後	3-4	2	2			グループ・ダイナミクス実習B			×	
	人間行動論	講義	前	3-4	2	2	柴田 悠			人環、文学部・文学研究科と共通			
	社会情報論	講義	前	3-4	2	2	吉田 純			人環、文学部・文学研究科、エネルギー科学研究科と共通			
	人間行動論演習A	演習	前	3-4	2	2	柴田 悠					×	
	人間行動論演習B	演習	後	3-4	2	2	柴田 悠					×	
	社会情報論演習A	演習	前	3-4	2	2	吉田 純					×	
	社会情報論演習B	演習	後	3-4	2	2	吉田 純					×	
	宗教現象学	講義	後	2-4	2	2		●		人環と共通			
	生命倫理学	講義	後	2-4	2	2	清家 理	●					
	人文科学研究方法論演習A	演習	前	3-4	2	2	清家 理	●	宗教学研究方法論演習A 宗教学研究方法論演習Ⅰ				
	人文科学研究方法論演習B	演習	後	3-4	2	2	清家 理	●	宗教学研究方法論演習B 宗教学研究方法論演習Ⅱ				
	社会心理学演習A	演習	前	3-4	2	2	永田素彦					×	
	社会心理学演習B	演習	後	3-4	2	2	永田素彦					×	
	社会心理学(社会・集団・家族心理学)	講義	前・後	1-4	2	2	永田素彦		社会心理学	H30年度より学部専門科目 (H29年度まで「社会心理学」として全学共通科目で開講) 教育学部と共通			全
	心理学研究法	講義	後	1	2	2	齋木 潤 ■ 月浦 崇 船曳康子 板倉昭二 藤田和生 畑中千紘		心理学研究法入門 心理学研究法演習	文学部と共通			
	心理学実験	実験	前	2-4	2	4	齋木 潤 月浦 崇 山本洋紀 永田素彦 大倉得史 ■			複数講義		×	
	心理学概論	講義	前	1	2	2	永田素彦 ■ 月浦 崇 齋木 潤 熊田孝恒 梶見 孝 佐藤 弥 水原啓暁 内田由紀子 横山 薫 山田剛史 足立幾庵 山本真也 田中康裕 梅村高太郎			リレー講義 文学部・教育学部と共通			
	グループ・ダイナミクス(産業・組織心理学)	講義	前	1-4	2	2	宮本 匠(非)			H31年度より学部専門科目 (H30年度まで「グループ・ダイナミクス」として全学共通科目で開講)			全
	社会調査のための統計学	講義	後	2-4	2	2	溝口佑爾(非)			人環と共通			
	基礎演習:社会学I	ゼミ	前	1-4	2	2	柴田 悠		社会学基礎ゼミナールA 社会学基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目			全
	基礎演習:社会学II	ゼミ	前	1-4	2	2	吉田 純		社会学基礎ゼミナールA 社会学基礎ゼミナールⅡ	ILASセミナーと同一科目			全
	基礎演習:グループ・ダイナミクス	ゼミ	前	1-4	2	2			グループ・ダイナミクス基礎ゼミナール	ILASセミナーと同一科目			全
	基礎演習:社会心理学	ゼミ	前	1-4	2	2	永田素彦		社会心理学基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目			全
	★ 神話論Ⅰ	左記の★印の科目は 全学共通科目 に提供される科目です。学部科目としてではなく、 全学共通科目として認定 されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。 注)E2科目は、左記の日本語科目に対応する科目であっても、主専攻科目・副専攻科目としては認定されません。										H31年度より学部専門科目 (H30年度まで全学共通科目) H30年度より学部専門科目 (H29年度まで全学共通科目)	
	★ 神話論Ⅱ												
	★ 社会学Ⅰ												
	★ 社会学Ⅱ												
	★												
	★												
	★ 社会学各論Ⅰ												
	★ 社会学各論Ⅱ												
	★ 社会学基礎ゼミナールⅠ												
	★ 社会学基礎ゼミナールⅡ												
	★ 心理学Ⅰ												
	★ 心理学Ⅱ												
★													
★													
★													
★													
★ 社会心理学基礎ゼミナール													
	神話学入門ー神話と人間ー 神話と現代												
	社会学基礎論												
	経験社会学Ⅰ 社会学Ⅲ・Ⅳ												
	社会学基礎論 経験社会学Ⅱ												
	社会学基礎ゼミナールB 社会学基礎ゼミナールⅢ 社会学基礎ゼミナールB 社会学基礎ゼミナールⅣ												
	心理学概論A・心理学基礎論A 心理学ⅠA・ⅡA こころの科学 臨床心理学入門												
	心理学概論B・心理学基礎論B 心理学ⅠB・ⅡB こころの科学 心理学実験Ⅰ 心理学研究法Ⅰ												
	心理学実験Ⅱ 心理学研究法Ⅱ												
	グループ・ダイナミクス												
	社会心理学												
	社会心理学基礎ゼミナールB												

関 係	授業科目名	授業 形態	開 講 期	対 象 回 生	単 位 数	週 時 間 数	担当教員	重 複 履 修	旧科目名	備 考	他学部生 の聴講	
											可・不可・承認印	全いるに学部科目として
文 化 社 会 論	トランス文化社会論	講義	後集	1-4	2	2				リレー講義	×	
	ヒストリー・オブ・アイディアズA	講義	後	2-4	2	2	多賀 茂	●	ヒストリー・オブ・アイディアズA	人環と共通		
	ヒストリー・オブ・アイディアズB	講義	後	2-4	2	2		●	ヒストリー・オブ・アイディアズB			
	ヒストリー・オブ・アイディアズ演習A	演習	前	3-4	2	2		●				
	ヒストリー・オブ・アイディアズ演習B	演習	前	3-4	2	2	多賀 茂	●		人環、文学部と共通		
	動態映画文化論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	木下千花	●	動態映画文化論A	人環と共通		
	動態映画文化論ⅠB	講義	後	2-4	2	2		●	動態映画文化論B	人環と共通		
	動態映画文化論ⅡA	講義	前	2-4	2	2	松田英男	●	動態映画文化論A	人環と共通		
	動態映画文化論ⅡB	講義	後	2-4	2	2		●	動態映画文化論B	人環と共通		
	動態映画文化論演習ⅠA	演習	後	3-4	2	2		●	動態映画文化論演習A			
	動態映画文化論演習ⅠB	演習	後集	3-4	2	2	堀 潤之(非)	●	動態映画文化論演習B	人環と共通		
	動態映画文化論演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2		●	動態映画文化論演習A	人環と共通		
	動態映画文化論演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2	松田英男	●	動態映画文化論演習B	人環と共通		
	制度・生活文化史A	講義	前	2-4	2	2	田邊玲子	●	制度・生活文化史ⅡA	人環と共通		
	制度・生活文化史B	講義	後	2-4	2	2		●	制度・生活文化史ⅡB			
	制度・生活文化史演習A	演習	前	3-4	2	2	田邊玲子	●	制度・生活文化史演習ⅡA			
	制度・生活文化史演習B	演習	後	3-4	2	2	田邊玲子	●	制度・生活文化史演習ⅡB	人環と共通		
	メディア・スタディーズA	講義	前	2-4	2	2		●	メディア・スタディーズⅠA			
人 間 存 在 論	メディア・スタディーズB	講義	後集	2-4	2	2	河田 学(非) ■ 蘆田裕史(非) 増田展大(非)	●	メディア・スタディーズⅠB	リレー講義 人環と共通		
	メディア・スタディーズ演習A	演習	前	3-4	2	2		●				
	メディア・スタディーズ演習B	演習	後	3-4	2	2		●				
	自己存在論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	安部 浩		自己存在論A			全
	自己存在論Ⅱ	講義	後	2-4	2	2	安部 浩		自己存在論B			全
	自己存在論演習Ⅰ	演習	前	3-4	2	2	安部 浩	●	自己存在論演習A	人環、文学部・文学研究科と共通		
	自己存在論演習Ⅱ	演習	後	3-4	2	2	安部 浩	●	自己存在論演習B	人環、文学部・文学研究科と共通		
	認識人間学Ⅰ	講義	前	1-4	2	2	青山拓央		認識人間学A			全
	認識人間学Ⅱ	講義	後	1-4	2	2	青山拓央		認識人間学B			全
	認識人間学演習Ⅰ	演習	前	3-4	2	2	青山拓央	●	認識人間学演習ⅠA 認識人間学演習A	人環、文学部・文学研究科と共通		
	認識人間学演習Ⅱ	演習	後	3-4	2	2	青山拓央	●	認識人間学演習ⅠB 認識人間学演習B	人環と共通		
	哲学・文化史Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	戸田剛文	●	哲学・文化史A			全
	哲学・文化史Ⅱ	講義	後	2-4	2	2	戸田剛文	●	哲学・文化史B			全
	哲学・文化史演習Ⅰ	演習	前	3-4	2	2	戸田剛文	●	認識人間学演習ⅡA 哲学・文化史演習A	人環、文学部・文学研究科と共通		
	哲学・文化史演習Ⅱ	演習	後	3-4	2	2	戸田剛文	●	認識人間学演習ⅡB 哲学・文化史演習B	人環と共通		
	人間実践論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	佐藤義之		人間実践論A			全
	人間実践論Ⅱ	講義	後	2-4	2	2	佐藤義之		人間実践論B			全
	人間実践論演習Ⅰ	演習	前	3-4	2	2	佐藤義之	●	人間実践論演習A	人環、文学部・文学研究科と共通		
	人間実践論演習Ⅱ	演習	後	3-4	2	2	佐藤義之	●	人間実践論演習B	人環、文学部・文学研究科と共通		
	人間存在論特論A	講義	前	2-4	2	2						
	人間存在論特論B	講義	後	2-4	2	2						
	人間存在論特別演習	演習	後	4	4	4	佐藤義之 ■ 安部 浩 戸田剛文 青山拓央				×	
	基礎演習: 哲学	ゼミ	前	1-4	2	2	戸田剛文		人間存在論基礎ゼミナールⅠA 哲学基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習: 倫理学	ゼミ	前	1-4	2	2	佐藤義之		人間存在論基礎ゼミナールⅡA 倫理学基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習: 西洋思想史	ゼミ	前	1-4	2	2	安部 浩		人間存在論基礎ゼミナールⅢA 西洋思想史基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習: 科学論	ゼミ	前	1-4	2	2	青山拓央		人間存在論基礎ゼミナールⅣA 科学論基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目		全
	★ 哲学Ⅰ	左記の★印の科目は 全学共通科目 に提供される科目です。学部科目としてではなく、 全学共通科目として認定 されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。 注) E2科目は、左記の日本語科目に対応する科目であっても、主専攻科目・副専攻科目としては認定されません。							哲学基礎論Ⅰ	H27年度修得分より認定 H27年度修得分より認定		
	★ 哲学Ⅱ								哲学基礎論Ⅱ			
	★ 倫理学Ⅰ								倫理学基礎論Ⅰ			
	★ 倫理学Ⅱ								倫理学基礎論Ⅱ			
	★ 論理学Ⅰ								論理学基礎論Ⅰ			
	★ 論理学Ⅱ								論理学基礎論Ⅱ			
	★ 西洋社会思想Ⅰ								西洋社会思想史基礎論Ⅰ			
	★ 西洋社会思想Ⅱ								西洋社会思想史基礎論Ⅱ			
	★ 宗教学Ⅰ											
	★ 宗教学Ⅱ											
	★ 科学論Ⅰ								科学論・科学史基礎論Ⅰ			
	★ 科学論Ⅱ								科学論・科学史基礎論Ⅱ			
	★ 哲学基礎ゼミナール								人間存在論基礎ゼミナールⅠB 哲学基礎ゼミナールⅡ			
	★ 倫理学基礎ゼミナール								人間存在論基礎ゼミナールⅡB 倫理学基礎ゼミナールⅡ			
	★ 西洋思想史基礎ゼミナール								人間存在論基礎ゼミナールⅢB 西洋思想史基礎ゼミナールⅡ			
	★ 科学論基礎ゼミナール								人間存在論基礎ゼミナールⅣB 科学論基礎ゼミナールⅡ			

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	他学部生の聴講	
											可・不可・承認印	全いるに学部科目として
創造行為論	創造行為論演習A	演習	前	3-4	2	2	武田宙也	●	創造行為論演習ⅡA			
	創造行為論演習B	演習	後	3-4	2	2	武田宙也	●	創造行為論演習ⅡB			
	創造行為論講読演習	演習	後	1-4	2	2	武田宙也	●	創造行為論講読演習B 創造行為論講読演習Ⅱ			全
	近代芸術論A	講義	後	1-4	2	2	並木誠士(非)			【隔年開講】		全
	近代芸術論B	講義	後	1-4	2	2				【隔年開講】		全
	近代芸術論演習A	演習	前	3-4	2	2	上村 博(非)					
	近代芸術論演習B	演習	後	3-4	2	2	前川 修(非)					
	舞台芸術論A	講義	前	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	舞台芸術論B	講義	前	2-4	2	2	桑山智成	●		【隔年開講】		
	舞台芸術論演習A	演習	後	2-4	2	2	桑山智成	●		【隔年開講】		
	舞台芸術論演習B	演習	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	創造ルネッサンス論A	講義	前	2-4	2	2	岡田温司					全
	創造ルネッサンス論B	講義	後	2-4	2	2	岡田温司					全
	創造ルネッサンス演習A	演習	前	3-4	2	2	岡田温司	●		人環と共通		
	創造ルネッサンス演習B	演習	後	3-4	2	2	岡田温司	●		人環と共通		
	英米文学入門	ゼミ	前	1-4	2	2	水野眞理 廣野由美子 桑山智成 小島基洋 池田寛子 ■ 水野尚之			H31より重複履修不可 基礎ゼミナール科目として扱う		
	基礎演習:美の思想	ゼミ	前	1-4	2	2	武田宙也		創造行為論講読演習A 創造行為論講読演習Ⅰ	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習:西洋美術の歴史	ゼミ	前	1-4	2	2	岡田温司		創造ルネッサンス論基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目		全
	★ 芸術学Ⅰ	左記の★印の科目は 全学共通科目 に提供される科目です。学部科目としてではなく、 全学共通科目として認定 されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。 注)E2科目は、左記の日本語科目に対応する科目であっても、主専攻科目・副専攻科目としては認定されません。						芸術学基礎論Ⅰ 芸術学基礎論Ⅱ 芸術学Ⅰ・芸術学Ⅲ		現代芸術基礎論 イタリア美術基礎論 芸術学Ⅱ・芸術学Ⅳ 創造行為論(基礎篇) 創造行為論(応用篇) 音楽芸術論A 音楽芸術論B 東洋美術史A 東洋美術史B 創造ルネッサンス論基礎ゼミナールB		
	★ 芸術学Ⅱ											
	★ 創造行為総論A											
	★ 創造行為総論B											
	★ 音楽芸術論Ⅰ											
	★ 音楽芸術論Ⅱ											
	★ 東洋美術史Ⅰ											
	★ 東洋美術史Ⅱ											
	★ 創造ルネッサンス論基礎ゼミナール											
	英米文芸表象論講義A	講義	前	1-4	2	2	廣野由美子	●				
文芸表象論	英米文芸表象論講義B	講義	後	1-4	2	2	廣野由美子	●				
	英米文芸表象論演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2	水野尚之	●		人環と共通		
	英米文芸表象論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2	水野尚之	●				
	英米文芸表象論演習ⅡA	演習	前集	4	2	2	水野尚之 廣野由美子 小島基洋				×	
	英米文芸表象論演習ⅡB	演習	後集	4	2	2	水野尚之 廣野由美子 小島基洋				×	
	英米文芸表象論講読ⅠA	演習	前	1-4	2	2	小島基洋	●				
	英米文芸表象論講読ⅠB	演習	後	1-4	2	2	小島基洋	●				
	英米文芸表象論講読ⅡA	演習	前集	1-4	2	2	西山けい子(非)	●				
	英米文芸表象論講読ⅡB	演習	後	1-4	2	2		●				
	英米文学入門	ゼミ	前	1-4	2	2	水野眞理 廣野由美子 桑山智成 小島基洋 池田寛子 ■ 水野尚之			H31より重複履修不可 基礎ゼミナール科目として扱う		
	ドイツ文芸表象論講義A	講義	前	2-4	2	2	奥田敏広	●				
	ドイツ文芸表象論講義B	講義	後	2-4	2	2	奥田敏広	●				
	ドイツ文芸表象論演習A	演習	前	3-4	2	2	奥田敏広	●		人環と共通		
	ドイツ文芸表象論演習B	演習	後	3-4	2	2	奥田敏広	●		人環と共通		
	ドイツ文芸表象論講読A	演習	前	2-4	2	2	松波烈(非)	●				
	ドイツ文芸表象論講読B	演習	後	2-4	2	2	松波烈(非)	●				

● 主専攻科目表

【注意事項】

* 学部科目・

・ H31年度の開講科目は、授業科目名を“グレー”で表示

・ ●・・・重複履修が認められている科目（一度すでに単位修得した科目を再度修得した場合に卒業単位として認められる。）

・ ■・・・授業科目の代表を担当する教員

・ (非)・・・非常勤講師

* 他学部学生の聴講の欄について

【可・不可・承認印】

空白・・・他学部学生の聴講が可能な科目

印・・・他学部学生の聴講が可能な科目（ただし授業担当教員の承認印を必要とする。）

×・・・他学部学生の聴講が不可能な科目

【全学に提供している学部科目】

全・・・他学部学生は全学共通科目としてKULASISで履修登録してください。他学部聴講申請はできません（但し、公認心理師科目を除く。）。

認知情報学系

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	他学部生の聴講	
											可・不可・承認印	全いるに学部科目で
入門科目	認知・行動科学入門	講義	後	1-2	2	2	小村 豊 他 認知・行動科学関係教員		認知行動科学入門	リレー講義		
	言語・数理情報科学入門	講義	前	1-2	2	2	角 大輝 他 数理情報論関係教員 言語科学関係教員	●		リレー講義		
認知・行動科学	神経生理学の基礎	講義	後	1-4	2	2	細川 浩		神経機能論Ⅲ 環境生理学			全
	神経生理学基礎演習	演習	後	1-4	2	2	細川 浩		生体情報論演習B 神経機能論演習Ⅲ 環境生理学演習			
	神経機能論実験B	実験	前	3-4	2	4	細川 浩■ 前川真吾		神経機能論実験Ⅲ			
	生命科学基礎ゼミ	ゼミ	前	1-4	2	2	細川 浩■ 前川真吾	●	生体情報処理ゼミナールB 神経機能論ゼミⅢA 環境生理学基礎ゼミ			
	システム脳科学	講義	前	2-4	2	2	小村 豊		認知機能論 認知機能論Ⅰ	【隔年開講】 人環と共通		
	システム脳科学演習	演習	後	2-4	2	2	小村 豊		認知機能論演習 認知機能論演習Ⅰ	【隔年開講】 人環と共通		
	脳と心の生物学A	ゼミ	前	2-4	2	2	小村 豊	●	認知機能論ゼミA 認知機能論ゼミⅠA 脳と心の計算論ゼミA			
	脳と心の生物学B	ゼミ	後	2-4	2	2	小村 豊	●	認知機能論ゼミB 認知機能論ゼミⅠB 脳と心の計算論ゼミB			
	視覚認識論	講義	前	2-4	2	2			認知機能論Ⅱ	【隔年開講】		
	視覚認識論演習	演習	後	2-4	2	2			認知機能論演習Ⅱ	【隔年開講】		
	視覚認識論ゼミA	ゼミ	前	3-4	2	2	齋木 潤	●		人環と共通		
	視覚認識論ゼミB	ゼミ	後	3-4	2	2	齋木 潤	●				
	視覚科学実験	実験	後	3-4	2	4	齋木 潤■ 山本洋紀		視覚科学実験B		×	
	認知心理学Ⅰ（知覚・認知心理学）	講義	前	1-4	2	2	齋木 潤		視覚科学A 認知心理学Ⅰ	H30年度より学部専門科目 (H29年度まで「認知心理学Ⅰ」として全学共通科目で開講) 文学部と共通		全
	認知心理学Ⅱ（知覚・認知心理学）	講義	後	1-4	2	2	齋木 潤		視覚科学B 認知心理学Ⅱ	H30年度より学部専門科目 (H29年度まで「認知心理学Ⅱ」として全学共通科目で開講) 文学部と共通		全
	記憶機能論	講義	前	2-4	2	2				【隔年開講】 人環と共通		
	記憶機能論演習	演習	後	2-4	2	2				【隔年開講】 人環と共通		
	記憶神経科学ゼミA	ゼミ	前	3-4	2	2	月浦 崇	●				
	記憶神経科学ゼミB	ゼミ	後	3-4	2	2	月浦 崇	●				
	神経心理学Ⅰ（神経・生理心理学）	講義	前	1-4	2	2	月浦 崇		認知神経心理学A 神経心理学Ⅰ	H30年度より学部専門科目 (H29年度まで「神経心理学」として全学共通科目で開講) 文学部と共通		全
	神経心理学Ⅱ（神経・生理心理学）	講義	後	1-4	2	2	月浦 崇		認知神経心理学B 神経心理学Ⅱ	H30年度より学部専門科目 (H29年度まで「神経心理学Ⅱ」として全学共通科目で開講) 文学部と共通		全
	脳情報学	講義	前	2-4	2	2	神谷之康			【隔年開講】		
	脳情報学演習	演習	後	2-4	2	2	神谷之康			【隔年開講】		
	脳情報学ゼミA	ゼミ	前	3-4	2	2	神谷之康	●				
	脳情報学ゼミB	ゼミ	後	3-4	2	2	神谷之康	●				

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	他学部生の聴講	
											可・不可・承認印	全学的に提供している学部科目
認知・行動科学	心理学研究法	講義	後	1	2	2	齋木 潤 ■ 月浦 崇 船曳康子 板倉昭二 藤田和生 畑中千紜		心理学研究法入門 心理学研究法演習	文学部と共通		
	心理学実験	実験	前	2-4	2	4	齋木 潤 ■ 月浦 崇 山本洋紀 永田素彦 太倉得史 ■			複数講義	×	
	心理学概論	講義	前	1	2	2	永田素彦 ■ 月浦 崇 齋木 潤 熊田孝恒 楠見 孝 佐藤 弥 水原啓暁 内田由紀子 積山 薫 山田剛史 足立幾磨 山本真也 田中康裕 梅村高太郎			リレー講義 文学部・教育学部と共通		
	グループ・ダイナミクス(産業・組織心理学)	講義	前	1-4	2	2	宮本 匠(非)			H31年度より学部専門科目 (H30年度まで「グループ・ダイナミク ス」として全学共通科目で開講)		全
	細胞生理学	講義	前	2-4	2	2	石原昭彦		生体機能論Ⅰ	【隔年開講】	×	
	細胞生理学演習	演習	後	2-4	2	2			生体機能論演習Ⅰ	【隔年開講】	×	
	細胞生理学実験	実験	前	3-4	2	4	石原昭彦		生体機能論実験Ⅰ		×	
	細胞生理学ゼミA	ゼミ	前	1-4	2	2	石原昭彦		生体機能論ゼミⅠA			全
	細胞生理学ゼミB	ゼミ	後	1-4	2	2	石原昭彦		生体機能論ゼミⅠB			全
	生活習慣と生体機能障害(人体の構造と機能及び疾病)	講義	前・後	1-4	2	2	林 達也		代謝機能論Ⅱ 生活習慣と生体機能障害			全
	応用運動医学ゼミ	ゼミ	後	1-4	2	2	林 達也		代謝機能論ゼミⅡA			
	分子運動医学ゼミ	ゼミ	前	1-4	2	2	林 達也		代謝機能論ゼミⅡB			
	精神保健福祉概論(関係行政論)	講義	前・後	1-4	2	2	船曳康子		精神保健福祉概論			全
	心の発達と問題行動の理解(司法・犯罪心理学)	ゼミ	後	1-4	2	2	船曳康子		発達行動学ゼミ			全
	運動制御ゼミA	ゼミ	前	3-4	2	2	神崎素樹		運動制御ゼミⅠA 運動機能論ゼミⅠA			
	運動制御ゼミB	ゼミ	後	3-4	2	2	神崎素樹		運動制御ゼミⅠB 運動機能論ゼミⅠB			
	運動の生理学	講義	前・後	1-4	2	2	神崎素樹					全
	運動のしくみ	講義	前・後	1-4	2	2	久代恵介					全
	行動制御実験演習	実験	前	2-4	2	4						
	スポーツ心理学	講義	後	1-4	2	2	久代恵介					全
	認知・行動科学実験Ⅰ(認知科学実験)	実験	前	3-4	1	2	齋木 潤 ■ 小村 豊 月浦 崇 ■ 山本洋紀					
	認知・行動科学実験Ⅱ(行動生理学実験)	実験	前	3-4	1	2	石原昭彦 神崎素樹 ■ 久代恵介					
	認知・行動科学実験Ⅲ(健康科学実習)	実習	前	3-4	1	2	林 達也 船曳康子 ■ 江川達郎					
	基礎演習:視覚科学	ゼミ	前	1-4	2	2	齋木 潤		視覚科学基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習:神経心理学	ゼミ	前	1-4	2	2	月浦 崇		認知神経心理学基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習:心の発達ゼミ	ゼミ	前	1-4	2	2	船曳康子			ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習:身体運動の制御と学習	ゼミ	前	1-4	2	2	久代恵介		行動制御学ゼミA	ILASセミナーと同一科目		全
	★								脳が生む仮想現実			
	★ 神経科学の基礎											
	★ 脳科学入門											
	★ 運動科学Ⅰ								運動科学			
	★ 体力医学											
	★ 健康科学Ⅰ								健康科学			
	★ 健康心理学Ⅰ											
	★								視覚科学A 認知心理学Ⅰ	H30年度より学部専門科目 (H29年度まで全学共通科目)		
	★								視覚科学B 認知心理学Ⅱ	H30年度より学部専門科目 (H29年度まで全学共通科目)		
	★ 視覚科学基礎ゼミナール								視覚科学基礎ゼミナールB			
	★								認知神経心理学A 神経心理学Ⅰ	H30年度より学部専門科目 (H29年度まで全学共通科目)		
	★								認知神経心理学B 神経心理学Ⅱ	H30年度より学部専門科目 (H29年度まで全学共通科目)		
	★ 神経心理学基礎ゼミナール								認知神経心理学基礎ゼミナールB			

左記の★印の科目は**全学共通科目**に提供される科目です。学部科目としてではなく、**全学共通科目として認定**されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。
注)E2科目は、左記の日本語科目に対応する科目であっても、主専攻科目・副専攻科目としては認定されません。

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	他学部生の聴講	
											可・不可・承認印	いずれの学部科目に提供して
数理情報論	数理現象論A	講義	前	2-4	2	2	清水麗文	●		【隔年開講】人環と共通		
	数理現象論B	講義	後	2-4	2	2	上木直昌	●		【隔年開講】人環と共通		
	数理構造論A	講義	前	2-4	2	2		●		【隔年開講】人環と共通		
	数理構造論B	講義	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】人環と共通		
	数理科学ゼミナール	ゼミ	前	2-4	2	2	木坂正史	●				
	数理科学特論Ⅰ	講義	後集	2-4	2	2				IⅡⅢの一つを開講 人環と共通		
	数理科学特論Ⅱ	講義	後集	2-4	2	2	宮部賢志(非)			IⅡⅢの一つを開講 人環と共通		
	数理科学特論Ⅲ	講義	後集	2-4	2	2				IⅡⅢの一つを開講 人環と共通		
	複素解析	講義	前	2-4	2	2			複素解析B	【隔年開講】人環と共通		
	実解析A	講義	前	2-4	2	2	足立匡義			【隔年開講】		
	実解析B	講義	後	2-4	2	2	足立匡義			【隔年開講】人環と共通		
	計算機科学の基礎A	講義	前	2-4	2	2				【隔年開講】人環と共通		
	計算機科学の基礎B	講義	後	2-4	2	2				【隔年開講】人環と共通		
	機械学習の基礎	講義	前	2-4	2	2	櫻川貴司			【隔年開講】人環と共通		
	人工知能	講義	後	2-4	2	2	DE BRECHT, Matthew			人環と共通		
	計算論	講義	前	2-4	2	2			計算論A	【隔年開講】人環と共通		
	計算と位相	講義	前	2-4	2	2	立木秀樹		計算論B	【隔年開講】人環と共通		
	情報処理の方法と演習A	演習	前	2-4	2	2			情報処理の方法と演習ⅡA	【隔年開講】		
	情報処理の方法と演習B	演習	前	2-4	2	2	櫻川貴司		情報処理の方法と演習ⅡB	【隔年開講】		
	数理科学論講究	演習	通集	4	8	4	各教員		数理情報論講究Ⅰ・Ⅱ		×	
	プログラミング演習(Lisp)	演習	前	1-4	4	4	櫻川貴司		情報学概論演習Ⅰ 情報科学のためのプログラミングⅠ			全
	プログラミング演習(Haskell)	演習	後	1-4	4	4	新井潤(非)		情報処理の方法と演習Ⅰ 情報科学のためのプログラミングⅡ プログラミング演習(Prolog)	【隔年開講】		全
	情報数学Ⅰ	講義	前	1-4	2	2	山田修司(非)		情報数学基礎論A			全
	情報数学Ⅱ	講義	後	1-4	2	2	山田修司(非)		情報数学基礎論B			全
	基礎演習: Intro to Computation and Logic	ゼミ	前	1-4	2	2	DE BRECHT, Matthew			ILASセミナーと同一科目		全
	★ 微分積分学A、微分積分学B	左記の★印の科目は 全学共通科目 に提供される科目です。学部科目としてではなく、 全学共通科目として認定 されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。 注)E2科目は、左記に英語科目名が明示されている場合を除き、左記の日本語科目に対応する科目であっても、主専攻科目・副専攻科目としては認定されません。										
	★ 微分積分学(講義・演義)A											
	★ 微分積分学(講義・演義)B											
	★ 線形代数学A、線形代数学B											
	★ 線形代数学(講義・演義)A											
	★ 線形代数学(講義・演義)B											
	★ 数理論理学A、数理論理学B											
	★ 線形代数学統論											
	★ 微分積分学統論Ⅰ-ベクトル解析								微分積分学統論A			
	★ 微分積分学統論Ⅱ-微分方程式								微分積分学統論B			
	★ 確率論基礎											
	★ 数理統計											
	★ 非線型数学											
	★ 非線型数学セミナー											
	★ 関数論								函数論			
	★ 数値計算の基礎											
	★ 情報基礎[全学向]								情報科学A 情報の科学(全学向)			
	★ 情報ネットワーク								情報学概論A 情報の科学(理系向)			
	★ コンピュータグラフィックス実習								情報科学B、情報ネットワーク(全学向)			
	★ 情報基礎演習[全学向]											
	★ プログラミング演習(Ruby)								情報科学演習 コンピュータリテラシー演習			
	★ プログラミング演習(Java)								プログラミングの基礎Ⅰ			
	★ プログラミング演習(数理的応用)								プログラミングの基礎Ⅱ			
	★ Programming practice (Matlab)-E2								数学とプログラミング プログラミング演習(数学への応用)			
	★ Information Network-E2											
言語科学	言語構造論	講義	前	2-4	2	2	藤田耕司	●	言語構造論A・B			全
	言語構造論演習	演習	後	2-4	2	2	藤田耕司	●	言語構造論演習A・B	人環と共通		
	言語機能論	講義	前	2-4	2	2	守田貴弘	●	言語機能論A・B	文学部と共通		全
	言語機能論演習	演習	後	2-4	2	2	服部文昭	●	言語機能論演習A・B		×	
	言語認知論	講義	前	2-4	2	2	谷口一美	●	言語認知論B、言語情報論Ⅱ			全
	言語認知論演習	演習	後	2-4	2	2	谷口一美	●	言語認知論演習A・B	人環、文学部、文学研究科と共通		
	言語比較論	講義	前	2-4	2	2	西脇麻衣子	●	言語比較論A・B			全
	言語比較論演習	演習	前	2-4	2	2	西脇麻衣子	●	言語比較論演習A・B	人環と共通		
	言語科学ゼミナールⅠ	ゼミ	後	2-4	2	2	堀辻正剛	●	言語科学ゼミナールⅠA・ⅠB	人環と共通		
	言語科学ゼミナールⅡ	ゼミ	後	2-4	2	2	守田貴弘	●	言語科学ゼミナールⅡA・ⅡB			
	言語科学ゼミナールⅢ	ゼミ	前	2-4	2	2	河崎 靖	●	言語科学ゼミナールⅢA・ⅢB	人環、文学部と共通		
	言語科学ゼミナールⅣ	ゼミ	前	2-4	2	2	服部文昭	●	言語科学ゼミナールⅣA・ⅣB	人環、文学部と共通		
	★ 言語科学Ⅰ	左記の★印の科目は 全学共通科目 に提供される科目です。学部科目としてではなく、 全学共通科目として認定 されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。 注)E2科目は、左記に英語科目名が明示されている場合を除き、左記の日本語科目に対応する科目であっても、主専攻科目・副専攻科目としては認定されません。							言語科学基礎論Ⅰ			
	★ 言語科学Ⅱ								言語科学基礎論Ⅱ			

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	他学部生の聴講	
											可・不可・承認印	全学に提供している学部科目
外国語教育論	英語学習指導論	講義	前	2-4	2	2	中森 蒼之		英語構造・表現論A	H31より重複履修不可 人環と共通		
	英語統合技能論	演習	後	2-4	2	2	中森 蒼之	●		新設科目 人環と共通		
	英語教育方法論(廃止)	演習	前集	2-4	2	2			英語構造・表現論演習A	人環と共通		
	英語コミュニケーション論	演習	後	2-4	2	2	M. ピーターソン		英語構造・表現論演習B			
	言語教育政策論	講義	後	2-4	2	2	西山 教行	●		人環と共通		
	言語教育政策論演習	演習	前	2-4	2	2	西山 教行	●				
	日本語教育論 I	講義	前	2-4	2	2	牲川波都季(非)		日本語教育論	【隔年開講】 人環と共通		
	日本語教育論 II	講義	後	2-4	2	2				【隔年開講】 人環と共通		
	基礎演習:言語政策入門	ゼミ	前	1-4	2	2	西山 教行			ILASセミナーと同一科目		全

● 主専攻科目表

【注意事項】

*学部科目・

- ・H31年度の不開講科目は、授業科目名を”グレー”で表示
- ・●・・・重複履修が認められている科目（一度すでに単位修得した科目を再度修得した場合に卒業単位として認められる。）
- ・■・・・授業科目の代表を担当する教員
- ・（非）・・・非常勤講師

*他学部学生の聴講の欄について

【可・不可・承認印】

空白・・・他学部学生の聴講が可能な科目

印・・・他学部学生の聴講が可能な科目（ただし授業担当教員の承認印を必要とする。）

×・・・他学部学生の聴講が不可能な科目

【全学に提供している学部科目】

全・・・他学部学生は全学共通科目としてKULASISで履修登録してください。他学部聴講申請はできません（但し、公認心理師科目を除く）。

国 際 文 明 学 系

関 係	授業科目名	授業 形態	開 講 期	対 象 回 生	単 位 数	週 時 間 数	担当教員	重 複 履 修	旧科目名	備 考	他学部学生 の聴講	
											可・不可・承認印	全学に提供している学部科目
入 門 科 目	国際文明学入門A	講義	前	1-2	2	2	江田憲治 細見和之 那須耕介 土屋由香 ■ 齋藤嘉臣 小畑史子 鶴飼大介	●		リレー講義		
	国際文明学入門B	講義	後	1-2	2	2	須田千里 ■ 吉江 崇 池田寛子			リレー講義		
社 会 相 関 論	文明構造論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	江田憲治	●		【隔年開講】		
	文明構造論ⅠB	講義	後	2-4	2	2	江田憲治	●		【隔年開講】		
	文明構造論ⅡA	講義	前	2-4	2	2	江田憲治 ■ 関根真保(非) 数田有紀子(非) 中村朋美(非) 巫リャン(非)					
	文明構造論ⅡB	講義	後	2-4	2	2	大川 勇 ■ 鶴飼大介 石澤将人(非) 西井美幸(非) 鈴木啓峻(非)					
	文明構造論ⅢA	講義	前	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	文明構造論ⅢB	講義	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	文明構造論ⅣA	講義	前	2-4	2	2	大川 勇	●		【隔年開講】		
	文明構造論ⅣB	講義	後	2-4	2	2	大川 勇	●		【隔年開講】		
	文明構造論演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2		●		【隔年開講】		
	文明構造論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2		●		【隔年開講】		
	文明構造論演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2		●				
	文明構造論演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2		●				
	文明構造論演習ⅢA	演習	前	3-4	2	2	細見和之	●		【隔年開講】		
	文明構造論演習ⅢB	演習	後	3-4	2	2	細見和之	●		【隔年開講】		
	文明構造論演習ⅣA	演習	前	3-4	2	2		●		【隔年開講】		
	文明構造論演習ⅣB	演習	後	3-4	2	2		●		【隔年開講】		
	現代社会論ⅠA	講義	前	2-4	2	2		●				
	現代社会論ⅠB	講義	後	2-4	2	2		●				
	現代社会論ⅡA	講義	前	2-4	2	2		●				
	現代社会論ⅡB	講義	後	2-4	2	2		●				
	現代社会論演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2	広井良典	●		文学部と共通		
	現代社会論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2	広井良典	●		文学部と共通		
	現代社会論演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2						
	現代社会論演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2						
	現代経済文明論ⅠA	講義	前	2-4	2	2		●	現代文明論ⅠA			
	現代経済文明論ⅠB	講義	後	2-4	2	2		●	現代文明論ⅠB			
	現代経済文明論ⅡA	講義	前	2-4	2	2		●	現代文明論ⅡA			
	現代経済文明論ⅡB	講義	後	2-4	2	2		●	現代文明論ⅡB			
	多文化社会論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	土屋由香	●		【隔年開講】		
	多文化社会論ⅠB	講義	前	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	多文化社会論ⅡA	講義	前	2-4	2	2	藤岡真樹(非)	●		【隔年開講】 人環と共通		
	多文化社会論ⅡB	講義	前	2-4	2	2		●		【隔年開講】 人環と共通		
	多文化社会論演習ⅠA	演習	後	2-4	2	2	土屋由香	●		【隔年開講】		
	多文化社会論演習ⅠB	演習	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	多文化社会論演習ⅡA(廃止)	演習	前	2-4	2	2		●				
	多文化社会論演習ⅡB(廃止)	演習	後	2-4	2	2		●				
	国際関係論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	齋藤嘉臣					
	国際関係論ⅠB	講義	後	2-4	2	2	齋藤嘉臣					
	国際関係論ⅡA	講義	前	2-4	2	2	新井 京(非)			【隔年開講】		

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	他学部生の聴講	
											可・不可・承認印	全科目に提供している学部
社会 相 関 論	国際関係論ⅡB	講義	後	2-4	2	2				【隔年開講】		
	国際関係論ⅢA	講義	前	2-4	2	2						
	国際関係論ⅢB	講義	前	2-4	2	2						
	国際関係論ⅣA	講義	前	2-4	2	2	大川良文(非)		国際関係論Ⅳ	【隔年開講】		
	国際関係論ⅣB	講義	前	2-4	2	2			国際関係論Ⅳ	【隔年開講】		
	地域研究基礎ゼミナールA	ゼミ	前	1-4	2	2						全
	地域研究基礎ゼミナールB	ゼミ	後	1-4	2	2						全
	国際関係論演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2	齋藤嘉臣	●				
	国際関係論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2	齋藤嘉臣	●				
	国際関係論演習ⅡA(廃止)	演習	前	3-4	2	2		●				
	国際関係論演習ⅡB(廃止)	演習	後	3-4	2	2		●				
	公法原理論	講義	前	1-4	2	2						
	契約関係原理論	講義	前	1-4	2	2	高橋 真(非)					
	国家・社会法システム論ⅠA	講義	後	2-4	2	2	那須耕介	●		【隔年開講】		
	国家・社会法システム論ⅠB	講義	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	国家・社会法システム論ⅡA	講義	前	2-4	2	2	小畑史子					
	国家・社会法システム論ⅡB	講義	後	2-4	2	2	小畑史子					
	国家・社会法システム論ⅢA	講義	前	2-4	2	2				2020年度より開講		
	国家・社会法システム論ⅢB	講義	後	2-4	2	2	見平 典					
	国家・社会法システム論演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2	那須耕介	●				
	国家・社会法システム論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2	那須耕介	●				
	国家・社会法システム論演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2	小畑史子	●				
	国家・社会法システム論演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2	小畑史子	●				
	国家・社会法システム論演習ⅢA	演習	前	3-4	2	2		●				
	国家・社会法システム論演習ⅢB	演習	後	3-4	2	2	見平 典	●		人環と共通 2020年度より開講		
	社会経済システム論ⅠA	講義	前	1-4	2	2	柴山桂太			「社会経済システム論Ⅰ」として全学へ提供		全
	社会経済システム論ⅠB	講義	後	1-4	2	2	柴山桂太			「社会経済システム論Ⅱ」として全学へ提供		全
	社会経済システム論ⅡA	講義	前	2-4	2	2				【今年度不開講】		
	社会経済システム論ⅡB	講義	後	2-4	2	2				【今年度不開講】		
	社会経済システム論ⅢA	講義	前	2-4	2	2		●		【隔年開講】		
	社会経済システム論ⅢB	講義	前	2-4	2	2	大黒弘慈	●		【隔年開講】		
	社会統計論A	講義	前	1-4	2	2	金子治平(非)					
	社会統計論B	講義	前	1-4	2	2						
	経済文明史A(廃止)	講義	前	2-4	2	2						
	経済文明史B(廃止)	講義	後	2-4	2	2						
	社会統計論基礎ゼミナールA(廃止)	ゼミ	前	1-4	2	2			社会情報論基礎ゼミナール			
	社会統計論基礎ゼミナールB(廃止)	ゼミ	後	1-4	2	2			社会情報論基礎ゼミナール			
	社会経済システム論演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2	柴山桂太	●				
	社会経済システム論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2	柴山桂太	●				
	社会経済システム論演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2		●		【今年度不開講】		
	社会経済システム論演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2		●		【今年度不開講】		
	社会経済システム論演習ⅢA	演習	前	3-4	2	2	大黒弘慈	●		人環と共通		
	社会経済システム論演習ⅢB	演習	後	3-4	2	2	大黒弘慈	●		人環と共通		
	社会統計論演習A(廃止)	演習	前	3-4	2	2		●				
	社会統計論演習B(廃止)	演習	後	3-4	2	2		●				
	経済文明史演習A(廃止)	演習	前	3-4	2	2						
	経済文明史演習B(廃止)	演習	後	3-4	2	2						
	比較経営組織論A	講義	前	1-4	2	2	林田 修(非)					
	比較経営組織論B	講義	後	1-4	2	2						
	公共政策論Ⅰ	講義	後	1-4	2	2	佐野 亘		公共政策論ⅠB			全
	公共政策論Ⅱ	講義	後	1-4	2	2	浅野耕太		公共政策論ⅡB	公共政策大学院と共通		全
	公共政策論基礎ゼミナールⅡB	ゼミ	後	1-4	2	2	浅野耕太			【隔年開講】		全
	公共政策論演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2	佐野 亘	●				
	公共政策論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2	佐野 亘	●				
	公共政策論演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2	浅野耕太	●				
	公共政策論演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2	浅野耕太	●		【今年度不開講】		
	公共政策論演習ⅢA	演習	前集	3-4	2	2	宇佐美誠	●				
	公共政策論演習ⅢB	演習	後集	3-4	2	2	宇佐美誠	●				
	基礎演習:公共政策論Ⅰ	ゼミ	前	1-4	2	2	佐野 亘		公共政策論基礎ゼミナールⅠA	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習:公共政策論Ⅱ	ゼミ	前	1-4	2	2	浅野耕太		公共政策論基礎ゼミナールⅡA	ILASセミナーと同一科目【隔年開講】		全
	基礎演習:労働法	ゼミ	前	1-4	2	2	小畑史子		労使関係論基礎ゼミナールA 労使関係法基礎ゼミナールA 労働と法基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習:法哲学	ゼミ	前	1-4	2	2	那須耕介		法哲学基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習:現代社会と法	ゼミ	前	1-4	2	2			現代法システム論基礎ゼミナールA・Ⅰ	ILASセミナーと同一科目 2020年度より開講		全
	基礎演習:国際政治論	ゼミ	前	1-4	2	2	齋藤嘉臣		国際政治論基礎ゼミナールA・Ⅰ	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習:経済思想	ゼミ	前	1-4	2	2	大黒弘慈		現代経済論基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習:環境経済・政策論	ゼミ	前	1-4	2	2			環境経済・政策論基礎ゼミナールA	ILASセミナーと同一科目【隔年開講】		全
	基礎演習:社会経済システム論	ゼミ	前	1-4	2	2	柴山桂太		社会・経済システム原論基礎ゼミナールⅠA・A	ILASセミナーと同一科目		全

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	他学部生の聴講	
											可・不可・承認印	全科目に提供している学
社会 相 関 論	★ 日本国憲法								憲法(基本原理・統治機構)			
	★ 統治機構論											
	★ 憲法(人権)											
	★ 国際法入門											
	★ 法学								法学基礎論			
	★ 労働と法								労使関係論A・B 労使関係法A・B 労働と法Ⅰ・Ⅱ			
	★ 労働と法基礎ゼミナール								労使関係論基礎ゼミナールB 労使関係法基礎ゼミナールB 労働と法基礎ゼミナールⅡ			
	★								法哲学Ⅰ・Ⅱ			
	★ 法哲学基礎ゼミナール								法哲学基礎ゼミナールⅡ			
	★ 現代社会と法基礎ゼミナール								現代法システム論基礎ゼミナールB・Ⅱ			
	★ 環境と法											
	★ 思想と法								政治学基礎論A			
	★ 政治学Ⅰ								政治学基礎論B			
	★ 政治学Ⅱ								現代国際政治論			
	★ 国際政治論Ⅰ								国際政治理論			
	★ 国際政治論Ⅱ								国際政治論基礎ゼミナールB・Ⅱ			
	★ 国際政治論基礎ゼミナール								経済学基礎論A			
	★ 経済学Ⅰ								経済学ⅠA・ⅡA			
	★ 経済学Ⅱ								経済学基礎論B			
	★ 経済原論基礎ゼミナール								経済学ⅠB・ⅡB			
	★ 統計リテラシー								現代経済論基礎ゼミナールB			
	★								社会統計学基礎論A			
	★								社会統計学A			
	★ 社会・経済システム原論基礎ゼミナール								社会統計学基礎論B			
	★ 公共政策論基礎ゼミナールⅠ								社会統計学B			
	★ 環境経済・政策論基礎ゼミナール								社会統計学実習A・B			
歴史 文 化 社 会 論	欧米歴史社会論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	合田昌史	●	人環と共通			
	欧米歴史社会論ⅠB	講義	後	2-4	2	2	合田昌史	●	人環と共通			
	欧米歴史社会論ⅡA	講義	前	2-4	2	2	藤井 崇(非)	●	人環と共通			
	欧米歴史社会論ⅡB	講義	後	2-4	2	2	佐々木博光(非)	●	人環と共通			
	欧米歴史社会論演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2		●	人環と共通			
	欧米歴史社会論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2		●	人環と共通			
	欧米歴史社会論演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2	合田昌史	●	人環と共通			
	欧米歴史社会論演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2	合田昌史	●	人環と共通			
	日本歴史文化論ⅠA	講義	前	3-4	2	2	吉江 崇	●	人環・文学部・文学研究科と共通			
	日本歴史文化論ⅠB	講義	後	3-4	2	2	吉江 崇	●	人環・文学部・文学研究科と共通			
	日本歴史文化論ⅡA	講義	前	3-4	2	2	元木泰雄	●	人環・文学部・文学研究科と共通			
	日本歴史文化論ⅡB	講義	後	3-4	2	2	元木泰雄	●	人環・文学部・文学研究科と共通			
	日本歴史文化論演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2	吉江 崇	●	人環と共通			
	日本歴史文化論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2	吉江 崇	●	人環と共通			
	日本歴史文化論演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2	元木泰雄					
	日本歴史文化論演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2	元木泰雄					
	基礎演習: 日本古代・中世政治文化論Ⅰ	ゼミ	前	1-4	2	2	吉江 崇		日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅠA	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習: 日本古代・中世政治文化論Ⅱ	ゼミ	前	1-4	2	2	元木泰雄		日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅡA	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習: 近世西洋史学	ゼミ	前	1-4	2	2	合田昌史		ヨーロッパ歴史・社会論基礎ゼミナールⅠA	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習: Contemporary History	ゼミ	前	1-4	2	2	BHATTE, Pallavi			ILASセミナーと同一科目		全
	中国社会論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	辻 正博	●	人環・文学部・文学研究科と共通			
	中国社会論ⅠB	講義	後	2-4	2	2	辻 正博	●	人環・文学部・文学研究科と共通			
	中国社会論ⅡA	講義	前	2-4	2	2	藤井律之	●	人環と共通			
	中国社会論ⅡB	講義	後	2-4	2	2	藤井律之	●	人環と共通			
	中国社会論演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2	辻 正博	●	人環と共通			
	中国社会論演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2	辻 正博	●	人環と共通			
	中国社会論演習ⅡA(廃止)	演習	前	3-4	2	2		●				
	中国社会論演習ⅡB(廃止)	演習	後	3-4	2	2		●				
	中国文字文化論	講義	前	1-4	2	2	松江 崇		中国文字文化論A	H31より重複履修不可		全
	中国書誌論	講義	後	1-4	2	2	松江 崇		中国文字文化論B	H31より重複履修不可		全
	中国古典講読論A	講義	前	1-4	2	2	道坂昭廣	●	中国古典講読A			
	中国古典講読論B	講義	後	1-4	2	2	道坂昭廣	●	中国古典講読B			
	中国文化論演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2	道坂昭廣	●		人環と共通		
	中国文化論演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2	道坂昭廣	●		人環と共通		
	基礎演習: 中国史の基礎資料	ゼミ	前	1-4	2	2	辻 正博		東洋史文献講読演習ⅠA 東洋史文献講読演習A	ILASセミナーと同一科目 H26年度より基礎ゼミナール科目として認定		全
	基礎演習: 中国思想史の基礎資料(廃止)	ゼミ	前	1-4	2	2			東洋思想史基礎ゼミナールⅠA	ILASセミナーと同一科目		全
	日本語学・日本文学ⅠA	講義	前	2-4	2	2	佐野 宏	●	人環・文学部・文学研究科と共通			
	日本語学・日本文学ⅠB	講義	後	2-4	2	2	佐野 宏	●	人環・文学部・文学研究科と共通			
	日本語学・日本文学ⅡA	講義	前	2-4	2	2	長谷川千尋	●	人環・文学部・文学研究科と共通			
	日本語学・日本文学ⅡB	講義	後	2-4	2	2	長谷川千尋	●	人環・文学部・文学研究科と共通			
	日本語学・日本文学ⅢA	講義	前	2-4	2	2	須田千里	●	人環・文学部・文学研究科と共通			
	日本語学・日本文学ⅢB	講義	後	2-4	2	2	須田千里	●	人環・文学部・文学研究科と共通			

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	他学部生の聴講	
											可・不可・承認印	全科目に提供している学部
歴史文化社会論	日本語学・日本文学ⅣA	講義	前	2-4	2	2	岸本恵実(非)			人環・文学部・文学研究科と共通		
	日本語学・日本文学ⅣB	講義	後	2-4	2	2	岸本恵実(非)			人環・文学部・文学研究科と共通		
	日本語学・日本文学ⅤA	講義	前	2-4	2	2	奥村和美(非)	●		新設科目 文学部と共通		
	日本語学・日本文学ⅤB	講義	後	2-4	2	2	奥村和美(非)	●		新設科目 文学部と共通		
	日本宗教史論A	講義	前	2-4	2	2		●				
	日本宗教史論B	講義	後	2-4	2	2		●				
	日本語学・日本文学演習ⅠA	演習	前	3-4	2	2	佐野 宏	●		人環と共通		
	日本語学・日本文学演習ⅠB	演習	後	3-4	2	2	佐野 宏	●		人環と共通		
	日本語学・日本文学演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2	長谷川千尋	●		人環と共通		
	日本語学・日本文学演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2	長谷川千尋	●		人環と共通		
	日本語学・日本文学演習ⅢA	演習	前	3-4	2	2	須田千里	●		人環と共通		
	日本語学・日本文学演習ⅢB	演習	後	3-4	2	2	須田千里	●		人環と共通		
	書論・書写演習A	演習	前	2-4	2	2	長谷川千尋					
	書論・書写演習B	演習	後	2-4	2	2	長谷川千尋					
	日本古典講読論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	長谷川千尋	●	古典講読A 日本古典講読論A			全
	日本古典講読論Ⅱ	講義	後	2-4	2	2	長谷川千尋	●	古典講読B 日本古典講読論B			全
	日本語学文献講読論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	佐野 宏	●	日本語学文献講読A 日本語学文献講読論A			全
	日本語学文献講読論Ⅱ	講義	後	2-4	2	2	佐野 宏	●	日本語学文献講読B 日本語学文献講読論B			全
	基礎演習：日本近代文学	ゼミ	前	1-4	2	2	須田千里		日本近代文学基礎ゼミナールⅠ	ILASセミナーと同一科目		全
	西欧近現代表象文化論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	水野真理	●		人環と共通		
	西欧近現代表象文化論ⅠB	講義	後	2-4	2	2		●		人環と共通		
	西欧近現代表象文化論ⅡA	講義	前	2-4	2	2	池田寛子	●		人環と共通		
	西欧近現代表象文化論ⅡB	講義	後	2-4	2	2		●				
	西欧近現代表象文化論ⅢA	講義	前	2-4	2	2	家入葉子			文学部と共通		
	西欧近現代表象文化論ⅢB	講義	後	2-4	2	2	家入葉子			文学部と共通		
	西欧近現代表象文化論ⅣA	講義	前	2-4	2	2		●				
	西欧近現代表象文化論ⅣB	講義	後	2-4	2	2	桂山康司	●		人環と共通		
	西欧近現代表象文化論演習ⅡA	演習	前	3-4	2	2	池田寛子	●		人環と共通		
	西欧近現代表象文化論演習ⅡB	演習	後	3-4	2	2	池田寛子	●		人環と共通		
	西欧近現代表象文化論演習ⅢA	演習	前	2-4	2	2		●				
	西欧近現代表象文化論演習ⅢB	演習	後	2-4	2	2	水野真理	●				
	西欧近現代表象文化論演習ⅣA	演習	前	3-4	2	2	桂山康司	●		人環・文学部と共通		
	西欧近現代表象文化論演習ⅣB	演習	後	3-4	2	2	桂山康司	●		人環・文学部と共通		
	英米文学入門	ゼミ	前	1-4	2	2	水野真理 廣野由美子 桑山智成 小島基洋 池田寛子 ■ 水野尚之			H31より重複履修不可 基礎ゼミナール科目として扱う		
	西欧古代・中世表象文化論ⅠA	講義	前	2-4	2	2	中畑正志	●		文学部と共通		
	西欧古代・中世表象文化論ⅠB	講義	後	2-4	2	2	中畑正志	●		文学部と共通		
	西欧古代・中世表象文化論ⅢA	講義	前	2-4	2	2		●		人環と共通		
	西欧古代・中世表象文化論ⅢB	講義	後	2-4	2	2		●		人環と共通		
	西欧古代・中世表象文化論演習ⅠA	演習	前	2-4	2	2		●				
	西欧古代・中世表象文化論演習ⅠB	演習	後	2-4	2	2		●				
	西欧古代・中世表象文化論演習ⅢA	演習	前	3-4	2	2		●		人環と共通		
	西欧古代・中世表象文化論演習ⅢB	演習	後	3-4	2	2		●		人環と共通		
	★								日本古代・中世政治文化論			
	★								日本古代・中世の歴史社会			
	★ 日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅠ	左記の★印の科目は 全学共通科目 に提供される科目です。学部科目としてではなく、 全学共通科目として認定 されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。 注)E2科目は、左記に英語科目名が明示されている場合を除き、左記の日本語科目に対応する科目であっても、主専攻科目・副専攻科目としては認定されません。							日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅠB			
	★ 中国歴史風土論								日本古代・中世政治文化論基礎ゼミナールⅡB			
	★ 東洋思想史基礎ゼミナール								東洋思想史基礎ゼミナールⅠB	H26年度より認定		
	★ 東洋史Ⅰ								東洋史学基礎論 東洋史ⅠA	H26年度より認定		
	★ 東洋史Ⅱ								アジア史基礎論 東洋史ⅠB	H26年度より認定		
	★ 東洋史基礎ゼミナールⅠ								東洋史文献講読演習B 東洋史文献講読演習ⅠB	H26年度より基礎ゼミナール科目として認定 東洋史基礎ゼミナールⅡは含まない		
	★ 日本近代文学基礎ゼミナール											

● 主専攻科目表

【注意事項】

*学部科目・

・H31年度の不開講科目は、授業科目名を”グレー”で表示

●・・・重複履修が認められている科目（一度すでに単位修得した科目を再度修得した場合に卒業単位として認められる。）

■・・・授業科目の代表を担当する教員

・（非）・・・非常勤講師

*他学部学生の聴講の欄について

【可・不可・承認印】

空白・・・他学部学生の聴講が可能な科目

印・・・他学部学生の聴講が可能な科目（ただし授業担当教員の承認印を必要とする。）

×・・・他学部学生の聴講が不可能な科目

【全学に提供している学部科目】

全・・・他学部学生は全学共通科目としてKULASISで履修登録してください。他学部聴講申請はできません（但し、公認心理師科目を除く。）

文化環境学系

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	他学部生の聴講	
											可・不可・承認印	全学に提供している
入門科目	文化環境学入門A	講義	前	1-2	2	2	風間計博 他 文化・地域環境論関係教員			リレー講義		
	文化環境学入門B	講義	後	1-2	2	2	岡 真理 他 比較文明論関係教員			リレー講義		
比較文明論	ユーラシア文化複合論A	講義	前	2-4	2	2	帯谷知可	●	ユーラシア文化複合論ⅠA			
	ユーラシア文化複合論B	講義	前	2-4	2	2		●	ユーラシア文化複合論ⅠB			
	文化交渉複合論A	講義	前	2-4	2	2	勝又直也	●	文化交渉複合論ⅠA	人環と共通		
	文化交渉複合論B	講義	後	2-4	2	2	勝又直也	●	文化交渉複合論ⅠB	人環と共通		
	文化交渉複合論演習A	演習	前	2-4	2	2	勝又直也	●	文化交渉複合論演習ⅠA			
	文化交渉複合論演習B	演習	後	2-4	2	2	勝又直也	●	文化交渉複合論演習ⅠB			
	東アジア比較思想論A	講義	前	2-4	2	2	小倉紀蔵	●				
	東アジア比較思想論B	講義	後	2-4	2	2	小倉紀蔵	●				
	東アジア比較思想論演習A	演習	前	2-4	2	2	小倉紀蔵	●		人環と共通		
	東アジア比較思想論演習B	演習	後	2-4	2	2	小倉紀蔵	●		人環と共通		
	ポストコロニアル思想文化論A	講義	前	2-4	2	2	岡 真理	●	比較動態文化論A・ⅠA	人環と共通		
	ポストコロニアル思想文化論B	講義	後	2-4	2	2		●	比較動態文化論B・ⅠB	人環と共通		
	ポストコロニアル思想文化論演習A	演習	前	2-4	2	2	岡 真理	●	比較動態文化論演習A・ⅠA	人環と共通		
	ポストコロニアル思想文化論演習B	演習	後	2-4	2	2	岡 真理	●	比較動態文化論演習B・ⅠB			
	ポストコロニアル思想文化論基礎ゼミナール	ゼミ	前	1-2	2	2	岡 真理					
	アラビア語原書講読演習	演習	前・後	2-4	2	2	岡 真理	●				
	東アジア文化交渉論A	講義	前	2-4	2	2	太田 出	●	東北アジア文化・社会論ⅠA・A	人環・文学部・文学研究科と共通		
	東アジア文化交渉論B	講義	後	2-4	2	2	太田 出	●	東北アジア文化・社会論ⅠB・B	人環・文学部・文学研究科と共通		
	東アジア文化交渉論演習A	演習	前	2-4	2	2		●	東北アジア文化・社会論演習ⅠA・A	人環と共通		
	東アジア文化交渉論演習B	演習	後	2-4	2	2	太田 出	●	東北アジア文化・社会論演習ⅠB・B	人環と共通		
	東ヨーロッパ比較言語論A(廃止)	講義	前	2-4	2	2		●	東ヨーロッパ比較言語論ⅠA	文学部と共通		
	東ヨーロッパ比較言語論B(廃止)	講義	後	2-4	2	2		●	東ヨーロッパ比較言語論ⅠB	文学部と共通		
	東ヨーロッパ比較言語論演習A(廃止)	演習	前	2-4	2	2		●	東ヨーロッパ比較言語論演習ⅠA			
	東ヨーロッパ比較言語論演習B(廃止)	演習	後	2-4	2	2		●	東ヨーロッパ比較言語論演習ⅠB			
	東アジア比較芸能論A	講義	前	2-4	2	2		●	東アジア比較芸能論ⅠA	【隔年開講】人環・文学部・文学研究科と共通		
	東アジア比較芸能論B	講義	後	2-4	2	2	赤松紀彦	●	東アジア比較芸能論ⅠB	人環と共通		
	東アジア比較芸能論演習A	演習	前	2-4	2	2	赤松紀彦	●	東アジア比較芸能論演習ⅠA	人環と共通		
	東アジア比較芸能論演習B	演習	後	2-4	2	2	赤松紀彦	●	東アジア比較芸能論演習ⅠB			
	比較パラダイム文明論A	講義	前	2-4	2	2	中筋 朋	●	比較パラダイム文明論ⅠA	人環と共通		
	比較パラダイム文明論B	講義	後	2-4	2	2		●	比較パラダイム文明論ⅠB			
	比較パラダイム文明論演習A	演習	前	2-4	2	2	中筋 朋	●	比較パラダイム文明論演習ⅠA	人環と共通		
	比較パラダイム文明論演習B	演習	後	2-4	2	2	中筋 朋	●	比較パラダイム文明論演習ⅠB	人環と共通		
	近現代民族移動論A	講義	前	2-4	2	2		●	近現代民族移動論ⅠA			
	近現代民族移動論B	講義	後	2-4	2	2		●	近現代民族移動論ⅠB			
	近現代民族移動論演習A	演習	前	2-4	2	2		●	近現代民族移動論演習ⅠA			
	近現代民族移動論演習B	演習	後	2-4	2	2		●	近現代民族移動論演習ⅠB			
	テキスト生成文化論A(廃止)	講義	前	2-4	2	2		●	日欧知識交流史ⅠA・A			
	テキスト生成文化論B(廃止)	講義	後	2-4	2	2		●	日欧知識交流史ⅠB・B			
	テキスト生成文化論演習A(廃止)	演習	前	2-4	2	2		●	日欧知識交流史演習ⅠA・A	人環・文学部・文学研究科と共通		
	テキスト生成文化論演習B(廃止)	演習	後	2-4	2	2		●	日欧知識交流史演習ⅠB・B	人環・文学部・文学研究科と共通		
	基礎演習：東洋史入門	ゼミ	前	1-4	2	2	太田 出		東洋史文献講読演習A・ⅡA	ILASセミナーと同一科目		全
文化・地域環境論	★ 東洋史Ⅰ	左記の★印の科目は 全学共通科目 に提供される科目です。学部科目としてではなく、 全学共通科目として 認定されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。							アジア史基礎論、東洋史ⅡA	H26年度より認定		
	★ 東洋史Ⅱ								東洋史学基礎論、東洋史ⅡB	H26年度より認定		
	★ 東洋史基礎ゼミナールⅡ								東洋史文献講読演習B 東洋史文献講読演習ⅡB	東洋史基礎ゼミナールⅠは含まない		
	★ 現代文明論基礎ゼミナールⅠA											
	★ 現代文明論基礎ゼミナールⅠB											
	環境構成論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2		●		人環と共通		
文化・地域環境論	環境構成論Ⅱ	講義	前	2-4	2	2	小野健吉(非)			H31より重複履修不可 人環と共通・隔週		
	環境構成論Ⅲ	講義	前	2-4	2	2	増井正哉	●		人環と共通		
	環境構成論Ⅳ	講義	前	2-4	2	2	中嶋節子	●		人環と共通		
	環境構成論演習Ⅰ	演習	後	2-4	2	2		●				
	環境構成論演習Ⅱ	演習	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】人環と共通		
	環境構成論演習Ⅲ	演習	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】人環と共通		
	環境構成論演習Ⅳ	演習	後	2-4	2	2		●		【隔年開講】人環と共通		
	環境構成論実習Ⅰ	実習	後	2-4	2	2		●				
	環境構成論実習Ⅱ	実習	後	2-4	2	2	小野健吉(非)	●		【隔年開講】人環と共通・隔週		
	環境構成論実習Ⅲ	実習	後	2-4	2	2	増井正哉	●		【隔年開講】人環と共通		
	環境構成論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2		●				
	環境構成論Ⅱ	講義	前	2-4	2	2		●				
	環境構成論Ⅲ	講義	前	2-4	2	2		●				
	環境構成論Ⅳ	講義	前	2-4	2	2		●				

関係	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	他学部生の聴講	
											可・不可・承認印	全学に提供している
文化・地域環境論	環境構成論実習Ⅳ	実習	後	2-4	2	2	中嶋節子	●		【隔年開講】人環と共通		
	環境構成論特別演習A	演習	前	4	2	2	中嶋節子 ■ 増井正哉			隔週		
	環境構成論特別演習B	演習	後	4	2	2	中嶋節子 ■ 増井正哉			隔週		
	社会人類学演習A	演習	前	2-4	2	2	岩谷彩子	●				
	社会人類学演習B	演習	後	2-4	2	2	岩谷彩子	●				
	文化動態論演習A(廃止)	演習	前	2-4	2	2		●		人環と共通		
	文化動態論演習B(廃止)	演習	後	2-4	2	2		●		人環と共通		
	文化人類学演習A	演習	前	3-4	2	2	風間計博	●	環境人類学演習A	科目名変更		
	文化人類学演習B	演習	後	3-4	2	2	風間計博	●	環境人類学演習B	科目名変更		
	文化実践論A	講義	前	3-4	2	2			文化行為論A	人環と共通		
	文化実践論B	講義	前	3-4	2	2	石井美保		文化行為論B	人環と共通		
	生態人類学演習A	演習	前	2-4	2	2	高田 明					
	生態人類学演習B	演習	後	2-4	2	2	山越 言					
	文化人類学方法A	演習	前	4	2	2	風間計博					
	文化人類学方法B	演習	後	4	2	2	風間計博					
	社会人類学方法A	演習	前	4	2	2	岩谷彩子					
	社会人類学方法B	演習	後	4	2	2	岩谷彩子					
	宗教人類学方法A(廃止)	演習	前	4	2	2						
	宗教人類学方法B(廃止)	演習	後	4	2	2						
	地域空間論ⅠA	講義	前	2-4	2	2				【隔年開講】人環・文学部・文学研究科と共通		
	地域空間論ⅠB	講義	前	2-4	2	2	小島泰雄			【隔年開講】人環・文学部・文学研究科と共通		
	地域空間論ⅡA	講義	前	2-4	2	2				【隔年開講】人環・文学部・文学研究科と共通		
	地域空間論ⅡB	講義	前	2-4	2	2	山村亜希		地域空間論Ⅱ	【隔年開講】人環・文学部・文学研究科と共通		
	地域空間論ⅢA	講義	前	2-4	2	2	小方 登		地域空間論Ⅲ	人環・文学部・文学研究科と共通		
	地域空間論ⅢB	講義	後	2-4	2	2	小方 登			人環・文学部・文学研究科と共通		
	地域空間論Ⅳ	講義	後	2-4	2	2	松田隆典(非)			【隔年開講】人環と共通		
	地域空間論Ⅴ	講義	後集	2-4	2	2				【隔年開講】人環と共通		
	地域空間論演習Ⅰ	演習	前	2-4	2	2	小島泰雄					
	地域空間論演習Ⅱ	演習	後	2-4	2	2	山村亜希			人環・文学部・文学研究科と共通		
	地域空間論演習Ⅲ	演習	後	2-4	2	2	小方 登					
	地域空間論演習Ⅳ	演習	前	4	2	2	小方 登 ■ 小島泰雄 山村亜希			リレー講義	×	
	基礎演習:地域地理学	ゼミ	前	1-4	2	2	小島泰雄		地理学基礎ゼミナールⅢ	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習:地理情報	ゼミ	前	1-4	2	2	小方 登		地理学基礎ゼミナールⅡ	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習:歴史地理学	ゼミ	前	1-4	2	2	山村亜希		地理学基礎ゼミナールⅣ	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習:文化人類学調査法	ゼミ	前	1-4	2	2	風間計博		文化人類学調査演習A・演習	ILASセミナーと同一科目		全
	基礎演習:社会人類学調査法	ゼミ	前	1-4	2	2	岩谷彩子		社会人類学調査演習A・社会人類学調査法	ILASセミナーと同一科目		全
	★ 都市空間論								生活空間論 生活環境構成論 居住環境史 環境構成論ⅠA・ⅡA・ⅢA			
	★ 都市空間保全論								風土空間論 環境構成論ⅠB 居住環境構成論 環境構成論ⅡB 居住空間史 環境構成論ⅢB			
	★								生活空間論基礎ゼミナール 環境構成論基礎ゼミナールⅠ 生活環境構成論基礎ゼミナール 環境構成論基礎ゼミナールⅡ			
	★ 都市空間論基礎ゼミナールⅠ								居住環境史基礎ゼミナール 環境構成論基礎ゼミナールⅢ			
	★									平成31年度より認定 平成31年度より認定		
	★ 都市空間論基礎ゼミナールⅡ								文化人類学基礎論 象徴人類学基礎論 社会人類学基礎論 社会人類学Ⅰ 社会人類学 社会人類学Ⅱ			
	★ 図学A								宗教人類学基礎論 現代人類学基礎論 現代人類学 生態人類学基礎論 生態人類学			
	★ 図学B								生態人類学各論 文化人類学各論 文化人類学フィールド論			
	★ 文化人類学Ⅰ								現代人類学 現代人類学各論 文化人類学調査演習 文化人類学調査演習B			
	★ 文化人類学Ⅱ								社会人類学調査演習 社会人類学調査演習B 自然地理学の基礎 人文地理学の基礎 地域地理学の基礎			
	★											
	★ 宗教人類学											
	★											
	★ 生態人類学Ⅰ											
	★ 生態人類学Ⅱ											
	★ 文化人類学各論Ⅰ											
	★ 文化人類学各論Ⅱ											
	★											
	★ 文化人類学調査演習											
	★ 社会人類学調査演習											
	★ 自然地理学											
	★ 人文地理学											
	★ 地域地理学											
	★ 人文地理学各論Ⅰ(都市)											
	★ 人文地理学各論Ⅱ(村落)											
	☆ 人文地理学各論Ⅲ(歴史地理)											
	★ 人文地理学各論Ⅳ(地域情報)											
	★ 人文地理学各論Ⅴ(経済地理)											
	★ 地域地理学各論Ⅰ(日本)											
	★ 地域地理学各論Ⅱ(欧米)											
	★ 地域地理学各論Ⅲ(アジア・アフリカ)											
	★ 地理学基礎ゼミナールⅠ(読図)								地理学基礎ゼミナールⅤ 地理学基礎ゼミナールⅠ			
	★ 地理学基礎ゼミナールⅡ(作図)								地理情報処理基礎ゼミナール			
	★ 地理学基礎ゼミナールⅢ(地理情報処理)											

左記の★、☆印の科目は**全学共通科目**です。学部科目としてではなく、**全学共通科目として認定**されます。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。
(★は総合人間学部が提供する科目)
注)E2科目は、左記の日本語科目に対応する科目であっても、主専攻科目・副専攻科目としては認定されません。

● 主専攻科目表

【注意事項】

* 学部科目・・・総合人間学部の専門科目

・H31年度の不開講科目は、授業科目名を”グレー色”で表示

・●・・・重複履修が認められている科目（一度すでに単位修得した科目を再度修得した場合に卒業単位として認められる。）

・■・・・授業科目の代表を担当する教員

・（非）・・・非常勤講師

* 他学部学生の聴講の欄について

【可・不可・承認印】

空白・・・他学部学生の聴講が可能な科目

印・・・他学部学生の聴講が可能な科目（ただし授業担当教員の承認印を必要とする。）

×・・・他学部学生の聴講が不可能な科目

【全学に提供している学部科目】

全・・・他学部学生は全学共通科目としてKULASISで履修登録してください。他学部聴講申請はできません（但し、公認心理師科目を除く。）

自然科学系

入 門 科 目	授業科目名	授業 形態	開 講 期	対 象 回 生	単 位 数	週 時 間 数	担当教員	重 複 履 修	旧科目名	備 考	他学部学生 の聴講	
											可 ・ 不 可 ・ 承 認 印	全 学 に 提 供 し て い る 手 続 科 目
	自然科学入門	講義	前	1-2	2	2	阪上雅昭■ 廣戸 聡 瀬戸口浩彰 石川尚人			リレー講義		
	分野を横断する自然科学	講義	後	1-2	2	2	高木紀明 吉田寿雄■ 宮下英明 酒井 敏			リレー講義		
	地球と生命の起源と進化	講義	前	1-2	2	2	小松直樹■ 酒井 敏 小木曾哲 加藤 真 宮下英明			リレー講義		
	体験から学ぶ超伝導	講義	前	1-2	2	2	藤原直樹 吉田鉄平■ 森成隆夫 小山田明 大槻太毅			リレー講義		
	量子力学Ⅰ	講義	後	2-4	2	2	木下俊哉					
	量子力学Ⅱ	講義	前	3-4	2	2	藤原直樹					
	物性物理学Ⅰ	講義	後	3-4	2	2			物性基礎論 物性基礎論Ⅰ	【隔年開講】		
	物性物理学Ⅱ	講義	前	3-4	2	2	高木紀明		物性基礎論 物性基礎論Ⅱ	【隔年開講】		
	物性特論	講義	前	3-4	2	2			物性特論Ⅰ	【隔年開講】		
	統計力学	講義	後	3-4	2	2	森成隆夫					
	物質分析論	講義	前	2-4	2	2	杉山雅人					
	物質機能論	講義	前	2-4	2	2	内本喜晴					
	物質構造論	講義	前	2-4	2	2	田部勢津久					
	物質反応論	講義	前	2-4	2	2	梶井克純					
	物質変換論	講義	前	2-4	2	2	吉田寿雄					
	分子構造論	講義	前	2-4	2	2	小松直樹					
	分子反応論	講義	後	2-4	2	2	藤田健一					
	フロンティア化学	講義	後	1-4	2	2	藤田健一■ 高橋弘樹 上田純平 坂本陽介 山本 旭 新林卓也			リレー講義		
	生体分子機能論Ⅰ	講義	前	2-4	2	2	土屋 徹		生体分子機能論 生体分子機能論A			
	生体分子機能論Ⅱ	講義	後	2-4	2	2	宮下英明		生体分子機能論 生体分子機能論B			
	細胞生物学A	講義	前	2-4	2	2	千坂 修		細胞生物学			
	細胞生物学B	講義	後	2-4	2	2	吉村成弘		細胞生物学			
	分子細胞生物学特論	講義	通	3-4	4	2	宮下英明 千坂 修 吉村成弘 土屋 徹■ 神川龍馬	●		リレー講義		
	自然史特論	講義	通	3-4	4	2	宮下英明■ 加藤 真 瀬戸口浩彰 市岡孝朗 西川完途 幡野恭子 阪口翔太 佐藤博俊	●		リレー講義		
	生物適応変異論Ⅰ	講義	後	2-4	2	2	西川完途		生物適応変異論 生物適応変異論A	【隔年開講】		
	生物適応変異論Ⅱ	講義	前	2-4	2	2	瀬戸口浩彰		生物適応変異論 生物適応変異論B			
	生物多様性・生態学	講義	後	2-4	2	2	加藤 真■ 市岡孝朗					
	基礎物理学演習	演習	後	2-4	4	4	森成隆夫■ 渡邊雅之		物理学演習A 物理学演習B	「物理学演習A」、「物理学演習B」を統合し、科目名変更		
	物理数学演習	演習	後	3-4	4	4	吉田鉄平■ 小西隆士 大槻太毅					
	量子力学演習	演習	前	2-4	4	4	木下俊哉■ 小山田明			新設科目		
	物質構造機能論演習A	演習	後	2-4	2	2			物質構造機能論演習			
	物質構造機能論演習B	演習	後	2-4	2	2	田部勢津久■ 上田純平		物質構造機能論演習			
	物質構造機能論演習C	演習	後	2-4	2	2	内本喜晴					
	物質構造機能論演習D	演習	後	2-4	2	2	梶井克純■ 坂本陽介					
	物質構造機能論演習E	演習	後	2-4	2	2						
	分子構造機能論演習A	演習	前	2-4	2	2	津江広人■ 高橋弘樹					
	分子構造機能論演習B	演習	後	2-4	2	2	廣戸 聡■ 新林卓也					

授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	他学部生の受講	
										可・不可・承認印	全科目に提供している学
分子細胞生物学演習	演習	通	2-4	4	2	土屋 徹	●				
分子細胞生物学演習	演習	通集	2-4	4	2	千坂 修 ■ 吉村成弘	●				
自然史演習	演習	通	2-4	4	2	西川完途	●		人環と共通		
自然史演習	演習	通	2-4	4	2	加藤 真 ■ 市岡孝朗	●		人環と共通		
自然史演習	演習	通	2-4	4	2	瀬戸口浩彰 ■ 阪口翔太	●		人環と共通		
自然史演習	演習	通	2-4	4	2	宮下英明	●				
地球科学演習A	演習	前	2-4	2	2	石川尚人 ■ 酒井 敏 小木曾哲 加藤 護		地球科学演習		印	
地球科学演習B	演習	後	2-4	2	2	酒井 敏 小木曾哲 ■ 加藤 護		地球科学演習		印	
地球科学演習C	演習	前集	2-4	2	2	石川尚人 ■ 酒井 敏 小木曾哲 加藤 護	●			印	
課題演習：(物理科学)レーザー物理学	演習	前	2-4	4	4	木下俊哉		課題演習：物理科学・光と物質 課題演習：物理科学	【隔年開講】		
課題演習：(物理科学)表面構造解析	演習	後	2-4	4	4			課題演習：物理科学 課題演習：(物理科学)構造と物性	【隔年開講】		
課題演習：(物理科学)光電子分光	演習	後	2-4	4	4	吉田鉄平 ■ 大槻太毅		課題演習：(物理科学)共鳴現象 課題演習：物理科学・核磁気共鳴	【隔年開講】		
課題演習：(物理科学)核磁気共鳴	演習	前	2-4	4	4			課題演習：物理科学 課題演習：物理科学・電子と波動 課題演習：(物理科学)高圧・核磁気共鳴	【隔年開講】		
課題演習：(物理科学)物理の基礎A	演習	前	2-4	2	2	阪上雅昭					
課題演習：(物理科学)物理の基礎B	演習	後	2-4	2	2	阪上雅昭					
課題演習：(物理科学)物理シミュレーション	演習	前	2-4	4	4				【隔年開講】		
課題演習：物質の構造と機能	演習	前	2-4	8	8	杉山雅人 ■ 田部勢津久 内本喜晴 梶井克純 吉田寿雄 上田純平 坂本陽介 山本 旭					
課題演習：分子の構造と機能	演習	後	2-4	8	8	小松直樹 ■ 津江広人 藤田健一 廣戸 聡 高橋弘樹 新林卓也					
課題演習：生物学	演習	通	2-4	8	4	土屋 徹 ■ 加藤 真 瀬戸口浩彰 市岡孝朗 宮下英明 千坂 修 吉村成弘 西川完途 神川龍馬 幡野恭子 佐藤博俊 阪口翔太	●		リレー講義		
課題演習：地球科学A	演習	前	2-4	4	4	鎌田浩毅 酒井 敏 石川尚人 ■ 小木曾哲 加藤 護	●	課題演習：地球科学		×	
課題演習：地球科学B	演習	後	2-4	4	4	鎌田浩毅 酒井 敏 小木曾哲 ■ 加藤 護	●	課題演習：地球科学		×	
計算地球物理学入門	講義	前	2-4	2	2	酒井 敏		Visual地球科学概説(全共) 計算地球物理学入門(全共)	H31年度より学部専門科目 (H30年度まで全学共通科目)		
総合フィールド演習	演習	前集	1-4	2	2	杉山雅人 石川尚人 梶井克純 加藤 真 市岡孝朗 西川完途 小木曾哲 酒井 敏 阪上雅昭 宮下英明 ■ 瀬戸口浩彰 阪口翔太			複数講義 人環と共通	!	
自然科学特別ゼミナールⅠ	演習	後集	3-4	2	2	全員			※履修登録は各教員別	×	
自然科学特別ゼミナールⅡA	演習	前集	4	2	2	全員		自然科学特別ゼミナールA	※履修登録は各教員別	×	
自然科学特別ゼミナールⅡB	演習	後集	4	2	2	全員		自然科学特別ゼミナールB	※履修登録は各教員別	×	
基礎演習：日本列島弧の自然と生物多様性	ゼミ	前集	1-4	2	2	加藤 真		生物学実習Ⅱ(生態学コース)	ILASセミナーと同一科目		全
基礎演習：植物野外実習(高山植物の観察)	ゼミ	前集	1-4	2	2	瀬戸口浩彰 ■ 阪口翔太		生物学実習Ⅲ(植物野外観察コース)	ILASセミナーと同一科目		全
基礎演習：微生物ってなに？-身の回りの微生物	ゼミ	前	1-4	2	2	宮下英明		環境微生物概論 基礎演習：環境微生物概論	ILASセミナーと同一科目		全
基礎演習：分子細胞生物学入門(英語講義)	ゼミ	前	1-4	2	2	千坂 修		分子細胞生物学入門(英語講義)	ILASセミナーと同一科目		全

授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備 考	他学部生の受講	
										可・不可・承認印	全科学に提供している学
★ 微分積分学A											
★ 微分積分学(講義・演義)A											
★ 微分積分学B											
★ 微分積分学(講義・演義)B											
★ 線形代数学A											
★ 線形代数学(講義・演義)A											
★ 線形代数学B											
★ 線形代数学(講義・演義)B											
★ 関数論								関数論			
★ 確率論基礎											
★ 数理統計											
★ 物理学基礎論A											
★ 物理学基礎論B											
★ 初修物理学A											
★ 初修物理学B											
★ 熱力学											
★ 物理学実験											
★ 力学統論											
★ 統計物理学											
★ 振動・波動論											
☆ 電磁気学統論											
☆ 解析力学											
★ 特殊相対論											
★ 量子物理学											
★ 基礎物理化学(量子論)								基礎物理化学A			
★ 基礎物理化学(熱力学)								基礎物理化学B			
★ 基礎物理化学要論											
★ 基礎有機化学I								基礎有機化学A			
★ 基礎有機化学II								基礎有機化学B			
★ 基礎化学実験											
★ 有機化学演習A								構造有機化学入門			
★ 有機化学演習B								反応有機化学入門			
★ 無機化学入門A											
★ 無機化学入門B											
★ 探究型化学課題演習Ⅰ－海の化学－											
★ 探究型化学課題演習Ⅱ－湖の化学－											
★ 探究型化学課題演習Ⅲ－有機化合物の化学－											
☆ 生化学入門								生化学入門101,102			
☆ 細胞と分子の基礎生物学											
★ 生物・生命科学入門											
★								生化学入門200			
☆ 先端生命科学を支える技術Ⅰ											
☆ 先端生命科学を支える技術Ⅱ											
★											
★								分子細胞生物学入門(英語講義)			
★								分子細胞生物学501(英語講義)			
★								分子細胞生物学502(英語講義)			
★								生命科学概論A			
★								生命科学概論Ⅰ・Ⅲ			
★								生命科学概論B			
★								生命科学概論Ⅱ・Ⅳ			
★ 「生命の進化」概論								「生命と地球の共進化」概論			
★ 生物自然史Ⅰ								生物自然史基礎論A			
★ 生物自然史Ⅱ								生物自然史基礎論B			
★ 植物自然史Ⅰ								生命科学概論A			
★ 植物自然史Ⅱ								植物系統進化学			
★ 真菌自然史Ⅰ								真菌自然史A			
★ 真菌自然史Ⅱ								真菌自然史B			
★ 動物自然史Ⅰ								動物自然史A			
★ 動物自然史Ⅱ								動物自然史B			
★ 行動生態学入門											
★ 藻類学概論											
★ 生物学実習Ⅰ[基礎コース]								生物学実習Ⅲ			
★ 生物学実習Ⅱ[自然史コース]								生物学実習Ⅰ・Ⅱ			
★ 生物学実習Ⅲ[細胞と分子生物学コース]								生物学実習Ⅲ			
★ 地球科学実験								地球科学実験A			
★ 探究型地球科学課題演習											
★ 基礎地球科学A(地球システムの構造と挙動)								基礎地球科学IA			
★ 基礎地球科学B(地球システムの変動と変遷)								基礎地球科学IB			
★ 基礎地球科学A(宇宙誕生から現在まで)								基礎地球科学IIA			
★ 基礎地球科学B(現在の地球環境の仕組み)								基礎地球科学IIB			
★ フィールド地球科学								Field地球科学A・B			
★								Field地球科学Ⅰ・Ⅱ			
★ 計算地球物理学基礎演習								Visual地球科学概説			
★ 太陽系と地球の物質								計算地球物理学入門			
								Visual地球科学演習			
								Material地球科学A・B			

左記の★、☆印の科目は**全学共通科目**です。学部科目としてではなく、**全学共通科目として認定**されません。担当教員等は全学共通科目履修の手引きを参照すること。
(★は総合人間学部が提供する科目)
注)E2科目は、左記の日本語科目に対応する科目であっても、主専攻科目・副専攻科目としては認定されません。

平成25年度以前入学者で、基礎物理化学A・Bの両方の単位取得者については、基礎物理化学(量子論)・基礎物理化学(熱力学)は卒業に必要な単位として認定されません。また、基礎物理化学A・Bのどちらか一方の単位が未取得の者は、基礎物理化学(量子論)・基礎物理化学(熱力学)のどちらを習得すべきかについて、化学分野教務担当教員に問い合わせて下さい。
また、基礎物理化学要論の履修にあたっては、基礎物理化学(量子論)・基礎物理化学(熱力学)との重複履修について注意が必要です。全学共通科目履修の手引きやKULASISに掲載されている案内を必ず確認して下さい。不明の点があれば、化学分野教務担当教員に問い合わせて下さい。

H31年度より学部専門科目
(H30年度まで全学共通科目)

● 特殊講義(学部共通)科目表

特殊講義は、総合人間学部共通科目として開講される学部専門科目です。
学系によっては、主専攻科目または副専攻科目として認められます。(副専攻として認定する場合は教務掛へ申し出てください)

学部共通科目	特殊講義	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	主専攻・副専攻認定					備考	他学部学生の聴講	
										人間	認知	国際	文化	自然		可・不可・承認印	学部科目目録にない科目
学部共通科目	特殊講義	学部特殊講義ⅠA (発達教育学)	講義		2-4	2	2			○							
		学部特殊講義ⅠB (総合人間学としての精神分析)	講義	後	2-4	2	2	上尾真道(非)		○							
		学部特殊講義ⅠC (環境倫理学: Environmental Ethics)	講義		1-4	2	2			○							
		学部特殊講義ⅠD (環境倫理学セミナー: Ningen and Kankyo in the Philosophies of William James and John Dewey)	演習		1-4	2	2			○							
		学部特殊講義ⅡA (こころの科学Ⅰ)	講義		2-4	2	2				○						
		学部特殊講義ⅡB (こころの科学Ⅱ)	講義		2-4	2	2				○						
		学部特殊講義ⅢA (歴史社会論)	講義	前	2-4	2	2		●			○					
		学部特殊講義ⅢB (歴史社会論)	講義	後	2-4	2	2		●			○					
		学部特殊講義ⅣA (文化人類学調査実践演習)	演習	後	2-4	2	2	梶丸 岳					○				
		学部特殊講義ⅣB (建築読解入門)	講義	後	2-4	2	2	藤原 学					○				
		学部特殊講義ⅤA (地球地域学)	講義		2-4	2	2						○	○			
		学部特殊講義ⅤB	講義		2-4	2	2										

● 教科「保健体育」に関する科目表 * 学部の卒業に必要な単位には算定されません。

体育実技Ⅰ～Ⅴの科目は、保健体育の教員免許状を取得するために必要な科目です。

保健体育に関する科目表	体育実技	授業科目名	授業形態	開講期	対象回生	単位数	週時間数	担当教員	重複履修	旧科目名	備考	他学部学生の聴講	
												可・不可・承認印	全学に提供している
保健体育に関する科目表	体育実技	体育実技Ⅰ(陸上種目)	実技	後集	1-4	1	2				【隔年開講】		
		体育実技Ⅱ(ウォーキング種目)	実技	前	1-4	1	2				【隔年開講】		
		体育実技Ⅲ(体操種目)	実技	前	1-4	1	2	金 尚憲(非)			【隔年開講】		
		体育実技Ⅳ(フットサル・サッカー)	実技	前	1-4	1	2	久代恵介			【隔年開講】		
		体育実技Ⅴ(野外キャンプ種目)	実技	前集	1-4	1	2	北尾岳夫(非)			【隔年開講】		

● 総人ゼミ ●

総合人間学部では、平成19年度後期よりさまざまなテーマを掲げる「総人ゼミ」(全体名称)が開講されています。
この「総人ゼミ」は、多彩な研究分野を持つ教員からなる本学部の特色を生かし、少人数のゼミ形式で教員と学生の皆さんの距離を近くし、教員一人一人の研究内容に触れる機会を提供することで、学生の皆さんの学問への関心を高めることを目的としています。本を輪読するゼミもあれば、講義と実験を組み合わせたゼミやフィールドに出て体験するゼミ等、いろいろな形で提案されます。
「総人ゼミ」は、学部の教授会で認められたゼミです。しかし、単位はありません。原則として1回生対象ですが、2回生以上で関心のある人の参加も歓迎します。教員と直接に対話して学問に触れるよい機会です。
総合人間学部の皆さんがたくさん参加されることを期待しています。
ゼミの種類や具体的な内容については7月頃に掲示予定です。質問がありましたら、教務掛でおたずねください。

● ● ● ● ● 副 専 攻 科 目 表 ● ● ● ● ●

副専攻は、主専攻分野とは別に特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって主専攻以外の分野にも深い知識と広い教養及び総合的な判断力を養い、豊かな人間性を身につける高度一般教育の実現が期待されます。

● 副 専 攻 の 選 び 方

副専攻は、次の一覧表から自分が所属する学系以外のいずれか1つを選んでください。ただし、「1つの副専攻から20単位以上」というのはかなり厳しい条件ですから、各副専攻の履修条件等をよく読み、早めに履修計画を立ててください。

各学系で主専攻科目として認定する特殊講義は、各学系が提供する副専攻科目（その学系の副専攻が複数ある場合はすべての副専攻における副専攻科目）として適用される。また、複合領域においてもそれぞれの関係の学系の科目として認められる。

副専攻名		・下記の関係科目群（主専攻科目表にある学部科目・全学共通科目）より履修すること ・授業形態が「講義」以外の科目を4単位以上修得すること ・入門科目は含まない	
①	人間社会論	人間	人間形成論関係科目／社会行動論関係科目／文化社会論関係科目
②	思想文化論	人間	人間存在論関係科目／創造行為論関係科目／文芸表象論関係科目
③	認知・行動科学	認知	認知・行動科学関係科目
④	数理情報科学	認知	数理情報論関係科目
⑤	言語科学	認知	言語科学関係科目／外国語教育論関係科目
⑥	現代文明論	国際	社会相関論関係科目
⑦	歴史文化社会論	国際	歴史文化社会関係科目
⑧	比較文明論	文環	比較文明論関係科目
⑨	文化・地域環境論	文環	文化・地域環境論関係科目
⑩	自然科学	自然	・自然科学系（自然科学特別ゼミナールA・Bを除く） ・全学共通科目から以下の科目を含めることができる。 物理学概論A・B、化学概論Ⅰ・Ⅱ、生活と環境の化学、自然と環境の化学、地球科学入門、地球の営みⅠ・Ⅱ

(複合領域) 副専攻名		・副専攻研究について 複合領域を選択する場合、所定の単位を修得済みであれば、副専攻研究を履修することができる。希望する場合は、指導する教員と研究テーマ・内容等を相談のうえ、前期履修登録時に教務掛に履修を申し出ること。 副専攻研究（4単位）を履修する場合には、a、cは各6単位以上でよい。 副専攻研究を登録できるのは、a～cあわせて10単位以上（副専攻研究指導教員の担当する演習等を含む）を修得した後とする。
⑪	(複合領域) 現代文明と科学 人間科学系、国際文明学系、文化環境学系を主専攻とするものが選択できる	・自然科学系および認知情報学系の科目から、下記に従って履修すること。 a. 2つ以上の副専攻領域の学部科目から授業形態が「講義」科目を8単位以上。 自然科学系の入門科目を含む。（認知情報学系の入門科目は含まない） b. 2つ以上の副専攻領域の学部科目から授業形態が演習・実験・実習・ゼミを4単位以上。 c. 主専攻科目表に記載されたすべての学部科目・全学共通科目から8単位以上。 人間科学系の「科学論Ⅰ・Ⅱ」、国際文明学系の「現代社会論ⅠA・ⅠB」を含めることができる。
⑫	(複合領域) 文化総合研究 認知情報学系、自然科学系を主専攻とするものが選択できる	・人間科学系、国際文明学系、文化環境学系の科目、および認知情報学系の言語科学関係科目／外国語教育論関係科目の中から下記に従って履修すること。 （ただし、認知情報学系を主専攻とするものは、認知情報学系の言語科学関係科目／外国語教育論関係科目を副専攻科目にはできない） a. 2つ以上の副専攻領域の学部科目から授業形態が「講義」科目を8単位以上。 人間科学系、国際文明学系、文化環境学系の入門科目を含む。 （認知情報学系の入門科目は含まない） b. 2つ以上の副専攻領域の学部科目から授業形態が演習・実験・実習・ゼミを4単位以上。 c. 主専攻科目表に記載されたすべての学部科目・全学共通科目から8単位以上。

授業科目概要一覧

*各授業科目の「到達目標」、「授業計画と内容」、「履修要件」、「成績評価の方法・観点及び達成度」、「教科書」、「参考書等」、「授業外学習（予習・復習）等」、「その他（オフィスアワー等）」の詳しい内容については、KULASIS からシラバスを閲覧してください。No.は科目ナンバリングです。

【人間科学系】

授業科目名	人間科学入門					担当教員	大倉 得史・吉田 純・永田 素彦・柴田 悠・多賀 茂・青山 拓央・武田 宙也・小島 基洋				
配当学年	1,2 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM10 10021 LJ34.U-HUM10 10021 LJ36.U-HUM10 10021 LJ45						
本講義では、人間科学系を構成する 6 関係分野から、教員を選出し、それぞれの専門を踏まえながら論究していく。											

授業科目名	人間形成論				担当教員	倉石 一郎					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 21103 Lj47						
<最先端の末邦訳英語教育学文献を読みこなす> アメリカを中心に、世界の第一線で活躍する教育学者の末邦訳英語文献を読みこなし、教育学の研究のための基礎体力を養う。扱う教育学者として、ガート・ピースタ(Gert J. Biesta)、ピータ・タウプマン(Peter M. Taubman)、デイヴィッド・ラバリー(David F. Labaree)、などを予定している。初回の授業で受講者の関心を開き、相談の上でのテキストを扱うか決定する。 ◆かなりハードな英語講読なので、学習意欲の高い人に参加してもらいたい。											

授業科目名	人間形成論演習 A					担当教員	倉石 一郎				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 31267 SJ47						
人間形成・教育に関するテーマで受講者が発表し、それに基づき討論を行うことで教育学の素養を身につける。特に共同研究を重視し、学生がグループでテーマを決め、調査や研究を行い、最終的に成果を形にすることをめざす。重複履修可。											

授業科目名	人間形成論演習 B					担当教員	倉石 一郎				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 31268 SJ47						
人間形成・教育に関するテーマで受講者が発表し、それに基づき討論を行うことで教育学の素養にさらに磨きをかける。特に共同研究を重視し、学生がグループでテーマを決め、調査や研究を行い、最終的に成果を形にすることをめざす。重複履修可。											

授業科目名	人間形成史論				担当教員	石岡 学					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 31122 Lj47.U-HUM11 31122 Lj32						
現在の我々が当然視している「教育」の概念が、実際は近代社会に特有のものであることが指摘されて久しい。同様に、その「教育」を受けるべきとされる存在、すなわち「子ども」「青年」「若者」といった存在も、客観的実在物というよりは観念的産物である。これら「子ども」「青年」「若者」は、ときに若さや純粋さといったポジティブな面に、ときに未熟さや弱さといったネガティブ面に、結びつけられる。そしてこれらの要素は、いずれ「大人」になることで消滅（あるいは発展的解消）するものと想定されている。 しかし、ライフコースが多様化し、必ずしも定型的な通過儀礼によって「大人」カテゴリーへの参入が保証されなくなった近代社会においては、未熟と成熟の境界は曖昧である。にもかかわらず、「子ども」「青年」「若者」は、「大人」とは異なるカテゴリーとして成立しているかのように見える。人々はさまざまな実践（言説・行為）を通してこれら境界の線引きを行っているのだが、そこにはさまざまな立場・利害の違いによるせめぎ合いがある。このように考えれば、「子ども」「青年」「若者」が社会的な構築物であることは明らかである。また、それらはジェンダー的に透明な概念ではない。近代社会は特有のジェンダー秩序（セクシュアリティへの関心も含む）を内包しており、「子ども」「青年」「若者」も当然ながらそうした秩序と無縁ではありえないからである。 以上をふまえ本講義では、近現代日本における「未熟な存在（≡教育されるべき存在）」に対する社会的認識枠組みのありようを、歴史社会学的に考察する。具体的には、「子ども」「青年」「若者」といったカテゴリーとそれに対する意味づけが、歴史的・社会的条件によっていかに変容してきたのかを解説していく。											

授業科目名	人間形成史論演習A				担当教員	石岡 学					
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 31147 SJ47.U-HUM11 31147 SJ32						
人間形成史に関する考察を深める。3回生にとっては卒業論文作成の最初のステップとなり、4回生にとっては卒業論文作成のための演習となる。											

授業科目名	人間形成史論演習B					担当教員	石岡 学				
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 31148 SJ47.U-HUM11 31148 SJ32						
人間形成史に関する考察を深める。3回生にとっては卒業論文作成の最初のステップとなり、4回生にとっては卒業論文作成のための演習となる。											

授業科目名	関係発達論の応用				担当教員	大倉 得史					
配当学年	2・4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 21217 LJ46						
関係発達論とは、生来の身体的資質、周囲の対人関係、社会・文化的環境の三者の絡み合いのもとで人間の自己性がいかに形作られていくかを究明する理論である。本講義では特に、関係発達論を保育・教育分野における実践活動につなげていく道筋を探っていく。											

授業科目名	関係発達論演習 A				担当教員	大倉 得史					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM11 31347 SJ46						
発達心理学に関するテーマでの「研究能力」（自ら問題を発見し、適切な方法論により、新しい知見を創出する能力）を身につけることを目指す。4 回生は卒業論文作成のためのテーマ設定、先行研究レビュー、方法の選定、調査の実施等を、「各自で」行っていく。3 回生は研究手法の基礎について学ぶ。											

授業科目名	関係発達論演習 B				担当教員	大倉 得史					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 31348 SJ46						
発達心理学に関するテーマでの「研究能力」（自ら問題を発見し、適切な方法論により、新しい知見を創出する能力）を身につけることを目指す。4 回生は卒業論文作成のためのテーマ設定、先行研究レビュー、方法の選定、調査の実施等を、「各自で」行っていく。3 回生は研究法の基礎を学んだ上で、興味のあるテーマについて「各自で」研究を進めていく。											

授業科目名	関係発達論Ⅰ（発達心理学）				担当教員	大倉 得史					
配当学年	1-4回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 11506 LJ46						
人間の形成過程を周囲他者との関係性の変容として捉えるという関係発達論の発想と原理、およびその射程を明らかにする。発達心理学の基本的知見（認知機能の発達および感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、発達障碍等の非定型発達についての基礎的な知識および考え方、高齢者の心理等）について理解を深めつつ、諸理論を有機的に統合する論理力・批判力を養う。											

授業科目名	心理学研究法					担当教員	齋木 潤・月浦 崇・船曳 康子・板倉 昭二・藤田 和生・畑中 千紘				
配当学年	1 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM12 11503 LJ46.U・HUM21 11503 LJ46						
心理学を初めて学ぶ大学 1 回生、他の回生を対象として心理学固有の方法論とその歴史的背景を幅広く学ぶとともにそれらの方法を使うための基本的なスキルの修得を目指す。観察法、面接法、質問紙法、実験法などの代表的な研究法を取り上げ古典的な研究例のデモンストレーションを行うとともに、研究法の歴史などにも触れる。											

授業科目名		心理学実験				担当教員		齋木 潤・月浦 崇・山本 洋紀・永田 素彦・大倉 得史			
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 4.火 5	授業形態	実験	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM11 21218 EJ46.U・HUM12 21218 EJ46.U・HUM21 21218 EJ46.U・HUM21 21218 EJ30						
知覚、認知、発達、社会的行動など、心理学の基本的な領域の実験や実習を通じて、心理学の初歩を学ぶ。この授業は、総合人間学部、文学部、教育学部の3学部で行われてきた心理学実習・実験の入門的な授業を統合したもので、学生の皆さんにとって、よりバラエティに富んだ授業内容を選択できるように工夫したものである。京都大学は、認知、臨床、動物、社会、発達、知覚、神経科学など、日本でも最も幅広い範囲の心理学を学ぶことのできる場であり、是非このチャンスを生かして心理学の面白さを実感すると共に、実験の実施からレポートの作成に至る基礎的手順の習得が期待される。											

授業科目名		心理学概論			担当教員		永田 素彦・月浦 崇・齋木 潤・熊田 孝恒・楠見 孝・佐藤 弥・内田 由紀子・積山 薫・山田 剛史・足立 幾磨・山本 真也・田中 康裕・梅村 高太郎				
配当学年	1 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的				No.U-HUM12 11504 LJ46.U-HUM21 11504 LJ46							
心理学は人の仕組みと働きを解明する学問である。本講義は、国家資格である公認心理師を目指す学生が、はじめて心理学を学ぶための科目である。その内容は、心理学のさまざまな研究分野において、心の探究がどのように進められてきたかという心理学の成り立ちと、心の基本的な仕組みと働きについて解説をする。特に人間の心の基礎的な側面に着目し、知覚、認知、学習、感情などの心の機能、およびこれら心の機能を実現する脳、ならびにその発達、社会や教育との関連をとりあげる。さらに、心の機能の個人差をもたらす人格、心の機能に関わる困難を心理学的に支援するための臨床や障害などのトピックを取り上げる。 本講義は、京都大学・心の先端研究ユニット（京都大学心理学連合）に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて概論講義を行う。											

授業科目名		精神病理学・精神分析学（障害者・障害児心理学）				担当教員		松本 卓也			
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM11 31502 LJ46.U・HUM11 31502 LJ34						
「障害」とは、単に個人の身体や精神そのものが病んだものではなく、身体や精神をもつ人間と社会や環境とのあいだにおいて生じるものである。本講義では、精神病理学と精神分析学、および一般医学と障害学を参照しつつ、「発達障害」等の障害についての心理学的な捉え方を学ぶ。また、学校保健分野においてみられるさまざまな障害や疾患についての基本的知識と安全管理、救急対応について学ぶ。											

授業科目名	精神分析Ⅰ					担当教員	松本 卓也				
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM11 11232 LJ46.U・HUM11 11232 LJ34						
こころの病（狂気）が芸術作品などを生み出す創造性と関係するという考えについて、フロイトとラカンによる精神分析の思考法をもとに検討していく。各時代の哲学者や、芸術作品のなかにみられる無意識の働きを理解し、そこから無意識が人間の創造性に与える影響と、無意識という考えが現代思想に及ぼした影響を知る。											

授業科目名	精神分析Ⅱ					担当教員	松本 卓也				
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 11233 LJ46.U-HUM11 11233 LJ34						
無意識のこころの働きを想定する精神分析の一分野である集団心理学の見地から、現代における社会と集団の病理を考察する。											

授業科目名	精神病理学・精神分析学演習 A					担当教員	松本 卓也				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM11 31151 SJ46.U-HUM11 31151 SJ34						
精神病理学・精神分析学の分野で研究を行い、論文を作成するための演習である。特に、この分野で卒論作成を目指す 3・4 回生を主たる対象とする。											

授業科目名	精神病理学・精神分析学演習B					担当教員	松本 卓也				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 31152 SJ46.U-HUM11 31152 SJ34						
精神病理学・精神分析学の分野で研究を行い、論文を作成するための演習である。特に、この分野で卒論作成を目指す 3・4 回生を主たる対象とする。											

授業科目名	精神病理学Ⅱ（精神疾患とその治療）				担当教員	松本 卓也					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM11 11507 Lj26						
精神病理学（記述的精神病理学、現象学的精神病理学、精神分析ないし力動精神医学）の基礎的文獻を参照しながら、精神障害の概念がどのような歴史的・社会的文脈から生まれ、発展してきたのかを理解する。また、精神障害に対する偏りのない見識を涵養し、疾患に関する科学的知識を身につける。											

授業科目名	Psychoanalysis II					担当教員	TAJAN, Nicolas Pierre				
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 4	授業形態	講義	使用言語	英語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 11509 LE46.U-HUM11 11509 LE34						
This course introduces psychoanalysis through one of Jacques Lacan's most famous works. We will read, explain, and comment Jacques Lacan's return to Freud by focusing on a case study of paranoia: Schreber. Some crucial aspects of Lacanian doctrine will be explained, including his approach to linguistics and subjectivity; the three orders; and the four discourses.											

授業科目名	基礎演習：教育・社会・国家				担当教員	倉石 一郎					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 11183 SJ47						
近年の日本では、大学に対して厳しいまなざしが注がれている。特に国公立大学の場合、公的資金の投入に見合った効用や社会的貢献が得られているかどうか問われている。こうした状況はこれから大学で長く学ぶことになる諸君にとっても無関係ではない。大学生活の出発点にあたり、教育学の知見を手がかりにしながら、足元の〈大学〉について深く学ぶことは有益であるとする。諸君はこれまで、入学試験を突破するために厳しい勉強に耐え、大学に入るために多くのことを学んできた。だが「大学という場そのもの」について学んだことはといえば、必要最低限の情報を除いてほぼ皆無ではないか。 本セミナーでは、大学史や科学史と呼ばれる分野でなされたすぐれた研究成果のうち、専門家でなくても読めるわかりやすい文献（新書、文庫形式）のものを数点選び、講読形式で進めていく。それらを通して、大学や学問についてこれまで自明（当たり前）とされ誰も深く考えてこなかったいくつかの問題を掘り下げてみたい。たとえば近年、国立大学で文科系学部廃止方針が打ち出される一方、理系学部については社会への「貢献」面ばかりが強調されているがそれは本当に真実なのか。またそもそも「文系と理系」の区別は日本でごく当たり前のものだが、それは万国共通の普遍的なものなのか。また、たとえば京大は「旧帝大」と呼ばれ、格式が高いことになっているが、帝国大学とはそもそも何で、なぜ旧制の遺物がいまもモノを言うのだろうか。さらに科学・技術研究には膨大なカネと時間がかかるが、これらを保証し研究を支えるパトロンやスポンサーとの関係は今日までどのように変化して来たのか。最後に、原子力発電問題に象徴されるように、たとえ取り返しのつかない惨禍を世の中に与えても、一度始めた研究や技術開発を中断したり途中で引き返すことはなぜ困難なのか。こうした問いを通じて、大学での探求・研究生生活に資するような大学史・科学史の知識を習得し、今後よりよい探求・研究生生活を送れるための素養の形成をめざす。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：ジェンダー論					担当教員	石岡 学				
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 11184 SJ32.U-HUM11 11184 SJ47						
この授業では、ジェンダーに関する基礎的な知識を獲得し、ジェンダーに関わる諸問題への理解を深めることを目指す。受講生の報告とそれに基づく討論をメインとする形式で行うことで、報告や討論の技術をみがくことも目標とする。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：発達心理学					担当教員	大倉 得史				
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的				No.U-HUM11 11185 SJ46							
受講生自身の自己分析と他者との語り合い、および発表と討論を通して、青年期の人格形成と心の動きを具体的に明らかにしていく。											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：現代思想と精神分析					担当教員	松本 卓也				
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 11196 SJ46.U-HUM11 11196 SJ34						
現代の精神分析（ラカン派）および精神病理学の理論的背景を、発表と議論を通じて体験的に理解する。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：Frontiers in psychopathology				担当教員	TAJAN, Nicolas Pierre					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	英語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 11198 SE46.U-HUM11 11198 SE34						
This seminar introduces the challenges of disciplines contributing to psychopathology (psychiatry, psychotherapy, psychoanalysis, etc.) in order to better understand the recent development of the mental health field.											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	人間行動論				担当教員	柴田 悠					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM12 31106 LJ45						
この社会で「幸せに生きる」には、どうしたらいいのか？ 身近な人の「幸せをサポートする」には、どうしたらいいのか？ そして、「より多くの人々が幸せに生きられる社会」をつくるには、どうしたらいいのか？ 「幸せ」という概念は「本人がそうありたいと望む状態」として使われることが多い。そのため、上記の問いは、人間行動 についての究極的な問いの一つといえる。											
そこで本講義では、上記の問いについての最新の研究成果や、担当教員による現在進行中の研究をふまえながら、受講者と ともに上記の問いへの答えを考究する。 (なお、全学共通科目における同教員の前期「社会学Ⅰ」・後期「社会学Ⅱ」よりも「幸福」と「人間行動」に重点を置いた 授業方針となるため、毎回の内容も視点が異なる。多角的な理解を深めるためには「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」の受講も推奨す る。)											

授業科目名	社会情報論					担当教員	吉田 純						
配当学年	3,4 回生		単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 5		授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM12 31107 LJ45								
ハーバーマス、ギデンズ、ベック、ルーマンらの社会理論を枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について考察する。													

授業科目名	人間行動論演習 A					担当教員	柴田 悠				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM12 31153 SJ45						
人間行動（その集積である社会現象を含む）に関連する自由テーマの卒業論文を作成するために、受講者各人が、自らのテーマに関する先行研究を整理・批判しつつ、独自の発想を加えた考察を行い、発表をする。 さらに、その発表内容について、出席者全体で発展的議論を行い、互いの考察を深め合う。 またその際、担当教員は、人間行動論の専門家として、建設的なアドバイスを行う。											

授業科目名	人間行動論演習 B					担当教員	柴田 悠				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM12 31154 SJ45						
人間行動（その集積である社会現象を含む）に関連する自由テーマの卒業論文を作成するために、受講者各人が、自らのテーマに関する先行研究を整理・批判しつつ、独自の発想を加えた考察を行い、発表をする。 さらに、その発表内容について、出席者全体で発展的議論を行い、互いの考察を深め合う。 またその際、担当教員は、人間行動論の専門家として、建設的なアドバイスを行う。											

授業科目名	社会情報論演習 A					担当教員	吉田 純				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM12 31155 SJ45						
社会情報論の領域における卒業論文作成のための演習をおこなう。											

授業科目名	社会情報論演習 B					担当教員	吉田 純				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM12 31156 SJ45						
社会情報論の領域における卒業論文作成のための演習をおこなう。											

授業科目名	生命倫理学				担当教員	清家 理					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM12 21109 LJ45.U-HUM12 21109 LJ34.U-HUM12 21109 LJ90						
日本は世界に先駆け、少子高齢化社会が進行している。医療、介護領域の課題（以下、医療福祉的課題）が山積している中で、倫理行動的規範や価値判断を用いた「課題の解決策」の習得をめざす。 具体的には、以下 2 点の授業目標を設定する。 (1)現代社会で発生している医療福祉的課題を多角的に分析できる手法の獲得 (2)現代社会で発生している医療福祉的課題を解決するための解決策を提案していくプロセスの理解、アクションプランの試行的提示											
とりあげる事例としては、判断能力が低下した人（認知症等）の意思決定支援、インフォームド・コンセント（治療選択・自己 決定権）、Truth-Telling（告知）、新しい医療技術の開発と研究倫理である。医療倫理学を応用して何ができるのかについて探求し、事例分析など通じ、自らの考えを整理していく術の習得をめざす。以上の学習により、「知識偏重型の学習形態」から「生活応用型の学習形態」への転換をめざす。											

授業科目名	人文科学研究方法論演習 A					担当教員	清家 理				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM12 31361 SJ45.U・HUM12 31361 SJ90						
研究を遂行する上で、最も基本になるのは「研究プロトコル（研究計画書）」である。研究を進めていく「羅針盤」にもなる研究プロトコルが不明瞭なものであると、当該研究を実施する価値も不明瞭なものとなってしまう。本講義では、今後増加していく『共同研究』スタイルも体験しながら、先行研究（関連情報も含む）の検索・収集・分析、その後 Research question を立て、研究プロトコル作成をするまでの基礎作業の学習を進めていく。											

授業科目名	人文科学研究方法論演習B					担当教員	清家 理				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM12 31362 SJ45.U-HUM12 31362 SJ90						
研究を遂行する上で、文献研究のみならず、フィールド調査法、統計学を用いた分析も重要な研究手法である。そのため本講義では、①データ収集や調査方法の吟味と実施（特にフィールド調査法）、②得られたデータ（質的・数量的）の分析、③研究結果のまとめ、④プレゼンテーションやディスカッション手法、以上を学び、国内外の学会発表、論文作成に活用できる研究の基礎力習得をめざす。また、座学のみならず、実際に「聞き取り調査演習」（データを収集し、入力まで実施する実習）を行うことで、より座学で得た知識を体得できるようにしていく。											
※本講義は、毎年 1 つのテーマを設定し、実際にデータ収集・解析・結果のまとめ・学会抄録作成までを一連の流れで体験していただく。（行政や医療機関との連携あり）											

授業科目名	社会心理学演習 A					担当教員	永田 素彦					
配当学年	3,4 回生		単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM12 31247 SJ46 社会心理学の分野で卒業研究を行うために必要な理論と方法を学ぶ							

授業科目名	社会心理学演習B					担当教員	永田 素彦				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM12 31248 SJ46 社会心理学の分野で卒業研究を行うために必要な理論と方法を学ぶ						

授業科目名	社会心理学（社会・集団・家族心理学）				担当教員	永田 素彦					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM12 11505 LJ46						
「社会心理」学は、2つの特徴をもつ。1つは、集合体の全体的性質やその動きを主たる研究対象とする学問分野であり、個人の意識や行動も集合体の動きの一コマとして理解すること。もう1つは、対象の客観的・普遍的な性質を明らかにする実証的研究スタンスではなく、研究者と当事者の協同的実践を通じて新たな理解や行為を生成していく、人間科学の研究スタンスをとること。 本講義では、「社会心理」学の理論、方法論、人間科学のメタ理論（社会構成主義）を詳しく説明するとともに、実践的な研究例をいくつかのテーマに沿って紹介する。											

授業科目名	社会心理学（社会・集団・家族心理学）				担当教員	永田 素彦					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM12 11505 LJ46						
「社会心理」学は、2つの特徴をもつ。1つは、集合体の全体的性質やその動きを主たる研究対象とする学問分野であり、個人の意識や行動も集合体の動きの一コマとして理解すること。もう1つは、対象の客観的・普遍的な性質を明らかにする実証的研究スタンスではなく、研究者と当事者の協同的实践を通じて新たな理解や行為を生成していく、人間科学の研究スタンスをとること。 本講義では、「社会心理」学の理論、方法論、人間科学のメタ理論（社会構成主義）を詳しく説明するとともに、実践的な研究例をいくつかのテーマに沿って紹介する。											

授業科目名	グループ・ダイナミックス（産業・組織心理学）				担当教員	宮本 匠					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM12 11508 LJ46						
グループ・ダイナミックス（集団力学）とは、グループ（集合体）---- 一群の人々とその環境（物的・制度的環境）の総体 ---- の動き・変化（動態）を研究する学問分野である。 その大きな特徴は研究スタンスにある。グループ・ダイナミックスは、現実の集合体（組織、コミュニティなど）の中に研究者が飛び込み、現場のベターメント（改善・改革）に向かって、現場の当事者とともに協同的实践を展開するというアクションリサーチの性格を有している。この点、従来の文系の現場研究では、研究者が現場に入ることによって現場が変化してしまっはならないとされてきたのとは対照的である。 当事者との協同的实践において研究者が果たすべき役割は、現場の言説空間（言葉の世界）を豊かにすることである。人間は、言葉を使って考え、言葉を使ってコミュニケーションする。言葉が豊かになれば、思考もコミュニケーションも豊かになる。グループ・ダイナミックスの概念的・理論的言説は、協同的实践の言説空間を豊かにするものでなければならない。 本講義では、グループ・ダイナミックスの基本的な考え方に始まり、重要な概念・理論を紹介する。そして、それぞれの概念・理論が、現場の協同的实践の中でどのように用いられたのかについて、過疎地域の活性化の問題、地域における減災復興の問題、組織における人々の行動、職場で求められる心理的支援の問題（キャリア形成を含む）から実例を引きながら解説する。											

授業科目名	社会調査のための統計学				担当教員	溝口 佑爾					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM12 21501 LJ45						
社会調査によって得られたデータを分析するために必要となる統計手法について、その原理と利用方法を修得することが本講義の目的である。確率論の基礎（確率と分布）を土台に、記述統計と推測統計（推定と検定）を中心に解説する。 本質的な理解に迫るために、数式を用いた解説とコンピュータを用いたシミュレーションを適宜用いる。理解を深めるための小テストも数回行う予定である。											

授業科目名	基礎演習：社会学Ⅰ				担当教員	柴田 悠					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM12 11186 SJ45						
「幸せ」「生き方」「親密性」といった担当教員の研究テーマを参考にしながら、受講者各人が、現代のさまざまな社会現象や、自分自身の人生・生活上の問題について、自らの関心に即して、社会学などの先行研究（関心に最も近い研究1つ以上）を参照・批判しつつ、独自の発想を加えた考察を行い、発表をする。 さらに、その発表内容について、出席者全体で発展的議論を行い、互いの考察を深め合う。 またその際、担当教員は、社会学の思考法を活かした発言をすることで、社会学の思考法を参与的かつ実践的に伝授する。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：社会学Ⅱ				担当教員	吉田 純					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM12 11187 SJ45						
《映画を通して社会学的思考を学ぶ》											
社会学の大きな目標は、人間や社会の「リアル」に迫ることである。バーチャルな世界が拡大し、事実とリアルの関係が変容していくなかで、社会学的思考や想像力はリアルをとらえる上でますます重要な鍵となってきた。社会学的思考を豊かにし、想像力を取り戻そうとすると、その誘因を文字テキストに限る必要はない。映画のほとんどはフィクションであるが、想像力に富むフィクションという思考実験は、人間や社会の「リアル」を見せてくれることがある。(教科書「はじめに」の要約)											
このゼミでは、以上のような発想から、さまざまな日本映画を題材として社会学的思考(概念や理論)を解説したテキストを読む。と同時に、履修者による各回の報告の中で、実際にテキストに関連した映画の抜粋を観ることにより、さらに社会学的思考への理解を深め、現代社会の「リアル」に迫ることをめざす(映像の準備・上映も、履修者自身が担当する)。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：社会心理学				担当教員	永田 素彦					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的				No.U-HUM12 11189 SJ46							
防災・減災および災害復興に関して、人間科学（自然科学とは異なるもう一つの科学）としての社会心理学による実践／研究のアプローチについて理解を深める。											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	ヒストリー・オブ・アイディアズ A				担当教員	多賀 茂					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM13 21211 LJ36.U-HUM13 21211 LJ34						
アイデアと制度 再考-2											
10 年前に上梓した著作『アイデアと制度』で扱った諸問題（自由、民主主義、外交、都市、田園、教養など）を、現代における日本や世界の状況と照合しながら、また現代思想（特にフーコーやドゥルーズ）についての考察を踏まえながら、再検討する。前年度の続き。											

授業科目名	ヒストリー・オブ・アイディアズ演習B				担当教員	多賀 茂					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM13 31166 SJ36.U-HUM13 31166 SJ34						
＜現代思想を原語で読む＞											
文体・用語法等の特徴に注目しながら思想家の文章を講読することによって、その思想の理解を一層深める。											

授業科目名					動態映画文化論 IA			担当教員		木下 千花				
配当学年		2・4 回生		単位数	2	開講期	前期		曜時限	水 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的							No.U-HUM13 21128 LJ32.U-HUM13 21128 LJ35							
<映画理論入門>														
映画についての理論的な思考の歴史を辿る。20 世紀初頭から今世紀に至るまでおおむね時間軸に沿って主要な理論・批評を講読し、映画へのアプローチの変容を理解する。履修者は毎週必ず配布されたテキストを読み、予習をしたうえで議論に積極的に参加することを前提とする。														

授業科目名	動態映画文化論ⅠⅠA					担当教員	松田 英男				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM13 21130 LJ35						
主にアメリカのジャンル映画について、具体的に考察するとともに、論文、ビデオ・エッセイ等を読みます。											

授業科目名	動態映画文化論演習 IB				担当教員	堀 潤之					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM13 31250 SJ32.U-HUM13 31250 SJ35						
〈映画論を読む〉											
映画についての学術的言説としては、1960 年代に北米で成立した「フィルム・スタディーズ」の紡ぐ言説が今なお一定の有効性と影響力を誇っている。しかし、映画をめぐる言説は、当然それだけにとどまらず、「フィルム・スタディーズ」成立以前の古典的理論や映画批評も存在すれば、「フィルム・スタディーズ」に先だって、あるいはそれと並行して映画についての別種の知のあり方を提示しようとする言説も枚挙にいとまがない。この授業では、そうした広い意味での映画論を対象に、何人かの鍵となる著述家に焦点を当て、演習形式も取り入れつつ、彼らの言説の可能性を探る。											

授業科目名	動態映画文化論演習ⅠⅡB					担当教員	松田 英男				
配当学年	3,4回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM13 31252 SJ35 主にアメリカのジャンル映画について、具体的に考察するとともに、論文、ビデオ・エッセイ等を読みます。						

授業科目名	制度・生活文化史A				担当教員	田邊 玲子					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM13 21213 LJ36.U-HUM13 21213 LJ32						
テーマ：戦後ドイツ映画にみるナチスの時代の表象											
第一次大戦敗戦後から 1933 年のナチスによる政権掌握までのワイマール共和国の時期、ドイツは文化的には黄金期を迎え、映画産業も繁栄し、数々の名作を生んだ。人々の生活に浸透した映画をナチス・ドイツは積極的に活用し。宣伝相ゲッベルスの政策により、映画がナチス思想浸透や戦意高揚を目的としたプロパガンダ・メディアとして、精力的に投入されることになった。第二次大戦後は、ナチスの時代やヒトラーを扱った映画が製作されることになる。それは現在なお続いている。											
本講義では、戦後ドイツ映画を素材に、第二次世界大戦後ドイツにおけるナチスの時代の表象を、過去との対峙という側面から考えるが、まず最初に、ナチスの時代のプロパガンダに用いられた映像資料を検討し、映画がどのように心性の醸成に用いられたのかを考える。											
本講義では、実際に映像資料を見ながら、1) 当時の時代状況を振り返り、時代の心性がいかにより形成され、人心をいかに把握しようと試みられたか、2) 負の過去といかに向き合おうとされているか、負の過去の何をとりあげ、どのように理解し、それによって、いかなる過去のイメージを構成しているか、といった点から、ナチスの時代を考察するとともに、過去を扱う映画作品の可能性についても考える。すなわち、どのような問題提起をし、いかに提示をしているのか。あるいは問題を無害化しているのか。ある物語を語ることににより、見る人にどのようなメッセージを伝えているのか。印象や感想を短時間でまとめる訓練をしながら、内容を客観的に把握し、映像作品を分析的・批判的に見る視点も養う。											

授業科目名	制度・生活文化史演習 A				担当教員	田邊 玲子					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM13 31215 SJ36.U-HUM13 31215 SJ32						
履修者それぞれのテーマによる発表を行う。それにより、発表者は自身の問題関心の明確化をはかり、他の出席者は自身の関心以外のさまざまなテーマと出会い、見聞を広めることになる。議論の仕方なども身につけてゆく。文化社会論分野で卒業論文を計画している人には、論文作成指導の演習ともなる。											

授業科目名	制度・生活文化史演習 B				担当教員	田邊 玲子					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM13 31216 SJ36.U-HUM13 31216 SJ32						
履修者それぞれのテーマによる発表を行う。それにより、発表者は自身の問題関心の明確化をはかり、他の出席者は自身の関心以外のさまざまなテーマと出会い、見聞を広めることになる。議論の仕方なども身につけてゆく。文化社会論分野で卒業論文を計画している人には、論文作成指導の演習ともなる。											

授業科目名	メディア・スタディーズB				担当教員	河田 学・蘆田 裕史・増田 展大					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時限	その他	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM13 21228 LJ36.U-HUM13 21228 LJ45						
言葉本来の意味に遡って考えるならば、「メディア」とは人と人との間にあって、そのコミュニケーションを媒介をするもののことだと考えることもできるかもしれない。しかし、現在メディア論と呼ばれている研究領域では、もっと広い意味で「メディア」というものを捉えている。たとえば、1960年代に『グーテンベルクの銀河系』(The Gutenberg Galaxy: the Making of Typographic Man, 1962)、『メディア論』(Understanding Media: the Extensions of Man, 1964)などを著しのちのメディア論に多大な影響を与えたマーシャル・マクルーハンは、メディアとは人間の身体を拡張するものであると考えた。テレビやラジオは人間の目や耳を拡張するものだからこそメディアなのであって、それと同様に、人間の脚を拡張する自動車もメディアであり、皮膚を拡張する衣服もまたメディアだということになる。また、メディアは人間の必要や欲望に奉仕するばかりではなく、逆に人間の認識や価値観、世界観を再構成することもあるだろう。本講義ではこのようなメディア認識に立ち、さまざまなメディアと人間とのインタラクションについて考察を行う。											

授業科目名	自己存在論Ⅰ				担当教員	安部 浩					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM14 21219 LJ34						
「自己存在」は人間存在を特色づける基本的な規定の一つであり、哲学史上、精神、主体、自己意識、実存、現存在、一人称といった概念の下で究明され続けてきたものである。時の古今を問わず、洋の東西を問わず、こうした考察が絶えず繰り返されているという事実は、「今ここにこうしてある私とは何者であるのか」という問いが、我々にとっていかに根源的であり、そしてまたいかに抜き差しならないものであるかをいみじくも物語っていると言えよう。 本講義のねらいは、そのような「自己存在」を基軸としながら、主として近現代の哲学における諸問題を考究し、もって受講者各人自身による思索の歩みを裨益せんとすることにある。 もとより「ゼルプスト・デンケン（自分で考え抜くこと）」は、決して一朝一夕になしうるものではない。だがそれこそが哲学をすることの生命であり、そしてまた一身を賭して試みるに値する事柄であることを受講生諸氏が本講義を通して感得されんことを冀ってやまない。											

授業科目名	自己存在論Ⅱ				担当教員	安部 浩					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM14 21220 LJ34						
「自己存在」は人間存在を特色づける基本的な規定の一つであり、哲学史上、精神、主体、自己意識、実存、現存在、一人称といった概念の下で究明され続けてきたものである。時の古今を問わず、洋の東西を問わず、こうした考察が絶えず繰り返されているという事実は、「今ここにこうしてある私とは何者であるのか」という問いが、我々にとっていかに根源的であり、そしてまたいかに抜き差しならないものであるかをいみじくも物語っていると言えよう。 本講義のねらいは、「自己存在論Ⅰ」と同様、そのような「自己存在」を基軸としながら、主として近現代の哲学における諸問題を考究し、もって受講者各人自身による思索の歩みを裨益せんとすることにある。但し本講義は、このねらいを「自己存在論Ⅰ」とは違った仕方では追求せんとするものである。 もとより「ゼルプスト・デンケン（自分で考え抜くこと）」は、決して一朝一夕になしうるものではない。だがそれこそが哲学をすることの生命であり、そしてまた一身を賭して試みるに値する事柄であることを受講生諸氏が本講義を通して感得されんことを冀ってやまない。											

授業科目名	自己存在論演習Ⅰ				担当教員	安部 浩					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM14 31349 SJ34						
ハイデガーのニーチェ講義。それは、ハイデガーその人の一見秘教的と思しき中期以降の思想を理解する上でも、ニーチェの後期哲学の高峰を踏査する上でも、避けて通ることのできない文献である。しかのみならず、ハイデガーやニーチェの思想との関連を別にしても、それは哲学の根本問題を自ら考える上で実に多くを教えられる、滋味掬すべき必読の書である。 この大部の著作の第一巻、第一部を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、藝術、永劫回帰、認識、形而上学、真理、存在等をめぐる問題系に関する考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。											

授業科目名	自己存在論演習 II				担当教員	安部 浩					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM14 31350 SJ34						
ハイデガーのニーチェ講義。それは、ハイデガーその人の一見秘教的と思しき中期以降の思想を理解する上でも、ニーチェの後期哲学の高峰を踏査する上でも、避けて通ることのできない文献である。しかのみならず、ハイデガーやニーチェの思想との関連を別にしても、それは哲学の根本問題を自ら考える上で実に多くを教えられる、滋味掬すべき必読の書である。 この大部の著作の第一巻、第一部を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、藝術、永劫回帰、認識、形而上学、真理、存在等をめぐる問題系に関する考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。											

授業科目名	認識人間学Ⅰ				担当教員	青山 拓央					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM14 11221 LJ34						
世界の事物を認識するうえで、言語はきわめて大切な道具です。ある意味では、私たちは言語を通して初めて、世界を「見る」ことが可能になります。本講義では言語と認識との関係について、おもに分析哲学のさまざまな知見を解説する予定です（必要に応じて、論理学の入門的なお話もします）。『分析哲学講義』（ちくま新書）を参考書として講義を進めつつ、同書に記されていない多様な研究成果も、随時紹介していく予定です。											

授業科目名	認識人間学Ⅱ				担当教員	青山 拓央					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM14 11222 LJ34						
私たちは世界のなかに、事物だけでなく「価値」も見いだします。そして自らの人生が価値あるものであることも欲します。しかし、価値はどのような仕方で存在し、どのような仕方で認識されるのでしょうか。本授業では、「幸福」「善」「美」などのテーマを取り上げ、たんに主観的な幻想ではなく、しかし客観的な物質とも異なる、価値というものの在り方とその認識論上の意味を探ります（その際、おもに分析哲学における様々な知見を参照します）。参考書である『幸福はなぜ哲学の問題になるのか』（太田出版）の一部をブラッシュアップした内容と、他の多くの先行研究について、お話しをする予定です。											

授業科目名	認識人間学演習 I				担当教員	青山 拓央					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM14 31351 SJ34						
近現代哲学における〈自由の哲学〉の知識を学び、精密な読解能力とディスカッション能力を身につけることを目的として、Daniel Dennett の著書 Brainstorms: Philosophical Essays on Mind and Psychology （英語、未邦訳）から、いくつかの章を選んで精読する予定です（出席者が順に訳していく形式）。同文献は、ホブズ以来の約 350 年にわたる自由意志論を引き継いだものであり、哲学史上の重要な議論の発展を知ることができます。											

授業科目名	認識人間学演習 II				担当教員	青山 拓央					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM14 31352 SJ34						
エピソード記憶（episodic memory）の哲学研究について専門的な知識を学ぶとともに、精密な読解能力とディスカッション能力を身につけることを目的とします。Kourken Michaelian & John Sutton の英語論文 "Memory"（Stanford Encyclopedia of Philosophy 収録）の一部や、同分野の他の文献（英語または日本語）を精読する予定です（クラス全体での輪読形式）。ディスカッションへの積極的な参加を期待します。											

授業科目名	哲学・文化史Ⅰ				担当教員	戸田 剛文					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM14 21223 LJ34						
授業の概要・目的											
哲学という学問は、その対象に比較的制限のない学問であり、およそ私たちの身の回りの多くのものがその研究対象となる。むしろ、身近なものにこそ、重要な問題が含まれていると言ってよい。つまり、私たちが持っている既成概念を、そのまま既成のものとしてうけとらず、改めて再検討しつづけることが重要なのである。というのも、思想を始めとして学問の進歩とは、多くの場合、既成概念や慣習化した権威を、無条件に正しいものとして受け取らないことによって行われてきたからである。また、私たちが社会で生きていく上でも、常に自分自身で物事をとらえ直そうとする姿勢は、思考力の向上につながり、より豊かな発想を生み出す源になると考えられる。											
この講義では、私たちの身近な事柄にかんする哲学的な問題をとりあげ、それがどのようなものかを解説し、自らが思考するための第一歩へとつなげることを狙いとする。さらに、伝統的な哲学の問題を後半で取り上げ、哲学史を含めて身に付けることを狙いとする。											
哲学Ⅰ、Ⅱの授業を履修していることが望ましい。											

授業科目名	哲学・文化史Ⅱ				担当教員	戸田 剛文					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM14 21224 LJ34						
自由意志をめぐる問題について、これまでどのような議論がなされていたのかを概観し、現代社会においても重要な問題である自由と責任についての多面的な考えを身につける。											
また自由と責任の問題だけではなく、思想史に関する知識を身につけることも、重要なテーマとしている。											

授業科目名	哲学・文化史演習Ⅰ				担当教員	戸田 剛文					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM14 31353 SJ34						
スコットランド常識学派の代表者といわれるトマス・リードの『人間の知的能力論』を原典で読む。 リードは、近代イギリス経験論の影響を受けつつ、ロックからヒュームにいたる哲学者を批判した哲学者であり、その評価は近年ますます高まっている。知識とはどのようなものかを考える上でも、彼の議論は興味深い手掛かりをわれわれに与えてくれる。											

授業科目名	哲学・文化史演習Ⅱ				担当教員	戸田 剛文					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM14 31354 SJ34						
20世紀を代表する科学哲学者の一人、カール・ポパーの <i>Conjectures and Refutations</i> (1963)を読む。この書を通して、知識はどのようなものか、そしてそれに基づく私たちの世界との向き合い方を考える。											

授業科目名	人間実践論Ⅰ				担当教員	佐藤 義之					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM14 21225 LJ34						
フランスの現象学者メルロ＝ポンティは、もっぱら知覚論や身体論において、主体の事実的なあり方、主体によって生きられた世界の姿について、斬新な見解を示した。『知覚の現象学』の時期の彼の思想の流れを知覚論、身体論を中心にたどってゆきたい。											

授業科目名	人間実践論Ⅱ				担当教員	佐藤 義之					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM14 21226 LJ34						
講義ではレヴィナスの最初の主著『全体性と無限』を手がかりに他者と倫理について考えてみたい。レヴィナスは、倫理について極限的な思考を展開するとともに、そこから哲学の根本的変革を企てた思想家である。											

授業科目名	人間実践論演習Ⅰ				担当教員	佐藤 義之					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM14 31355 SJ34						
レヴィナスは倫理の問題を手がかりに、旧来の哲学の根本的革新を企て、思想界に大きな影響を残した。 授業では彼の第二の主著とされる 1974 年の Autrement qu'écirc:tre ou au-del&agrave; de essence. (『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方に』) の仏語原文をテキストとして、彼の思想を理解する。											

授業科目名	人間実践論演習Ⅱ				担当教員	佐藤 義之					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM14 31356 SJ34						
レヴィナスは倫理の問題を手がかりに、旧来の哲学の根本的革新を企て、思想界に大きな影響を残した。 授業では彼の第二の主著とされる 1974 年の Autrement qu'être ou au-delà de essence. (『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方に』) の仏語原文をテキストとして、彼の思想を理解する。											

授業科目名	人間存在論特別演習				担当教員	佐藤 義之・安部 浩・戸田 剛文・青山 拓央					
配当学年	4 回生	単位数	4	開講期	後期	曜時限	金 5	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM14 40154 SJ34						
この演習は人間存在論関係の学生に対する卒業論文指導の重要な一環である。具体的には履修者各人が人間存在論の諸問題に関する研究を発表し、人間存在論関係の教員全員とともにその検討をおこなう。 この演習は必修科目ではないが、人間存在論関係の卒業予定者は、単位の要不要に関わりなく受講されたい。											

授業科目名	基礎演習：哲学				担当教員	戸田 剛文					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM14 11190 SJ34						
動物の権利についての書かれたテキストを読み、人間と動物の関係について考えてみる。身近なテーマを手掛かりに、自分たちが普段考えていることを明確化したり、批判的に検討したりできるようにする。											
ただし、参加者との話し合いによってテーマを変えていくことはある。											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：倫理学				担当教員	佐藤 義之					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM14 11191 SJ34						
倫理とは自由な主体の営みであり、自由な主体にとってしか倫理は意味をもたない。こういうものとしての自由を極限まで押しつめて考えたのが、フランスの現象学派の哲学者サルトルである。授業では彼の思想を通じて、われわれの自由について見直したい。 テキストは講演原稿であるため、哲学書としては比較的平易である。基本事項の解説を多く加えながら熟読する。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：西洋思想史				担当教員	安部 浩					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM14 11192 SJ34						
西洋哲学における古典中の古典を取り上げ、その講読を通して西洋思想史上の基礎的な問題の所在を確認し、同時に又それらの諸問題に関して参加者全員で討議すること。これが本ゼミナールの狙いである。											
本ゼミナールを通して受講生諸君は、正確な語学の知識、テキストを精緻に読解する能力と論理的思考力、相手の言うことを理解した上で自分の考えるところを相手にも理解して貰えるように表現する能力等を涵養しうるのである。											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：科学論					担当教員	青山 拓央				
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM14 11193 SJ34						
哲学と科学に興味があり、かつ、文章を読みながら「議論する」ことについて深く学びたい学生に向けて、少人数形式の授業を行います。受講者は順に発表担当を引き受け、自分が「読めなかった」文章（何らかの仕方では哲学・科学に関わる文章）を紹介し、その「読めなさ」の理由を説明します。その後、クラス全体でその文章について意見交換を行ない、哲学的観点と精読的観点の双方から「読めなさ」の構造を分析します。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	創造行為論演習A					担当教員	武田 宙也				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM15 31263 SJ35						
芸術についての哲学的思考、現代美術、現代思想などに関連するテーマを研究している学生を対象として、卒業論文執筆のための指導を行う。											

授業科目名					創造行為論演習B							担当教員		武田 宙也									
配当学年		3,4 回生		単位数		2		開講期		後期		曜時限		月 5		授業形態		演習		使用言語		日本語	
授業の概要・目的									No.U-HUM15 31264 SJ35														
芸術についての哲学的思考、現代美術、現代思想などに関連するテーマを研究している学生を対象として、卒業論文執筆のための指導を行う。																							

授業科目名	創造行為論講読演習					担当教員	武田 宙也				
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM15 11364 SJ35						
美学・芸術学を研究するうえで必要となる外国語の読解能力を身につける。講読文献の選定に当たっては、古典的な美学理論書、過去から現在にいたる芸術潮流に大きな影響を与えた批評言説、最新の雑誌記事などの中から、受講者の興味・関心や語学力を考慮しつつ適切なものを取り上げる。初回にガイダンスおよび文献の選定を行った後、各回の授業は基本的に、受講者の報告と議論を中心として進行する。											

授業科目名	近代芸術論A					担当教員	並木 誠士				
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM15 10310 LJ35						
近代京都の美術・工芸											
近代京都の美術・工芸について、その近代化の問題を中心に、東京との比較を通して概観してゆく。とくに社会背景と伝統産業および美術・工芸制作のかかわりに注目して、京都における「近代」の特性およびそこにおける美術・工芸の位相についての理解が深まるように講義を進める。											

授業科目名	近代芸術論演習A					担当教員	上村 博				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM15 31141 SJ35						
昨年は明治150年のイベントがいろいろ賑やかでしたが、その150年ほどのあいだに、良くも悪くも徐々にさまざまな芸術制度が定着してきました。しかし他方でその150年で芸術も随分変化しています。そもそも「芸術」という制度は西欧でも時代によって大きく変化してきました。それは「芸術」というジャンルそのものの概念をはじめ、感性や美、そして技術や知を巡る理論的反省の歴史ときわめて強くむすびついています。本科目では近代的な芸術論の成立に至るまでの諸理論を、古典的テキスト（主に日本語版を使用）に基づきながら辿り、今日の芸術制作や受容を規制する枠組みがどのように形成されたのかを考察します。授業では受講者ごとに数回の分担課題（文献紹介）の口頭発表が求められます。											

授業科目名	近代芸術論演習B					担当教員	前川 修				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM15 31142 SJ35						
写真論といえば、つねにベンヤミン、バルト、ソンタグという写真論御三家が参照されてきた。しかしそれ以後に発表された、バーギン、セクーラ、タッグらのポストモダンの写真論（ボルトン『意味の抗争』）、あるいはオクトーバー派の写真論（クラウド、ブクロー）、その後のパッチェンの写真論、あるいは 90 年代以降のデジタル写真言説などは、依然として包括的に議論されてはいない。この授業では、こうした写真論の系譜を紹介するとともに、さらに写真の圏域を広げ、視覚文化のなかでの写真の位置や問題を具体的に考えてみたい。											

授業科目名	舞台芸術論B					担当教員	桑山 智成					
配当学年	2・4 回生		単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM15 21230 LJ35.U-HUM15 21230 LJ36							
シェイクスピアの喜劇：『マクベス』(Macbeth) はどのような演劇作品なのか、当時の劇場や舞台を念頭に、その演劇的特性について理解を深める。また、演劇とはどのような芸術なのかというテーマにも迫りたい。												

授業科目名	舞台芸術論演習A					担当教員	桑山 智成				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM15 21359 SJ35.U-HUM15 21359 SJ36						
この授業では、上演発表を通して、William Shakespeare の Macbeth (『マクベス』) がどのような特質を持っているのか、その特質に迫ることにある。											

授業科目名	創造ルネッサンス論A				担当教員	岡田 温司					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM15 20315 LJ35						
主に西洋の芸術、芸術思想、現代思想について理解を深め、感性を磨くことを目的とする。											

授業科目名	創造ルネッサンス論B				担当教員	岡田 温司					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM15 20316 LJ35						
主に西洋の芸術、芸術思想、現代思想について理解を深め、感性を磨くことを目的とする。											

授業科目名	創造ルネッサンス演習A				担当教員	岡田 温司					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM15 31245 SJ35						
4 年生は卒業論文の完成、3 年生は卒業論文へ向けてテーマの設定、資料収集の方法や解説などについて指導をおこなう。											

授業科目名	創造ルネッサンス演習B					担当教員	岡田 温司				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM15 31246 SJ35						
4 年生は卒業論文の完成、3 年生は卒業論文へ向けてテーマの設定、資料収集の方法や解説などについて指導をおこなう。											

授業科目名	英米文学入門				担当教員	水野 眞理・廣野 由美子・桑山 智成・小島 基洋・池田 寛子・水野 尚之					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 11199 SJ36.U・HUM15 11199 SJ36.U・HUM16 11199 SJ36						
本ゼミナールでは、6名の教員がリレー形式で英語圏の文学の歴史を概観し、英国の古代から現代にいたる文学やアメリカで生みだされた重要な作品に実際に触れながら、英米文学の魅力を語る。ここで言う英語圏とはブリテン島すなわち、イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランドにアメリカを加えた地域を指し、この地域における国家の興亡、言語の変容、階級の再編、ヨーロッパ諸国からの文化的影響を念頭に置きつつ、ダイナミックな英米文学史を描く。 複数の教員が入門的また専門的な英米文学の知見を教えることで、学生に文学的教養のみならず、社会や世界を考える機会を提供する。											

授業科目名	基礎演習：美の思想				担当教員	武田 宙也					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM15 11194 SJ35						
美学・芸術学研究（美や芸術についての哲学的思考）とはどのようなものか、発表と議論を通じて体験的に理解する。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：西洋美術の歴史				担当教員	岡田 温司					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM15 11195 SJ35						
キリスト教美術への導入 I											
西洋のキリスト教美術の主題や図像、宗教的意味についての理解を身につけ深める。											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	英米文芸表象論講義A				担当教員	廣野 由美子					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM16 11101 LJ36						
19 世紀イギリスの小説家エミリー・ブロンテの小説『嵐が丘』(1847)の前半を原文で読みながら、多様な作品解釈を試みる。											

授業科目名	英米文芸表象論講義B					担当教員	廣野 由美子				
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM16 11102 LJ36						
19 世紀イギリスの小説家エミリー・ブロンテの小説『嵐が丘』(1847)の後半を原文で読みながら、多様な作品解釈を試みる。											

授業科目名	英米文芸表象論演習 IA				担当教員	水野 尚之					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM16 31159 SJ36						
ヘンリー・ジェームズの文学世界											
19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて大西洋の両側で創作活動を行なったアメリカ人作家 Henry James の生涯を概観しつつ、代表的な作品を精読する。James の作品は次第に難解さを増すと一般に言われているが、実際に作品を精読することにより、先入観や偏見の一部を修正することになるだろう。											

授業科目名	英米文芸表象論演習 IB					担当教員	水野 尚之				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM16 31160 SJ36						
ヘンリー・ジェームズの文学世界 (最終局面)											
19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて大西洋の両側で創作活動を行なったアメリカ人作家 Henry James の生涯を概観しつつ、後期の代表的な作品を精読する。James の作品は次第に難解さを増すと一般に言われているが、実際に作品を精読することにより、先入観や偏見の一部を修正することになるだろう。											

授業科目名	英米文芸表象論演習 IIA					担当教員	水野 尚之				
配当学年	4 回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM16 41161 SJ36						
研究テーマを設定し、卒業論文としてまとめるまでのプロセスをとおり、研究方法を学びながらそれを応用・実践する力を養う。											

授業科目名					英米文芸表象論演習 IIA			担当教員		廣野 由美子													
配当学年		4 回生		単位数		2		開講期		前期集中		曜時限		その他		授業形態		演習		使用言語		日本語	
授業の概要・目的									No.U・HUM16 41161 SJ36														
研究テーマを設定し、卒業論文としてまとめるまでのプロセスをとおり、研究方法を学びながらそれを応用・実践する力を養う。																							

授業科目名				英米文芸表象論演習 IIA				担当教員		小島 基洋													
配当学年		4 回生		単位数		2		開講期		前期集中		曜時限		その他		授業形態		演習		使用言語		日本語	
授業の概要・目的								No.U・HUM16 41161 SJ36															
研究テーマを設定し、卒業論文としてまとめるまでのプロセスをとおり、研究方法を学びながらそれを応用・実践する力を養う。																							

授業科目名					英米文芸表象論演習 IIB			担当教員		水野 尚之													
配当学年		4 回生		単位数		2		開講期		後期集中		曜時限		その他		授業形態		演習		使用言語		日本語	
授業の概要・目的										No.U・HUM16 41162 SJ36													
研究テーマを設定し、卒業論文としてまとめるまでのプロセスをとおり、研究方法を学びながらそれを応用・実践する力を養う。																							

授業科目名					英米文芸表象論演習 IIB			担当教員		廣野 由美子														
配当学年		4 回生		単位数		2		開講期		後期集中		曜時限		その他		授業形態		演習		使用言語		日本語		
授業の概要・目的									No.U・HUM16 41162 SJ36															
研究テーマを設定し、卒業論文としてまとめるまでのプロセスをとおり、研究方法を学びながらそれを応用・実践する力を養う。																								

授業科目名					英米文芸表象論演習 IIB			担当教員		小島 基洋													
配当学年		4 回生		単位数		2		開講期		後期集中		曜時限		その他		授業形態		演習		使用言語		日本語	
授業の概要・目的								No.U-HUM16 41162 SJ36															
研究テーマを設定し、卒業論文としてまとめるまでのプロセスをととして、研究方法を学びながらそれを応用・実践する力を養う。																							

授業科目名	英米文芸表象論講読 IA				担当教員	小島 基洋					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM16 11171 SJ36						
【《愛と喪失》のイギリス文学】 名作・名場面に秘められた作家の《愛と喪失》を読み解く（E1 科目とは別の作家）。											

授業科目名	英米文芸表象論講読 I B				担当教員	小島 基洋					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM16 11172 SJ36						
《感覚》で読むイギリス文学											
海を目にした時の解放感、嘘をつく時の罪悪感、故郷を思う時の寂寥感。 英文学の名場面をテーマごとに読み解き、《感覚》のメカニズムについて考察する。											

授業科目名	英米文芸表象論講読 IIA				担当教員	西山 けい子					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM16 11173 SJ36						
文学や映画に描かれる時間体験、とくに日常の意識や身体を超出する時間体験について考察する。無意志的な記憶の浮かび上がるとき、忘我のとき、自己と他者の境界が消失するときなどの経験を文学や映画はどう表現してきたのか、具体的ないくつかの作品をてがかりにアプローチする。											

授業科目名	ドイツ文芸表象論講義A				担当教員	奥田 敏広					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM16 21234 LJ36.U・HUM16 21234 LJ31						
ナチズムやフロイトの精神分析などを通して、現代の世界と日本に大きな影響を与えた 20 世紀前半のドイツ語圏の文学・思想・大衆芸術を取り上げます。概要や解説でなく、原典テキストを取り上げますが、それらは短く、非常に簡単な文法と日常語彙で出来ているので、難しくはありません。現代の萌芽が 20 世紀前半の大衆社会にすでに孕まれていたことを明らかにできればと考えています。											

授業科目名	ドイツ文芸表象論講義 B				担当教員	奥田 敏広					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM16 21235 LJ36.U・HUM16 21235 LJ31						
ナチズムやフロイトの精神分析などを通して、現代の世界と日本に大きな影響を与えた 20 世紀前半のドイツ語圏の文学・思想・大衆芸術を取り上げます。概要や解説でなく、原典テキストを取り上げますが、それらは短く、非常に簡単な文法と日常語彙で出来ているので、難しくはありません。現代の萌芽が 20 世紀前半の大衆社会にすでに孕まれていたことを明らかにできればと考えています。											

授業科目名	ドイツ文芸表象論演習A				担当教員	奥田 敏広					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM16 31163 SJ36.U・HUM16 31163 SJ31.U・HUM16 31163 SJ48						
現代のドイツや「ドイツ性」を考えるにあたって、近代初頭のプロイセン主義は非常に重要で不可欠な要素です。そのプロイセン主義に決定的影響を与えたフリードリヒ大王について、20 世紀を代表するドイツの作家であり実の兄弟として密接な関係にもあったトーマスとハインリヒのマン兄弟が、ともに作品や評論を書いています。それらを取り上げて解説し、比較考察することによって、プロイセン主義や「ドイツ性」の諸相を少しでも明らかにするのが目的です。											

授業科目名	ドイツ文芸表象論演習B				担当教員	奥田 敏広					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM16 31164 SJ36.U-HUM16 31164 SJ31.U-HUM16 31164 SJ48						
現代のドイツや「ドイツ性」を考えるにあたって、近代初頭のプロイセン主義は非常に重要で不可欠な要素です。そのプロイセン主義に決定的影響を与えたフリードリヒ大王について、20 世紀を代表するドイツの作家であり実の兄弟として密接な関係にもあったトーマスとハインリヒのマン兄弟が、ともに作品や評論を書いています。それらを取り上げて解読し、比較考察することによって、プロイセン主義や「ドイツ性」の諸相を少しでも明らかにするのが目的です。											

授業科目名	ドイツ文芸表象論講読A				担当教員	松波 烈					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM16 21181 SJ36.U-HUM16 21181 SJ48						
H・v・クライストの『マリオネット劇場論』を読みます。この作品は、クライストの作品としてはもちろん、ドイツ文学史上屈指の重要作品とされており、おそらく西洋文学史上でも屈指の重要作品だといえるでしょう。にもかかわらず分量が 10 ページに満たない小品です。どういった作品かという、随想とも、対話篇とも、哲学小論とも、新聞記事とも、芸術論考とも、いや神学問答とも、とれます。あるいは、サイバネティクス工学要綱とも、ゲリラ戦争指南書とも、ダンスの手引き書とも、はては格闘技の教科書とも、とれます。このように多種多様なテキスト性格を含有しており、ドイツ語を学習している初級・中級の人がチャレンジしてみるののうってつけのテキストと言えます。また、内容が、自然志向 vs.反自然志向、無意識の動作と技術、といった今日の問題そのものを扱ったものとなっており、読んで得られるものが大きいでしょう。実際に、18～19 世紀の人形劇場論や西欧風俗文化論はもとより、20 世紀の精神分析学、現代の生物学、映画『マトリックス』解読、などといった方面で言及され援用されています。 文章が、クライスト独特の文体で書かれており、19 世紀(前半)のドイツ語を文豪の文体で味わうことができます。しかも、ふつうこういった文章は平易なものとは限らないのですが、この作品だけは、とぎれとぎれの台詞を重ねているものなので、初学者にもやさしい短文がほとんどになっています。											

授業科目名	ドイツ文芸表象論講読B				担当教員	松波 烈					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM16 21182 SJ36.U-HUM16 21182 SJ48						
H・v・クライストの『マリオネット劇場論』を前期で読んでいます。後期には、この作品をめぐる 100 点近い有名無名の膨大な解釈の中の特に重要な数点を読みます。 次の文献の中から出席者の希望に応じて選びます。 ① 20 世紀初頭に出た Hanna Hellmann の論考。ここでは、『マリオネット劇場論』をロマン主義の産物としつつ、操り人形・人間・神という 3 段階を、Fr・シュレーゲル、シェリング、ノヴァーリスの歴史 3 段階論と合流させ、ライプニッツ・ルソー・シラー・カントを動員して気宇壮大な論を展開している。意識が喪失したものを意識が取り戻すという道程を明示し、意識の復楽園の契機を「自由」と「芸術」に見ている。 ② ポール・ド・マンがシラーの「美的教育」と関連付けた脱構築系の解釈、及びそれに先行していたドイツ語圏での脱構築系の解釈。テキストの文言の裏に回り対話者 2 人の「対話」に隠れた闘争・アゴニズムを暴く作業が遂行する。文学の真の醍醐味が味わえる。 ③ 1990 年代に出た最もショッキングな解釈。ポップカルチャーをふんだんに援用している Ulrike Bergermann の講演で、「メディア史」「仮想現実」「機械の中の幽霊」（アニメ『攻殻機動隊』に直結）「脳空間」「シミュレーション」「火星労働者」「モーションキャプチャ解析」「遠隔ロボット工学」「クライストの文学アバター」といった語彙が飛び交っている。（この系列の Marwyck も、『マリオネット劇場論』が導入した機械的人体の理想を「漫画」「アクション映画」の「サイボーグ」に求めつつ「ターミネーター」を例に挙げており、後には『マトリックス』3 部作を読み解く上で当作品を引用している。） ④ 『マリオネット劇場論』の本質が、19 世紀初頭欧州とフランス占領下プロイセンでの火急課題、隊列整然たる進軍兵でなく戦地で遊撃的に作戦遂行せる兵士の身体養成プログラムであると論じる Hans-Christian von Herrmann の、米独立戦争とナポレオン軍が示したゲリラ戦争を敵国軍隊に対して遂行するための手引書としてこの作品を読み解く論考。											

【認知情報学系】

*各授業科目の「到達目標」、「授業計画と内容」、「履修要件」、「成績評価の方法・観点及び達成度」、「教科書」、「参考書等」、「授業外学習（予習・復習）等」、「その他（オフィスアワー等）」の詳しい内容については、KULASIS からシラバスを閲覧してください。No.は科目ナンバリングです。

授業科目名	認知・行動科学入門					担当教員	小村 豊・久代 恵介・齋木 潤・月浦 崇・石原 昭彦・神崎 素樹・林 達也・船曳 康子				
配当学年	1,2 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM20 10053 LJ46.U-HUM20 10053 LJ30.U-HUM20 10053 LJ26						
我々は、様々な環境に適応して行動をしている。すなわち、さまざまな刺激を認知し、それに応じて行動する。そうすると、環境がまたかわるから認知し直し、そしてまた行動する。このように認知と行動は我々の生活に常にリンクしている。この認知と行動についてさまざま視点から理解することを目的とする。											

授業科目名	言語・数理情報科学入門				担当教員	河崎 靖・服部 文昭・清水 扇丈・藤田 耕司・壇辻 正剛・谷口 一美・上木 直昌・木坂 正史・立木 秀樹・日置 尋久・櫻川 貴司・足立 匡義・角 大輝・守田 貴弘・西脇 麻衣子					
配当学年	1,2 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM20 10055 LJ55.U-HUM20 10055 LJ11.U-HUM20 10055 LJ37						
認知情報学系の学系入門科目である。言語活動を貫く知のメカニズムの解明、および、数学と情報における基本的な考え方の習得を目標に解説する。											

授業科目名	神経生理学の基礎				担当教員	細川 浩					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18136 LJ63						
脳は、神経細胞により高度に組織化された器官である。脳は、外部・内部環境の変動を感覚器などを用いてとらえ、それを適切に処理することができる。この際、脳はどのようにして外界の状況を把握し、どのように処理していくのかを学ぶ。鍵となる概念を学び、さらにその最先端を概観する。											

授業科目名	神経生理学基礎演習				担当教員	細川 浩					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18349 SJ63						
脳・神経系を理解する上で、コンピュータによる学術情報の収集、データ収集、データ解析は不可欠である。この演習ではコンピュータを用いた神経生理学の解析手法、技術論文の書き方、プレゼンテーション技術を学ぶ。											

授業科目名	神経機能論実験 B				担当教員	細川 浩・前川 真吾					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3.水 4	授業形態	実験	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 38344 EJ63						
神経機能を分子レベルであきらかにするための基礎的な実験手法を学ぶ。神経機構を分子レベルで理解するための解析方法の学習を行う。											

授業科目名	生命科学基礎ゼミ				担当教員	細川 浩・前川 真吾					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18289 SJ68						
生命科学は、医学や生物学をはじめ生物をとりまくさまざまな学問分野の基礎となりうる。生物は細胞から構成されており、細胞内の DNA やタンパク質といった小分子が協調的に機能することで、様々な機能を発揮している。細胞の構成要素、遺伝の基礎原理、発生過程を講義・考察することにより、現在の生物学を俯瞰する。さらに受講者が討論することで理解を深めることを目的とする。											

授業科目名	システム脳科学				担当教員	小村 豊					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 28222 LJ30						
我々の日常生活のすみずみに、多彩な認知機能が及んでいることに、着眼する。記憶・予測から意思・意識にいたるまで、認知活動の実体を、神経科学と、計算論・進化論・病態論と組み合わせて、理解する。											
脳の働きを理解するためには、ニューロン・神経回路・脳領域というマルチスケールの生理特性を、知る必要がある。そのために、動物からヒトに至る、様々な研究知見を整理して、それらを包摂する動作原理を明らかにするシステム脳科学の技法を学んでもらいたい。											

授業科目名	システム脳科学演習				担当教員	小村 豊					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 5	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 28223 SJ30						
我々の日常生活のすみずみに、多彩な認知機能が及んでいることに、着眼する。記憶・予測から意思・意識にいたるまで、認知活動の実体を、神経科学と、計算論・進化論・病態論と組み合わせて、理解する。脳の働きを理解するためには、ニューロン・神経回路・脳領域というマルチスケールの生理特性を、知る必要がある。そのために、動物からヒトに至る、様々な研究知見を整理して、それらを包摂する動作原理を明らかにするシステム脳科学の技法を学んでもらいたい。											

授業科目名	脳と心の生物学 A				担当教員	小村 豊					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 4	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM21 28393 SJ30						

心のはたらきを理解する上で有用な生物学的アプローチ・計算論的アプローチの習得を目指します。授業は、最新の論文や新しいトピックに関する論文紹介・解説と参加者による研究報告を交えたゼミナール形式で行います。知覚・意識から意思決定にいたるまで、認知活動の本質的側面を、ニューロサイエンスの視座にたって捉えます。

授業科目名	脳と心の生物学 B				担当教員	小村 豊					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 4	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的				No.U-HUM21 28394 SJ30							
心のはたらきを理解する上で有用な生物学的アプローチ・計算論的アプローチの習得を目指します。授業は、最新の論文や新しいトピックに関する論文紹介・解説と参加者による研究報告を交えたゼミナール形式で行います。知覚・意識から意思決定にいたるまで、認知活動の本質的な側面を、ニューロサイエンスの視座にたって捉えます。											

授業科目名	視覚認識論ゼミ A				担当教員	齋木 潤					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 4	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 38397 SJ46.U-HUM21 38397 SJ63						
視覚による認識の過程の科学的な研究に必要な研究テーマの設定、実験のデザイン、データの分析、結果の解釈などの過程を、分野の最先端の研究を進めている大学院生やポスドクの研究に関するディスカッションに参加することにより学ぶことを目指す。											
現在進行中の研究の進捗報告とそれに関するディスカッションを通して、講義では得られない、実際に研究を行う上で必須となるスキルに対する理解を深め、自身の研究の高度化を図ることが期待できる。											

授業科目名				視覚認識論ゼミ B				担当教員		齋木 潤													
配当学年		3,4 回生		単位数		2		開講期		後期		曜時限		月 4		授業形態		ゼミナール		使用言語		日本語	
授業の概要・目的								No.U-HUM21 38398 SJ46.U-HUM21 38398 SJ63															
視覚による認識の過程の科学的な研究に必要な研究テーマの設定、実験のデザイン、データの分析、結果の解釈などの過程を、分野の最先端の研究を進めている大学院生やポスドクの研究に関するディスカッションに参加することにより学ぶことを目指す。																							
現在進行中の研究の進捗報告とそれに関するディスカッションを通して、講義では得られない、実際に研究を行う上で必須となるスキルに対する理解を深め、自身の研究の高度化を図ることが期待できる。																							

授業科目名	視覚科学実験				担当教員	齋木 潤・山本 洋紀					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 4	授業形態	実験	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM21 38365 EJ46.U・HUM21 38365 EJ63						
視覚科学研究に必須となる行動実験の発展的な手法を学ぶことを目的とする。認知・行動科学実験Ⅰ（認知科学実験）で学んだ基本的な実験手法をさらに発展させることにより、卒業研究に必要なレベルの研究手法を獲得することを目指す。データ解析のより発展的な手法についても実習を行う。卒業論文研究に必要な研究スキルを獲得することが期待される。											

授業科目名	認知心理学Ⅰ（知覚・認知心理学）				担当教員	齋木 潤					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18231 LJ46						
認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定などを含む広い分野であるが、本講義は、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、視覚認識における記憶、注意の役割に焦点を当てて解説する。											

授業科目名	認知心理学Ⅱ（知覚・認知心理学）				担当教員	齋木 潤					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18232 LJ46						
認知心理学は知覚、記憶、思考、意思決定、運動制御などを含む広い分野であるが、本講義では、視覚による認識過程を主たる題材として、認知心理学の基本的な考え方、研究の方法論などを理解することを目指す。視覚認識に関する基礎的な知識を土台として、探索行動を題材に取り上げ、知覚、意思決定、眼球運動の機能に焦点を当てて解説する。											

授業科目名	記憶神経科学ゼミ A				担当教員	月浦 崇					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 3	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 38298 SJ30.U-HUM21 38298 SJ46.U-HUM21 38298 SJ63						
ヒト記憶に重要な脳領域である側頭葉内側面（海馬・海馬傍回）や前頭前野などの働きを中心に、ヒト記憶やその周辺の心理過程（情動や社会的認知，加齢など）に関連する最新の脳機能イメージング（fMRI 等）研究を紹介・解説することによって、ヒト記憶を担う脳メカニズムを理解することをめざす。											

授業科目名	記憶神経科学ゼミ B					担当教員	月浦 崇				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 3	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 38299 SJ30.U-HUM21 38299 SJ46.U-HUM21 38299 SJ63						
ヒト記憶に重要な脳領域である側頭葉内側面（海馬・海馬傍回）や前頭前野，およびその周辺の心理過程（情動や社会的認知，加齢など）に関連する扁桃体や大脳基底核などの機能に着目し，最新の脳機能イメージング（fMRI 等）研究や脳損傷患者に対する神経心理学的研究を紹介・解説することによって，ヒト記憶を担う脳メカニズムを理解することをめざす。											

授業科目名	神経心理学Ⅰ（神経・生理心理学）				担当教員	月浦 崇					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18233 LJ46						
脳の様々な疾患によってヒトの脳が損傷されると、その損傷した領域の違いによって、言語や行為、記憶などの様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。本講義では、これらの高次脳機能障害を理解することによって、脳を媒介とした心理メカニズムを理解することを目指す。											

授業科目名	神経心理学Ⅱ（神経・生理心理学）				担当教員	月浦 崇					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18234 LJ46						
ヒトの高次な認知機能は脳を媒体として制御されている。近年、機能的磁気共鳴画像法（fMRI）などの脳機能イメージング法の発展により、ヒトの高次な認知過程に関連する脳の神経活動のパターンを可視化することが可能になってきている。本講義では、高次脳機能障害を呈する脳損傷患者の事例と、健康者を対象とした高次脳機能に関連する脳機能イメージング研究を対比して解説し、その基盤となる脳内機構を理解することを目指す。											

授業科目名	脳情報学				担当教員	神谷 之康					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 28219 LJ30						
脳や心のはたらきを理解する上で有用な数理的アプローチを概説する。脳の情報表現や情報処理を理解する上で重要な基礎的な数理概念や情報科学の手法を解説し、脳を数理的にモデル化する多様なアプローチを紹介する。											

授業科目名	脳情報学演習					担当教員	神谷 之康				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 28361 SJ30						
脳や心のはたらきを理解する上で有用な数理的アプローチを概説する。脳の情報表現や情報処理を理解する上で重要な基礎的な数理概念や情報科学の手法を解説し、脳を数理的にモデル化する多様なアプローチを紹介する。											

授業科目名	脳情報学ゼミ A					担当教員	神谷 之康				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 38390 SJ30						
情報科学の手法を用いた脳研究法を実践的に習得するため、最新の論文や新しいトピックに関する論文紹介・解説と参加者による研究報告を交えたゼミナールを行う。											

授業科目名	脳情報学ゼミ B					担当教員	神谷 之康				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 38391 SJ30						
情報科学の手法を用いた脳研究法を実践的に習得するため、最新の論文や新しいトピックに関する論文紹介・解説と参加者による研究報告を交えたゼミナールを行う。											

授業科目名	細胞生理学					担当教員	石原 昭彦				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 27715 LJ63						
細胞の基本的な構造や働きを解剖学的・生理学的な観点から説明する。細胞がどのように情報を受取り、どのように伝達するのかを理解する。神経細胞と筋細胞を代謝的、機能的な特性が異なるユニットに分類して、それぞれのユニットの特徴を解説する。											

授業科目名	細胞生理学実験					担当教員	石原 昭彦				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 3,火 4	授業形態	実験	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 38264 EJ63						
細胞の適応能力（可塑性）についての生理学的な実験について、おもに実験動物を用いて行う。環境の変化に伴う筋細胞と神経細胞の適応に焦点を絞って実験を行う。											

授業科目名	細胞生理学ゼミ A				担当教員	石原 昭彦					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 1	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 17679 SJ63						
体を構成する細胞・組織・器官の基本的な構造や働きについて学習することを目的とする。そのために、関係する先行論文を講読したり、組織標本を使用して細胞の具体的な仕組みや働きを理解する。特に、血液細胞、筋細胞、神経細胞の機能と構造について考察することにより、それらの細胞や組織が健康・体力の維持や増進、病気の発症や予防にどのような関わりを持っているのかを考える。											

授業科目名	細胞生理学ゼミ B				担当教員	石原 昭彦					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 1	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 17680 SJ63						
体を構成する細胞の基本的な構造や働きについて学習することを目的とする。そのために、関係する先行論文を講読したり、組織標本を使用して細胞の具体的な仕組みを理解する。特に微小重力や低重力の宇宙環境や高気圧・高濃度酸素の環境に対する細胞の可塑性について考察することにより、細胞の相互作用、特異性や適応能力を考える。											

授業科目名		生活習慣と生体機能障害（人体の構造と機能及び疾病）				担当教員		林 達也			
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18228 LJ26						
林が担当する「健康科学Ⅰ」の講義内容を、最新の知見の紹介や文献の抄読を織り交ぜ、医学的考察やディスカッションを加えながらより深く学習することを目的とする。「健康科学Ⅰ」とともに本講義を履修することで、生活習慣病に関する基本的な教養知識のより明確な理解が可能である。											

授業科目名		生活習慣と生体機能障害（人体の構造と機能及び疾病）				担当教員		林 達也			
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18228 LJ26						
林が担当する「健康科学Ⅰ」の講義内容を、最新の知見の紹介や文献の抄読を織り交ぜ、医学的考察やディスカッションを加えながらより深く学習することを目的とする。「健康科学Ⅰ」とともに本講義を履修することで、生活習慣病に関する基本的な教養知識のより明確な理解が可能である。											

授業科目名	応用運動医科学ゼミ				担当教員	林 達也					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 2	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18278 SJ26						
日常的な運動習慣はさまざまな「健康増進効果」を有することが知られている。運動には、呼吸循環機能や筋力・筋持久力、柔軟性など体力的指標の向上のみならず、肥満症、高血圧症、糖尿病、脂質異常症、動脈硬化症、骨粗鬆症といった「生活習慣病」の予防・症状改善効果が期待できる。本授業では、「健康増進」を目的とした運動の標準的な方法を中心に、運動にはどのようなリスクがあり、それに対してどのように対処すべきかを含めた学習を行う。本授業でとりあげるテーマは、運動不足になりがちな現代社会において、健康を損なわず快活に運動するための教養知識としても重要である。											

授業科目名	分子運動医科学ゼミ					担当教員	林 達也				
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18279 SJ26						
日常の習慣的運動がもたらす健康増進効果がどのようなメカニズムに由来しているのか、最近の内外の研究成果の紹介を含めて分子医学的観点から概説する。近年、日常の身体活動やスポーツを分子の視点から解析する試みが急速に進歩を遂げている。本ゼミへの参加によって「運動」という人間の基本的な活動をミクロの目で観察する教養的知識を得ることが可能である。											

授業科目名	精神保健福祉概論（関係行政論）				担当教員	船曳 康子					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18229 LJ26.U-HUM21 18229 LJ88.U-HUM21 18229 LJ46						
近年、様々な社会場面において、うつ病、不登校、発達障害、ひきこもりなどこころの問題が次々に社会問題として取り上げられ、メンタルヘルスの重要性が指摘されているが、社会問題ばかりでなく、身近な問題となっているのではないだろうか？ 近年の情報化社会、AI の普及に伴い、社会は急速に変化してきているが、その変化に人のこころはついていっているであろうか？ このこころの健康の問題は、さらには、虐待、いじめ、ハラスメント、自殺などの問題とも関連し、取り組むべき喫緊の課題となっている。 それらの課題を解決していくには、専門家に限らず、より多くの人や立場からの理解が欠かせず、その上で、時々刻々と変化する社会的なニーズに見合った制度設計が必要となる。 本授業においては、どのような進路に進む方にでも必要なこころの健康を維持するための基本知識と、時々刻々と更新されていく社会的取り組みや制度について背景から解説する。これらを通して、自身や周囲のメンタルヘルスの維持に加え、学校や職場や家族という単位でも役立つ知識の提供と、当該分野における意識を深めることを目的とする。											

授業科目名	精神保健福祉概論（関係行政論）				担当教員	船曳 康子					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18229 LJ26.U-HUM21 18229 LJ88.U-HUM21 18229 LJ46						
近年、様々な社会場面において、うつ病、不登校、発達障害、ひきこもりなどこころの問題が次々に社会問題として取り上げられ、メンタルヘルスの重要性が指摘されているが、社会問題ばかりでなく、身近な問題となっているのではないだろうか？ 近年の情報化社会、AI の普及に伴い、社会は急速に変化してきているが、その変化に人のこころはついていっているであろうか？ このこころの健康の問題は、さらには、虐待、いじめ、ハラスメント、自殺などの問題とも関連し、取り組むべき喫緊の課題となっている。 それらの課題を解決していくには、専門家に限らず、より多くの人や立場からの理解が欠かせず、その上で、時々刻々と変化する社会的なニーズに見合った制度設計が必要となる。 本授業においては、どのような進路に進む方にも必要なこころの健康を維持するための基本知識と、時々刻々と更新されていく社会的取り組みや制度について背景から解説する。これらを通して、自身や周囲のメンタルヘルスの維持に加え、学校や職場や家族という単位でも役立つ知識の提供と、当該分野における意識を深めることを目的とする。											

授業科目名	心の発達と問題行動の理解（司法・犯罪心理学）					担当教員	船曳 康子				
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18396 SJ46.U-HUM21 18396 SJ27.U-HUM21 18396 SJ88						
どうしてあの人はあのようなことをするのだろう、と考えることはないだろうか。 人の行動の背景を発達の視点、種々の環境との関係から考えていくことで、不思議な行動に対する理解が深まってくる。 身近な人の行動ばかりでなく、日々、様々な事件が報道される。 非行や犯罪においては、起こった行動（結果）に注目されがちだが、その行動の背景を理解していくことにより、今後の同様の行動を防ぐきっかけが得られるかもしれない。時には、いくら考えても、なかなか理解ができない行動もある。 本授業では、基本的な知識を提供した上で、理解に苦しむ行動に対する疑問を持ちより、ゼミ形式でグループディスカッションを行い、さらに教員から、精神医学、行動学、認知発達の各種学問的見解と根拠を解説し、理解を深めていくことを目的とする。 これらを通して、人の行動を理解しながら、トラブルや問題を未然に防ぐ方法を考え、身に付けていくという重要な意義も含まれる。											

授業科目名	運動制御ゼミ A					担当教員	神崎 素樹				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 4	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 38286 SJ63.U-HUM21 38286 SJ26						
運動制御、運動生理学、神経生理学、バイオメカニクスに関する実験を行い、実験の目的の立て方、適切な実験方法、解析、結果の出力、考察の仕方を学ぶ。											

授業科目名	運動制御ゼミ B					担当教員	神崎 素樹				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 4	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM21 38287 SJ63.U-HUM21 38287 SJ26						
運動制御、運動生理学、神経生理学、バイオメカニクスに関する実験を行い、実験の目的の立て方、適切な実験方法、解析、結果の出力、考察の仕方を学ぶ。											
運動制御ゼミ B では A よりも運動課題を複雑かつ測定項目が多くなる。											

授業科目名	運動の生理学					担当教員	神崎 素樹				
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18209 LJ63.U-HUM21 18209 LJ26						
本講義では、身体動作の生理学について学習する。 （１）筋収縮の生理学 （２）神経・筋の情報伝達・自律神経系の働き （３）エネルギー供給機構 （４）糖代謝・乳酸の代謝 （５）加圧トレーニングとスロートレーニング これら講義から、我々の運動（あるいは動作）がどのような制御則に基づいているのか？それはどのような生理学的機序なのか？そしてその複雑な制御則がどのような意味があるか？について学習する。											

授業科目名	運動の生理学					担当教員	神崎 素樹				
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18209 LJ63.U-HUM21 18209 LJ26						
本講義では、身体動作の生理学について学習する。 （１）筋収縮の生理学 （２）神経・筋の情報伝達・自律神経系の働き （３）エネルギー供給機構 （４）糖代謝・乳酸の代謝 （５）加圧トレーニングとスロートレーニング これら講義から、我々の運動（あるいは動作）がどのような制御則に基づいているのか？それはどのような生理学的機序なのか？そしてその複雑な制御則がどのような意味があるか？について学習する。											

授業科目名	運動のしくみ				担当教員	久代 恵介					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM21 18217 LJ26						
身体動きがつくられ、上手くなるしくみを学ぶ。											
運動の指令は大脳皮質の運動野から出力され、脊髄を經由して筋を収縮させる。運動の結果は感覚器によりフィードバックされ、中枢において評価と修正がなされる。これによりヒトは身体を上手く制御し、目的の行為を達成させている。本講義ではこれらの一連のしくみについて、神経科学、運動科学、スポーツ心理学の観点より解説する。											

授業科目名	運動のしくみ				担当教員	久代 恵介					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18217 LJ26						
身体動きがつくられ、上手くなるしくみを学ぶ。											
運動の指令は大脳皮質の運動野から出力され、脊髄を經由して筋を収縮させる。運動の結果は感覚器によりフィードバック											
され、中枢において評価と修正がなされる。これによりヒトは身体を上手く制御し、目的の行為を達成させている。本講義											
ではこれらの一連のしくみについて、神経科学、運動科学、スポーツ心理学の観点より解説する。											

授業科目名	スポーツ心理学				担当教員	久代 恵介					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18230 LJ26.U-HUM21 18230 LJ46						
運動における心と身体のつながりを学ぶ。											
身体運動をより良くおこなうためには、ソフトウェアとしての心と、ハードウェアとしての身体が調和してはたらく必要がある。本講義では、日常の身体運動やスポーツ場面における動作について、ソフトとハードの両側面から解説を行う。本講義を通して、身体運動が生成・遂行されるしくみや、運動学習が促進されることにより運動パフォーマンスが向上するしくみについて学ぶ。											

授業科目名	認知・行動科学実験 I（認知科学実験）					担当教員	齋木 潤・小村 豊・月浦 崇・山本 洋紀				
配当学年	3,4 回生	単位数	1	開講期	前期	曜時限	水 4	授業形態	実験	使用言語	日本語及び英語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 38367 EJ30.U-HUM21 38367 EJ46.U-HUM21 38367 EJ63						
認知科学に共通に関係する基礎的な実験手法（プログラミング、統計）や、それぞれの研究室に特異的に関係する実験手法を、少人数の実験実習を通して学ぶ。この授業を通して、各研究室で実施している卒業論文の研究をスムーズに開始できるための実験手法の習得をめざす。											

授業科目名	認知・行動科学実験 II (行動生理学実験)				担当教員	石原 昭彦・神崎 素樹・久代 恵介					
配当学年	3,4 回生	単位数	1	開講期	前期	曜時限	火 5	授業形態	実験	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 38368 EJ63.U-HUM21 38368 EJ26						
運動生理学・運動制御学・バイオメカニクス学・行動制御学に関する研究に関して、研究計画（目的・仮説・実験方法・解析手法・期待される結果）を立案し、実行（実験および解析）を行う。そして、実験結果に対して考察を行うことで、人間を用いた生理学実験・運動制御学実験・バイオメカニクス実験・行動制御学実験について深く理解することを目的とする。											

授業科目名	認知・行動科学実験 III (健康科学実習)				担当教員	林 達也・船曳 康子・江川 達郎					
配当学年	3,4 回生	単位数	1	開講期	前期	曜時限	月 4	授業形態	実習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 38369 PJ26.U-HUM21 38369 PJ88						
本授業においては、認知・行動科学の特に身体機能論分野における研究の基本的な手法を身に着けることを目的とする。											
1, 2 回生時にこころと体の機能・健康維持増進に関する講義やゼミで学んだ知識を土台とし、3 回生からの本授業において、卒業研究に必要な研究手法を含む専門的な実験や実習授業を行う。											

授業科目名	基礎演習：視覚科学				担当教員	齋木 潤					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18382 SJ63						
講義形式の授業では伝えることの困難な「視覚科学」の研究の実際の現場に触れ、視覚による認識過程を科学的に研究する方法に関する知識を体験的に得ることを目指す。具体的には担当教員の研究室で行っている研究手法（行動実験、fMRI 実験、脳波測定実験、眼球運動測定実験など）を取り上げ、実験現場への参与観察（実験協力者としての参加を含む）と、実験手法に関するチュートリアルとディスカッションを通して研究の実際を理解する。前期の基礎ゼミナール A では、各研究手法による基本的な実験などを取り上げる。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第 1 回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：神経心理学					担当教員	月浦 崇				
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18383 SJ30.U-HUM21 18383 SJ46.U-HUM21 18383 SJ63						
脳の様々な疾患によってヒトの脳が損傷されると、様々なタイプの高次脳機能障害が起こる。伝統的な神経心理学では、このような脳損傷患者が示す高次脳機能障害の積み重ねから、脳からどこがどのように生じてくるのかの理論を構築してきた。そして、このような伝統的な神経心理学の理論は、近年の脳機能計測による認知神経科学の考え方にも大きな影響を与えている。基礎演習：神経心理学では、神経心理学がどのように脳とところの関係性を理解しようとしているのか、そしてそれが人間そのものの理解にどのようにつながっているのかを考えることをめざす。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：心の発達ゼミ				担当教員	船曳 康子					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM21 18384 SJ46.U-HUM21 18384 SJ27.U-HUM21 18384 SJ88						
人のこころの成り立ちやその働きのメカニズムは、解明の難しい、答えがどこにあるのか不明な問題であるために、高校までの勉強とは異なった角度からの学問となるであろう。その分、奥の深い分野でもあり、心理学、医学、社会学、生物学、さらには制度や法律、経済にも関係しうる、様々な専門分野が融合するテーマでもある。 本授業では、多角的な専門的観点から見据えて、現時点でわかっている「こころ」について学ぶとともに、日常生活におけるこころの動きに照らし合わせながら、その働きについて洞察を深め、日々の活動に活かせるような土台を作る。 発達の観点で見ると、人のこころは、生まれながらの性格、環境、様々な要因の影響を受けながら、人格として形成され、生涯発達していくと考えられている。この過程を、乳幼児期、児童期、思春期、成人期、老年期などライフステージごとに考察し、個人の特徴も合わせて、精神面の発達過程、さらには精神的不調やその回復過程についても学ぶ。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：身体運動の制御と学習				担当教員	久代 恵介					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM21 18385 SJ26						
本セミナーでは、身体運動の制御と学習に関する初学者向け教科書を読み進めながら、身体運動が発現され、洗練されていくしくみと理論を学びます。身体運動が脳で作られるしくみ、作られた運動が骨格筋から出力されるしくみ、さらに、おこなわれた運動が評価・修正され運動学習が促進されるしくみと理論について、運動科学・スポーツ科学・神経科学分野の知見をもとに学んでいきます。本講義を通じて、普段われわれが経験的におこなっている日常の運動やスポーツの動作を、学術的な視点から捉え直します。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	数理現象論 A				担当教員	清水 扇丈					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 28204 LJ55						
線形放物型方程式に対する最大 L_p 正則性は、非線形、特に非線形項に線形項の最高階の微分が含まれる準線形の放物型方程式に対して、その時間局所適切性を証明するための協力的手段の一つである。本講義では、この 20 年間にその解明が進展してきた、Banach 空間値の放物型方程式に対する最大 L_p 正則性を、H-無限演算法に基づき論ずることを目的とする。											

授業科目名	数理現象論 B					担当教員	上木 直昌				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 28205 LJ55						
様々な分野でランダムな現象を記述する為に使われている確率微分方程式を数学的に厳密に扱う方法について述べる。											

授業科目名	数理科学ゼミナール				担当教員	木坂 正史					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 4	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM22 25973 SJ55						
数学の学び方の中で最も標準的なものは輪講である。輪講とは本や論文を1つ決め、その内容を参加者で順番に発表し合うことによって学んでいく方法である。数理科学ゼミナールでは1つの本を実際に輪講形式で学ぶことで、早い時期に輪講形式を体験し、これに慣れることを目的とする。											

授業科目名	数理学特論 II					担当教員	宮部 賢志				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時限	その他	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 25914 LJ55						
本講義では計算概念を通じてランダム性を数学的に取り扱うアルゴリズム的ランダムネスの理論の基礎事項を解説する。ランダム性は、乱択アルゴリズムで重要な振る舞いをするほか、力学系の複雑さを表したり、確率モデルや学習理論における予測不可能性を表現したりするなど、自然科学における基本的な概念である。本講義では計算可能性とランダム性の関係に焦点を当てる。											

授業科目名				実解析A		担当教員		足立 匡義					
配当学年		2・4 回生		単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的						No.U-HUM22 25909 LJ55							
本講義では、現代の解析学の基礎をなすルベーグ積分の理論について学ぶ。微分積分学において既にリーマン積分を学び、項別積分定理や項別微分定理などを通じて積分と極限との順序交換の可能性を見てきているが、条件として課されることの多い関数列の一致収束性は、実際に応用する場面では確かめやすいものになっているとは限らない。実は、リーマン積分の拡張であるルベーグ積分を導入することにより、順序交換可能性の判定条件はより簡便になる。これはルベーグ積分の利点の一つである。このように実用面でも利点の多いルベーグ積分の理論を概観するのが主な目的である。													

授業科目名	実解析B				担当教員	足立 匡義					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 25910 LJ55						
本講義では、現代の解析学において重要な役割を果たしているフーリエ解析学を題材に取り上げ、中でもフーリエ変換に焦点を当てる。フーリエ変換の特徴の一つとして、定数係数微分作用素を、多項式を掛ける掛け算作用素に変換する機能を持つことが挙げられる。この機能は、基本解の構成、解の滑らかさの評価など、微分方程式の研究における様々な場面で用いられており、その有用性ゆえにフーリエ変換は微分方程式の研究において欠くことのできない強力な道具となっている。フーリエ変換の特徴を、ソボレフ空間という関数空間を通じて、関数解析学の立場から概観するのが主な目的である。											

授業科目名	機械学習の基礎				担当教員	櫻川 貴司					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 28224 LJ10						
機械学習の基本的な考え方とアルゴリズムについて、いくつかの手法に関し解説する。計算機の処理容量と速度の向上に加え、グローバルなネットワークの整備と各種センシング技術の発展により、マルチメディアデータを含め、ますます大量のデータが取得可能になりつつある。また様々な統計的な機械学習の手法が開発されたことで、そういったデータを用いて或る意味知的な情報処理を行える範囲が広がりつつある。結果として今後社会的にも重要な影響を与えられと考えられる機械学習について原理的な基礎の部分を理解する。											

授業科目名	人工知能					担当教員	DE BRECHT, Matthew				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 28225 LJ12						
近年、人工知能の能力が飛躍的に進歩しており、一般社会への実用的な応用が増加している。また、様々な研究分野では膨大な実験データを解析する手法として人工知能の有効性が注目されている。この授業では、人工知能を実現するために用いられる様々な手法を解説し、最近の応用例と成果を紹介する。											

授業科目名	計算と位相				担当教員	立木 秀樹						
配当学年	2・4 回生		単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 28128 LJ10							
立方体と同じように直交する 3 方向から見て正方形に見える立体をイマジナリーキューブという。この講義では、イマジナリーキューブ、および、イマジナリーキューブをもとに作られたオブジェやパズルを入り口にして、2～4 次元図形のもつ組合せ的な構造，群論を用いた数え上げ，フラクタルとその基礎となる位相的概念などについて学ぶ。その上で，それらを計算機上で実現し，可視化するコンピュータグラフィックスの基礎について学ぶ。												
組合せ的な構造と極限操作は，連続な対象を計算機で扱う上で重要な道具である。また，立体に対する理解は，コンピュータグラフィックスにおいて欠かせない。この授業では，イマジナリーキューブという立体概念を通じて，これらのことを学ぶ。												

授業科目名	情報処理の方法と演習 B				担当教員	櫻川 貴司					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 1	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 28251 SJ11						
<2 年に一回の開講>											
計算機及びネットワークのハードウェア構成と基本ソフトウェアの運用方法を実際に運用を行うことにより学ぶ。あるいは IoT(Internet of Things)的なシステムの作成演習を行う。また、計算機の理論的演習も必要に応じて行う。											

授業科目名					数理科学論講究		担当教員		足立 匡義														
配当学年		4 回生		単位数		8		開講期		通年集中		曜時限		その他		授業形態		演習		使用言語		日本語	
授業の概要・目的								No.U-HUM22 48269 SJ55.U-HUM22 48269 SJ11															
数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ.																							

授業科目名	数理科学論講究					担当教員	上木 直昌				
配当学年	4 回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 48269 SJ55.U-HUM22 48269 SJ11						
数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ.											

授業科目名					数理科学論講究			担当教員		木坂 正史													
配当学年		4 回生		単位数		8		開講期		通年集中		曜時限		その他		授業形態		演習		使用言語		日本語	
授業の概要・目的								No.U-HUM22 48269 SJ55.U-HUM22 48269 SJ11															
数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。																							

授業科目名					数理科学論講究		担当教員		櫻川 貴司														
配当学年		4 回生		単位数		8		開講期		通年集中		曜時限		その他		授業形態		演習		使用言語		日本語	
授業の概要・目的								No.U-HUM22 48269 SJ55.U-HUM22 48269 SJ11															
数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ.																							

授業科目名					数理科学論講究			担当教員		立木 秀樹													
配当学年		4 回生		単位数		8		開講期		通年集中		曜時限		その他		授業形態		演習		使用言語		日本語	
授業の概要・目的								No.U-HUM22 48269 SJ55.U-HUM22 48269 SJ11															
数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。																							

授業科目名					数理科学論講究		担当教員		日置 尋久					
配当学年		4 回生		単位数	8	開講期	通年集中		曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的						No.U-HUM22 48269 SJ55.U-HUM22 48269 SJ11								
数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ.														

授業科目名					数理科学論講究			担当教員		清水 扇丈													
配当学年		4 回生		単位数		8		開講期		通年集中		曜時限		その他		授業形態		演習		使用言語		日本語	
授業の概要・目的								No.U-HUM22 48269 SJ55.U-HUM22 48269 SJ11															
数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ。																							

授業科目名	数理科学論講究					担当教員	角 大輝				
配当学年	4 回生	単位数	8	開講期	通年集中	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 48269 SJ55.U-HUM22 48269 SJ11						
数理情報論関係の卒業研究を行うために必要な知識・技法を講読や演習によって学ぶ.											

授業科目名	プログラミング演習 (Lisp)					担当教員	櫻川 貴司				
配当学年	1-4 回生	単位数	4	開講期	前期	曜時限	水 4.水 5	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 18357 SJ11						
プログラミング言語 LISP によってプログラミングと記号処理の基礎的な演習を行う。LISP は記号的な人工知能などの研究にも使われている言語だが、人間の認知モデルの構築や法律の知識を計算機に詰め込む際など文科的な領域においても用いられている。また、実は初心者がプログラミングを原理的・本質的に理解するには適した言語でもある。											

授業科目名	プログラミング演習 (Haskell)				担当教員	新井 潤					
配当学年	1-4 回生	単位数	4	開講期	後期	曜時限	金 1.金 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 18360 SJ11						
Haskell を使用して関数型言語によるプログラミング手法を学ぶ。Haskell は、純粋関数型言語と呼ばれている。一般的なプログラミング言語では副作用と呼ばれる仕組みがないことを意味している。つまり、同じ入力(引き数)に対しては常に同じ出力(関数値)が得られる。それは数学でいうところの関数と同じである。 一方、計算機は手続き的な動作を得意とする。そのため多くのプログラミング言語では手続き的な記述をするが、Haskell では、より宣言的な記述が可能であり、人間の思考に近い形でプログラム可能である。但し、Haskell は手続き的な記述をする能力も持っているため、より広範な応用が可能である。 他にも強力な型付けが可能であったり、並列処理など容易に記述できるなど様々な特徴を持っている。											

授業科目名	情報数学 I				担当教員	山田 修司					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 18212 LJ10						
情報科学として必要な数学の一分野である、グラフ理論について講義を行う。 グラフは、物と物との関係、繋がりなどを表す図形であり、例えば路線図や人間関係図など、実社会で広く用いられているものである。 授業の目的は次の通りである。 グラフの数学的定義や定理を理解できる。 グラフの実践的な応用とそのアルゴリズムについて習得する。											

授業科目名	情報数学 II				担当教員	山田 修司					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 18213 LJ10						
情報科学で有用な初等整数論および数え上げ論について、いくつかの具体例とトピックとを交えながら講義を行う。 この授業の目的は次の通りである。 初等整数論の剰余類について理解し、その計算および応用が出来る。 数え上げの理論を用いて、離散的な事象の数え上げが出来る。											

授業科目名	基礎演習 : Intro to Computation and Logic				担当教員	DE BRECHT, Matthew					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	英語
授業の概要・目的					No.U-HUM22 18387 SE10						
Computers are a relatively recent invention, but they have drastically changed how modern humans live and think. However, few people really know what it means to "compute" something, or how we discovered the basic principles of computation. It turns out that the discovery of computation has its roots in the development of formal logic and a determination to find a rigorous foundations for mathematics about a century ago. In this course, we will introduce the students to formal logic and its relationship with computation. We will also introduce some of the main people involved with the various discoveries, and emphasize the historical background and motivations. The aim of the course is for students to not only gain a deeper understanding of computation, but also understand how it was discovered. ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名				言語構造論				担当教員		藤田 耕司					
配当学年		2-4 回生		単位数	2	開講期		前期		曜時限	金 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的						No.U-HUM23 28214 LJ37.U-HUM23 28214 LJ12									
現代理論言語学の主要アプローチの1つである生成文法について概説する。生成文法は人間固有の生物学的形質としての言語能力について、その設計・発達・進化の解明を目指す。これまでどのような研究が行われ、何が分かり、何が問題として残っているかについての理解を深める。さらに、近年の生物言語学・進化言語学の発展についても言及し、これらの基本について学ぶ。															

授業科目名	言語構造論演習					担当教員	藤田 耕司				
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM23 28353 SJ37.U-HUM23 28353 SJ12						
言語は音と意味を階層的統語構造を介して繋ぐシステムであり、この統語構造を構築する演算能力=シンタクスが人間固有の言語機構の中核の基盤をなしている。この統語演算能力をめぐる近年の生成文法・生物言語学研究の動向や新たな知見に触れ、理解を深めることがこの授業の目的である。											

授業科目名	言語機能論				担当教員	守田 貴弘					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM23 28215 LJ37						
この授業のテーマは「ことばはどこにあるのか」という問いについて考えることである。言語を対象とする学問は言語学だけではなく、哲学や文学、認知科学、脳神経科学、生物学といったさまざまな学問領域でも研究対象にもなる。つまり、言語をどのようなものとして捉えるのかという視座が学問領域によってあらかじめ決まっているという側面がある。一方、言語学の内部においても、言語の見方はさまざまであり、領域全体に共通の定説はない。この授業では、言語について理解したいと素朴に考えるとき、まずは「そもそも言語はどこにあるのか」と考えてみることで、自分の知ろうとしている言語の姿を浮き彫りにすることを目的とする。そして、何らかの意味で言語を専門とする受講生にとっては、言語の研究とはどのようなものかという自身の答えを導き出してもらいたい。											

授業科目名	言語機能論演習					担当教員	服部 文昭						
配当学年	2・4 回生		単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2		授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM23 28354 SJ37								
輪読形式の授業で、言語の機能につき理解を深める。													

授業科目名	言語認知論					担当教員	谷口 一美				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM23 28126 LJ37						
認知言語学の観点から、ことばの意味の拡張・変化といった動的側面について考察することにより、言語と認知との相互作用への理解を深める。											

授業科目名	言語認知論演習					担当教員	谷口 一美				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM23 28355 SJ37						
認知言語学は、認知的作用（知覚、注意、推論、記憶など）と言語との関わりを重要視し、文法や意味のメカニズムを明らかにしようとする理論である。どのようにしてこれらの認知的作用が言語現象に反映されているか、身近な例を示しながら、認知言語学の基礎を学んでいきたい。											

授業科目名		言語比較論				担当教員		西脇 麻衣子				
配当学年	2・4 回生		単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM23 28216 LJ37							
言語を比較することにより、言語の多様性と普遍性について考察する。												

授業科目名	言語比較論演習				担当教員	西脇 麻衣子					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM23 28356 SJ37						
中高ドイツ語を初めて学ぶ学生を対象に、ドイツ中世の代表的詩人である Hartmann von Aue の奇蹟譚 Der arme Heinrich (1190-97) を輪読形式で読む。											

授業科目名	言語科学ゼミナールⅠ				担当教員	壇辻 正剛					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM23 28371 SJ37						
(授業の概要・目的)											
この授業では言語科学に関するテーマに関連して、ゼミナール形式で理解を深めることを目的とする。今年度は特に、言語と文化や社会、教育などとの関わりにも目を向けて、ことばの諸側面に考察を加えることを目指す。											

授業科目名	言語科学ゼミナールⅡ				担当教員	守田 貴弘					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 2	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM23 28372 SJ37						
この授業では日本語および英語で書かれた、さまざまな言語に関する論文を批判的に読み、議論の方法、データの扱い、論証の方法といった理論言語学に必要な基本概念と手法を身につけることを目的とする。											

授業科目名	言語科学ゼミナール III					担当教員	河崎 靖				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 3	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM23 28373 SJ37.U-HUM23 28374 SJ37						
ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。史的言語学の諸分野（音論、形態論、統語論等の諸領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的考究を進める。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。											

授業科目名	言語科学ゼミナールⅣ					担当教員	服部 文昭				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 3	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM23 28374 SJ37 現代ロシア語の構造を研究する上での基本的な諸問題につき、理解を深めてゆく。						

授業科目名	英語学習指導論					担当教員	中森 誉之				
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM24 28237 LJ37.U-HUM24 28237 LJ47						
「英語学習のつまずき」 英語学習者が直面する諸課題・困難性について、言語習得理論（言語学・認知科学）の知見に基づいて概観します。教育学的可能性を探りつつ、基本的な知識とともに、幅広い視座と深い見識を身に付けることを目的とします。											

授業科目名	英語統合技能論				担当教員	中森 誉之					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 1	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM24 28370 LJ47.U-HUM24 28370 LJ37						
「新しい統合型の英語技能学習指導」 ことばとしての英語を学習していくための、効果的かつ効率的な指導について検討します。これまでの英語教育を概括し、 これからの英語教育を展望しつつ、基礎から発展まで、幅広い視座と深い見識を身につけることを目的とします。この授業 は重複履修可能です。来年度は、英語の言語技能（4 技能）の学習と指導について、個別的に掘り下げながら、詳しく考察 します。											

授業科目名	英語コミュニケーション論					担当教員	PETERSON, Mark				
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 3	授業形態	演習	使用言語	英語
授業の概要・目的					No.U-HUM24 28203 SE37.U-HUM24 28203 SE47.U-HUM24 28203 SE13						
This course is designed to provide an introduction to key concepts and research in the field of computer assisted language learning (CALL).											

授業科目名	言語教育政策論					担当教員	西山 教行				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM24 28221 LJ37.U・HUM24 28221 LJ42.U・HUM24 28221 LJ47						
外国語学習・教育を規定し、またそれに影響を及ぼす社会文化的文脈とは何か、そのような文脈において言語教育を決定する意思としての言語政策とは何か、などの課題を中心に討究し、異文化間性、言語政策、社会言語学などの視座を総合的に理解する。具体的には、ヨーロッパの言語教育政策を中心にして、言語政策研究の手法と課題を考究する。											

授業科目名	言語教育政策論演習				担当教員	西山 教行					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM24 28363 SJ37.U・HUM24 28363 SJ42.U・HUM24 28363 SJ47						
この授業では社会と言語の関連を理解するために、アントワヌ・メイエ『ヨーロッパの言語』（1918）をとりあげる。 本書は、フランスの印欧語比較研究・スラヴ語学者のアントワヌ・メイエ（1866-1936）が1928年に刊行したもので、フランスの社会言語学の古典となっている。社会言語学が学問として構築される遙か以前に、メイエは言語と社会の関係に着目し、ヨーロッパの言語状況をヨーロッパ社会の歴史的動向に照らし合わせて分析した。											

授業科目名	日本語教育論 I				担当教員	牲川 波都季					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM24 28235 LJ37.U-HUM24 28235 LJ47						
外国人を対象とした日本語教育について、社会・政策的背景とともに方法と理念について検討する。特に現在（2000 年代に入って以降）の外国人受け入れ政策と日本語教育について詳細に取り上げる。授業は、履修生によるキーワードについての紹介発表と議論、その前提・背景についての講義という形式で実施する。また、学期末には、各自でテーマを決めレポートの執筆と発表検討会を行う。受講生各人の問題関心と結びつけながら、日本語教育の未来を展望することをめざす。											

授業科目名	基礎演習：言語政策入門				担当教員	西山 教行					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM24 18227 SJ37.U-HUM24 18227 SJ47						
言語政策とは、社会と言語の関係を考察する分野である。国家などは言語そのもの（コーパス）に介入することもあれば、言語の地位（ステータス）に介入し、ある言語を公用語と定めることもあれば、定めないこともある。このような観点から、言語政策がどのような制度や考え方のもとに実施されているのかを理解する。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

【国際文明学系】

*各授業科目の「到達目標」、「授業計画と内容」、「履修要件」、「成績評価の方法・観点及び達成度」、「教科書」、「参考書等」、「授業外学習（予習・復習）等」、「その他（オフィスアワー等）」の詳しい内容については、KULASIS からシラバスを閲覧してください。No.は科目ナンバリングです。

授業科目名		国際文明学入門A				担当教員		江田 憲治・細見 和之・那須 耕介・土屋 由香・齋藤 嘉臣・小畑 史子・鶴飼 大介			
配当学年	1,2 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM30 10033 LJ36.U-HUM30 10033 LJ43.U-HUM30 10033 LJ41						
7名のリレー講義のかたちで、「国際文明学」に関する入門を行う。 テーマは、思想、文学、経済、法学、社会学等、多岐にわたっている。											

授業科目名	国際文明学入門B				担当教員	須田 千里・吉江 崇・池田 寛子					
配当学年	1,2 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM30 10032 LJ38.U-HUM30 10032 LJ36.U-HUM30 10032 LJ34						
本講義は歴史文化社会論講座の3人の教員によるリレー講義である。国際文明学というテーマの下に、それぞれの教員が自らの専門領域の中からこのテーマにそった題目を選んで講義する。											

授業科目名	文明構造論 IA				担当教員	江田 憲治					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 24410 LJ38.U-HUM31 24410 LJ42						
本講義では、東アジア近現代を対象領域とし、近代当初にあって東アジア世界がいかなる構造的変革を見たかを確認した上で、東アジアとくに中国がどのように西洋文明を受容し、またこれを変容させたか、それが現代の社会状況といかなる連続性を持つのか、について考察する。											
東アジア、とくに中国の歴史過程について史料と研究にもとづいた批判的理解を可能にすることが目的である。											
なお、講義形式の授業のほか、適宜、受講者が従来の研究論文を要約して受講者が報告する発表形式の授業をも行う。											

授業科目名	文明構造論 IB				担当教員	江田 憲治					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 24411 LJ38.U-HUM31 24411 LJ42						
本講義では、東アジア近現代を対象領域とし、近代当初にあって東アジア世界がいかなる構造的変革を見たかを確認した上で、東アジアとくに中国がどのように西洋文明を受容し、またこれを変容させたか、それが現代の社会状況といかなる連続性を持つのか、について考察する。											
東アジア、とくに中国の歴史過程について史料と研究にもとづいた批判的理解を可能にすることが目的である。											
なお、講義形式の授業のほか、適宜、受講者が従来の研究論文を要約して受講者が報告する発表形式の授業をも行う。											

授業科目名		文明構造論 IIA				担当教員		江田 憲治・関根 真保・藪田 有紀子・中村 朋美・巫 リャン			
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 24103 LJ42.U-HUM31 24103 LJ38.U-HUM31 24103 LJ45						
「文明構造論」とは、現代の「国際文明」を構造的に考察し、文明諸領域のさまざまな問題点を考察する学問領域である。この「文明構造論」の趣旨から、本講義では、①〈アジア近代における国境と境界〉を共通テーマとし、②歴史学・社会学などを分析手段に用い、下記の個別テーマについて、リレー講義を行う。											

授業科目名	文明構造論 IIB					担当教員	大川 勇・鶴飼 大介・石澤 将人・西井 美幸・鈴木 啓峻				
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 24104 LJ38.U-HUM31 24104 LJ36.U-HUM31 24104 LJ42						
「文明構造論」とは、現代の「国際文明」を構造的に考察し、文明諸領域のさまざまな問題点を考察する学問領域である。この「文明構造論」の趣旨から、本講義は、①〈ヨーロッパ近代の「理念」〉を共通テーマとし、②文学・思想史・社会学などを分析手段に用い、下記の個別テーマについて、リレー講義を行う。											

授業科目名	文明構造論 IVA				担当教員	大川 勇					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 24406 LJ36.U-HUM31 24406 LJ34						
「恋愛」という言葉が明治期に翻訳語として生まれるまで、日本に「恋愛」は存在しなかった。翻訳語の元になった Liebe/amour/love を語るヨーロッパにおいても、12 世紀まで「恋愛」は存在しなかった。なぜなら「恋愛」とは、人間と人間が取り結ぶすぐれて超越的な精神の関係性だからである。12 世紀のヨーロッパに成立した「遙かな愛」という、性愛とは異なるものとしての精神的な愛の行方を、リルケの『マルテの手記』（1910）のうちに探る。											

授業科目名	文明構造論 IVB					担当教員	大川 勇				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 24407 LJ36.U-HUM31 24407 LJ34						
「恋愛」という言葉が明治期に翻訳語として生まれるまで、日本に「恋愛」は存在しなかった。翻訳語の元になった Liebe/amour/love を語るヨーロッパにおいても、12 世紀まで「恋愛」は存在しなかった。なぜなら「恋愛」とは、人間と人間が取り結ぶすぐれて超越的な精神の関係性だからである。12 世紀のヨーロッパに成立した「遙かな愛」（Fernliebe）という、性愛とは異なるものとしての精神的な愛の行方を、ムージルの『特性のない男』（1930/32）のうちに探る。											

授業科目名	文明構造論演習 IIIA				担当教員	細見 和之					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 34145 SJ34.U・HUM31 34145 SJ36						
ホロコーストに関する長篇ドキュメンタリー映画『ショア』の全篇を鑑賞するとともに、その映像の伝えるものを深く考察することを目的とする。											

授業科目名	文明構造論演習 III B				担当教員	細見 和之					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 34146 SJ34.U・HUM31 34146 SJ36						
ホロコースト研究の最先端にふれるとともに、ホロコーストを描いたさまざまな映画を鑑賞することで、ホロコーストを現在において表象する可能性について考察することを目的とする。											

授業科目名	現代社会論演習 IA					担当教員	広井 良典				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 34368 SJ45.U・HUM31 34368 SJ43						
「持続可能な福祉社会／定常型社会」という社会像を意識しつつ、ローカルからグローバルにおよぶ現代社会の諸課題について、理念・哲学と政策・社会システムの架橋、あるいは「人間についての探究」と「社会に関する構想」の総合化を重視しながら考究する。											

授業科目名	現代社会論演習 IB				担当教員	広井 良典					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 34369 SJ45.U-HUM31 34369 SJ43						
「持続可能な福祉社会／定常型社会」という社会像を意識しつつ、ローカルからグローバルにおよぶ現代社会の諸課題について、理念・哲学と政策・社会システムの架橋、あるいは「人間についての探究」と「社会に関する構想」の総合化を重視しながら考究する。											

授業科目名	多文化社会論 IA				担当教員	土屋 由香					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 24117 LJ31.U-HUM31 24117 LJ45.U-HUM31 24117 LJ42						
冷戦期の国際政治とアメリカの科学技術との関係について、①核兵器開発、②原子力平和利用、③発展途上国への医療援助、④宇宙開発、⑤軍官産学複合体の形成、などのトピックに焦点を当てて体系的に学ぶことを目的とする。アメリカの政治・外交・社会・文化について幅広い知識を得るための入門的コースであると同時に、科学技術と外交についての、やや高度な専門的知識の修得も目指す。											

授業科目名	多文化社会論 IIA				担当教員 藤岡 真樹						
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語及び英語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 24119 LB38.U-HUM31 24119 LB31						
本授業は、1950 年代から 1960 年代にかけてのアメリカ合衆国（以下、アメリカ）における大学・国家・社会間関係と、大学の変容について考察しようとするものです。 第二次世界大戦期、アメリカの大学は国家（連邦政府と軍部）との協調関係を築きますが、戦後には、冷戦の本格化にともない、大学・国家間関係、大学・社会（財団や企業）間関係はますます緊密化します。しかし、この大学・国家・社会間関係は、冷戦の進展とともに緊密性を増すだけでなく複雑な性格を有しています。たとえば、1950 年の朝鮮戦争の勃発を受けて、ハリー・トルーマン政権下の連邦政府は軍事費を増加させ、それを受けて国防総省は大学や企業への研究開発費の割当を拡充しました。また、1957 年のソ連によるスプートニク衛星打ち上げ後にドワイト・アイゼンハワー政権下で、アメリカの科学研究と教育の促進を目的とした国家防衛教育法が成立します。これらの政策は、冷戦を背景とした大学の科学研究への軍事支出の増大という点において共通するように見えつつも、決して、同一文脈上に存するものではありません。 また、1958 年頃から連邦政治に登場し、ジョン・F. ケネディ政権下で"Decade of Development"などの政策理念とともに外交政策の支柱となった近代化論についても、上院議員時代のケネディに見出される以前から、マサチューセッツ工科大学を拠点に研究が開始されていたことを勘案すれば、近代化論と国家（政策）との関係もまた、安易な分析や理解、評価を許すものではないということになります。 加えて、この時代の大学・国家・社会間関係の考察において欠かすことができない分析対象は、かかる関係に対する市民の批判的な思想と行動です。アイゼンハワーが離任の際に行った「軍産複合体」演説（1961 年）や上院議員 J. ウィリアム・フルブライトによる、いわゆる「軍産学複合体」演説（1968 年）は、アメリカ市民に大学のあり方についての理解、とりわけ批判的な理解を促す触媒の役割を果たしました。この点で、両演説は歴史的に重要です。さらに、1962 年にミシガン大学の学生を中心に起草された「ポートヒューロン宣言」や 1964 年から始まったカリフォルニア大学バークリー校による「フリースピーチ」運動も、市民の一部分である学生が冷戦とともに構築され強化されてきた大学・国家・社会間関係に対して批判するものであったことから、大学・国家・社会間関係を考察する本授業における重要な歴史的出来事だと言えます。本授業では、上記のテーマを考察するにふさわしい研究文献の講読と受講生による報告を中心とした授業を実施します。											

授業科目名	多文化社会論演習 IA					担当教員	土屋 由香				
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語及び英語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 24153 SB31.U・HUM31 24153 SB45.U・HUM31 24153 SB42						
本授業では冷戦期アメリカの文化と政治について、英語の学術書からの抜粋を毎週 1 章分ずつ読み、当該分野における重要な先行研究のうち、少なくとも 3～4 冊分の概要とそれらの学術的位置づけを把握することを目的とする。文化と政治、私的領域と公的領域の密接な関係を具体的な事例研究を通して学び、文化の政治性や政治の文化への浸透について理解を深める。											

授業科目名	国際関係論 IA					担当教員	齋藤 嘉臣				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 24121 LJ42.U-HUM31 24121 LJ38.U-HUM31 24121 LJ45						
国際関係を粗野な権力政治として考察する見方は一面的であり、「ソフト・パワー論」や文化外交論に代表される通り、文化（社会）的視座から国際関係の実像に迫るアプローチは深く浸透したと言える。一方、単なる時事論説や政策提言でない、国際関係の文化社会史を丁寧に追う試みは、意外なほど少ない。そこで、本講義では 20 世紀以降の国際関係史を、近年蓄積されてきた重要な研究成果を基盤としながら、芸術（特に音楽）を視座に据えつつ検討し、新たな世界像を構築することを目的とする。 20 世紀は戦争の世紀であり、国民国家の世紀であり、世論の世紀であり、イデオロギーの世紀であった。時代の重要な局面で芸術はいかに利用されてきたのか。国家権力から自律的な文化空間はいかに生まれ得たのか。講義では、横糸として戦争や帝国主義、ナショナリズムや平和運動を、縦糸として外交・国際政治の歴史を据え、芸術の国際関係史を明らかにする。											

授業科目名	国際関係論 IB					担当教員	齋藤 嘉臣				
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 24122 LJ42.U・HUM31 24122 LJ38.U・HUM31 24122 LJ45						
近年、冷戦史は新たな活況を呈している。従来の様な米ソに排他的な焦点を当てる冷戦史観や東西対立を殊更強調する冷戦史観は相対化されつつあり、かわって米ソの同盟国の外交や東西協力にも注目が集まるようになった。 また、軍事的・政治的対立に加えて文化的な対立にも目配りする研究の蓄積があり、さらに帝国史・脱植民地化の歴史との接合により、冷戦をより包括的に再照射することが可能になっている。そこで、講義では、新しい冷戦史の観点から、20 世紀後半の国際政治史を検討する。											

授業科目名	国際関係論 IIA				担当教員	新井 京					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 24123 LJ41						
本講義は、国際関係を法的側面から分析するのに必要な国際法の基本的知見を提供しつつ、国際関係論、歴史学、倫理学など周辺分野の視点も交えながら現実生じている国際問題を分析し議論する能力の涵養を目的とする。総合人間学部では、国際法を国際関係論 IIA、及び同 IIB の 2 単位科目 2 科目に分割し、それぞれ隔年で講義する。2019 年度は IIA を講義する。											
連続した 2 年間で講義される IIA 及び IIB で国際法の全範囲を講義することに注意されたい。但し、IIB から受講を開始しても理解可能なように基本的事項の説明も必要があれば行う。											

授業科目名	国際関係論 IVA				担当教員	大川 良文					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 24238 LJ43.U-HUM31 24238 LJ42						
2018 年は、トランプ政権が仕掛けた米中貿易戦争、NAFTA 再交渉の妥結、イギリスの EU 離脱交渉、欧州諸国における反 EU を打ち出したポピュリズム政党の勢力拡大など世界が反グローバリゼーションに大きく舵を切ったと思わせる重大事件が次々と起こりました。 グローバリゼーションを推し進めるのか、それとも制限するのかは、いつの時代も国際政治経済の大きな議論の的となってきました。これらの議論の中にはイデオロギーを前面に押し出した感情的なものも多く、結論ありきで語られるものも多く存在します。 本講義では、グローバリゼーション推進派と反推進派の対立の構図を理解するために、政治、経済、歴史の側面からグローバリゼーションに関する理解を深めていきます。											

授業科目名	国際関係論演習 IA				担当教員	齋藤 嘉臣					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 34157 SJ42.U-HUM31 34157 SJ38.U-HUM31 34157 SJ45						
外交・国際政治にかかわるテーマにつき個別研究課題に独自の観点から研究を行うことができる素地を獲得する。											

授業科目名	国際関係論演習 IB					担当教員	齋藤 嘉臣				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 34158 SJ42.U-HUM31 34158 SJ38.U-HUM31 34158 SJ45						
外交・国際政治にかかわるテーマにつき個別研究課題に独自の観点から研究を行うことができる素地を獲得する。											

授業科目名	契約関係原理論				担当教員	高橋 眞					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 14305 LJ41						
契約にかかわる民法上の諸制度について、その内容、原理（所有権、私的自治、取引の安全等）、社会法的制約との関係を、具体的な問題に即して理解するとともに、社会問題の中から契約法理が形成され、鍛えられる過程を把握する。このことを通じて、契約関係に関する諸制度を主体的に使いこなし、さらに望ましいルールを獲得する力を身につけるための基礎を獲得する。											

授業科目名	国家・社会法システム論 IA				担当教員	那須 耕介					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 24414 LJ41						
現代の法哲学・政治理論にかかわる諸問題を扱います。具体的な社会問題に焦点をあてつつ、その制度的・政策的処方の現状と可能性を把握し、背景にある理念的・原理的・方法論的諸問題に遡行します。											
今年度は、「移行期正義と開発理論」を主題に、大きな体制変革を被った社会における法的・政治的・道徳的負債（内戦・虐殺・人権抑圧）への対応を通じて、法制度の移植や発展の可能性とその問題点について理論的に考察します。											

授業科目名	国家・社会法システム論 IIA				担当教員	小畑 史子					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 24306 LJ41						
採用内定の取消、病気休職期間満了時に治癒していないことを理由になされた退職扱い、成果主義に基づく賃金減額、名ばかり管理職等の、働くことに関するトラブルをめぐる重要な判決を毎週 1 件取り上げて、現実職場で生起する事件とそれに関する法的判断を分析し、雇用社会の在り方について論じる力を涵養する。											

授業科目名	国家・社会法システム論 IIB				担当教員	小畑 史子					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的				No.U-HUM31 24307 LJ41							
企業秘密漏洩、セクシャルハラスメント、過労自殺、派遣切り等、働くことに関する現代的な問題を浮き彫りにした重要な判決を取り上げ、その内容と事件の背景をも分析し、法解釈の手法の習得と、雇用社会を展望する力の涵養を目指す。											

授業科目名	国家・社会法システム論 IIIB					担当教員	見平 典				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的						No.U-HUM31 24309 LJ41.U-HUM31 24309 LJ42.U-HUM31 24309 LJ45					
日本ではこれまで司法の役割は限定的であったが、社会の「法化」の進展や司法制度改革の実現などにより、司法の果たす役割は急速に拡大している。本授業では、司法が現実にもどのように動いているのかについて、日本とアメリカを比較しつつ講義する。											
学際性を特徴とする総合人間学部の開講科目として、司法政治学・法社会学・憲法学の知見を総合した、学際的な授業になるように努めたい。また、授業では、日米両国の司法の比較を通して、両国の政治・社会の特徴や相違についても理解を深められるようにしたい。											
このように、本授業は通常法律学の授業（法解釈学の授業）とは異なり、司法を政治学的・社会的に理解しようとするものであることから、法や司法に関心のある学生はもちろん、政治や社会に関心のある学生、アメリカに関心のある学生等、様々なバックグラウンドを持った学生の受講を歓迎する。											

授業科目名	国家・社会法システム論演習 IA				担当教員	那須 耕介											
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	演習	使用言語	日本語						
授業の概要・目的					No.U・HUM31 34161 SJ41												
現代の法哲学・政治理論にかかわる文献講読を中心に、今日の社会制度の成り立ちとその基本理念、現実の問題とそれに対する処方について考えます。身近の具体的な課題から抽象度の高い理論的問題まで、また歴史的・地域的に特殊な問題からより普遍的な問題まで、広い視野をもって取り組みます。																	
今年度は、福祉国家の過去・現在・未来をとらえなおすための準備作業の一環として、「幸福」についての原理論的考察にとりくみます。																	

授業科目名	国家・社会法システム論演習 IB				担当教員	那須 耕介											
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	演習	使用言語	日本語						
授業の概要・目的					No.U-HUM31 34162 SJ41												
(1)社会制度とその基本理念の原理的な理解と構想、実践にかかわる知的道具全般についての理解を深め、その使い方に習熟すること																	
(2)各自の問題関心をより適切な形でとらえ直し、現実の行動に結びつけ広く共有できるものに鍛えていくこと																	

授業科目名	国家・社会法システム論演習 IIA				担当教員	小畑 史子					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的				No.U-HUM31 34163 SJ41							
働くことに関して職場で生起する様々な問題を、法律学的に解決する方法を検討し、雇用社会の在り方や国家の役割を議論する。											

授業科目名	国家・社会法システム論演習 IIB				担当教員	小畑 史子					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 34164 SJ41						
働くことに関して職場で生起する様々な問題を法律学的に解決する方法を検討し、雇用社会の在り方や国家の役割について議論する。											

授業科目名	国家・社会法システム論演習 IIIB					担当教員	見平 典				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 34354 SJ42.U・HUM31 34354 SJ45.U・HUM31 34354 SJ41						
本演習では、憲法や司法に関する幅広い問題について、多角的・学際的な理解を得ることを目標とする。そのために、主にアメリカの憲法・司法に関する憲法学・司法政治学・法社会学の文献を、日本との比較を意識しながら講読する。政治化の進んだアメリカの憲法・司法システムは、様々な点において日本と対照的であるため、アメリカのシステムを理解することは、日本のシステムを理解し、オルタナティブを構想していく上でも有益である。また、日米の憲法や司法の比較を通して、両国の政治・社会・文化の相違や特徴についても浮き彫りになるであろう。											

授業科目名	社会経済システム論 IA				担当教員	柴山 桂太					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 14134 LJ43.U・HUM31 14134 LJ42.U・HUM31 14134 LJ45						
グローバリゼーションがもたらす社会経済への変化について、歴史的・理論的に考察する。グローバリゼーションは、最近になって始まったものではなく、歴史上、何度か繰り返されている。とりわけ 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけては、現在に匹敵する貿易や投資の拡大があったことが確認されている。この時代は同時に、金融危機が頻発した時代であり、国内格差が拡大した時代であり、大国が小国を支配する帝国主義の時代でもあった。この時代と現代の比較を通じて、現代のグローバル化が直面しているさまざまな課題について考えるのが、この講義の目的となる。											

授業科目名	社会経済システム論 IB				担当教員	柴山 桂太					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 14135 LJ43.U-HUM31 14135 LJ42.U-HUM31 14135 LJ45						
世界経済危機は、単に各国の政策の失敗が原因で引き起こされたと考えることはできない。一九八〇年代から始まった資本主義や国際関係の構造変化にまで目を向ける必要がある。講義では、現代の世界経済が直面する危機について、グローバルな不均衡の拡大や、所得格差、債務の拡大といった観点から歴史的、理論的に考察していきたい。											

授業科目名	社会経済システム論 IIIB				担当教員	大黒 弘慈					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 24417 LJ43.U・HUM31 24417 LJ45.U・HUM31 24417 LJ34						
現代社会の変容を捉えるためには、遠回りに見えても理論的な分析基準をもつことが不可欠である。ここでは資本制システムの基軸をなす原理を、方法論的、理論的、思想史的側面から多角的に検討する。経済学の基礎的ディシプリンの習得を目指すとともに、資本主義の現代的展開をも広く射程に収める。											

授業科目名	社会統計論A				担当教員	金子 治平					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 10527 LJ43.U-HUM31 10527 LJ10						
社会の現状を認識し、政策の企画・決定・評価するのに不可欠な統計資料をとりあげ、その作成過程や利用過程をテーマとした講義を行う。統計学は、歴史的には国家科学の一分野を出自とし、社会を認識することを目的として発展してきた。本講義では、統計資料の作成過程や利用過程について学ぶことによって、統計資料が作成される必然性、統計資料が映し出す社会的側面、さらに、社会の変容の中で生じている統計資料の作成・利用上の問題とその対策について考え、現代に生きる我々が持つべき情報リテラシーについて理解を深めることを目的とする。											
近年、政府が作成している家計調査や消費者物価指数等に対して、政治的側面から批判が行われていることも取り上げる。											

授業科目名	社会経済システム論演習 IA				担当教員	柴山 桂太					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 34165 SJ43.U・HUM31 34165 SJ45.U・HUM31 34165 SJ42						
金融危機はなぜ起こるのか。この問題は、主流派経済学よりも非主流派経済学で繰り返し取り上げられてきた。ケインズ派やマルクス派、また歴史的なアプローチを参照しつつ、最近の時事的話題にも触れながら、この古くて新しい問題に新たな光を投げかけてみたい。											

授業科目名	社会経済システム論演習 IB				担当教員	柴山 桂太						
配当学年	3,4 回生		単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 34166 SJ43.U・HUM31 34166 SJ45.U・HUM31 34166 SJ42							
いま、世界的に反グローバル化の動きが強まっている。グローバル化の何がそれほど敵視されているのか。この問題を考えるには、過去三〇～四〇年の国際経済だけでなく、歴史を遡ってグローバル化の歴史を辿り直す必要があるだろう。最近の時事的トピックも踏まえながら、グローバル化（と反グローバル化）の歴史と理論について考えていきたい。												

授業科目名	社会経済システム論演習 IIIA				担当教員	大黒 弘慈					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 34169 SJ43.U・HUM31 34169 SJ45.U・HUM31 34169 SJ34						
現代資本制社会の構造と運動メカニズムを解明するための手続きとして、経済思想の歴史を、おもに貨幣と信用の視点から俯瞰する。アリストテレスから重商主義、重農主義、古典派経済学、マルクスを経て現代にいたるまでの経済思想を取り扱う。あるいは経済思想の重要文献、および隣接諸分野の重要文献のなかから適当な文献を選び、輪読を行なう。											

授業科目名	社会経済システム論演習 IIIB				担当教員	大黒 弘慈					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 34170 SJ43.U-HUM31 34170 SJ45.U-HUM31 34170 SJ34						
現代資本制社会の構造と運動メカニズムを解明するための手続きとして、経済思想の歴史を、おもに貨幣と信用の視点から俯瞰する。アリストテレスから重商主義、重農主義、古典派経済学、マルクスを経て現代にいたるまでの経済思想を取り扱う。あるいは経済思想の重要文献、および隣接諸分野の重要文献のなかから適当な文献を選び、輪読を行なう。											

授業科目名	比較経営組織論 A				担当教員	林田 修					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 10535 LJ44.U・HUM31 10535 LJ43						
ほとんどの現代人は企業=組織と関わりをもっている。この授業の前半では、①なぜ企業は存在するのか、②企業はどのような機能を果たすのか、③世の中に無数に存在する企業がすべて統合されて単一の企業にならないのはなぜか（組織の限界）、といった問題について、コーディネーション（調整）とモチベーション（動機付け）の視点から考察する。またこの授業の後半では、情報が企業内に偏在し、メンバー間で利害が異なるとき、④メンバー同士がどのような駆け引きを繰り返すのか、⑤それがどのような影響を企業業績に及ぼすのか、⑥メンバー同士の協調を達成するにはどうしたらいいか、という問題を、メッセージ・ゲームの分析を通して考察する。											

授業科目名	公共政策論Ⅰ				担当教員	佐野 亘					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 14404 LJ42						
公共政策においても、問題を発見し、それに対する対策をたて、その対策を実施するプロセスを適切に管理・運営することが重要となる。本講義では、特に現実の政治・行政過程に着目し、よりよい公共政策を実現するうえで、実際上いかなる困難や問題が存在するかについて検討したい。本講義を通じて、受講者は、政策過程全体についての理解を深めるとともに、「政策の失敗」がなぜどのように起こるのかについて、自分なりに考察することができるようになることが望まれる。											

授業科目名	公共政策論ⅠⅠ					担当教員	浅野 耕太				
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 14405 LJ43						
社会の様々な不確実性を前提に、政策効果を定量的に捉え、分析・評価するために必要となる基本的な統計学の考え方や手法を学び、政策の妥当性を検証する力を身につける。											

授業科目名	公共政策論基礎ゼミナール IIB					担当教員	浅野 耕太				
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 3	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 10595 SJ43						
様々な領域で実施されている公共政策に関して、その分析に資する経済学などの標準的な教科書を輪読することによって、その必要性や評価軸を学ぶ。その上で、公共政策の基本原理や実際の形成過程を理解し、良き公共政策のありかたを考究する。											

授業科目名	公共政策論演習 IA				担当教員	佐野 亘					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 34243 SJ42						
履修者はそれぞれ、地方自治体が実施している具体的な政策をひとつ取り上げ、その背景や実態について調べたうえで、公共政策学の観点から、どのような論点がありうるか、プレゼンテーションする。その後、その内容について参加者同士で議論し、理解を深めるものとする。											

授業科目名	公共政策論演習 IB					担当教員	佐野 亘				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 34244 SJ42						
受講者は、各自、自分なりに関心のある公共政策上のテーマについて、どのような先行研究が蓄積されてきたかを調べ、その整理をおこなったうえで、どのような論点がありうるか、報告する。その後、受講者全員で、そのテーマについて議論をおこなう。											

授業科目名	公共政策論演習 IIA				担当教員	浅野 耕太					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 34245 SJ43						
現実の公共政策について、文献調査、現地調査、統計解析などに基づき、自立して分析を行うための基礎的な力を環境経済学、ミクロ経済学、計量経済学、政策科学、リサーチデザイン論に関する基本文献の輪読や演習を通じて養うことを目的としている。本年度はリサーチデザイン論の基本文献の輪読と演習を行う。											

授業科目名	公共政策論演習 IIB					担当教員	浅野 耕太				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 34246 SJ43						
現実の公共政策について、文献調査、現地調査、統計解析などに基づき、自立して分析を行うための基礎的な力を環境経済学、ミクロ経済学、計量経済学、統計学、政策科学、リサーチデザイン論などの演習を通じて養うことを目的としている。本年度は統計計算ソフトウェア R の演習を主に行う。											

授業科目名	公共政策論演習 IIIA				担当教員	宇佐美 誠					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 34370 SJ42.U-HUM31 34370 SJ41						
現実の公共政策について、自立した仕方で分析・評価・提言を行う能力を高めるため、環境政策・環境問題に関連する範囲で自由テーマの発表を行う。3 回生は学術論文等の要約と検討を行い（文献紹介）、4 回生は卒業論文研究等について報告を行う（研究報告）。文献紹介・研究報告は、環境政策論・環境政治学・環境法・環境経済学・環境社会学・環境倫理学等、環境問題・環境政策に関連する社会科学・人文学の諸分野のいずれかに属していればよい。本科目は、大学院地球環境学舎の大学院生との共同演習であり、留学生の参加者も多いので、日・英二ヶ国語方式で進行する。履修者は、発表を通じて自らのテーマについて研究能力を高められるだけでなく、環境に関連する多様な学問分野や研究テーマを見聞し、英語のコミュニケーション能力を向上させ、さらには世界各地から集まった留学生を含む大学院生たちと交流することもできる。											

授業科目名	公共政策論演習 IIIB				担当教員	宇佐美 誠					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 34441 SJ42.U-HUM31 34441 SJ41						
現実の公共政策について、自立した仕方で分析・評価・提言を行う能力を高めるため、環境政策・環境問題に関連する範囲で自由テーマの発表を行う。3 回生は学術論文等の要約と検討を行い（文献紹介）、4 回生は卒業論文研究等について報告を行う（研究報告）。文献紹介・研究報告は、環境政策論・環境政治学・環境法・環境経済学・環境社会学・環境倫理学等、環境問題・環境政策に関連する社会科学・人文学の諸分野のいずれかに属していればよい。本科目は、大学院地球環境学舎の大学院生との共同演習であり、留学生の参加者も多いので、日・英二ヶ国語方式で進行する。履修者は、発表を通じて自らのテーマについて研究能力を高められるだけでなく、環境に関連する多様な学問分野や研究テーマを見聞し、英語のコミュニケーション能力を向上させ、さらには世界各地から集まった留学生を含む大学院生たちと交流することもできる。											

授業科目名	基礎演習：公共政策論Ⅰ				担当教員	佐野 亘					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 14177 SJ42						
具体的な政策課題を多面的に検討し議論することを通して、公共政策の分析とデザインのための理論および技法を修得することを目指す。本ゼミを通じて、受講者は、「社会問題を解決すること」の難しさを味わうとともに、論理的思考とプレゼンテーションの能力を高めることが望まれる。											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：公共政策論Ⅱ				担当教員	浅野 耕太					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 14178 SJ43						
様々な領域で実施されている公共政策に関して、その分析に資する経済学などの標準的な教科書を輪読することによって、その必要性や評価軸を学ぶ。その上で、公共政策の基本原理や実際の形成過程を理解し、良き公共政策のありかたを考究する。											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：労働法				担当教員	小畑 史子					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 14179 SJ41						
新聞等で報道されている、または職場で身近に起こる、雇用や労働に関する法律問題を 10 項目程度取り上げます。 毎回のテーマにつき、担当者（担当グループ）による発表と、それに基づく全員でのディスカッションをしてもらい、各テーマについての知識を深め自分の意見を説得力を持って主張できるようになること、そして自分の担当したテーマにつき深く掘り下げて準備し、聞き手に分かりやすく効果的なプレゼンテーションをする訓練を積んでももらいたいと考えています。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第 1 回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：法哲学				担当教員	那須 耕介					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 14180 SJ41						
毎回最新・直近の新聞・雑誌の記事（ただし英語）をとりあげ、的確にその内容をつかみ、人に伝える訓練を積むと同時に、そこに含まれている法哲学・政治哲学的問題についての理解を深めることをめざします。受験勉強とはひと味違った英文読解の訓練と現代社会における法的・政治的諸問題に対する関心の開発、そしてその理論的含蓄の探求という、一石二鳥、一石三鳥（二重苦、三重苦ではない）をねらう人のためのゼミです。											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：国際政治論				担当教員	齋藤 嘉臣					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 14182 SJ42.U-HUM31 14182 SJ38.U-HUM31 14182 SJ45						
国際政治史・外交史に関連する基礎的な文献を読み、参加者全員で討議を深めることで、歴史に対する理解を深めることが目的である。											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：経済思想				担当教員	大黒 弘慈					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM31 14183 SJ43.U-HUM31 14183 SJ45.U-HUM31 14183 SJ34						
経済学の狭い枠にこだわらず、経済の本質にかかわる啓蒙的な本を土台に、問題意識の発掘に努める。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：社会経済システム論					担当教員	柴山 桂太				
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM31 14185 SJ43.U・HUM31 14185 SJ45.U・HUM31 14185 SJ42						
現代日本が直面するさまざまな問題について、受講者各自が調べ報告してもらう。まず、戦後日本の政治・経済・社会の歩みについて簡単な概説を行った後、関連したテーマを受講者各自が設定し、毎回の授業で報告してもらうことになる。毎回の講義では、ただ現実を批判的に眺めるのではなく、新たな社会構想へと繋がる議論をしていきたい。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	欧米歴史社会論 IA					担当教員	合田 昌史				
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24202 LJ38						
本講義では、大航海時代の代表的人物をとりあげ、彼らの活動が西洋社会の経済・文化・宗教等に与えた影響について考察する。											

授業科目名	欧米歴史社会論 IB					担当教員	合田 昌史				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24203 LJ38						
本講義では、大航海時代の代表的人物をとりあげ、彼らの活動が西洋社会の経済・文化・宗教等に与えた影響について考察する。											

授業科目名	欧米歴史社会論 IIA				担当教員	藤井 崇					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 24204 LJ38						
アレクサンドロス大王の死去（前 323 年）からおおよそ紀元 3 世紀までの東地中海を中心とするギリシア世界について、政治史の基本を踏まえつつ、王権とポリスの理念と実態、ローマとギリシア世界との関係、古代版グローバル化時代における文化と社会などの観点から、多様な史料を紹介しつつ講義をおこなう。											

授業科目名	欧米歴史社会論 IIB					担当教員	佐々木 博光				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的						No.U-HUM32 24205 LJ38					
テーマ：ペストと宗教改革											
ヨーロッパのペストと聞くと誰もが中世の黒死病を思い出すであろう。しかし、ペストに関する文書が増え、対策が講じられるようになるのは、次の近世になってからである。ペストに対する人々の姿勢の変化を、宗教改革後の諸宗派社会との関連で考察する。											

授業科目名	欧米歴史社会論演習 IIA					担当教員	合田 昌史				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 34249 SJ38						
卒業論文の作成を目的とした、研究・調査方法の指導と、プレゼンテーションの実施。											

授業科目名	欧米歴史社会論演習 IIB					担当教員	合田 昌史				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34250 SJ38						
卒業論文の作成を目的とした、研究・調査方法の指導と、プレゼンテーションの実施。											

授業科目名	日本歴史文化論 IA				担当教員	吉江 崇					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 34206 LJ38						
日本古代宮廷社会の研究（1）											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。その際、宮廷社会の特質を考える上で重要ないくつかの現象を取り上げ、その内容を検証する。古記録や古文書などの諸史料を読解しながら、課題に取り組む。											

授業科目名	日本歴史文化論 IB				担当教員	吉江 崇					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34207 LJ38						
日本古代宮廷社会の研究（2）											
日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。その際、宮廷社会の特質を考える上で重要ないくつかの現象を取り上げ、その内容を検証する。古記録や古文書などの諸史料を読解しながら、課題に取り組む。											

授業科目名	日本歴史文化論 IIA				担当教員	元木 泰雄					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34208 LJ38						
武士政権成立史論Ⅲ											
平治の乱から平氏政権の成立に至る、武士を中心とした政治史を論じる。											
武士政権の樹立については、いまだ貴族と武士の対抗関係を基軸にした理解が横行している。また平安後期の武士像は、旧態依然とした領主制論に基づくものや、一面的な職能をのみを強調するものが目につく。											
今季の授業では、平治の乱後から源平争乱にいたる伊勢平氏の動向を中心に、武士と王権との関係にも論及し、上記のような理解の克服を目指す。											

授業科目名	日本歴史文化論 IIB					担当教員	元木 泰雄				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 34209 LJ38						
武士政権成立史論Ⅳ											
本講義では、鎌倉幕府の創設に関する諸問題を取り上げる。とくに、挙兵から東国武士を組織した頼朝と、京や西国で活躍した義経のそれぞれの役割、対立を分析する。これらを通して、武士政権と王権との関係、主従関係や鎌倉幕府における将軍（鎌倉殿）の権力の実態を解明する。そして、武士政権や、その成立の意義を明らかにする。											

授業科目名	日本歴史文化論演習 IA				担当教員	吉江 崇					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34251 SJ38						
日本における政治・社会の展開について、歴史的な視点から考察することを念頭に、研究に必要不可欠となる史料の読解力を習得し、同時に研究方法について理解することを目的とする。日本古代・中世の基本史料の読解と、研究内容の発表及び質疑応答を通じて、こうした課題に取り組む。											

授業科目名	日本歴史文化論演習 IB				担当教員	吉江 崇					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34252 SJ38						
日本における政治・社会の展開について、歴史的な視点から考察することを念頭に、研究に必要不可欠となる史料の読解力を習得し、同時に研究方法について理解することを目的とする。日本古代・中世の基本史料の読解と、研究内容の発表及び質疑応答を通じて、こうした課題に取り組む。											

授業科目名	日本歴史文化論演習 IIA				担当教員	元木 泰雄					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 34253 SJ38						
古文書学を取り上げる。おもに中世の古文書を対象に、内容の正確な理解のために様式について検討する。あわせて写真の複写を配布し、読解力の養成を図る。											

授業科目名	日本歴史文化論演習 IIB				担当教員	元木 泰雄					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 34254 SJ38						
古文書学を取り上げる。 中世後期の様々な古文書を取り上げ、古文書読解力の練成を図る。											

授業科目名	基礎演習：日本古代・中世政治文化論Ⅰ				担当教員	吉江 崇						
配当学年	1-4 回生		単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 14186 SJ38							
文学作品を歴史学的手法から読み解くことで、日本古代における政治や社会の様子について考える。												
1冊の研究書を読みながら、日本の歴史と文化に対する歴史的思考力を高めることを目指す。対象とする書物は大学生・一般人が読める内容のものとし、ただ読むのではなく、記述の背景や根拠を丹念に調べる。とくに根拠とされる歴史資料を解釈しながら、書物を読み解き、歴史に対する思考力・感覚・想像力を磨く。												
今回は五味文彦著『『枕草子』の歴史学』を取り上げ、その内容を検証する。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。												

授業科目名	基礎演習：日本古代・中世政治文化論 II				担当教員	元木 泰雄					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 14187 SJ38						
日本中世史（おもに平氏政権、源平争乱、鎌倉幕府）に関するの基本史料を輪読する。史料の読解に習熟するとともに、この当時の政治史を検討する。											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：近世西洋史学					担当教員	合田 昌史				
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 14188 SJ38						
中世末から近代初頭におけるヨーロッパとアジア・アフリカ・アメリカとの関係のありかたを学ぶ。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：Contemporary History				担当教員	BHATTE, Pallavi Kamlakar					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	英語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 14189 SE38						
This is an undergraduate introductory course, providing students an understanding of nationalist and independence movements.											
This course aims to help students:											
1. Acquire various academic language skills necessary to develop reading, thinking and writing in English.											
2. In using Primary and Secondary Sources effectively.											
3. In areas such as acquisition of historical analysis, interpretation, and content literacy skills											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	中国社会論 IA				担当教員	辻 正博					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24318 LJ38						
「唐代制度史関係資料の諸問題」											
古代日本にも多様な形で影響を与えた唐代の諸制度については、これまで膨大な研究の蓄積がある。ところが、そうした制度史研究の根底をなす「史料」じたいについては、必ずしも十分な注意が払われてこなかった。この講義ではまず、唐代制度史関係資料の中から正史・資治通鑑・政書・詔勅・類書を中心に重要なものを選び、現在「通行本」とされているテキストについて、①どのような経緯でその地位を得たのか、②今なお通行本として用いるのが適当なのか、③適当でないとするばどのテキストに拠るべきなのか、などの諸点について検討を加えてゆきたい。											

授業科目名					中国社会論 IB				担当教員		辻 正博				
配当学年		2・4 回生		単位数	2	開講期	後期		曜時限	水 2		授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的							No.U-HUM32 24319 LJ38								
「唐令復原研究の諸問題」															
唐令は古代日本の律令国家形成にも多大な影響を与えてきた。唐は数百年前に滅びたが、その復原研究が特に日本で熱心に行われてきたのには、こうした背景があるのかも知れない。この講義では、江戸時代以来行われてきた唐令復原研究を概観することから始めて、現在の唐令復原研究のかかえる様々な問題点について考察したいと思う。															

授業科目名	中国社会論 IIA				担当教員	藤井 律之					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24334 LJ38.U-HUM32 24334 LJ34						
テーマ：『梁職貢図』の研究											
中国には、いわゆる中華思想をもとに、その周辺国を「夷狄」と蔑視してきた歴史があるが、そうした「夷狄」から中国王朝に「朝貢」してきた使者の姿を描き、簡単な説明文を加えたものが『職貢図』である。そのうち成立が最も古いものが梁の蕭繹が作成させた『梁職貢図』であり、西はペルシア、南はインド、東は日本まで描かれている。もとより中華思想による潤色は含まれるものの、文献史料が少ない当該時期の他地域を理解する上で、貴重な情報を多く含むものでもある。 本講義では『梁職貢図』の各テキストを比較し、関連史料もあわせて紹介して内容を検討する。あわせて当該時代の社会状況、対外関係を整理し、中国とその周辺地域への理解を深めることを目的とする。											

授業科目名	中国社会論 IIB				担当教員	藤井 律之					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24335 LJ38.U-HUM32 24335 LJ34						
テーマ：群書治要の研究Ⅲ											
群書治要とは、唐代に編纂された類書であるが、中国ではいったん失われ、日本に将来されたことによって現在まで伝承されてきたという、奇妙な書物である。同書は唐の皇族の教育を目的としたもので、節略されてはいるものの、経・史・子部書を多数含む。											
本講義では、昨年講義し終えた経部に引き続いて同書所収の史部書をとりあげ、その梗概を紹介し、あわせて収録箇所について検討する。											

授業科目名	中国社会論演習 IA					担当教員	辻 正博				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34362 SJ38						
陳寅恪(1890～1969)は、20 世紀中国を代表する歴史家の一人である。広い視野に立つてなされた鋭い問題提起は、今なお大きな意義をもつ。この授業では、彼の主要著作の一つである『唐代政治史述論稿』を精読し、その歴史観の一端に触れようと思う。											

授業科目名	中国社会論演習 IB				担当教員	辻 正博					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34363 SJ38						
陳寅恪(1890～1969)は、20 世紀中国を代表する歴史家の一人である。広い視野に立つてなされた鋭い問題提起は、今なお大きな意義をもつ。この授業では、彼の主要著作の一つである『唐代政治史述論稿』を精読し、その歴史観の一端に触れようと思う。											

授業科目名	中国文字文化論				担当教員	松江 崇					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 14420 LJ37						
元来は古代中国語を表記した文字である「漢字」について、その誕生の背景となった古代中国語との関係に着目しつつ概説する。すなわち、漢字の基本的な機能や構造、形態の種類（字体）、さらにそれらの歴史的変遷について、具体例を紹介しながら解説していく。さらに漢字を秩序立てて収録した古代の辞書を資料としつつ、比較言語学的方法を用いることにより古代の漢字音を復元（「再構」）する方法の原理を解説する。漢字文化圏における言語文化の核心とも言うべき「漢字」について、その機能・構造・音韻の各側面を、歴史的観点を踏まえつつ、総合的に理解することを目的とする。											

授業科目名	中国書誌論				担当教員	松江 崇					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 14421 LJ37.U-HUM32 14421 LJ36						
古代中国の書物、すなわち「漢籍」（漢文で表記された文献）を扱う場合、辨えておくことが必須な事項を解説する。漢籍にはどのような内容のものがあり、目的とする文献をどのような手順で探し、使用目的にあわせてどのような版本（刊本、写本を含む）を選択し、版本による文字の異同の是非をどのように判断すべきか、といったことである。これらに関する基礎的な知識を提供することを目的として、さらに漢籍の体系化・分類方法に関する学問である「目録学」、漢籍のテキストに関する学問である「版本学」、さらに文字の校勘に関する学問である「校勘学」についての入門的な内容を講ずる。以上を通じて、漢籍における内容と形式との密接な関係を理解することを目的としている。											

授業科目名	中国古典講読論 A					担当教員	道坂 昭廣				
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 14312 LJ36						
本授業は、中国古典詩文の読解力養成を目的とする。専門的な中国文学論や駢文作品を読解する。中国古典文学読解についての基礎的な力と知識をもっていることを受講の前提とする。											

授業科目名	中国古典講読論 B					担当教員	道坂 昭廣				
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 14313 LJ36						
本授業は、中国古典詩文の読解力養成を目的とする。専門的な中国文学論や駢文作品を読解する。中国古典文学読解についての基礎的な力と知識をもっていることを受講の前提とする。											

授業科目名	中国文化論演習 IIA					担当教員	道坂 昭廣				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34357 SJ36						
中国古典文（文言）の読解力を養成するとともに、中国古典文学研究の基礎的方法を身につける。											

授業科目名	中国文化論演習 IIB					担当教員	道坂 昭廣				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34358 SJ36						
楊守敬『日本訪書志』を読む。当時の日中の文化交流や東アジア古典文化における日本の位置について考察する											

授業科目名	基礎演習：中国史の基礎資料				担当教員	辻 正博					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 14190 SJ38						
「中国史の基本資料を読む―漢文訓読法の基礎 中国史の基本資料を講読する中で、漢文訓読の基本的な技法を身につけることが、この授業の目的です。 日本人は古来、中国の歴史や文化に強い関心を持ち、それを知ろうとしてさまざまな工夫を凝らしてきました。「訓読」とは、中国語（古典漢文）に訓点を付け、日本語＝「漢字仮名交じり文」として読解するために編み出された、先人の知恵の一つです。現代中国語は現代音で音読するのが普通ですが、古典（漢文）については、訓読方式で読むのも味わい深いものです。 この授業では、中国史の基本資料を「訓読」して、その内容を理解することを目的とします。高校時代に漢文を少しかじった程度の人でも、少し努力をすれば訓読のコツをつかむことは容易です。この機会に、訓読の基本的な技法を身につけましょう。 今年度は、編年体で書かれた歴史書として名高い『資治通鑑』の文章に挑戦していただきます。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名				日本語学・日本文学 IA				担当教員		佐野 宏														
配当学年		2-4 回生		単位数		2		開講期		前期		曜時限		木 2		授業形態		講義		使用言語		日本語		
授業の概要・目的									No.U・HUM32 24214 LJ37.U・HUM32 24214 LJ36.U・HUM32 24214 LJ38															
本講義では、『時代別国語大辞典上代編』（三省堂、第 10 刷）の「未詳語彙」を中心に語彙研究を行う。語彙分析は使用される個々の作品解釈や前後の時代の語彙に照らして総合的に記述される。語彙研究の方法は関係する諸領域に波及するところが少なくない。そのため、文系・理系を問わずに自ら資料や用例と向き合うことで、言語分析の観点を涵養するには最適である。最初にいくつかの見本を講義形式で提示するので、それに倣って自らの担当項目を選別し研究発表を行ってもらおう。全ての回ではないが主として演習形式で講義を進める。古辞書の性質や使い方、用例の書誌といった日本語史研究における語彙研究の基礎的な知識を習得することを目的とする。																								

授業科目名	日本語学・日本文学 IB				担当教員	佐野 宏					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 24215 LJ37.U・HUM32 24215 LJ36.U・HUM32 24215 LJ38						
本講義では、『時代別国語大辞典上代編』（三省堂、第 10 刷）の「未詳語彙」を中心に語彙研究を行う。語彙分析は使用される個々の作品解釈や前後の時代の語彙に照らして総合的に記述される。語彙研究の方法は関係する諸領域に波及するところが少なくない。そのため、文系・理系を問わずに自ら資料や用例と向き合うことで、言語分析の観点を涵養するには最適である。最初にいくつかの見本を講義形式で提示するので、それに倣って自らの担当項目を選別し研究発表を行ってもらおう。全ての回ではないが主として演習形式で講義を進める。古辞書の性質や使い方、用例の書誌といった日本語史研究における語彙研究の基礎的な知識を習得することを目的とする。											

授業科目名	日本語学・日本文学 IIA				担当教員	長谷川 千尋					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 24216 LJ36						
後世に多大な影響を与えた宗祇の歌学・古典学は、学統としては二条流に位置づけられるものである。その一方で、宗祇は、下冷泉持為の門人であった木戸孝範を通じて、冷泉流歌学の影響も少なからず受けているようである。本講義では、『源氏物語』『百人一首』『伊勢物語』の注釈書等の説を対象にして、その実態を解明する。											

授業科目名	日本語学・日本文学 IIB				担当教員	長谷川 千尋					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 24217 LJ36						
前期に引き続き、宗祇と冷泉流歌学の関係を追って、最初に『自讃歌』の注釈書を取り上げる。近時、冷泉家時雨亭文庫蔵本が公刊されたことに基づき、改めて『自讃歌』の享受のあり方について考察したい。その後は、主として冷泉流において尊重されたと考えられる『藤川百首』『三体和歌』の享受の様相を、古注釈を紹介しながら明らかにする。											

授業科目名	日本語学・日本文学 IIIA				担当教員	須田 千里					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 24418 LJ36						
泉鏡花は明治から昭和に涉って活躍した作家である。この授業では、主に前近代の文学や伝説に取材した作品を中心にモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。なお、後期の日本語学・日本文学 IIIB 履修を推奨する。											

授業科目名	日本語学・日本文学 IIIB					担当教員	須田 千里				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24419 LJ36						
泉鏡花は明治から昭和に涉って活躍した作家である。この授業では、主に前近代や伝説を素材とした作品を中心にモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。なお、前期の日本語学・日本文学 IIIA 履修を推奨する。											

授業科目名	日本語学・日本文学 IVA					担当教員	岸本 恵実				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24408 LJ37.U-HUM32 24408 LJ36.U-HUM32 24408 LJ38						
この授業では『日葡辞書』の収載語彙について、『羅葡日辞書』などのキリシタン資料や日本の各種資料と比較することにより、立項や語釈の方針を明らかにすることを目指す。このことを通じ、17 世紀頃の辞書類の扱い方、先行研究の検討、研究課題の設定と進め方について学ぶ。											

授業科目名	日本語学・日本文学 IVB				担当教員	岸本 恵実					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24409 LJ37.U-HUM32 24409 LJ36.U-HUM32 24409 LJ38						
この授業では『日葡辞書』の収載語彙について、『羅葡日辞書』などのキリシタン資料や日本の各種資料と比較することにより、立項や語釈の方針を明らかにすることを目指す。このことを通じ、17 世紀頃の辞書類の扱い方、先行研究の検討、研究課題の設定と進め方について学ぶ。											

授業科目名	日本語学・日本文学 VA				担当教員	奥村 和美					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24422 LJ36						
萬葉集の比較文学的研究											
・上代の日本人が学びとった中国文学の知識とはどのようなものであり、それが萬葉集などの文学作品にどのような影響を及ぼしたのか。この問題について、特に基本的教養をなしたであろう初学書や経書の受容という側面から、当時の使用テキストにできるかぎり基づいて実証的に考察・検討を加える。 ・萬葉集を主な対象とするが、適宜、萬葉集以外の上代文献にも触れる。											

授業科目名	日本語学・日本文学 VB				担当教員	奥村 和美					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 5	授業形態		使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24423 LJ36						
万葉集の訓詁											
・漢字ばかりで記された万葉集の和歌を日本語で訓めるようにすること、いわゆる訓詁は万葉集研究の基礎である。そのためにはまず漢字の訓詁が正確になされねばならない。本講義では、万葉集の正確な訓詁を行うために、中国或いは日本の古字書(辞書)を用いた訓詁とはどのようなものか具体例に則して実践的に示していく。											

授業科目名	日本語学・日本文学演習 IA				担当教員	佐野 宏						
配当学年	3,4 回生		単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34261 SJ37.U-HUM32 34261 SJ36.U-HUM32 34261 SJ38							
古代日本文学における「萬葉集」の注釈研究を行う。本年度は、巻一を取り上げ、古注釈書を丹念に読み込みながら現行諸注の問題点を指摘し、一首ずつ精読する。本文校訂の方法や注釈方法を通して、日本語の音韻史研究、文法史研究、語彙史研究を試みる。日本語の表現研究の一つとして、主として古代日本語の研究手法の習得を目的とする。この演習で重要なのは、論文にせよ、発表にせよ、用例・データに語らせる方法を習得し、誤ってもよいから、そこに自らの論を構築してみせることである。古典作品の問題点・未解決点は、常に残されている。従来になかった新たな観点からの検証・証明方法の開発を求めたい。												

授業科目名	日本語学・日本文学演習 IB				担当教員	佐野 宏					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34262 SJ37.U-HUM32 34262 SJ36.U-HUM32 34262 SJ38						
古代日本文学における「萬葉集」の注釈研究を行う。本年度は、巻一を取り上げ、古注釈書を丹念に読み込みながら現行諸注の問題点を指摘し、一首ずつ精読する。本文校訂の方法や注釈方法を通して、日本語の音韻史研究、文法史研究、語彙史研究を試みる。日本語の表現研究の一つとして、主として古代日本語の研究手法の習得を目的とする。この演習で重要なのは、論文にせよ、発表にせよ、用例・データに語らせる方法を習得し、誤ってもよいから、そこに自らの論を構築してみせることである。古典作品の問題点・未解決点は、常に残されている。従来になかった新たな観点からの検証・証明方法の開発を求めたい。											

授業科目名	日本語学・日本文学演習 IIA				担当教員	長谷川 千尋					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34263 SJ36						
日本古典文学に関わる作品の読解力を高め、幅広い素養を身につける目的で、室町時代の連歌作品を精読する。本年度は『伊勢千句』第六百韻を取り上げる。本作品は、当代を代表する連歌師、宗長と宗碩の両吟であり、成立当初から多数の古注釈が執筆された。授業では、主要な五種類の古注釈を対照させ、それぞれの内容を検討しながら、作品の解説を進める。											

授業科目名	日本語学・日本文学演習 IIB				担当教員	長谷川 千尋					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34264 SJ36						
日本古典文学に関わる作品の読解力を高め、幅広い素養を身につける目的で、室町時代の連歌作品を精読する。本年度は『伊勢千句』第六百韻を取り上げる。本作品は、当代を代表する連歌師、宗長と宗碩の両吟であり、成立当初から多数の古注釈が執筆された。授業では、主要な五種類の古注釈を対照させ、それぞれの内容を検討しながら、作品の解説を進める。											

授業科目名	日本語学・日本文学演習 IIIA					担当教員	須田 千里				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 5	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34265 SJ36						
太宰治は熱烈なファンを獲得している作家である。この授業ではその短編を取り上げ、皆で分担して読み、作品内容の理解・注釈・先行論文の読解による新たな作品像の構築を目指す。教室で意見交換することによって、お互いの知見を高めていきたい。											
なお、後期の日本語学・日本文学演習ⅢBの履修を推奨する。											

授業科目名	日本語学・日本文学演習 IIIB					担当教員	須田 千里				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 5	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34266 SJ36						
久生十蘭は近来とみに熱烈なファンを獲得している作家である。この授業ではその中短編集を取り上げ、皆で分担して読み、作品内容の理解・注釈・先行論文の読解による新たな作品像の構築を目指す。教室で意見交換することによって、お互いの知見を高めていきたい。											
なお、前期の日本語学・日本文学演習ⅢAの履修を推奨する。											

授業科目名	書論・書写演習 A				担当教員	長谷川 千尋					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24442 SJ36						
くずし字で書かれた様々なジャンルの古典文学作品（写本）を紹介し、資料の読解を行いながら翻字する。											

授業科目名	書論・書写演習 B				担当教員	長谷川 千尋					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24443 SJ36 くずし字で書かれた様々なジャンルの古典文学作品（版本）を紹介し、資料の読解を行いながら翻字する。						

授業科目名	日本古典講読論Ⅰ					担当教員	長谷川 千尋				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24332 LJ36						
「源氏見ざる歌詠みは遺恨の事也」とは藤原俊成の言葉であるが、歌人や連歌師は、『源氏物語』のどのような言葉・場面に魅力を感じ、その詩想を養ったのであろうか。このような観点から、文安六年（1446）、祐倫の手になる『山頂湖面抄』という源氏物語梗概書を読む。併せて『源氏物語』本文や、それを享受した作例にも触れ、巻ごとに源氏絵を参照する。											

授業科目名	日本古典講読論Ⅱ				担当教員	長谷川 千尋					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24333 LJ36						
「源氏見ざる歌詠みは遺恨の事也」とは藤原俊成の言葉であるが、歌人や連歌師は、『源氏物語』のどのような言葉・場面に魅力を感じ、その詩想を養ったのであろうか。このような観点から、文安六年（1446）、祐倫の手になる『山頂湖面抄』という源氏物語梗概書を読む。併せて『源氏物語』本文や、それを享受した作例にも触れ、巻ごとに源氏絵を参照する。											

授業科目名	日本語学文献講読論Ⅰ				担当教員	佐野 宏					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 24340 LJ37.U・HUM32 24340 LJ36.U・HUM32 24340 LJ38						
日本語の歴史記述の方法について概説し、基礎的な日本語史研究の知識を身につけることを目的とする。最初に日本語史研究の課題を掲げて概説し、その課題についての資料や論考を講読する。											

授業科目名	日本語学文献講読論Ⅱ				担当教員	佐野 宏					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24401 LJ37.U-HUM32 24401 LJ36.U-HUM32 24401 LJ38						
日本語の歴史記述の方法について概説し、基礎的な日本語史研究の知識を身につけることを目的とする。最初に日本語史研究の課題を掲げて概説し、その課題についての資料や論考を講読する。											

授業科目名	基礎演習：日本近代文学				担当教員	須田 千里					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 14192 SJ36						
日本近代の短篇小説の名手、芥川龍之介の作品を読むことを通じて、日本近代文学を研究する基本的な技法、すなわち、先行文献の探索の仕方、問題意識の設定、論の立て方、説得的な発表の仕方、独自性をいかに出すか、などを学ぶ。 芥川は、典拠や素材を古典文学・外国文学などに求め、それを自らの問題意識に添って改変することによって、独自の文学世界を作り上げた作家である。受講生は、自分が担当した作品について先行論文を捜し、自分独自のアプローチを行いながら、それを自分の言葉で発表することが求められる。ほかの受講生は、当該作品に関して素朴な疑問や発表内容への質疑を通じて、批判的読解力の養成を行う。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名				西欧近現代表象文化論 IA				担当教員		水野 眞理													
配当学年		2-4 回生		単位数		2		開講期		前期		曜時限		月 4		授業形態		講義		使用言語		日本語	
授業の概要・目的										No.U・HUM32 24224 LJ36													
本科目ではイギリス文学作品とその文化的背景をなす歴史・政治テクストを精読することを通して、古典古代以来の西欧文化の多様性とその相互作用を考察し、イギリス文化の特質を解明する。																							
今年度は英国ルネサンス期における書簡文学を取り上げる。 従来の英文学研究でとりあげられる書簡といえば、書簡体小説と、作家の書簡が中心であった。しかし作家の書簡には、本人の没後に出版されたものの他に、作家が自ら公刊した書簡も存在する。後者は差出人、受取人ともに実在の人物であるという点ではノンフィクション的であるが、一方、個人の真情を綴ったものというより公を意識したものという点ではフィクション的である。それは、現代におけるブログ公開にも似て、「私」の領域を公けにすることに見られる自己顕示、自己弁護、韜晦、承認への欲求に満ちている。 本授業では古代ローマに始まるこの書簡出版から、中世イタリアを経てこのジャンルがいかにルネサンスの英国で用いられたかを追ひ、文学がそこから生まれてくる個と公、フィクションとノンフィクションの怪しい境界に光を当てたいと考えている。同時に、メールやメッセージをやりとりする現代の履修者には、書簡に特有の文体、表現への意識を高めてもらいたい。																							

授業科目名	西欧近現代表象文化論 IIA				担当教員	池田 寛子					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 24226 LJ36						
テーマ「イギリス地域文化の基盤としてのケルト的伝統」											
イギリス諸島における言語的、文化的な多層性についての理解を深め、多元性を維持することの意義を考える。											
本講義は英語の教職免許の必修科目です。											

授業科目名	西欧近現代表象文化論 IIIA				担当教員	家入 葉子					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 24336 LJ37						
アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の発達過程を包括的に学びます。また、古英語・中英語のいくつかの文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、現代英語の背景について学びます。											

授業科目名	西欧近現代表象文化論 III B				担当教員	家入 葉子					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM32 24337 LJ37						
アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の発達過程を包括的に学びます。また、古英語・中英語のいくつかの文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、現代英語との実践的な比較を行います。											

授業科目名	西欧近現代表象文化論 IVB				担当教員	桂山 康司					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24231 LJ36						
テーマ：英詩史上の諸問題											
英詩史は可能か、という根本問題から、英詩のリズム、様々な詩形の発達とその特徴、ギリシア・ローマ古典文学との関係など、英詩史上の諸問題を考察する。											

授業科目名	西欧近現代表象文化論演習 IIA				担当教員	池田 寛子					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34341 SJ36						
「アイルランドの詩歌、文化、歴史」をテーマとする。											
前期はアイルランドのノーベル賞詩人 W.B. Yeats (1865-1939) の作品を中心に、 1 9 世紀末から 2 0 世紀にかけての名詩を精選して読む。											
作品が生まれた歴史的、社会的背景を理解するための補足資料、朗読、映像資料などを適宜用い、作品の理解を深める。ケルトの民話、伝説、神話に取材した作品については、物語世界の源流をたどる。											

授業科目名	西欧近現代表象文化論演習 IIB				担当教員	池田 寛子					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34342 SJ36						
「アイルランドの詩歌と物語」ー 伝統の再生と変容											
アイルランドの二人のノーベル賞文学賞詩人 W.B. Yeats (1865-1939)とシェイマス・ヒーニー (Seamus Heaney, 1939-2013) の作品を中心に、その他の愛唱されてきたアイルランドの詩歌、傑作とされるアイルランド語詩の英訳などを紹介し、これをじっくりと丁寧に読み解く。											
作品が生まれた歴史的、社会的背景を理解するための補足資料、朗読、映像資料などを適宜用い、作品の理解を深める。											
文学作品の創作にインスピレーションを与えてきた神話、伝説、民話を視野に入れ、伝統の再生と変容の有り方を検討する。											

授業科目名	西欧近現代表象文化論演習 IIIB				担当教員	水野 眞理					
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24344 SJ36						
『フランケンシュタイン』とは何なのか											
本演習では、文学・文化および周辺諸分野の資料を読む訓練を通じて、読解・分析能力を養う。											
今年度は英国 19 世紀初頭の Mary Wollstonecraft Shelley によるゴシック小説 Frankenstein を講読する。本作品はパロディをふくめ幾度となく映画化されたこともあり、そのタイトルを知らぬものはないほど有名である。その一方、実際に作品を読んだことのある人は多くない。Frankenstein とは誰のことであるかさえ、誤って考えられていることが多い。通俗的な理解をされがちな作品でありながら、多くの文化・文学研究論文の対象ともなっている。本作には複数の版があり、翻訳の多くは第三版を用いているが、演習では、先入観を捨てて作品の初版に直接あたってみよう。											

授業科目名	西欧近現代表象文化論演習 IVA				担当教員	桂山 康司					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34345 SJ36						
英語という言語並びにその背景にある文化の多様性を理解し、英語が使われている国・地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深める。											
参加者一人一人が異なる多様な文化的背景を持つ者としての自覚を持ちつつ、英語で書かれた異なる文化的背景を持つ文章の理解について相互に意見を述べあい、相互の感じ方の相違について議論による交流を行うことを通じて、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解できる場とする。											

授業科目名	西欧近現代表象文化論演習 IVB					担当教員	桂山 康司										
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 3	授業形態	演習	使用言語	日本語						
授業の概要・目的					No.U-HUM32 34346 SJ36												
英語という言語並びにその背景にある文化の多様性を理解し、英語が使われている国・地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深める。																	
参加者一人一人が異なる多様な文化的背景を持つ者としての自覚を持ちつつ、英語で書かれた異なる文化的背景を持つ文章の理解について相互に意見を述べあい、相互の感じ方の相違について議論による交流を行うことを通じて、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解できる場とする。																	

授業科目名	西欧古代・中世表象文化論 IA				担当教員	中畑 正志					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24328 LJ34						
こんにちは「哲学」と呼ばれる営みは古代ギリシアにおいて形成された。その形成の現場に遡って、哲学とはどのような営みであったのか、その原型を確認し、現代の哲学のあり方を再考する。											

授業科目名	西欧古代・中世表象文化論 IB				担当教員	中畑 正志					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM32 24329 LJ34						
こんにちは「哲学」と呼ばれる営みは、ソクラテスとプラトンを通じて、思想的にも社会的にも確立されるに至った。彼らの思索とその問題をたどり、哲学の一つの基本的あり方を見届ける。											

【文化環境学系】

*各授業科目の「到達目標」、「授業計画と内容」、「履修要件」、「成績評価の方法・観点及び達成度」、「教科書」、「参考書等」、「授業外学習（予習・復習）等」、「その他（オフィスアワー等）」の詳しい内容については、KULASIS からシラバスを閲覧してください。No.は科目ナンバリングです。

授業科目名	文化環境学入門A					担当教員	中嶋 節子・増井 正哉・藤原 学・風間 計博・岩谷 彩子・小島 泰雄・小方 登・山村 亜希・梶丸 岳				
配当学年	1,2 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM40 10041 LJ39.U-HUM40 10041 LJ40.U-HUM40 10041 LJ74						
文化環境学系の文化・地域環境論関係の教員による入門編のリレー講義である。 本領域を構成する環境構成論・地域空間論・文化人類学のそれぞれの分野に固有の研究主題と方法論を概略的に紹介する。 統一テーマは特に設けない。さらには、課題によっては、それらの諸分野を縦断する研究学習方法によって可能となる研究例などを紹介することもある。											

授業科目名	文化環境学入門B					担当教員	太田 出・勝又 直也・赤松 紀彦・岡 真理・小倉 紀蔵・中筋 朋				
配当学年	1,2 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM40 10042 LJ36.U-HUM40 10042 LJ38.U-HUM40 10042 LJ31						
比較文明論諸分野の基礎的な理論と知識を、各担当教員が具体的なテーマをとりあげて概説します。											

授業科目名	ユーラシア文化複合論A				担当教員	帯谷 知可					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26111 L3J1						
「中央ユーラシア研究の現在」 ここでは、「中央ユーラシア」とはおおむねかつてソ連に属した中央アジアと南コーカサス（南カフカースの国々、すなわちウズベキスタン、カザフスタン、クルグズスタン（キルギス）、タジキスタン、トルクメニスタン、アゼルバイジャン、アルメニア、グルジアの領域を指すこととする。この地域は、古代からの遊牧民の活躍、テュルク化とイスラーム化の進展、さらには非ロシア・非スラヴ地域として長らくロシア帝国・ソ連体制のもとにあったこと、社会主義的近代化の経験など、共通の歴史的経験を持つ。この授業では、1991 年のソ連解体以降、それぞれの形で社会主義体制からの脱却と新たな国家・社会の再編が試みられている、この興味深い地域の現在をよりよく理解するための視座を提供することを目的として、ソ連解体以降の研究動向を紹介しながら、近現代史と現代の問題群を往還する。個別の事例としては、中央アジア、特にウズベキスタンに重点を置く。											

授業科目名	文化交渉複合論A					担当教員	勝又 直也				
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26115 LJ36.U-HUM41 26115 LJ31						
中世ユダヤ人が生み出したヘブライ文学の精読を通して、マイノリティであったユダヤが、ギリシャ、イスラーム、ヨーロッパといったマジョリティ文化とどのように関わっていたのかを考察する。											

授業科目名	文化交渉複合論B					担当教員 勝又 直也					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26116 L J36.U-HUM41 26116 L J31						
中世ユダヤ人が生み出したヘブライ文学を通して、マイノリティであったユダヤが、ギリシャ、イスラーム、ヨーロッパといったマジョリティ文化とどのように関わっていたのかを考察する。											

授業科目名	文化交渉複合論演習 A				担当教員		勝又 直也				
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26159 SJ37						
ヘブライ語は、古代では一神教の元祖であるユダヤ教の聖書の言語として、中世では各国でマイノリティとして生きるユダヤ人の共通語として、現代ではイスラエルの国語として用いられている言語です。 どの時代のことを学ぶにも、現代ヘブライ語から習得するのが早道です。 この授業では、現代ヘブライ語の初級を学びます。											

授業科目名	文化交渉複合論演習B				担当教員	勝又 直也					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM41 26160 SJ37						
ヘブライ語は、古代では一神教の元祖であるユダヤ教の聖書の言語として、中世では各国でマイノリティとして生きるユダヤ人の共通語として、現代ではイスラエルの国語として用いられている言語です。											
どの時代のことを学ぶにも、現代ヘブライ語から習得するのが早道です。											
この授業では、現代ヘブライ語の初級を学びます。											

授業科目名	東アジア比較思想論A				担当教員	小倉 紀蔵					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26203 LJ31.U-HUM41 26203 LJ34						
【授業のテーマ】 自我・文明・生命											
【授業の概要・目的】 自我という概念を西洋思想の枠組みから解放し、東アジア思想の領域にまで広げて多角的に考察してみる。その際、純粋に哲学的な視座のみから考えるのではなく、文明論や生命論という領域にまでまたがって分析する。具体的には、「多重主体性 (multisubjectivity)」という概念を提示し、これによって自我・文明・生命の問題を地球的視野で考えてみる。											

授業科目名	東アジア比較思想論B				担当教員	小倉 紀蔵					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26204 LJ31.U-HUM41 26204 LJ34						
【授業のテーマ】 〈第三の生命〉論											
【授業の概要・目的】 〈第一の生命〉〈第二の生命〉〈第三の生命〉という三つの生命観によって、東アジアや西洋の諸思想・諸現象を再解釈してみる。本講義で〈第一の生命〉とは、われわれが日常的に「生命」といっている、生物学的生命、肉体的生命である。しかし生命はこれだけではない。宗教でいう「霊的生命」「永遠の生命」など、普遍的でスピリチュアルな生命がある。これを〈第二の生命〉と名づけることにする。〈第三の生命〉とは、〈第一の生命〉でも〈第二の生命〉でもない〈いのち〉である。それは、何らの実体も持たず、人と人、人とモノなどの〈あいだ〉に偶発的に立ち現われる〈いのち〉なのだ。この〈第三の生命〉は、人類が今まで明確に認識してこなかった生命観である。しかし、実はわれわれはこの生命とともにあり、この生命の立ち現われによって生きている。このことへの気づきをもとにしながら、新しい生命論のパラダイムを構築するための作業をする。											

授業科目名	東アジア比較思想論演習 A				担当教員	小倉 紀蔵					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM41 26260 SJ34						
【授業のテーマ】 鈴木大拙 コロンビア大学講義録を読む											
【授業の概要・目的】 鈴木大拙（1870～1966）は日本を代表する世界的な仏教学者。特に禅と浄土真宗に対する独創的な解釈、および禅的な観点からの独自の日本文化論で知られる。海外では「Zen」という言葉で禅の哲学をひろめ、1950年代に米国の諸大学で行った講義や英語版の書籍は、米国知識界に強い影響を与え、のちの対抗文化（カウンター・カルチャー）の源流のひとつとなったといわれる。この授業では、大拙が1952年と53年に米国コロンビア大学で行った講義録（英語）を読む。禅に対する大拙独自の解釈を理解し、それがいかなる理由で当時の米国知識界にインパクトを与えたのかを考える。											

授業科目名	東アジア比較思想論演習B				担当教員	小倉 紀蔵					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26261 SJ34						
東アジア思想・文化に関する研究の方法論を習得し、実際に論文を執筆するための様々な指導をする。具体的には、毎回、学生が論文内容の発表をしてそれに対する質疑応答、論評を参加者全員で行う。											

授業科目名	ポストコロニアル思想文化論A				担当教員	岡 真理					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26205 LJ36.U-HUM41 26205 LJ31						
テーマは「思想としてのパレスチナ」。しかし、ここでいう「パレスチナ」とは、単に地理的なパレスチナと、そこで生起しているパレスチナとイスラエルの紛争のみを指すのではない。「パレスチナ問題」とは、パレスチナに移植された「ユダヤ人問題」であり、その淵源はヨーロッパ・キリスト教社会の歴史的宿痼たるユダヤ人差別と近代のレイシズム、そして植民地主義にある。その意味で「パレスチナ」と東アジアの近現代は歴史の地脈によって繋がっている。 1948 年、パレスチナ人はナクバ（パレスチナの民族浄化）によって、故郷を追われ、祖国を喪失し、第二のユダヤ人となった。それから 70 年以上が過ぎて、パレスチナ難民は国連に難民登録しているだけでも 500 万。イスラエルによる東エルサレムを含むヨルダン川西岸地区とガザ地区の占領は、半世紀を超えた。さらに 2007 年から完全封鎖が続くガザ地区には、200 万の住民が 12 年にわたり閉じ込められている。 パレスチナとは何か、パレスチナ人とは何か、パレスチナ問題とは私たちにいかなる思想的問を提起しているのか、人間の生きられた経験を通して考える。											

授業科目名	ポストコロニアル思想文化論演習A				担当教員	岡 真理					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26262 SJ36.U-HUM41 26262 SJ31						
テーマは「思想としてのパレスチナ」。しかし、ここでいう「パレスチナ」とは、単に地理的なパレスチナと、そこで生起しているパレスチナとイスラエルの紛争のみを指すのではない。「パレスチナ問題」とは、パレスチナに移植された「ユダヤ人問題」であり、その淵源はヨーロッパ・キリスト教社会の歴史的宿痼たるユダヤ人差別と近代のレイシズム、そして植民地主義にある。その意味で「パレスチナ」と東アジアの近現代は歴史の地脈によって繋がっている。 70 年前の 1948 年、パレスチナ人はナクバ（パレスチナの民族浄化）によって第二のユダヤ人となった。今期の授業では、イラン・パペ『イスラエルに関する十の神話』をテキストに、パレスチナとイスラエルの問題とは実際にはいかなる問題であり、パレスチナ人のナクバが、単なる過去の出来事ではなく、形を変えて現在進行形で継続していることを学ぶ。											

授業科目名	ポストコロニアル思想文化論演習B				担当教員		岡 真理				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 5	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的				No.U-HUM41 26263 SJ36.U-HUM41 26263 SJ31							
パレスチナ問題、思想としてのパレスチナをはじめ、アラブ文学、ポストコロニアルの思想文化をテーマに、各自、自身の研究テーマを設定し、個人研究をおこなう。											

授業科目名		ポストコロニアル思想文化論基礎ゼミナール				担当教員		岡 真理			
配当学年	1,2 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 2	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 16184 SJ36.U-HUM41 16184 SJ31						
テーマは「思想としての難民」。文学作品や映画などの「表象」を通して、難民とは何か、人間が難民に「なる」とはどういうことか、難民として「生きる」とは何か…等々、現代世界に生きる人間の思想的な問題として「難民」について考えます。文学作品や映像などのテキストを読み、あるいは観て、それについて考察し、それをレジュメにまとめ発表し、みなで議論することで理解を深め、それをさらに言語化してレポートを書くという一連の演習作業を通じて、大学における学びの基礎的なスキルを養います。											

授業科目名	アラビア語原書講読演習					担当教員	岡 真理				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26270 SJ36.U-HUM41 26270 SJ31						
アラビア語の現代小説を精読します。 シリアのクルディスタン出身のクルド人作家、ジャン・ドストがクルド語で書き、自身でアラビア語に翻訳した長編歴史小説『幸福なマルティン』（原著 2012 年、翻訳 2015 年）を講読します。18 世紀初頭、30 年戦争で疲弊したヨーロッパ。ドイツの片田舎に暮らす青年マルティンは、オリエントにあるという「幸福の秘薬の書」を求めて、オスマン帝国下の東方世界へ旅立ちます。その遍歴の果てに、彼は何を見出したのか。現代世界を蝕む原理主義の暴力を、18 世紀のオスマン帝国下の中東世界を舞台に、ヨーロッパ人青年の数奇な人生を通して描いた作品です。 母音符号のふっていない現代アラビア語の文章、とくに文学作品のアラビア語に触れ、テキストを味わいながら読む力を養うと同時に、歴史小説に仮託して著者が描こうとした、人間存在と現代世界のありようについて考えます。											

授業科目名	アラビア語原書講読演習				担当教員				岡 真理		
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26270 SJ36.U-HUM41 26270 SJ31						
アラビア語の現代小説を精読します。 前期に引き続き、シリアのクルディスタン出身のクルド人作家、ジャン・ドストがクルド語で書き、自身でアラビア語に翻訳した長編歴史小説『幸福なマルティン』（原著 2012 年、翻訳 2015 年）を講読します。18 世紀初頭、30 年戦争で疲弊したヨーロッパ。ドイツの片田舎に暮らす青年マルティンは、オリエンにあるという「幸福の秘薬の書」を求めて、オスマン帝国下の東方世界へ旅立ちます。その遍歴の果てに、彼は何を見出したのか。現代世界を蝕む原理主義の暴力を、18 世紀のオスマン帝国下の中東世界を舞台に、ヨーロッパ人青年の数奇な人生を通して描いた作品です。 母音符号のふっていない現代アラビア語の文章、とくに文学作品のアラビア語に触れ、テキストを味わいながら読む力を養うと同時に、歴史小説に仮託して著者が描こうとした、人間存在と現代世界のありようについて考えます。											

授業科目名	東アジア文化交渉論 A				担当教員	太田 出					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26213 LJ38.U-HUM41 26213 LJ31						
中国近世の訴訟と地域社会。											
明清時代を対象とする中国近世の法制史研究では、近年、地域社会において実は訴訟を起こすこと自体がかなり身近なものであり、「健訟」（盛んに訴訟を行う）と呼ばれるような状況が現出していたことが明らかにされている。本講義では、明清時代の裁判機構、法典、裁判文書について概要を説明した後、明清時代の裁判の性格をめぐる議論を整理しながら、地域社会の秩序形成を紛争と調停、判決の性格といった視点から捉えなおしてみる。史料としては、基本法典のほか、行政最末端の地方官庁レベルの裁判史料、さらに司法官が自らの名裁きを誇示するために出版した判決集＝判牘を用いることにする。											

授業科目名	東アジア文化交渉論 B				担当教員	太田 出					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM41 26214 LJ38.U・HUM41 26214 LJ31						
近世東アジアにおける東西文化交渉の実態について宗教・民間信仰を事例として取り上げる。たとえば唐代中国に信仰されるようになった関羽はその後、宋代・元代をへて、明清時代には全国神へと発展を遂げる。その要因の一つとして注目すべきは軍事行動との関わりである。明代ならば東南沿海地帯における倭寇の襲来、清代ならば乾隆帝の十全武功、太平天国の乱の鎮圧などがあげられる。しかし関羽信仰は満洲や漢地のみにかぎられず、乾隆帝がユーラシア世界に跨がる巨大な版図を形成すると、チベット・モンゴル・新疆へも伝播し、それぞれの地域において他文化との接触・融合・変容を進めていく。本授業では、そうした一連の過程を追いながら東西文化交渉の一端を考えてみることにしたい。											

授業科目名	東アジア文化交渉論演習 B				担当教員	太田 出					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26269 SJ38.U-HUM41 26269 SJ31						
中国・日本・台湾などを中心とする東アジアの東西文化交渉——今年は特に海洋に着目する——に関わる文献（研究書、論文、史料）を講読する。受講生は必ず予習し、担当者はレジュメを作成して参加すること。この授業を通じて、東アジアの東西文化交渉に関する総合的な知識を養い、文献史料の読解力を身につけるとともに、文献史料をどのように扱うかといった実証的な分析力をも養うことを目的としている。											

授業科目名	東アジア比較芸能論 B					担当教員	赤松 紀彦				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26122 LJ35						
明代伝奇『白羅衫』をとりあげ、明代伝奇の演劇としての特徴を論じる。											

授業科目名	東アジア比較芸能論演習 A				担当教員	赤松 紀彦					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26165 SJ36						
中国におけ民間信仰と芸能の関わりについて論じた論文を読みすすめる。											

授業科目名	東アジア比較芸能論演習 B				担当教員	赤松 紀彦					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26166 SJ36						
中国における民間信仰と芸能の関わりについて論じた論文を読みすすめる。											

授業科目名	比較パラダイム文明論A				担当教員	中筋 朋					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM41 26125 LJ36						
近代都市が成立し、科学技術の進歩の速度が急激に早くなった 19 世紀末は、思想・芸術の大規模な再編成の時期のひとつである。この時代について考察することは、逆に近代的な共同体や自己の概念が大きく揺るがされている現代を考えるうえでも大きな手がかりとなる。本講義では、演劇理論の分析を主軸としながら、この時代を読み解いていく。まずはじめに 19 世紀末と現代とのつながりを、特に象徴主義の現代性を中心に論じたあと、19 世紀末フランスの象徴主義演劇理論を参加者とともに分析しながら、この時代の自己の概念の変容と芸術のあり方との関連を考えていく。											

授業科目名	比較パラダイム文明論演習 A				担当教員	中筋 朋					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26169 SJ36						
19 世紀末のヨーロッパにおける表象システムの再編を考える材料として、フランス語および英語の文献の講読をおこなう。今年度は、ジャック・ランシエールの『美学的無意識』とカール・D・ウィッティの『象徴主義小説における自己の概念』を中心に読み、その内容について論じる。											

授業科目名	比較パラダイム文明論演習B				担当教員	中筋 朋					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 26170 SJ36						
19 世紀末のヨーロッパにおける表象システムの再編を考える材料として、フランス語および英語の文献の講読をおこなう。フランス語文献は、ヴァレリー・ミシュレ＝ジャコーの『象徴主義小説一意識過剰の芸術』を、英語文献は前期に引き続きカール・D・ウィッティの『象徴主義小説における自己の概念』を取り上げて参加者の発表を通じて講読を進め、その内容について論じる。 後期は、論文準備中の学生がいる場合には、研究発表も交えながらおこなう。											

授業科目名	基礎演習：東洋史入門				担当教員	太田 出					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 3	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM41 16178 SJ38						
アジア史（東洋史）の基礎的な知識を身につけ、また自分の言葉で発表・表現ができるよう練習することを目的とする。具体的には、受講生全員に『世界史リブレット』（山川出版社）1冊を読んでもらい、レジュメを作成、30～40分ほどで簡単な内容と読後感を発表してもらい、さらに30～50分ほど質疑応答を行う。質疑応答にはしっかり応えられるよう発表者には下調べ・準備が求められる。											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	環境構成論 II					担当教員	小野 健吉				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 3.月 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26217 Lj74						
飛鳥時代から近代にいたるまでの庭園について、文献資料・絵画資料・発掘調査成果等を用い、原則的に時代順にその実像を紹介する。この授業の目的は、日本の庭園の歴史と文化を知り、そのことによって日本の文化に対する理解を深めることである。											

授業科目名	環境構成論 III					担当教員	増井 正哉				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26139 LJ74						
いわゆる町づくり・村づくりにおいて、景観の保存・整備を中心に据えた取組が、世界各地で見られるようになってきた。日本の都市計画・地域計画において、とくに「景観」の重要性が指摘されるようになったのは1970年代からであるが、「景観法」など、実際にその制度的メニューが整備されてくるのは今世紀に入ってからである。「文化的景観」に代表される、景観に対する新しい見方／考え方も広く知られるようになってきている。ただ、その一方では、各地から「景観問題」が変わりなく聞こえてくる現状があり、積極的な保存整備の結果として地域の特徴が失われてしまった例も少なくない。 この授業では、「生業と景観」、「民族性・地域性と景観」、「景観の歴史的層性」など、景観保全と整備に関する実践的取組のなかで、また建築学・都市計画学等の関連領域において議論されている今日的課題について紹介し、保全・整備の制度設計のあり方を考えていく。											

授業科目名	環境構成論Ⅳ				担当教員	中嶋 節子					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26140 Lj74						
「景観」は人間の営みの結果として立ち現れる。建築物や土木構造物によって構成される市街地景観はもちろんのこと、それらを取り巻く、あるいはそれらの中に取り込まれる山や森林、河川といった自然景観もまた、それぞれの時代の生活や社会、思想を映し出すものとして存在する。ここでは、わが国において景観がいかに扱われ、そしていかに変容してきたのかについて、建築史、都市計画史、造園史、景観工学などの視点から歴史的にたどり、その性格を分析することで、生活環境としての「景観」の意味を考究する。とりわけ、近代における「景観」の意識変化、まなざしの転換を、西洋文化との出会い、近代化と風景観との関係、近代都市計画の影響などから検討する。											

授業科目名	環境構成論実習 II					担当教員	小野 健吉					
配当学年	2・4 回生		単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 3.月 4	授業形態	実習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM42 26172 PJ74							
近代に造営された庭園の現地見学を通じて庭園空間と周辺景観との関係ならびに視点移動に伴う庭園景観の変化などを実感させ、その実感と理解を基にしたレポートを作成させる。このことにより日本の庭園の空間構成ならびに空間演出の技術について実感を通じて深く理解させるのが、本授業の目的である。												

授業科目名	環境構成論実習 III				担当教員	増井 正哉					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 3	授業形態	実習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26176 PJ74						
テーマ：歴史的環境の保存活用計画の作成											
歴史的環境の保存と活用は、地域の再生・活性化にあたって、当たり前前のツールとなってきた。実際、各地でその取組と成果が見られる。行政的なメニューも出そろってきた。ただ、その一方では、様々な形で継承されてきた歴史遺産（歴史的環境の構成要素）の再評価が十分ではなく、新しい整備事業のなかで価値が失われてしまう例や、有形・無形の歴史遺産相互の関連づけが行われず、活用が適切に行われていない例が数多く見られる。この実習では具体的な歴史的市街地・集落を対象を設定し、対象地区における歴史遺産の再評価の方法、遺産相互の関係性に重点をおいた活用のあり方に重点を置きながら、保存活用計画を作成する。この年度は、古代中世の遺跡を地区内にもつ奈良の歴史的集落の調査・計画作成を予定している。											

授業科目名	環境構成論実習 IV				担当教員	中嶋 節子					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 2	授業形態	実習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26177 PJ74						
建築史、都市史、造園史、都市工学、美術史などの諸分野における都市景観、形態をめぐる論考を講読し、「景観」の生成の契機、社会的・文化的背景、その変容について考察する。加えて現地見学を行い、現在の都市に歴史的痕跡を見出すことで、現在に至る景観変容の過程を把握する。景観形成の歴史的理解は、現在の景観問題を考える前提として重要である。											

授業科目名	環境構成論特別演習 A					担当教員	中嶋 節子・増井 正哉				
配当学年	4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2.木 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM42 46342 SJ74						
環境構成論は都市・集落・建築を対象に、その現代的課題、歴史的課題および普遍的課題について考察する分野である。この授業では、ゼミ形式の演習を通じて、構成論分野における論文作成にあたっての基本的な知識・方法論を習得することを目的とする。											

授業科目名					環境構成論特別演習 B		担当教員		中嶋 節子・増井 正哉														
配当学年		4 回生		単位数		2		開講期		後期		曜時限		木 2.木 3		授業形態		演習		使用言語		日本語	
授業の概要・目的							No.U-HUM42 46343 SJ74																
環境構成論は都市・集落・建築を対象に、その現代的課題、歴史的課題および普遍的課題について考察する分野である。この授業では、環境構成論演習 A の内容を受けて、ゼミ形式の演習を行い、構成論分野における論文作成にあたっての実践的な知識・方法論を習得することを目的とする。																							

授業科目名	社会人類学演習 A				担当教員	岩谷 彩子					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM42 26144 SJ40						
声（音）や身ぶりといった、身体と直結するコミュニケーションの様式は、有史以来人類にとって重要な相互行為の次元を形成してきた。しかし、文字文化や言語に依拠した近代文明と学問体系の発展は、この身体と直結するコミュニケーションを十分理論化することなく、理性や文明の辺境におとしめてきた。近年の心身二元論の見直しや身体への着目は、そのような課題に応えるものである。本講義では、人類が用いる複数のコミュニケーションの様式の違いと思考様式の現代的な様相について、特に音楽を対象とした文献を購読することで探求する。											

授業科目名	社会人類学演習B				担当教員 岩谷 彩子						
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26145 SJ40						
本講義では、音楽・舞踊とジェンダーの関係について、明らかにすることを目指す。従来の芸能研究では、芸能表現の分析やその社会的背景の言及に終始し、ジェンダーの視点はマージナルなものにとどまってきた。例えば、なぜ特定の音楽や舞踊について芸能従事者のジェンダーに偏りがみられるのか、あるいは、女性の芸能従事者がキャリアを続けていくうえでの障害については、個別の事例研究に留まってきた。本講義では、男性と女性の役割の違いが家族的価値のもとで語られてきた地域（地中海沿岸、バルカン諸国、南アジア）の音楽と舞踊に関する研究を参照しながら、ジェンダーの視点で芸能を研究する際の視座を獲得し、そこで挙げられてきた問題点について批判的に検討する。											

授業科目名	文化人類学演習A				担当教員	風間 計博					
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 36344 SJ40						
文化人類学およびその隣接領域から英文の文献を選び、履修生が輪読して議論する。担当者が自ら選択した章を要約し、関連文献を紹介しながら疑問点や問題点を抽出して考察し、レジュメにまとめて発表する。今期は、紛争後の失望や民主主義に関わる政治人類学に関するエスノグラフィをとりあげる。											

授業科目名	文化人類学演習 B					担当教員	風間 計博				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 36345 SJ40						
文化人類学およびその隣接領域から英文の文献を選び、履修生が輪読して議論する。担当者が自ら選択した章を要約し、関連文献を紹介しながら疑問点や問題点を抽出して考察し、レジュメにまとめて発表する。今期は、グローバル化した現代世界をいかに人類学的に捉えることが可能かを題材とした、民族誌事例を取り入れた書物をとりあげる。											

授業科目名	文化実践論 B					担当教員	石井 美保				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 36216 LJ40						
文化実践論は、人々の日常的実践に焦点を当てた文化・社会人類学である。この講義では、各自が関心をもつ文化人類学のテーマについて受講者が発表を行い、参加者全員でのディスカッションと、講師による解説を中心に授業を進める。受講者は授業を通して人類学的なテーマに親しむだけではなく、発表とディスカッションを通してテキストの読解能力を深め、フィールドワークの方法等を積極的に身につけることが期待される。また、たとえば 2015 年度は「アクティヴィズムと人類学的介入」、2016 年度は「ナショナリズムとアイデンティティ」、および「マテリアリティと記憶」、2017 年度は「身体と技術」、2018 年度は「運動、統治、市民性」をめぐる問題が中心テーマとなったように、出席する受講生の問題関心に即して授業のサブ・テーマが自発的に構成されていくことも、本授業の特色である。											

授業科目名	生態人類学演習 A				担当教員	高田 明					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26150 SJ40						
生態人類学は、人々の生活を環境の諸要素との緊密な相互関係の総体として把握することを目指している。本演習では、生態人類学およびその関連分野（文化人類学、言語人類学、生態心理学、哲学など）の文献を題材とした討論を行うことを通じて、これから環境認識、環境の利用、環境に対する権利について研究していくための論点を整理する。2019 年度は、ほぼ同時代（20 世紀半ば～20 世紀後半）に活躍した 2 人の研究者、Pierre Bourdieu と Gilles Deleuze に関連する邦訳文献を集中的に検討することを通じて、生態人類学が登場する土壌となったポスト構造主義時代の思想的状況について考える。											

授業科目名	生態人類学演習B				担当教員	山越 言					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26151 SJ40						
自然環境の保全が、現代社会が直面する重要な現実の問題であることに疑問の余地はない。しかしながら、保全／保護すべき「自然」とはなにか、という問題は暗黙的に自明視され、議論されることは多くない。本演習では、人類学およびその関連分野における、「自然」をめぐる古今の諸言説（風土／風景／景観論、環境哲学、風景画論、ネイチャーライティング、エコロジー思想、探検・アルピニズム、博物学、保全生態学、構造人類学、観光人類学など）を題材に討論し、理解を深める。											

授業科目名	文化人類学方法A					担当教員	風間 計博				
配当学年	4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM42 46245 SJ40						
文化人類学の研究では、フィールドワークによる資料収集が不可欠である。 本演習では、フィールドワークの方法、資料収集に関わる実践の問題をとりあげ、資料分析の定性的方法、定量的方法の実際を学ぶ。 個々の履修生の問題関心に沿って、具体的事例を検討しながら進める。											

授業科目名	文化人類学方法B				担当教員	風間 計博					
配当学年	4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM42 46246 SJ40						
文化人類学の研究にフィールドワークは必須である。 本演習では、フィールドワークにおける収集資料の分析から考察、さらに民族誌記述を行うまでの過程を学ぶ。人類学における既存の理論的問題を、いかに具体的な資料の分析結果とつぎ合わせることが可能か、具体的事例に基づいて考える。											

授業科目名	社会人類学方法A				担当教員	岩谷 彩子					
配当学年	4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 46247 SJ40						
社会人類学の基礎的な理論にもとづき、受講生がフィールドワークや文献資料によって得た資料を分析し、論文にまとめる方法を取得することを目的とする。											

授業科目名	社会人類学方法B				担当教員	岩谷 彩子					
配当学年	4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 46248 SJ40						
社会人類学の基礎的な理論にもとづき、受講生がフィールドワークや文献資料によって得た資料を分析し、論文にまとめる方法を取得することを目的とする。											

授業科目名	地域空間論 I B					担当教員	小島 泰雄				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM42 26208 LJ39						
都市と農村の関係について、中国を対象として考える。 現代中国においては都市と農村が截然と分けられてきたが、それがいかに形成・変容されてきたかについて、主に地理学的な視角から具体的に検討してゆく。											

授業科目名	地域空間論 IIB				担当教員	山村 亜希						
配当学年	2・4 回生		単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26136 Lj39							
現在の景観は、長きにわたる自然環境と人間社会との相互作用を通じて生成されたものである。歴史的建造物や遺跡が残っていないくても、景観にはその地域固有の歴史と地理が刻印されている。このような歴史地理学の視角を前提として、本授業では、現在の景観の中に歴史地理の痕跡を見出し、その特性を考える。 この授業は、現代の地域の「前史」を知ることをゴールとするものではない。現代の諸地域がどのような特性を持っているのか、その地域性の形成要因・メカニズムとは何かといった、地域を探究する視点・方法を身につけることを目的とする。 授業では、①戦国～近世初期の都市景観を復原し（景観復原図の作成）、②その後の（主に近代以降の）景観変化を地図上で見出し（新旧地形図の読図）、③現地を歩いて、現在を規定する過去の空間構造と地域性を考察する（巡検・景観観察）。この3点は、歴史地理学のオーソドックスな方法である。 以上より、本授業では、畿内とその近国の戦国～近世初期（16～17世紀）の城下町・港町を事例として、①景観復原図の作成、②読図、③巡検の方法で、その後身である現代の都市景観にアプローチする。①については、文献史料や絵図等の歴史資料を具体的に提示し、その史料批判を講義するので、それをふまえて、受講生自身が景観復原図を作成する。さらに、その復原図を元に、戦国～近世初期の歴史的意義や地域的特性について、講義を行う。②については、明治から大正、昭和、平成の地形図をもとに、受講生が読図を行い（人数に応じてグループで）知見を発表する。それを総括しつつ、空間構造の変遷と立地環境の変化について、講義を行う。これらをふまえて、休日を使って、実際に現地に赴いて、③の巡検を行う。 前半では、①～③を教授者が主として行うが、後半では、資料収集から作図、読図、城下町絵図の史料批判と収集、復原図の作成、発表資料の作成に至るまで、受講生が役割分担をして行い、その成果を発表する。巡検のときには、役割分担に応じて解説を行う。 このように本授業は、実習的要素が多い。地図を作り、読み、歩くという人文地理学の基礎的な3つの実践を通じて、歴史地理学の醍醐味と地域の多様性を実地で学んで欲しい。												

授業科目名	地域空間論 IIIA				担当教員	小方 登					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26137 LJ39						
地理情報をコンピュータで処理・表示するためのモデル化についてその原理を講じる。地理情報処理の実例として地形データ（デジタル標高モデル：DEM）および衛星画像の処理・分析を主に取り上げる。地形図が利用できない地域でも利用できる DEM や衛星画像は、グローバルなスケールで有効な地理情報ソースとして位置づけることができる。コンピュータを利用した実習も含む。											

授業科目名	地域空間論 IIIB				担当教員	小方 登						
配当学年	2・4 回生		単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26138 LJ39							
地形データ（デジタル標高モデル：DEM）や空中写真・衛星画像の遺跡探査や歴史景観復原などへの応用事例を取り上げ、説明する。このような研究を外国で行う場合、地形図や空中写真等のデータの入手性に制約されがちであったが、近年はグローバルなデータも利用可能となったので、中国やシルクロード地域を対象地域として重点的に取り上げる。DEM や衛星画像を分析するため、地理情報システム（GIS）として QGIS を利用する。												

授業科目名	地域空間論Ⅳ					担当教員	松田 隆典				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26109 LJ39						
日本と米国の地域構造とその形成過程について実証的な地域研究の立場から考える。とくに、地域構造の変化を近代化・現代化という視点で分析することをめざす。地域の見方として、ナショナルスケールによる地域的特色の概観とその代表的な事例としてのリージョナルスケールの 2 つの視座から究明する。											

授業科目名	地域空間論演習Ⅰ				担当教員	小島 泰雄					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26152 SJ39						
「地域を考える」とは、どのような知的営為なのだろうか。地理学が培ってきた方法や技法の習得を通して、地域に着目する意味と意義について理解を深めることが、この授業の目的である。具体的な地域（2011 年度は「亀岡市」、2012 年度は「宇治市」、2013 年度は「久御山町」、2014 年度は「長岡京市」、2015 年度は「城陽市」、2016 年度は「八幡市」、2017 年度は「木津川市」、2018 年度は「舞鶴市」）を定めて、受講生が協同して調査研究を行うことで、地域を考える多様なアプローチに触れる。											

授業科目名	地域空間論演習 II				担当教員	山村 亜希					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26153 SJ39						
歴史地理学は過去を扱う地理学である。その方法の一つに、歴史資料（文献史料・地図資料・考古資料・伝承等）を地図化するというものがある。歴史資料を地理情報に変換して地図化することは、資料の解釈や評価の可能性を大きく広げること に役立つ。さらに、歴史資料を地図の中に位置づけると、資料に描かれた地域が、単なる舞台としての役割以上を持っていたことに気づくだろう。 歴史地理学は、①地域環境や景観を叙述した歴史資料（テキスト）を歴史的な脈の中で正確に読み（講読）、②その中の地理情報を地図化し（復原図の作成）、③その後の地域構造の展開を把握した上で（新旧地形図の読図）、④現地を詳細に歩き、景観を観察して（巡検）、歴史資料と現在の地域構造の関連を考える。本演習は、この①～④の視点と方法を身につけることを目的とする。 講読対象とするテキストは、織田信長の同時代の伝記の『信長公記』である。いずれも 16 世紀の戦国時代の日本を描く。『信長公記』には、信長の出身地である尾張はもちろん、信長の転戦した美濃、伊勢、近江、京都、摂津等についての戦国末期の景観が、断片的ながら描出されている。このテキストに叙述された多様な豊かな情報を、地図に照らして歴史地理学の方法で「見える」化すれば、織田信長の軍事行動、戦略、家臣団の構造、戦国末期の合戦の展開、村落や都市と戦国大名との関連、城下町建設・経営の具体像、戦国末期の自然環境などについて、新たな発見もできるだろう。戦国のダイナミックな歴史を生き生きと叙述する『信長公記』は、比較的読みやすい。現代語訳本も多々出版されており、講読の参考になる。本授業の焦点は、講読よりも地図の活用にあるので、歴史資料にこれまで触れた経験がない人でも、臆せず受講してほしい。 本授業では、受講生がテキストを分担して、①講読、②復原図の作成、③読図し、その成果をレジュメとしてまとめて発表する。それについて、全員で討論を行い、修正・補足点や同時代の地理情報について講義を行う。その上で、より詳細に復原図を作成できる地域について、休日に半日程度の④巡検を行う。											

授業科目名	地域空間論演習 III				担当教員	小方 登					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26154 SJ39						
地理学の研究に関連して、各自の関心に基づき研究論文の購読・発表を行う。また地理データの処理・分析を実習する。野外実習の機会も設ける。											

授業科目名	地域空間論演習 IV				担当教員	小方 登・小島 泰雄・山村 亜希					
配当学年	4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM42 46341 SJ39						
テーマ：卒業論文のための地理学の方法論											
地域空間論研究室は、その学問的基盤を人文地理学に置いている。研究室に所属する学生は各自、さまざまな専門領域を学際・融合的に学んできたが、卒業論文を作成するにあたってその核となるのが人文地理学である。この演習では人文地理学の方法を通覧し、使えるようになることをめざす。											

授業科目名	基礎演習：地域地理学				担当教員	小島 泰雄					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 16179 SJ39						
テーマ：地域を共感的に理解するー中国をフィールドとしてー											
地域は多様で重層的です。その多様性は、近代には地理教育として学びの対象に据えられました。そしてグローバル化が進展する現在、世界はフラット化するという楽観論とは裏腹に、地域の持つ意味、そして地域を理解する意味はむしろ増大しています。地域地理学は地域を調べ、考え、そして伝えることに取り組んできましたが、この授業では、地域地理学の基本的な方法をめぐって、中国をフィールドとして、作業とディスカッションを軸にゼミナールを行います。そして海外の地域に関する「共感的理解」とは何か、どうやって共感的理解にたどり着くか、を考えてゆきます。											
※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：地理情報				担当教員	小方 登					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 16180 SJ39						
地理情報処理およびコンピュータ・マッピングの応用。 現実の地理データに基づいて、コンピュータ・グラフィックスを用いた図化と分析の実習を行う。mapRaster2, MANDARAなどの無料もしくは安価に利用できるソフトを利用し、地形・土地利用・衛星画像・人口・経済指標などの各種地理データをコンピュータにより分析する。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：歴史地理学				担当教員	山村 亜希					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 16181 SJ39						
「地図から考える地域の歴史と現在」											
本授業は、日本各地の現在と過去の地図を比較し、地域の特性を考察する、歴史地理学の入門ゼミである。 授業では、(1) 京大周辺や京都東北部の江戸・明治・大正・昭和・平成の様々な時期の地図を比較し、地域の変遷・成り立ちを考える読図の練習を行う。 (2) それをふまえて、京大周辺の身近な場所のフィールドワークを行う。地図を片手に、今の景観の中に過去の痕跡を探して地図化し、その意味を現場で考える。 (3) 受講生それぞれが、日本各地から対象地を選び、地図資料室に所蔵された地形図の中から、その地の異なる 3 時期の明治～平成の地形図を準備する。それらを着色しながら比較し、地域の特性とその変化について、レジュメを作成して発表を行う。 地域の新旧地図を比較すると、歴史から現代社会まで、その土地の様々な姿が浮き彫りになる。地図帳や地図、旅行が好きな人、高校の地理が得意だった人に限らず、多くの人に、この授業を通じて、読図の面白さと有効性を学んでほしい。一般的に入手が難しい江戸時代の絵図や、明治・大正期や昭和期の古い地形図のコピーを入手できるのも、この授業のメリットである。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：文化人類学調査法					担当教員	風間 計博				
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 16182 SJ40						
フィールドワークは、文化人類学における必須の資料収集方法である。本演習は、文化人類学のフィールドワーク法を体得する準備段階に位置づけられる。そのため、段階を踏んで、初歩的なフィールドワークの経験を積むことが、本演習の概要である。 まず、準備作業としての事前情報収集、人類学的な主題設定と計画立案を行う。つぎに、教員が受講生を引率して、実際に調査地（近畿圏）に泊り込みで出かけ、一次資料を収集する。今年度は7月6日（土）～7月7日（日）を予定している。日程等の詳細については、受講生との相談により決定する。さらに、収集資料をまとめて考察し、口頭発表する。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：社会人類学調査法				担当教員	岩谷 彩子					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 16183 SJ40						
社会人類学という学問は、調査者（人類学者）が異なる環境に身を置きみずからの身体変容を通して、自己や他者、文化や社会についての新たな認識を得る営みである。人類学的調査は、参与観察をともなうフィールドワークという手法によって行われ、その産物はエスノグラフィと呼ばれる。本講義では人類学的思考とフィールドワークの方法論をふまえたうえで、近年注目を集めている「もの」をめぐる人類学的探究を紹介する。その主眼は、近代的な主体の概念や人間中心主義を再考することにある。本授業での目的は、授業での発表とそれにもとづくレポート執筆を通して、人類学的方法論を実践的に身につけ、ものをめぐる人類学的アプローチがもつ現代的意義を理解することにある。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

【自然科学系】

*各授業科目の「到達目標」、「授業計画と内容」、「履修要件」、「成績評価の方法・観点及び達成度」、「教科書」、「参考書等」、「授業外学習（予習・復習）等」、「その他（オフィスアワー等）」の詳しい内容については、KULASIS からシラバスを閲覧してください。No.は科目ナンバリングです。

授業科目名	自然科学入門				担当教員	阪上 雅昭・廣戸 聡・瀬戸口 浩彰・石川 尚人					
配当学年	1,2 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 10071 LJ14						
自然科学についての基礎知識を理解するための入門科目として、物理学、化学、生物、地学の各分野から重要な話題を選び講義する。それを通じて、私たちをとりまく宇宙・地球・生態系、そしてそれらを構成する物質・情報が自然科学的な観点からどのように理解されているか解説する。自然科学系を目指す学生には、学問内容を理解する入門的な講義として広く知識を得る助けとなるよう、他の学系を目指す学生には、自然科学全般の概念を理解する助けとなることを目指す。											

授業科目名	分野を横断する自然科学					担当教員	高木 紀明・吉田 寿雄・宮下 英明・酒井 敏				
配当学年	1,2 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 19202 LJ57.U-HUM50 19202 LJ69.U-HUM50 19202 LJ14						
自然科学の入門科目である「分野を横断する自然科学」では、分野を異にする複数の担当教員が相互に連携し、つながりのあるテーマでリレー講義を行う。自然科学は細切れの知識の集約ではなく高校理科の 4 区分を超えたものであり、先端研究が分野を広くまたがる学問であることを認識し、自然を支配する科学の普遍性を学び取ることを目標とする。											

授業科目名		地球と生命の起源と進化				担当教員		小松 直樹・酒井 敏・小木曾 哲・加藤 真・宮下 英明			
配当学年	1,2 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM50 19206 LJ58.U・HUM50 19206 LJ60.U・HUM50 19206 LJ69						
「起源と進化」という挑戦的なテーマに、地学（酒井、小木曾）、化学（小松）、生物（加藤、宮下）の各分野の教員が、それぞれの切り口からリレー形式で講義を行う。 ビッグバン直後の元素の創生から、地球の誕生と進化、地上での分子進化から最初の生命の誕生、さらにはその進化に至る137億年の歴史を地学、化学、生物の視点から学ぶ。											

授業科目名		体験から学ぶ超伝導				担当教員		藤原 直樹・吉田 鉄平・森成 隆夫・小山田 明・大槻 太毅			
配当学年	1,2 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 19205 LJ57						
自然科学において、超伝導は魅力ある現象の1つである。この超伝導現象について、あまり予備知識を仮定せずに、現象に親しむ事を第一の目標にして学ぶ。講義だけでなく、電気抵抗の消失やマイスナー効果などの実演を多数行う予定である。											

授業科目名	量子力学Ⅰ					担当教員	木下 俊哉				
配当学年	2-4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29203 LJ57						
ミクロの世界の物理法則である量子力学の入門的な講義を行う。粒子性と波動性、シュレディンガー方程式と波動関数、物理量と期待値など、量子力学の基礎的な部分の習得を目指す。											

授業科目名	量子力学Ⅱ					担当教員	藤原 直樹				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39204 LJ57						
量子力学Ⅱは、中級の量子力学を取り扱う。シュレディンガー方程式の導出（量子力学Ⅰ）に続く、量子力学の基礎諸項目について解説する。											

授業科目名	物性物理学ⅠⅠ					担当教員	高木 紀明				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39208 LJ57						
巨視的な数の原子と電子からなる物質の多様な性質を記述する物性物理学について基礎を学ぶ。											

授業科目名	統計力学				担当教員	森成 隆夫								
配当学年	3,4 回生		単位数	2	開講期	後期		曜時限	月 5		授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39131 LJ57									
物理学の基礎科目の一つである、統計力学を理解することを目標とする。物性物理学に関する応用例についても講義する。														

授業科目名		物質分析論				担当教員		杉山 雅人				
配当学年	2・4 回生		単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 3	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29119 LJ61							
化学分析を行う際の基礎となる、化学平衡、イオン平衡、溶液内反応論などの分析化学の基礎と応用について講義する。												

授業科目名		物質機能論				担当教員		内本 喜晴			
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	金 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29125 LJ60 物質の機能、特に無機機能性材料の電気化学デバイスへの応用について概説する。						

授業科目名	物質構造論				担当教員	田部 勢津久					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29126 LJ60.U-HUM50 29126 LJ62.U-HUM50 29126 LJ75						
光エレクトロニクス（情報通信、処理、記録技術、光電変換）の発展は、固体レーザ、誘電体結晶、光ファイバ、半導体、発光ダイオード LED、太陽電池等、様々な光機能性無機固体材料の開発とその性能向上によって支えられている。本講義ではまず、その光機能性発現の基礎となる無機物質を構成する原子の電子オービタル、無機結晶の構造を学ぶ。また結晶構造と機能の関係、諸物性、特に光学的性質を決定する因子、および固体物質の作製方法などを学ぶ。物質、特に無機材料の結晶構造と物性、機能性の関係の基礎、およびエレクトロニクス、フォトンクス応用について解説する。現代文明・テクノロジーの基礎を支える先端材料・デバイスの基本原理への理解を深め、新材料開発のために必要な基礎学理を修得する。											

授業科目名				物質反応論				担当教員		梶井 克純													
配当学年		2・4 回生		単位数		2		開講期		前期		曜時限		火 2		授業形態		講義		使用言語		日本語	
授業の概要・目的								No.U-HUM50 29134 LJ60															
化学結合論、構造化学および化学反応論について講義する。これらの応用として大気化学を扱い、化学基礎理論の理解を深める。																							

授業科目名		物質変換論				担当教員		吉田 寿雄			
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29136 LJ61.U-HUM50 29136 LJ62.U-HUM50 29136 LJ76						
人間社会・環境に貢献する触媒化学の基礎と応用、及び関連の学問について講義する。											

授業科目名	分子構造論				担当教員	小松 直樹					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	木 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29127 LJ60						
種々の有機化合物の反応をその構造と性質を含めて体系的に理解することを目的とする。本科目では特に、芳香族化合物、アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン等を取りあげて講義を進める。											

授業科目名	分子反応論				担当教員	藤田 健一					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29128 LJ60						
分子構造論（前期）に引き続いて、種々の有機化合物の反応をその構造と性質を含めて体系的に理解することを目的とする。本科目では特に、カルボニル化合物、カルボン酸、カルボン酸誘導体、ニトリル、アミン等を取りあげて講義を進める。											

授業科目名	フロンティア化学					担当教員	藤田 健一・高橋 弘樹・上田 純平・坂本 陽介・山本 旭・新林 卓也				
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 19129 LJ60						
科学技術の発展とともに、「化学」の研究対象はより細分化され、多岐にわたって私たちの生活を支えている。本授業では最先端の化学研究の紹介・解説を通じて、様々な分野における自然科学の知識や理解を深めるとともに、現代社会が抱える問題点に対して、「化学」がなし得る貢献や役割に関して講義する。											

授業科目名	生体分子機能論Ⅰ				担当教員	土屋 徹						
配当学年	2・4 回生		単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29137 LJ69							
生物を構成する多様な分子の構造、機能、代謝などについて理解することを目的とする。												

授業科目名	生体分子機能論 II					担当教員	宮下 英明				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 4	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29138 LJ69						
光合成反応は、地球生物圏の維持・恒常性に不可欠である。本講義では、地球生態系における光合成の重要性、光合成を行う生物の多様性、光合成の分子メカニズムとその多様性について論じる。											

授業科目名	細胞生物学A					担当教員	千坂 修				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29120 LJ69						
細胞生物学を生化学との関わりを含めて学ぶ。											

授業科目名	細胞生物学B				担当教員	吉村 成弘					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM50 29121 LJ69						
細胞内で進行する様々な生体反応を分子レベルで理解する。 特に下記の項目を集中的に扱う。 ・タンパク質の構造と機能の関係 ・核酸の高次構造形成の分子基盤 ・分裂期染色体の形態変化に関する分子基盤											

授業科目名	分子細胞生物学特論					担当教員	宮下 英明・千坂 修・吉村 成弘・土屋 徹・神川 龍馬				
配当学年	3,4 回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	月 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39139 LJ69						
分子生物学、細胞生物学の研究に必要な知識を身につける。											

授業科目名		自然史特論				担当教員		加藤 真・瀬戸口 浩彰・宮下 英明・市岡 孝朗・西川 完途・幡野 恭子・阪口 翔太・佐藤 博俊			
配当学年	3,4 回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水 1	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39111 LJ69						
分類学・系統学・生態学・行動学などのマクロ生物学の分野の古典的な研究や最先端の研究を紹介しつつ、一方で論文の読みあわせを行いながら、生物の自然史の理解を深める。											

授業科目名	生物適応変異論Ⅰ				担当教員	西川 完途					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29140 LJ69						
両生類を中心に動物界の構成員について、種および遺伝子レベルでの多様性（変異）の実態を紹介し、それが生じた要因（適応）を考察する。同時に、多様性の危機の実態と、保護・保全についても論じる。											

授業科目名	生物適応変異論 II				担当教員	瀬戸口 浩彰					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29201 LJ69						
植物は、いったん発芽した場所から動くことが出来ない生き物です。快適な生活場所を求めて移動が出来る動物とは大きな違いがあります。つまり、植物は生育環境に「適応」して「変わる＝進化する」ことが、生き残るために必要な生き物なのです。 この講義では、光・気温・標高・水・土壌・栄養などの環境に対して、植物がどのように「生き残り戦略をたてているか」を学習します。そして、これに対する対話を通して、サイエンスの考え方を涵養することを目的とします。 さらにもうひとつ：植物は地域ごとに適応進化しています。だから、たとえ同一の種でも地域ごとに維持することが生物多様性を守るうえで大切です。この講義では「総人」だからこそ取り組んできた「環境を守るサイエンスと社会での実践」についても扱い、皆さんに考えてもらいます。											

授業科目名	生物多様性・生態学				担当教員	加藤 真・市岡 孝朗					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29124 LJ69						
地球にはどのような生物多様性があり、それがどのような変遷をとげてきたのか、生物多様性はどのように形作られ、どのように維持されているのか、生物多様性はどのような危機に直面しており、そのような危機から脱するためにはどのような方策が必要なのか、といったテーマに生態学の立場から答えることを目的としている。											

授業科目名	基礎物理学演習				担当教員	森成 隆夫・渡邊 雅之					
配当学年	2・4 回生	単位数	4	開講期	後期	曜時限	金 3.金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM50 29263 SJ57						
物理学の基礎科目である力学および電磁気学に関する問題演習を行う。											

授業科目名	物理数学演習				担当教員	吉田 鉄平・小西 隆士・大槻 太毅					
配当学年	3,4 回生	単位数	4	開講期	後期	曜時限	金 3.金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39161 SJ57						
物理学を習得する上で、数学は重要なツールである。物理学に必要な数学のうち、基本的なものを身につけ、実践的に使えるようになることが、この授業の目的である。											

授業科目名	量子力学演習					担当教員	木下 俊哉・小山田 明				
配当学年	2・4 回生	単位数	4	開講期	前期	曜時限	水 3.水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM50 29264 SJ57						
ミクロの世界の物理法則である量子力学は、古典物理学にはない概念や考え方、数式が多数現れる。これらを習得するには、座学のための学習では十分ではなく、自分の手を使って問題を解くことが重要となる。本演習では、量子力学の基本的事項を演習問題を通して学習し、実際に使えるようになることを目指す。											

授業科目名	物質構造機能論演習 B					担当教員	田部 勢津久・上田 純平				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29246 SJ60.U-HUM50 29246 SJ62.U-HUM50 29246 SJ75						
名著"Physical Ceramics"を講読することにより、無機固体物質の結晶構造、物性、機能に関する基礎知識を習得し、自然科学英語に馴れると同時に、関連する演習も行う。											

授業科目名	物質構造機能論演習C				担当教員	内本 喜晴					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	金 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29247 SJ60 物質の機能、特に無機機能性材料の電気化学デバイスへの応用について概説する。特に、無機固体材料の設計のために必要な固体化学についての演習を行う。						

授業科目名	物質構造機能論演習D				担当教員	梶井 克純・坂本 陽介					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM50 29251 SJ60 大気環境問題で重要なオゾン層破壊問題、光化学オキシダント問題などを学ぶために必要な化学の基礎として、分子と光の相互作用、分子の励起状態と緩和過程、光化学反応論について学ぶ。						

授業科目名	分子構造機能論演習 A					担当教員	津江 広人・高橋 弘樹				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM50 29241 SJ60 有機化合物の構造解析に広く用いられている機器分析法の原理を解説するとともに、各種スペクトルに含まれる情報から有機化合物の構造を決定するための演習を行う。						

授業科目名	分子構造機能論演習 B					担当教員	廣戸 聡・新林 卓也				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	水 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29242 SJ60 有機化合物の構造決定、物性解析に必要な NMR などのスペクトル解析について演習型の講義を行う。講義を通して、知識を身につけるとともに実際の有機化合物の構造解析について論理的に説明できるようになる。						

授業科目名	分子細胞生物学演習				担当教員	土屋 徹					
配当学年	2・4 回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火 5	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29243 SJ69						
生命現象を分子レベルで解析するためには、さまざまな研究手法が必要とされる。本演習では、生命科学における基礎的な知識および研究手法の理解を主たる目的とする。											

授業科目名	分子細胞生物学演習					担当教員	千坂 修・吉村 成弘				
配当学年	2・4 回生	単位数	4	開講期	通年集中	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM50 29243 SJ69						
生命科学に関する原著論文（英語）を読み、内容を理解する。 論文に記載された実験・解析法等を深く掘り下げて調べ、それらの原理を理解する。											

授業科目名	自然史演習					担当教員	西川 完途						
配当学年	2・4 回生		単位数	4	開講期	通年		曜時限	火 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29244 SJ69								
動物の自然史の研究手法について演習する。主に両生類を題材として、種レベル、遺伝的レベルでの生物多様性、史的時間を通じての生物環境動態について議論をし、理解を深めあうことを目指す。													

授業科目名	自然史演習				担当教員	加藤 真・市岡 孝朗					
配当学年	2・4 回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	木 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29244 SJ69						
生物相互の種間関係、生物の個体群や群集の動態、生物の系統や進化、生態系の維持機構、生物多様性の現状とそれを保護するための方策などのテーマについて、研究紹介や論文講読を行なうとともに、研究計画の検討や、研究の経過報告、研究を進展させるための議論などを行なう。											

授業科目名	自然史演習				担当教員	瀬戸口 浩彰・阪口 翔太					
配当学年	2・4 回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	火 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29244 SJ69						
生物の自然史(とくに植物)に関する文献の購読や研究発表、これに対する討論を通して、研究の進め方や考え方を涵養することを目的とする。											
【対象となる内容】 ①植物(ときには動物も対象とする)の種内の進化, ②進化をもたらす様々な遺伝子の変異, ③系統地理*, ④絶滅危惧植物の保全。											
*系統地理学とは、地球上の様々な場所に生息する生物種が、どのような歴史的経緯を辿って、現在のような地理的分布を得てきたのか、現在の生息環境に見られるように至ったのかについて、主にDNAデータの解析から明らかにしていく学問領域のこと。											
【履修によって得られると見込まれる知識と思考】 植物(生物)の進化, 植物の環境適応, 系統地理学, 系統分類学, 光や温度受容などの主要な遺伝子の機能と、これが種内分化をもたらす機構, 保全生物学, 第四紀の気候変動と日本の植生の変遷, 新しいことを探求する思考											

授業科目名	自然史演習					担当教員	宮下 英明				
配当学年	2・4 回生	単位数	4	開講期	通年	曜時限	水 5	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM50 29244 SJ69						
微生物自然史に関する文献や最近の研究動向に関する話題の提供によって、微生物を中心とした生物の多様性や生態、系統・分類、進化についての理解を深めること、また、実際の研究の結果や発表に対する討論を通して、自然史研究の計画策定、進め方、結果のまとめ方に関する考え方を涵養することを目的とする。											

授業科目名	地球科学演習 A				担当教員	酒井 敏・石川 尚人・小木曽 哲・加藤 護						
配当学年	2・4 回生		単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29248 SJ58 演習・実習を通して、地球の姿や地球上での地学的な諸現象に、興味を持ち、納得してもらう事を目指す。							

授業科目名	地球科学演習 B					担当教員	酒井 敏・小木曽 哲・加藤 護					
配当学年	2・4 回生		単位数	2	開講期	後期	曜時限	月 2	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29249 SJ58							
演習・実習を通して、地球の姿や地球上での地学的な諸現象に興味を持ち、理解を深めることを目指す。												

授業科目名	地球科学演習C					担当教員	酒井 敏・石川 尚人・小木曽 哲・加藤 護					
配当学年	2・4 回生		単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29250 SJ58							
地学現象は野外で起こっている。 野外において、観測によりその現象を捉えることやその痕跡が残る現場を観察することを通じて、地学現象を「体感」し、地球科学に関連する諸現象への興味と理解を深める。												

授業科目名	課題演習：（物理科学）レーザー物理学				担当教員	木下 俊哉					
配当学年	2・4 回生	単位数	4	開講期	前期	曜時限	月 3.月 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39171 SJ57						
レーザーによる原子の冷却実験では、電磁気学、光学、量子力学の知識をもとに開発された、光に関する様々な技術が使われています。本演習では、まず輪読形式のゼミナールでレーザーや光学、原子と光との相互作用に関する基礎的な理論を文献によって理解した後、半導体レーザーの光源を製作します。これを飽和吸収分光に応用して原子のスペクトルを観測、レーザーの発振周波数の制御に利用します。レーザーと光学系の組み上げ、自動制御のための電子回路の製作を通して、冷却原子の実験に必要な技術の初歩を習得するだけでなく、基礎的な物理学がいかにサイエンスの研究現場に応用されているのかを体感してもらうことを目標とします。											

授業科目名	課題演習：(物理科学) 光電子分光				担当教員	吉田 鉄平・大槻 太毅					
配当学年	2・4 回生	単位数	4	開講期	後期	曜時限	月 3.月 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39253 SJ57						
パソコンなどの電子機器や LED 照明は、物質中の電子の挙動を量子力学に基づいて理解し、応用することで実現している。物質には電気を流しやすいもの（金属）と、流しにくいもの（半導体、絶縁体）があるが、このような電気的性質は物質中の電子がもつ、量子力学的な状態から理解できる。本演習では物質の電子状態を調べる実験手法である「光電子分光法」に関する学習を行う。固体の内殻準位や価電子帯の構造を測定しデータ解析を行う。また電子状態の理論的基礎や計算方法についても学習し、実験と理論の両面から物性に関する理解を深め、物質に対する感覚を養う。											

授業科目名	課題演習：(物理科学) 物理の基礎 A				担当教員	阪上 雅昭					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39175 SJ57						
いわゆる物理学に限らず、地球科学や他の自然科学また社会科学においても物理的な概念や手法が役立つことが多い。そこで、本課題演習では、これらの応用も念頭に置き、物理学の基本的概念の理解と数理的手法の習得をその目的とする。											

授業科目名	課題演習：（物理科学）物理の基礎 B				担当教員	阪上 雅昭					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 3	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39176 SJ57						
いわゆる物理学に限らず，地球科学や他の自然科学また社会科学においても物理的な概念や手法が役立つことが多い．そこで，本課題演習では物理の基礎Aに引き続き，これらの応用も念頭に置き，物理学の基本的概念の理解と数理的手法の習得をその目的とする．											

授業科目名		課題演習：物質の構造と機能				担当教員		杉山 雅人・田部 勢津久・内本 喜晴・梶井 克純・ 吉田 寿雄・上田 純平・坂本 陽介・山本 旭			
配当学年	2・4 回生	単位数	8	開講期	前期	曜時限	月 3.月 4.火 3.火 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39151 SJ60.U-HUM50 39151 SJ61.U-HUM50 39151 SJ62						
無機物質の構造、組成、性質、変化、機能に関する基礎的ならびに発展的実験を行う。このことによって、無機物質の化学に関する知識と実験技術を習得し、卒業研究を行う基礎を養う。											

授業科目名		課題演習：分子の構造と機能				担当教員		小松 直樹・津江 広人・藤田 健一・廣戸 聡・高橋 弘樹・新林 卓也			
配当学年	2・4 回生	単位数	8	開講期	後期	曜時限	月 3.月 4.火 3.火 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39152 SJ60						
有機化合物の合成・単離と構造決定、およびそれらの反応、機能、物性についての実験と演習を行うことにより、有機化学的実験手法を修得し、有機分子と分子集合体の性質に関する理解を深める。											

授業科目名	課題演習：生物学				担当教員	加藤 真・瀬戸口 浩彰・宮下 英明・市岡 孝朗・千坂 修・吉村 成弘・土屋 徹・西川 完途・幡野 恭子・神川 龍馬・阪口 翔太・佐藤 博俊					
配当学年	2・4 回生	単位数	8	開講期	通年	曜時限	金 3.金 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39153 SJ69						
ミクロからマクロまで、生物学のさまざまな分野の研究の基本的手法と考え方を、室内実験と野外実習を通して学ぶことを目的とする。室内実験では顕微鏡や分光光度計、電気泳動装置、シーケンサーなどの使用方法をも学ぶ。野外実習では、フィールド調査における心構えや自然との接し方、危険の回避方法、自然や生物のナチュラルヒストリーの基本などをも学ぶ。											

授業科目名		課題演習：地球科学 A				担当教員		鎌田 浩毅・酒井 敏・石川 尚人・小木曾 哲・加藤 護			
配当学年	2・4 回生	単位数	4	開講期	前期	曜時限	水 3.水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29256 SJ58						
地球科学に関する基礎的な実験と演習を行なう。実験・演習を通して、関連のある基礎的な知識／手法等の習得を目指す。											

授業科目名	課題演習：地球科学 B				担当教員	鎌田 浩毅・酒井 敏・小木曾 哲・加藤 護					
配当学年	2・4 回生	単位数	4	開講期	後期	曜時限	水 3.水 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 29257 SJ58						
地球科学に関する基礎的な実験と演習を行なう。実験・演習を通して、関連のある基礎的な知識／手法等の習得を目指す。											

授業科目名	計算地球物理学入門				担当教員	酒井 敏					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM50 29210 LJ58						
数学は難しい？たしかに大学の抽象的で美しい数学は、高校の数学と世界が違う。そして、とても敷居が高く感じるかもしれない。でも、それはこの世の具体例と結びつくことに気が付いていないからだ。現世のさまざまな具体的ことがらと、この抽象的な数学が結びついた時、世界は一気に広がり、視界が開けてくる。 この講義では、地球上の具体的な現象を通して、数学や物理の使い方を解説する。											

授業科目名	総合フィールド演習				担当教員	杉山 雅人・石川 尚人・梶井 克純・加藤 真・小木曾 哲・酒井 敏・阪上 雅昭・瀬戸口 浩彰・宮下 英明・市岡 孝朗・西川 完途・阪口 翔太					
配当学年	1・4 回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 19255 SJ14.U-HUM50 19255 SJ60.U-HUM50 19255 SJ69						
多面的・複合的に自然を見る眼を養う。自然を研究題材とするフィールド科学の楽しさと難しさに触れる。 同一の水域・地域を対象に、物理学・化学・生物学・地球科学からなる多分野による演習と実習を行って、その水域・地域の自然科学的構造と動態を総合的に解析することによって、フィールド科学の知識・技術の基礎と応用を学ぶ。											

授業科目名	自然科学特別ゼミナールⅠ					担当教員	自然科学系教員				
配当学年	3,4 回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 39258 SJ57.U-HUM50 39258 SJ60.U-HUM50 39258 SJ69						
卒業研究のために必要な知識と素養を習得するためのゼミである。 履修登録は集中講義としているが詳細は担当教員と相談すること。											

授業科目名	自然科学特別ゼミナールⅡA					担当教員	自然科学系教員				
配当学年	4 回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 49259 SJ57.U-HUM50 49259 SJ60.U-HUM50 49259 SJ69						
卒業研究を進めて行く上で必要となる知識と素養の修得											

授業科目名	自然科学特別ゼミナール IIB					担当教員	自然科学系教員				
配当学年	4 回生	単位数	2	開講期	後期集中	曜時限	その他	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 49260 SJ57.U-HUM50 49260 SJ60.U-HUM50 49260 SJ69						
卒業研究を進めて行く上で必要となる知識と素養の修得											

授業科目名	基礎演習：日本列島弧の自然と生物多様性				担当教員	加藤 真					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	その他	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 19179 SJ69						
生物学の最新の知見を得たとして、私たちはどれほど、日本の自然を理解したと言えるだろうか？生物多様性とはどのようなもので、守るべき自然とはどのようなものであるか？この授業では、日本列島弧の自然を概説したのち、日本の陸上生態系で最も生物多様性の高い場所の一つである信州の高原において、実際にフィールド調査を通して、自然や生物多様性を見る視点を涵養することをめざす。 具体的には、京都大学での簡単な講義のあと、8月に、木曾にある京都大学木曾生物学研究所において、4泊5日の予定で、フィールド調査を主体にした演習を行なう。実験所からほど近い場所に開田高原があり、そこにはきわめて豊かな植生と、清冽な溪流、そして多様な生物群集が存在する。開田高原において、植物・菌類の分類、花と昆虫の共生関係、植物と菌根菌の共生関係、森林の群集構造と動態、溪流の水生昆虫群集、魚やサンショウウオの生態などの調査を通じて、冒頭の問いに対する答えを見いだす。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：植物野外実習（高山植物の観察）				担当教員	瀬戸口 浩彰・阪口 翔太					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期集中	曜時限	その他	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U・HUM50 19180 SJ69						
自然界には多種多様な植物種があります。しかし皆さんが教室で受ける座学の生物学では、シロイヌナズナのようなモデル植物における知見が植物学の全てであるように勘違いを起してしまうリスクがあります。この授業のテーマは、野生植物を介して「生物多様性」を知る機会を持つことです。多様性の生物学を学ぶことは、将来に様々な環境問題に向き合うことになる皆さんにとって、必ず役に立つ素養であると思います。そして自分の眼で観察をして、厳しい環境下での植物たちの生き方について考えみて欲しいと思います。 この授業では、4月から8月にかけて2回の日帰り実習と座学を行った上で、8月上旬（バックアップ期間終了後）の3日間（二泊三日）を使って、木曾駒ヶ岳の植物を観察します。野外において日本の野生植物の「分類」と「形態」、「環境への適応」について学びます。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名		基礎演習：微生物ってなに？-身の回りの微生物				担当教員		宮下 英明			
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM50 19183 SJ69						
微生物は我々の生活に深く関わりをもつうえ、地球上の物質循環、環境維持に不可欠である。本演習では、入門書「微生物ってなに？」（日本微生物生態学会教育研究部会編著、日科技連 2006）を分担して輪読する。担当学生によるプレゼンテーションや質疑応答、教員による補足を通して、微生物の研究史、構造、種類等の基礎的性状について修得するとともに、細菌を中心に多様性、生理・生態、特性等について学ぶ。 ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

授業科目名	基礎演習：分子細胞生物学入門（英語講義）				担当教員	千坂 修					
配当学年	1-4 回生	単位数	2	開講期	前期	曜時限	月 5	授業形態	ゼミナール	使用言語	英語（日本語補助）
授業の概要・目的					No.U-HUM50 19182 SE69						
生命科学関係の科目の中で、数少ない英語講義の一つです。 分子細胞生物学の入門編で、多くの専門用語の意味、使い方を学びます。日本人の受講生には適宜日本語での解説も行います。											
This is a course taught in English.											
Basic concepts in molecular genetics and cell biology are overviewed using the information obtained from the recent studies in model organisms. The specificities and generalities in the “Life” will be emphasized. ※履修希望者が多い場合は人数制限をすることがあるので、第1回目の授業に必ず出席すること。											

【特殊講義】

*各授業科目の「到達目標」、「授業計画と内容」、「履修要件」、「成績評価の方法・観点及び達成度」、「教科書」、「参考書等」、「授業外学習（予習・復習）等」、「その他（オフィスアワー等）」の詳しい内容については、KULASIS からシラバスを閲覧してください。No.は科目ナンバリングです。

授業科目名	学部特殊講義ⅠB（総合人間学としての精神分析）					担当教員	上尾 真道				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火 4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM11 21510 LJ34.U-HUM11 21510 LJ46						
本講義では精神分析の創始者ジークムント・フロイトの思想を、三つの概念——多重決定、反復、超自我——を中心に、歴史的・思想的に検討していく。フロイトの知的作業をおおむね時系列的に追うことで、その思想体系の概観を提示しつつ、また現代に通ずる哲学的・人間学的論点を析出して議論に伏す。その際、J.ラカン、G.ドゥルーズなど 20・21 世紀フランス思想との突き合わせも行う。											

授業科目名	学部特殊講義 IVA				担当教員	梶丸 岳					
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 4	授業形態	演習	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM42 26212 SJ40						
民族音楽学（音楽人類学）は文化・社会の中における音楽（及び舞踊）を研究する分野である。本講義では民族音楽学の歴史を踏まえつつ、音楽の「スタイル」を捉える基礎的な研究、および現代的状況に応じた音楽の在り方を捉え、場合によっては実社会へとアクティブにかかわっていく応用的な研究について紹介する。以上を通じて民族音楽学の基礎知識と展望を得るとともに、現代を生きる音楽の姿をどのように学問的に論じることが可能かを考えることを本講義の目的とする。なお、本講義では映像資料を活用する。											

授業科目名	学部特殊講義 IVB					担当教員	藤原 学				
配当学年	2・4 回生	単位数	2	開講期	後期	曜時限	木 4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM71 26209 LJ74						
建築は、それを取り巻く経済社会的状況はもちろんのこと、文化的な影響をうけて建造される。本講義は、建築造形に埋め込まれたこうした社会的意味を読み解く能力の習得を目的とする。											

【教員免許状 教科「保健体育」に関する科目】

授業科目名	体育実技Ⅲ（体操種目）					担当教員	金 尚憲				
配当学年	1・4 回生	単位数	1	開講期	前期	曜時限	金 4	授業形態	実技	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM81 11003 PJ26						
器械運動が指導できる技能及び技術の獲得											

授業科目名	体育実技Ⅳ（フットサル・サッカー）					担当教員	久代 恵介				
配当学年	1・4 回生	単位数	1	開講期	前期	曜時限	水 2	授業形態	実技	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM81 11008 PJ26						
本実習ではフットサル種目を通じて、スポーツを生涯にわたり楽しむための知識と技術を身につける。受講者間の相互の関わりを通じてコミュニケーション能力の向上を図るとともに、能動的な運動学習の取り組みによりスキルの向上を目指す。さらに、これらのことがらを他者に教授するために必要となる理論と技能を習得する。											

授業科目名	体育実技Ⅴ（野外キャンプ種目）					担当教員	北尾 岳夫				
配当学年	1・4 回生	単位数	1	開講期	前期集中	曜時限	その他	授業形態	実技	使用言語	日本語
授業の概要・目的					No.U-HUM81 11005 PJ26						
テーマ：野外活動を通じた教育について考える。											
この授業は、教員免許状の取得を予定している学生の履修を前提としている。よって、本授業で重視する点は、自分自身の野外活動技術を身に付けるというよりも、野外活動を通じた教育の意義を考えてもらうことをねらいとしている。加えてもう一点、日常の授業では出会うことのない他学の学生と接することで、同世代の多様性を理解するとともに、コミュニケーションスキルの向上を図っていただきたい。 実際に参加するキャンプは、担当教員が滋賀短期大学で授業として開講している3泊4日のキャンプである。このキャンプにスタッフ、また参加者の両側面から関わっていただく。運営者側、そして参加者側という2つの側面からこのキャンプに関わることで、学校教育の中で実践されるキャンプの運営方法を理解するとともに、野外活動が持つ教育的意義について考察を深めていただきたい。											

教育職員免許状取得について

高等学校、中学校または養護学校の教育職員になることを希望する学生は、教育職員免許法に定めるところにしたがって、大学で所定の単位を修得し所定の手続きを行えば免許状が授与されます。

●●●● 総合人間学部で取得できる免許状の種類及び教科 ●●●●

平成30年度以前入学者

種 類	教 科
中 学 校 一 種	国語・社会・数学・理科・保健体育・英語・ドイツ語・フランス語
高等学校一種	国語・地理歴史・公民・数学・理科・保健体育・情報・英語・ドイツ語・フランス語

平成31年度以降入学者

種 類	教 科
中 学 校 一 種	国語・社会・数学・理科・英語
高等学校一種	国語・地理歴史・公民・数学・理科・情報・英語

●●●● 単 位 の 修 得 に つ い て ●●●●

単位は「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教職に関する科目」に区分され、それぞれ必要な単位を修得しなければなりません。詳細は必ず学生便覧で確認してください。免許状取得希望者は履修カルテ(単位修得状況)を教務掛で配付します。

- ①「教科に関する科目」の単位は、総合人間学部で開講されている授業科目から指定された科目を履修し、単位を修得すること。(各教科の科目表は、教務掛で希望者に配付)
- ②「教科又は教職に関する科目」(平成12年度入学者から適用)は、教科に関する科目及び教職に関する科目の必要単位数を超えて修得した場合、その単位を当該単位として充当する。
- ③「教職に関する科目」の単位は、教育学部で開講されている授業科目から指定された科目を履修し、単位を修得すること。

すべての教科について、「教科に関する科目」「教職に関する科目」のほかに、「日本国憲法」2単位、**体育3単位以上**、**外国語コミュニケーション2単位**、**情報機器の操作2単位**を修得しなければならない。

また、入学年にかかわらず教育学部で開講の「発達科学論(発達心理学)」「人権教育論」を履修しておくことを推奨する。

●●●● 教 育 実 習 に つ い て ●●●●

教育実習は「教職に関する科目」として必修になっています。

教育実習は実習に係る事前及び事後指導(いずれも講義)並びに中・高等学校で行う実習からなっています。

教員職員免許状取得希望者は必ず説明会(3回生時)に参加し、また事前指導を受けたうえで教育実習に参加してください。

なお、教育実習の総括として事後指導を実施しますから、同様に参加してください。いずれについても掲示で周知しますので、各自で確認し、見落とさないように注意してください。

教育実習に参加できるのは学部4回生(中学校免許状取得希望者は3回生からでも可能な場合があります。＜平成12年度入学者から＞)で教育職員免許状取得希望者に限ります。

教育職員免許状取得希望者は、「教科に関する科目」はもちろんのこと、「教職に関する科目」の大部分を3回生までに修得しておかなければなりません。これらの科目が未修得の場合、教育実習に参加できないことがあります。

●●●● 介 護 等 体 験 に つ い て ●●●●

中学校教諭普通免許状取得希望者については、特別支援学校で2日間と社会福祉施設等(保育所を除く)で5日間、合計7日間の介護等体験が必要となります。説明会の開催、申込み手続きについては、掲示により周知します。

学生生活の諸手続きについて

● ● ● ● 窓 口 業 務 時 間 に つ い て ● ● ● ●

月～金曜日 9:00～17:00

[注]土曜、日曜、祝日等の窓口業務は行っていません。それ以外にも行事等により、窓口業務を休止する場合がありますので、掲示に注意してください。

● ● ● ● 学 生 証 に つ い て ● ● ● ●

学生証は、本学の学生であることを証明するもので、常に携帯していなければなりません。附属図書館(中央図書館等)や学術情報メディアセンターの利用証も兼ね、各施設への入退館認証や証明書自動発行機も利用できます。また、京大生協組合員証を兼ねています。諸証明等関係書類の交付時には、学生証によって身分を確認するので提示してください。

● 学生証再交付願

紛失・破損等をした場合は、速やかに教務掛へ再交付を願い出てください。

紛失・盗難・破損時等での再交付は有料となります。あらかじめ京大生協で「学生証再発行クーポン券」を購入のうえ、再交付願(窓口で交付)を提出してください。紛失・盗難の場合は、第三者による悪用を防止するために警察の届出受理番号が必要となりますので、直ちに警察へ届け出て、届出受理番号を控えておいてください。京大生協組合員の方は生協に連絡し、電子マネー機能を停止してください。

改姓名などその他の理由で再交付する場合は、無償の場合がありますので、教務掛に問い合わせてください。

● ● ● ● 修 学 上 の 願 出・届 出 に つ い て ● ● ● ●

● 休学願

疾病その他の理由により、3ヶ月以上修学ができない場合、または既に休学している者が引き続き休学期間の延長をする場合には、速やかに願い出てください。なお、疾病により休学する場合は診断書が必要です。

● 復学願(届)

休学期間内に復学する場合は、以下により速やかに復学願(届)を提出してください。

- ・疾病以外の場合・・・復学届を提出してください。
- ・疾病による場合・・・本学所定の「京都大学復学診断書」により医療機関の診断を受け、その診断書と共に復学を願い出てください。

● 退学願

やむを得ない事情により、退学しなければならなくなった場合には、事前に願い出てください。

休学・退学の願い出は遡及して認められません。必ず事実発生の1ヶ月前までに所定の手続きを経て、教務掛へ願い出てください。願い出が1ヶ月前より遅れる場合は個別にご相談ください。(遅延すると、希望する日付で許可されないことや授業料納付で不利益が生じる場合があります。)

● 海外渡航届

在学中に海外へ行く場合(外国人留学生が一時帰国する場合を含む)に提出してください。

ただし、3ヶ月以上にわたる渡航の場合は、休学を願い出なければなりません。

なお、外国の大学に留学し単位認定を希望するものは、留学前にクラス担任、アドバイザー、指導教員等と相談し、所定の手続きをしてください。

● 住所変更届

本人及び家族の住所が変更になった場合は、速やかにKULASIS上で修正手続きをしてください。

● 改姓(名)届

姓・名が変わった場合は、住民票記載事項証明書を添えて、速やかに届け出てください。

● ● ● ● 転学部について ● ● ● ●

他の学部へ転学部を希望する場合は、毎年9月上旬に掲示で周知しますので、注意してください。

希望する学部の資格照会手続きを経た後、有資格者は出願書類の交付を受け、転学部希望先の教務掛の指示に従ってください。

● ● ● ● 各種証明書の発行について ● ● ● ●

学割証・通学証明書・在学証明書・成績証明書・卒業見込証明書・卒業証明書・健康診断証明書・健康診断結果通知書は、証明書自動発行機により即日発行できます。

卒業証明書は、卒業日からの発行となります。ただし、証明書自動発行機での発行は、卒業月の末日までです。それ以降は、教務掛窓口に応じ込んでください。(学内の大学院進学者は、在学中は証明書自動発行機で発行できます。)

その他の証明書※1(調査書等提出先が指定した様式での各種証明書)、教職免許取得に関する証明書※2は、教務掛窓口での発行となります。

発行までに※1の証明書は2日間程度(土・日・祝日等を除く)、※2の証明書は1週間程度時間を要する場合がありますので、時間に余裕を持って申し込んでください。

● 証明書自動発行機の利用方法について

証明書自動発行機の認証にはECS-ID(学生アカウント)のパスワードを入力してください。パスワードが不明な場合は、学術情報メディアセンター南館窓口へ問い合わせてください。

設置場所、稼働時間等については、掲示またはホームページで確認してください。

● ● ● ● 学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証)の使用について ● ● ● ●

学生の修学上の経済的負担を軽減することにより、学校教育の振興に寄与することを目的とした運賃の割引制度があります。この制度は、学生がつぎの目的等のため、鉄道を利用して片道の営業距離で101km以上の旅行をする際に運賃の割引(割引率はJRの場合2割引)を受けることができます。

JR以外にも近畿日本鉄道、関西汽船等割引制度を行っているところがありますので、当該会社に照会して割引可能な場合は当該会社の指示に従ってください。

- ア 休暇、所用による帰省
- イ 実験・実習などの正課の教育活動
- ウ 大学が認めた特別教育活動または体育・文化に関する正課外の教育活動
- エ 就職又は進学のための受験等
- オ 大学が修学上適当と認めた見学又は行事の参加
- カ 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
- キ 保護者の旅行への随行

- ・学割証の交付枚数は、原則年間15枚以内ですので計画を立てて使用してください。
- ・有効期間は発行日から3ヶ月間です。(ただし、卒業時は卒業月末まで。)
- ・学割証の使用に際しては、定められた諸事項を厳守してください。

*** 記名人以外での使用などの違反をした場合は、多額の運賃追徴があり、以後学割証の発行停止処分(本人だけでなく、大学が発行停止処分を受ける場合もある)などがありますから、決して不正使用しないでください。**

悩みごとの相談窓口について

● ● ● ● 分属、副専攻、進学、就職等の相談について ● ● ● ●

それぞれの相談は、担任・教員アドバイザー・指導教員にしてください。また、教務掛でも相談に応じています。

● ● ● ● 各種の相談窓口について ● ● ● ●

大学生活を送るなかで、みなさんにはさまざまな悩みごとが起こってくるかもしれません。大学として相談を受け付ける相談窓口（「総人人権問題相談窓口」「カウンセリングルーム」）を設けていますから、自分で抱え込んで悩みごとが深刻化する前に相談に訪れてみて下さい。どちらの窓口を訪ねてもかまいません。もちろん、相談の際、秘密は厳守されます。

【総合人間学部／人間・環境学研究科学生相談室】

学業や進路、日常生活の悩みなどを幅広く相談できる場として学生相談室を開設しています。カウンセラー（臨床心理士）が相談にあたります

●場所：総合人間学部棟1階（1104講義室の北隣）

●開室時間：月曜日 13:30～17:30

火曜日 10:00～17:00（13:00～14:00は休室）

木曜日 10:00～17:00（13:00～14:00は休室）

金曜日 13:00～16:00 留学生に対する相談（Counseling for foreignstudents）※H31.4.1現在

●HP https://www.h.kyoto-u.ac.jp/student/consultation/student_counseling_room/

（総人HP 学生向け情報 > 相談窓口 > 学生相談室）

Twitter https://twitter.com/SouJin_CoRoom

【総人人権問題相談窓口】

総人の窓口です。総人教職員が相談員です。

●相談の内容

名前は「人権問題相談窓口」ですが、人権問題に限らず、学生諸君のさまざまな悩み事をひろく受け付けています。

●連絡先

相談員の連絡先は総人のホームページや総人クラスに掲載されていますし、ガイダンス時に配布されるポスター等でもお知らせしています。どの相談員に相談してもかまいません。まず相談員に連絡し、面談の約束をして下さい。

●その他

秘密は厳守されます。男女の相談員がいますので、異性の相談員に相談しにくいような場合でも対処できます。

【カウンセリングルーム】

大学全体のカウンセリングの専門機関です。学生相談、心理相談の専門スタッフが全学学生の相談に応じます。

●相談申し込みの方法

センターまで直接来室されるか、電話にて申し込んでください。手紙やファックス、電子メールでも受け付けます。手紙、ファックス、電子メールの場合、所属、氏名ならびに連絡先を必ず明記してください。折り返し連絡します。また、電子メールの件名には必ず「相談申し込み」の文字を入れてください。

●場所及び連絡先

カウンセリングルーム（<http://www.kyoto-u.ac.jp/counseling/>）は、本部構内附属図書館南側にある赤レンガの建物の1階、西の端にあります。ご連絡・お問い合わせは下記まで。

住所：606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学カウンセリングルーム

電話：075-753-2515 ファックス：075-753-2594

電子メール：counseling@www.adm.kyoto-u.ac.jp

●受付時間

原則として月曜から金曜の午前10時から午後5時まで。

【ハラスメントについて】

もしあなたが、セクシャル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントというような、ハラスメントを受けていると感じているなら、一人で悩まず、誰か信頼できる人に相談することが必要です。大学としては上記ふたつの相談窓口で対応しています。これらの相談窓口では、相談する人の意向を尊重し解決の方向性を探ります。本人や友人だけで解決を図ることは困難なことも多いので、深刻な事態ではぜひ相談に訪れて下さい。相談者のプライバシーには万全の注意を払いますので、安心して相談して下さい。

【障害学生支援ルーム】

障害があるなどの理由により、修学上さまざまな悩みや相談事を抱える学生の支援を行うため設置しています。より良い修学状況をつくるため、他の学生と同じように努力できる環境づくりのために利用して下さい。

- 場所及び連絡先 本部構内 附属図書館南側にある赤レンガの建物1階

電話:075-753-2317 ファックス:075-753-2319

電子メール:s-sien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

- 開室時間 午前9時～午後5時(月曜～金曜 祝日を除く)

その他

● ● ● ● 総合人間学部棟の教室使用について ● ● ● ●

- ①総合人間学部学生が、総合人間学部棟内の講義室、演習室を講義時間以外に使用する場合には、使用者本人(代表者)が使用日の3日前までに学生証を提示し、氏名と連絡先を直接届け出てください。

電話による申込みは、間違いが生じやすくトラブルのもとになるのでいっさい受け付けません。

- ②使用時間は、月曜日～金曜日の午前8時から午後7時までとします。

なお、午後7時以降の使用については、妥当と認めた場合午後9時まで使用を許可することがあります。

また、原則として、土・日曜日、祝日、休業中、定期試験期間中および特に指定された日の使用は認めません。

- ③使用にあたっては、使用者が責任をもって行うものとし、次の事項を遵守してください。

- ・ 館内の設備、器具等を無断で使用し、また移動させないこと。
- ・ 使用後はすみやかに清掃等を行い使用前の状態に復すること。
- ・ 使用目的は勉強会や読書会等に限定し、楽器演奏、合唱や演劇練習は、講義や研究活動および執務の迷惑になるので禁止。
- ・ 教室内での飲食及び構内での喫煙は禁止。

以上の心得に違反した場合は、以後の使用をいっさい認めません

● ● ● ● 吉田南構内の交通規制について ● ● ● ●

マイカーによる通学は原則として認められません。バイク及び自転車はそれぞれ所定の位置に駐車し、みだりにキャンパス内を走り回らないようにしてください。特に、バイクは入構門の近くに設けられている専用駐車場に駐車し、構内の移動にあたってはエンジンを止め、手押し移動を原則とします。

構内では一般道と同様歩行者が絶対優先です。また、車イスの人もいますので、くれぐれもスピードは出さず、これらの人の歩行(移動)の妨げとならないよう十分注意して、お互い安全な構内環境の保持に努めましょう。

教員名簿

この名簿は、総合人間学部を担当する教員について掲載しています。(学系・職名・五十音順)

メールアドレスは、『教員プロフィール』または総合人間学部／人間・環境学研究科ホームページの教員一覧に掲載されています。

● 人間科学系

氏 名	フリガナ	所 属	職 名
安部 浩	アベ ヒロシ	人間・環境学研究科	教 授
大倉 得史	オオクラ トクシ	人間・環境学研究科	教 授
岡田 温司	オカタ アツシ	人間・環境学研究科	教 授
奥田 敏広	オクタ トシヒロ	人間・環境学研究科	教 授
倉石 一郎	クラシ イチロウ	人間・環境学研究科	教 授
佐藤 義之	サトウ ヨシユキ	人間・環境学研究科	教 授
多賀 茂	タカ シゲル	人間・環境学研究科	教 授
田邊 玲子	タナベ レイコ	人間・環境学研究科	教 授
戸田 剛文	トダ タケフミ	人間・環境学研究科	教 授
永田 素彦	ナカタ モトヒコ	人間・環境学研究科	教 授
廣野 由美子	ヒロノ ユミコ	人間・環境学研究科	教 授
松田 英男	マツタ ヒデオ	人間・環境学研究科	教 授
水野 尚之	ミズノ ナオユキ	人間・環境学研究科	教 授
吉田 純	ヨシタ ジュン	人間・環境学研究科	教 授
青山 拓央	アオヤマ タクオ	人間・環境学研究科	准教授
石岡 学	イシオカ マナブ	人間・環境学研究科	准教授
木下 千花	キノシタ チカ	人間・環境学研究科	准教授
栞山 智成	クワヤマ トモナリ	人間・環境学研究科	准教授
小島 基洋	コジマ モトヒロ	人間・環境学研究科	准教授
柴田 悠	シバタ ハルカ	人間・環境学研究科	准教授
武田 宙也	タケタ ヒロナリ	人間・環境学研究科	准教授
松本 卓也	マツモト タクヤ	人間・環境学研究科	准教授
TAJAN, Nicolas Pierre	タジャン ニコラ ピエール	人間・環境学研究科	特定講師
足立 幾磨	アダチ イクマ	霊長類研究所	准教授
内田 由紀子	ウチタ ユキコ	こころの未来研究センター	准教授
楠見 孝	クスミ タカシ	教育学研究科	教 授
熊田 孝恒	クマタ タカツネ	情報学研究科	教 授
積山 薫	セキヤマ カオル	総合生存学館	教 授
藤田 和生	フジタ カズオ	文学研究科	教 授
田中 康裕	タナカ ヤスヒロ	教育学研究科	准教授
山田 剛史	ヤマタ ツヨシ	高等教育研究開発推進センター	准教授
山本 真也	ヤマモト シンヤ	高等研究院	准教授
佐藤 弥	サトウ ワタル	こころの未来研究センター	特定准教授
清家 理	セイケ アヤ	こころの未来研究センター	特定助教
畑中 千紘	ハタナカ チヒロ	こころの未来研究センター	特定助教
梅村 幸太郎	ウメムラ コウタロウ	教育学研究科	特定研究員
蘆田 裕史	アシタ ヒロシ		非常勤講師
上村 博	ウエムラ ヒロシ		非常勤講師
河田 学	カワタ マナブ		非常勤講師
並木 誠士	ナミキ セイシ		非常勤講師
西山けい子	ニシヤマ ケイコ		非常勤講師
堀 潤之	ホリ ジュンジ		非常勤講師
前川 修	マエカワ オサム		非常勤講師
増田 展大	マスタ ノブヒロ		非常勤講師
溝口 佑爾	ミヅグチ ユウジ		非常勤講師
松波 烈	マツナミ レツ		非常勤講師
宮本 匠	ミヤモト タクミ		非常勤講師

● 認知情報学系

氏 名	フリガナ	所 属	職 名
足立 匡義	アダチ タクヨシ	人間・環境学研究科	教 授
石原 昭彦	イシハラ アキヒロ	人間・環境学研究科	教 授
上木 直昌	ウエキ ナオマサ	人間・環境学研究科	教 授
神谷 之康	カミタニ ユキヤス	情報学研究科	教 授
河崎 靖	カワサキ ヤスシ	人間・環境学研究科	教 授
久代 恵介	クシロ ケイスケ	人間・環境学研究科	教 授
神崎 素樹	コウザキ モトキ	人間・環境学研究科	教 授
小村 豊	コムラ ユタカ	こころの未来研究センター	教 授
齋木 潤	サイキ シュン	人間・環境学研究科	教 授
清水 扇丈	シミス センシヨウ	人間・環境学研究科	教 授
角 大輝	スミ ヒロキ	人間・環境学研究科	教 授
谷口 一美	タニグチ カスミ	人間・環境学研究科	教 授
壇辻 正剛	タンツシ マサタケ	学術情報メディアセンター	教 授
立木 秀樹	ツイキ ヒデキ	人間・環境学研究科	教 授
月浦 崇	ツキウラ タカシ	人間・環境学研究科	教 授
西山 教行	ニシヤマ ノリユキ	人間・環境学研究科	教 授
服部 文昭	ハットリ フミアキ	人間・環境学研究科	教 授
林 達也	ハヤシ タツヤ	人間・環境学研究科	教 授
日置 尋久	ヒオキ ヒロヒサ	人間・環境学研究科	教 授
藤田 耕司	フジタ コウジ	人間・環境学研究科	教 授
船曳 康子	フナビキ ヤスコ	人間・環境学研究科	教 授
木坂 正史	キサカ マサシ	人間・環境学研究科	准教授
櫻川 貴司	サクラカワ タカシ	人間・環境学研究科	准教授
中森 誉之	ナカモリ タカユキ	人間・環境学研究科	准教授
西脇 麻衣子	ニシワキ マイコ	人間・環境学研究科	准教授
Peterson, Mark	ピーターソン, マーク	人間・環境学研究科	准教授
守田 貴弘	モリタ タカヒロ	人間・環境学研究科	准教授
細川 浩	ホソカワ ヒロシ	情報学研究科	講 師
江川 達郎	エガワ タツロウ	人間・環境学研究科	助 教
山本 洋紀	ヤマモト ヒロキ	人間・環境学研究科	助 教
DEBRECHT, Matthew	ディブレクト マシュー	人間・環境学研究科	特定講師
前川 真吾	マエガワ シンゴ	情報学研究科	助 教
新井 潤	アライ シュン		非常勤講師
牲川 波都季	セガワ ハツキ		非常勤講師
宮部 賢志	ミヤベ ケンシ		非常勤講師
山田 修司	ヤマタ シュウジ		非常勤講師

● 国際文明学系

氏 名	フリガナ	所 属	職 名
浅野 耕太	アサノ コウタ	人間・環境学研究科	教 授
江田 憲治	エタ ケンジ	人間・環境学研究科	教 授
大川 勇	オオカワ イサム	人間・環境学研究科	教 授
小畑 史子	オハタ フミコ	人間・環境学研究科	教 授
桂山 康司	カツラヤマ コウジ	人間・環境学研究科	教 授
合田 昌史	コウダ マサフミ	人間・環境学研究科	教 授
佐野 亘	サノ ワタル	人間・環境学研究科	教 授
須田 千里	スタ チサト	人間・環境学研究科	教 授
大黒 弘慈	ダイコク コウジ	人間・環境学研究科	教 授
辻 正博	ツジ マサヒロ	人間・環境学研究科	教 授
土屋 由香	ツチヤ ユカ	人間・環境学研究科	教 授
那須 耕介	ナス コウスケ	人間・環境学研究科	教 授
細見 和之	ホシミ カズユキ	人間・環境学研究科	教 授

水野 眞理	ミスノ マリ	人間・環境学研究科	教 授
道坂 昭廣	ミチサカ アキヒロ	人間・環境学研究科	教 授
元木 泰雄	モトキ ヤスオ	人間・環境学研究科	教 授
池田 寛子	イケダ ヒロコ	人間・環境学研究科	准教授
齋藤 嘉臣	サイウ ヨシオミ	人間・環境学研究科	准教授
佐野 宏	サノ ヒロシ	人間・環境学研究科	准教授
柴山 桂太	シバヤマ ケイタ	人間・環境学研究科	准教授
長谷川 千尋	ハセガワ チヒロ	人間・環境学研究科	准教授
松江 崇	マツエ タカシ	人間・環境学研究科	准教授
見平 典	ミヒラ ツカサ	人間・環境学研究科	准教授
吉江 崇	ヨシエ タカシ	人間・環境学研究科	准教授
鶴飼 大介	ウカイ ダイスケ	人間・環境学研究科	助 教
Bhatte, Pallavi	ハッテ パッラヴィ	人間・環境学研究科	特定講師
家入 葉子	イエリ ヨウコ	文学研究科	教 授
宇佐美 誠	ウサミ マコト	地球環境学堂・学舎	教 授
中畑 正志	ナカハタ マサシ	文学研究科	教 授
広井 良典	ヒロイ ヨシノリ	こころの未来研究センター	教 授
藤井 律之	フジイ ノリユキ	人文科学研究所	助 教
新井 京	アライ キョウ		非常勤講師
石澤 将人	イシザワ マサト		非常勤講師
稲葉 瑛志	イナハ エイシ		非常勤講師
上野 勝之	ウエノ カツユキ		非常勤講師
大川 良文	オオカワ ヨシフミ		非常勤講師
奥村 和美	オクムラ カズミ		非常勤講師
金子 治平	カネコ シヘイ		非常勤講師
岸本 恵実	キシモト エミ		非常勤講師
佐々木 博光	ササキ ヒロミツ		非常勤講師
鈴木 啓峻	スズキ ケイシュン		非常勤講師
関根 真保	セキネ マホ		非常勤講師
高橋 眞	タカハシ マコト		非常勤講師
中村 朋美	ナカムラ トモミ		非常勤講師
西井 美幸	ニシイ ミユキ		非常勤講師
林田 修	ハヤシダ オサム		非常勤講師
藤井 崇	フジイ タカシ		非常勤講師
藤岡 真樹	フシオカ マサキ		非常勤講師
薮田 有紀子	ヤブタ ユキコ		非常勤講師
巫 リャン	ウー リャン		非常勤講師

● 文化環境学系

氏 名	フリガナ	所 属	職 名
赤松 紀彦	アカマツ ノリヒコ	人間・環境学研究科	教 授
太田 出	オオタ イズル	人間・環境学研究科	教 授
岡 眞理	オカ マリ	人間・環境学研究科	教 授
小方 登	オカタ ノボル	人間・環境学研究科	教 授
小倉 紀蔵	オクラ キゾウ	人間・環境学研究科	教 授
風間 計博	カザマ カズヒロ	人間・環境学研究科	教 授
小島 泰雄	コジマ ヤスオ	人間・環境学研究科	教 授
中嶋 節子	ナカジマ セツコ	人間・環境学研究科	教 授
増井 正哉	マスイ マサヤ	人間・環境学研究科	教 授
山村 亜希	ヤマムラ アキ	人間・環境学研究科	教 授
岩谷 彩子	イワタニ アヤコ	人間・環境学研究科	准教授
勝又 直也	カツマタ ナオヤ	人間・環境学研究科	准教授
中筋 朋	ナカスジ トモ	人間・環境学研究科	准教授
梶丸 岳	カジマル カク	人間・環境学研究科	助 教
藤原 学	フジワラ マナブ	人間・環境学研究科	助 教

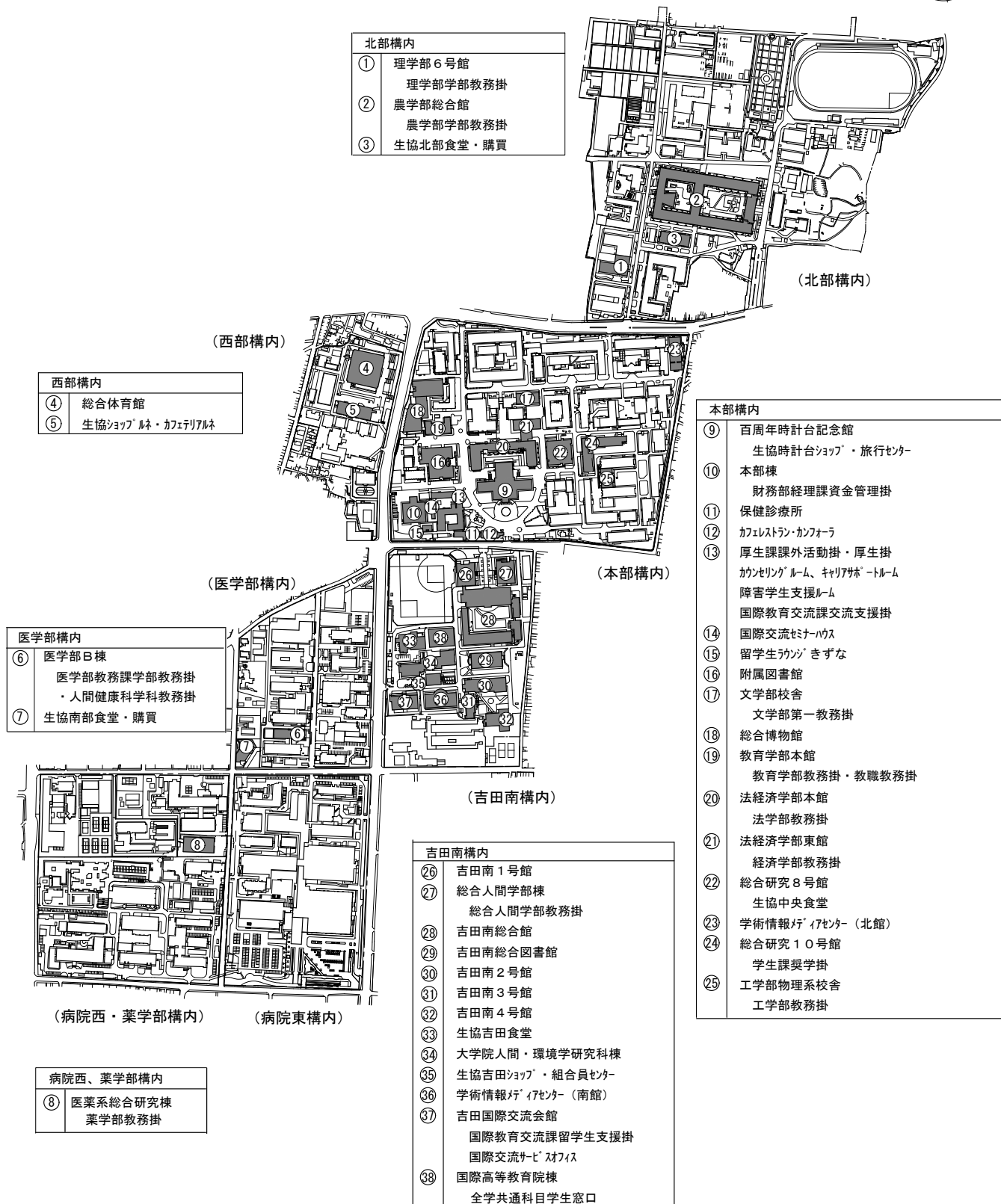
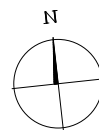
田中 雅一	タナカ マサカズ	人文科学研究所	教 授
石井 美保	イシイ ミホ	人文科学研究所	准教授
帯谷 知可	オビヤ チカ	地域研究統合情報センター	准教授
高田 明	タカタ アキラ	アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授
山越 言	ヤマコシ ケン	アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授
小野 健吉	オノ ケンキチ		非常勤講師
高木 彰彦	タカキ アキヒコ		非常勤講師
松田 隆典	マツダ タカノリ		非常勤講師

● 自然科学系

氏 名	フリカナ	所 属	職 名
石川 尚人	イシカワ ナオト	人間・環境学研究科	教 授
市岡 孝朗	イチオカ タカオ	人間・環境学研究科	教 授
内本 喜晴	ウチモト ヨシハル	人間・環境学研究科	教 授
梶井 克純	カシイ ヨシズミ	人間・環境学研究科	教 授
加藤 眞	カトウ マコト	人間・環境学研究科	教 授
鎌田 浩毅	カマタ ヒロキ	人間・環境学研究科	教 授
小木曽 哲	コギソ テツ	人間・環境学研究科	教 授
小松 直樹	コマツ ナオキ	人間・環境学研究科	教 授
酒井 敏	サカイ サトシ	人間・環境学研究科	教 授
阪上 雅昭	サカガミ マサアキ	人間・環境学研究科	教 授
杉山 雅人	スギヤマ マサヒト	人間・環境学研究科	教 授
瀬戸口 浩彰	セトグチ ヒロアキ	人間・環境学研究科	教 授
高木 紀明	タカキ ノリアキ	人間・環境学研究科	教 授
田部 勢津久	タナヘ セツヒサ	人間・環境学研究科	教 授
千坂 修	チサカ オサム	生命科学研究科	教 授
津江 広人	ツエ ヒロヒト	人間・環境学研究科	教 授
藤田 健一	フジタ ケンイチ	人間・環境学研究科	教 授
宮下 英明	ミヤシタ ヒデアキ	人間・環境学研究科	教 授
森成 隆夫	モリナリ タカオ	人間・環境学研究科	教 授
吉田 鉄平	ヨシタ テツペイ	人間・環境学研究科	教 授
吉田 寿雄	ヨシタ ヒサオ	人間・環境学研究科	教 授
木下 俊哉	キノシタ トシヤ	人間・環境学研究科	准教授
土屋 徹	ツチヤ トオル	人間・環境学研究科	准教授
西川 完途	ニシカワ カント	人間・環境学研究科	准教授
廣戸 聡	ヒロト サトル	人間・環境学研究科	准教授
藤原 直樹	フジワラ ナオキ	人間・環境学研究科	准教授
吉村 成弘	ヨシムラ シゲヒロ	生命科学研究科	准教授
上田 純平	ウエタ ジュンペイ	人間・環境学研究科	助 教
大槻 大毅	オオツキ ダイキ	人間・環境学研究科	助 教
小山田 明	オヤマタ アキラ	人間・環境学研究科	助 教
加藤 護	カトウ マモル	人間・環境学研究科	助 教
神川 龍馬	カミカワ リョウマ	人間・環境学研究科	助 教
小西 隆士	コニシ タカシ	人間・環境学研究科	助 教
阪口 翔太	サカグチ ショウタ	人間・環境学研究科	助 教
坂本 陽介	サカモト ヨウスケ	人間・環境学研究科	助 教
佐藤 博俊	サトウ ヒロトシ	人間・環境学研究科	助 教
佐野 光貞	サノ ミツサタ	人間・環境学研究科	助 教
新林 卓也	シンバヤシ タクヤ	人間・環境学研究科	助 教
高橋 弘樹	タカハシ ヒロキ	人間・環境学研究科	助 教
幡野 恭子	ハタノ キョウコ	人間・環境学研究科	助 教
山本 旭	ヤマモト アキラ	人間・環境学研究科	助 教
渡邊 雅之	ワタナヘ マサユキ	人間・環境学研究科	助 教

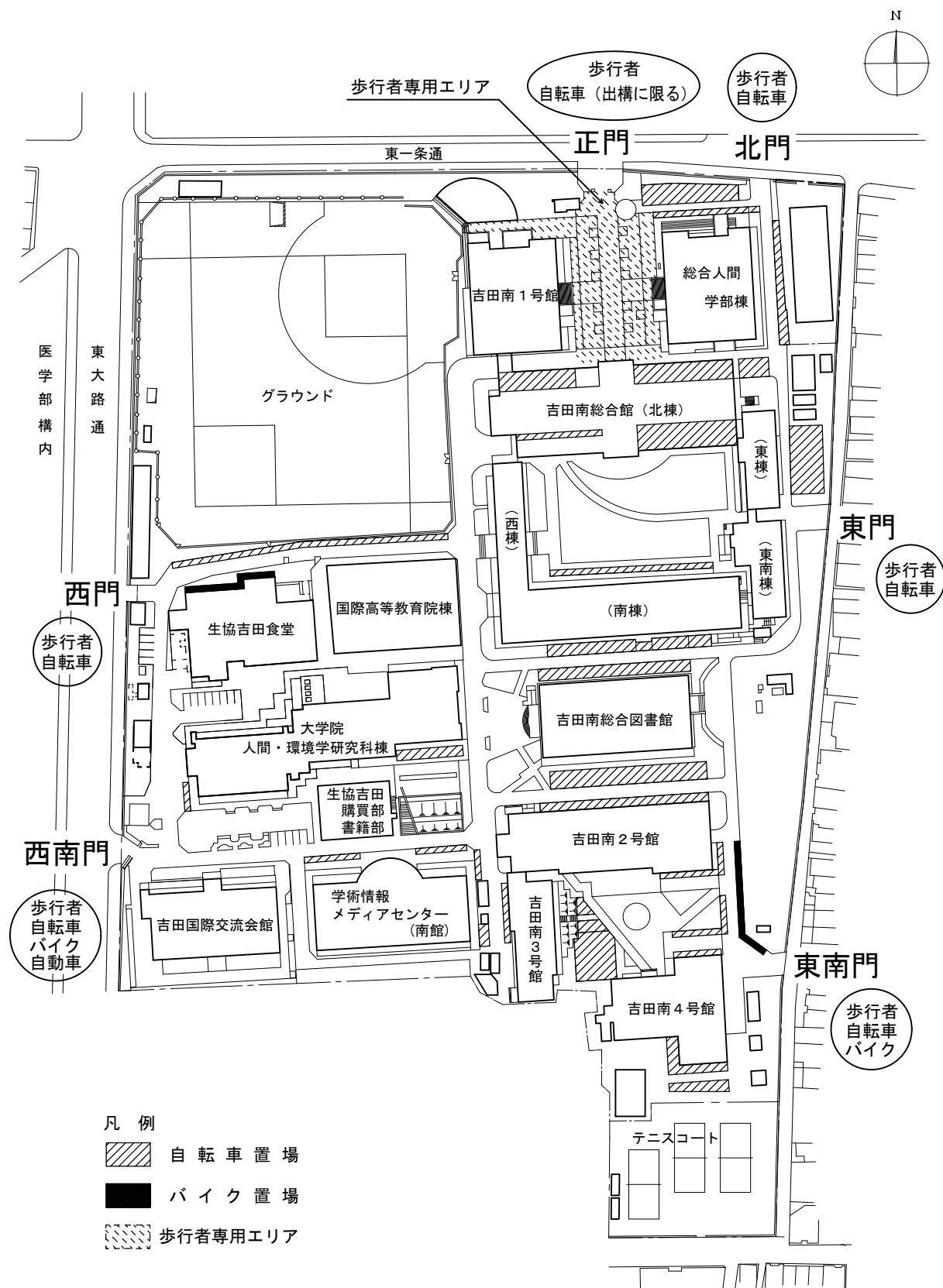
京都大学吉田キャンパス案内

● ● ● ● ● 建物配置図 ● ● ● ● ●



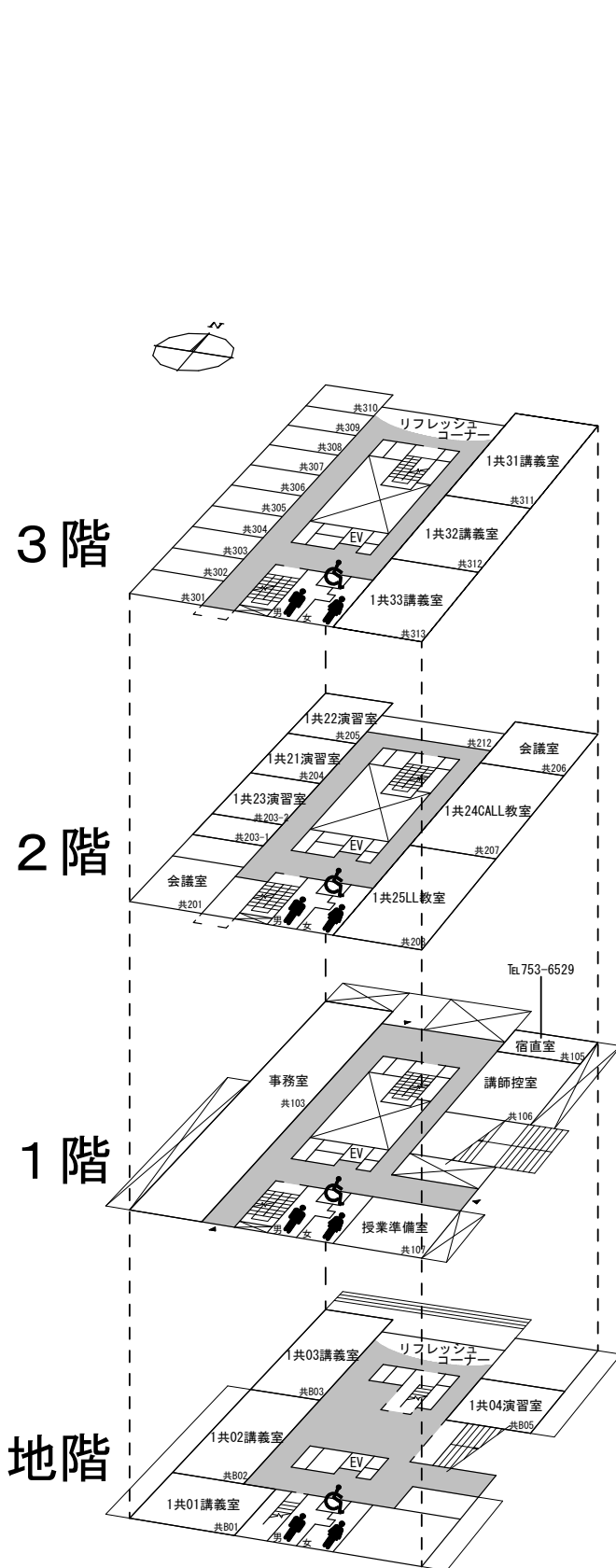
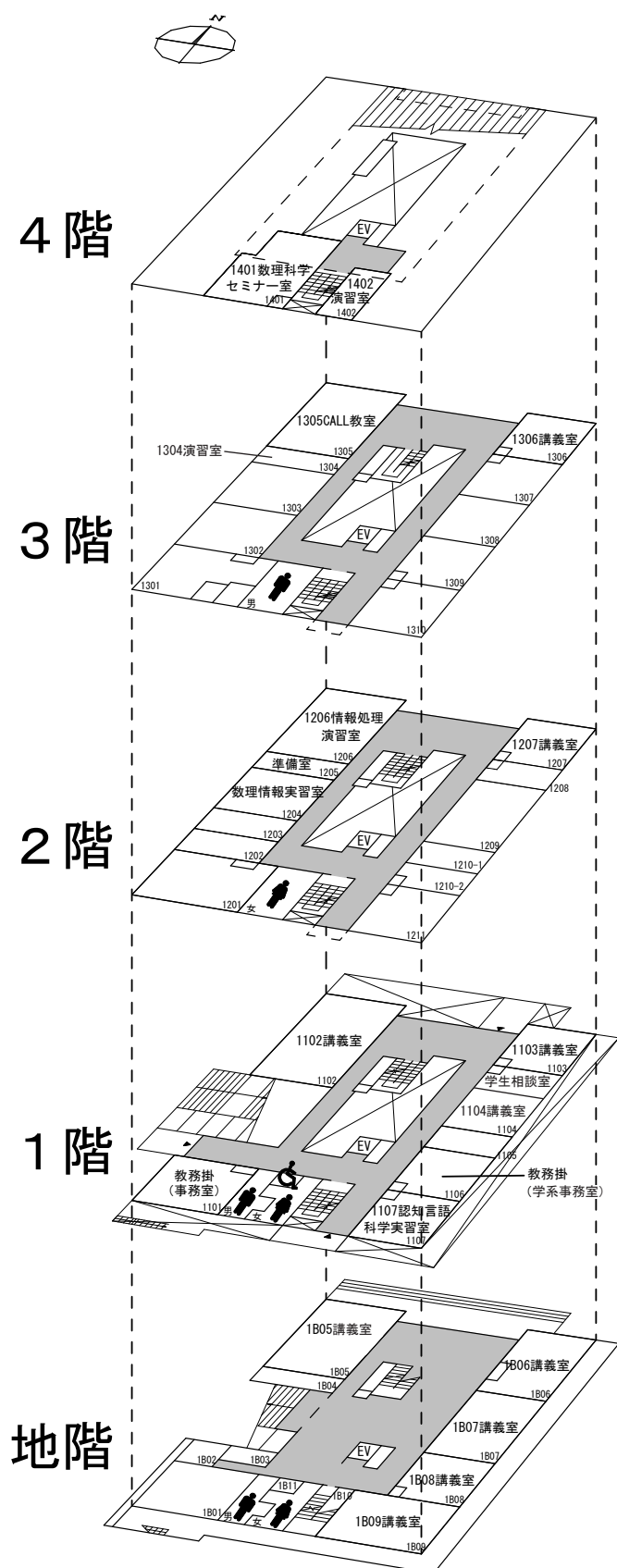
吉田南構内案内

● ● ● ● ● 建 物 配 置 図 ● ● ● ● ●

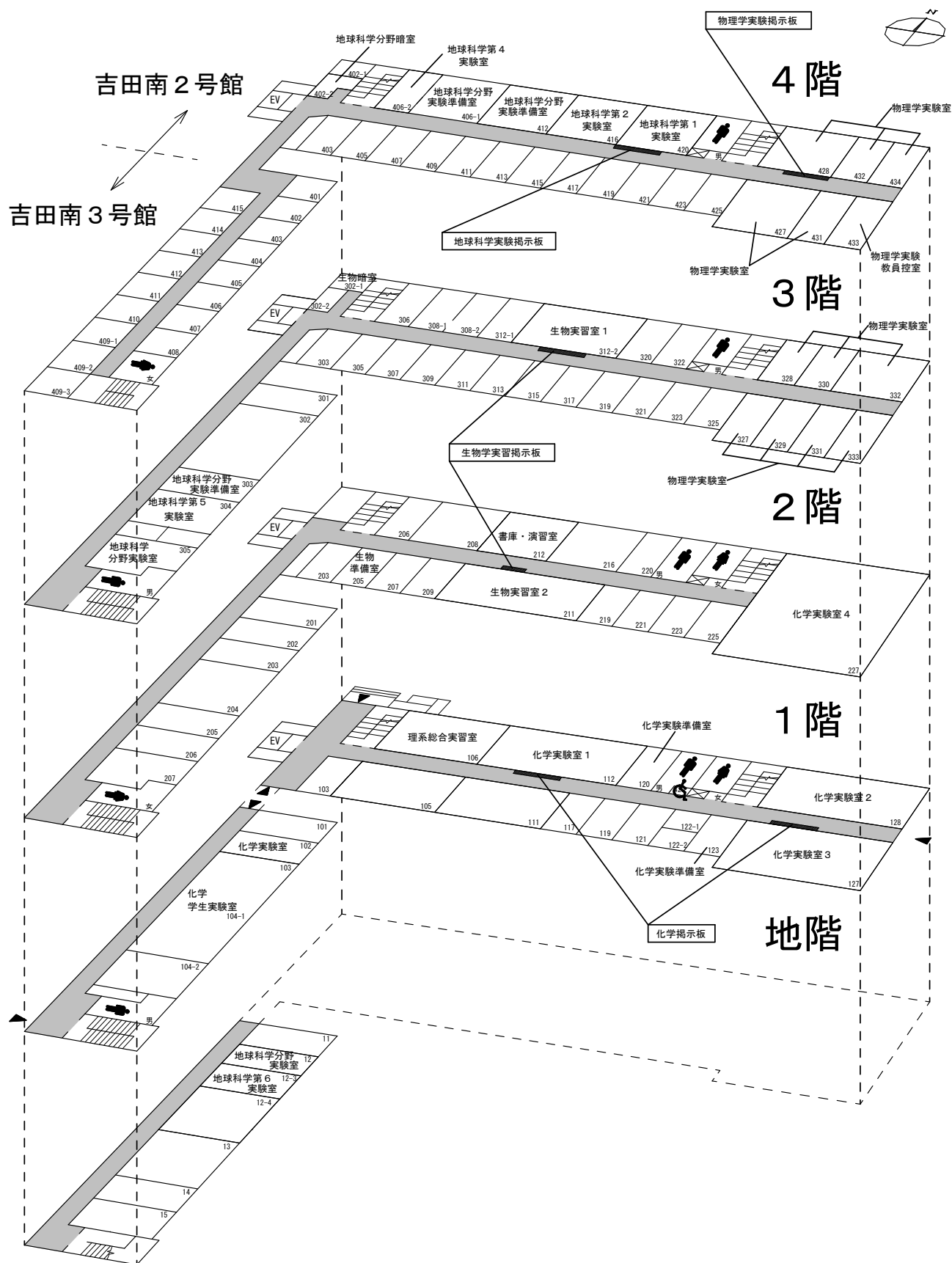


総合人間学部棟

吉田南1号館



吉田南2・3号館

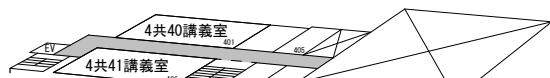


吉田南 4 号館

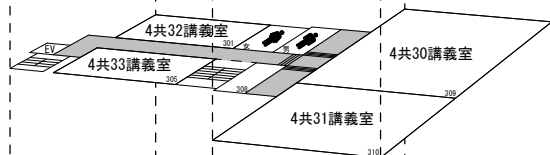
国際高等教育院棟



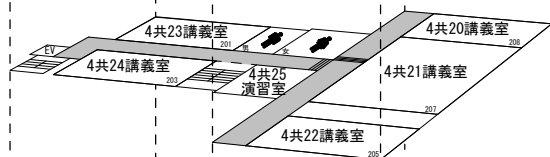
4 階



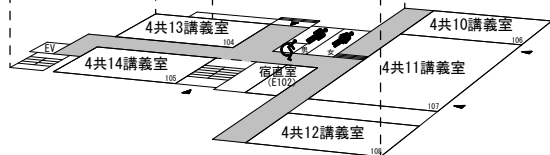
3 階



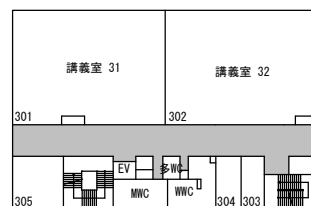
2 階



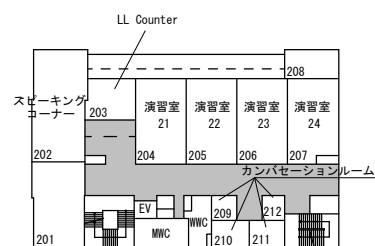
1 階



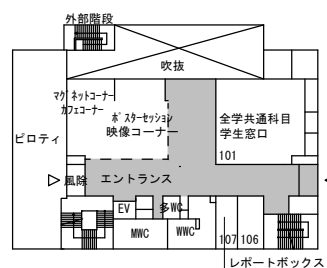
3 階



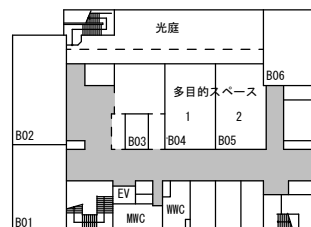
2 階



1 階



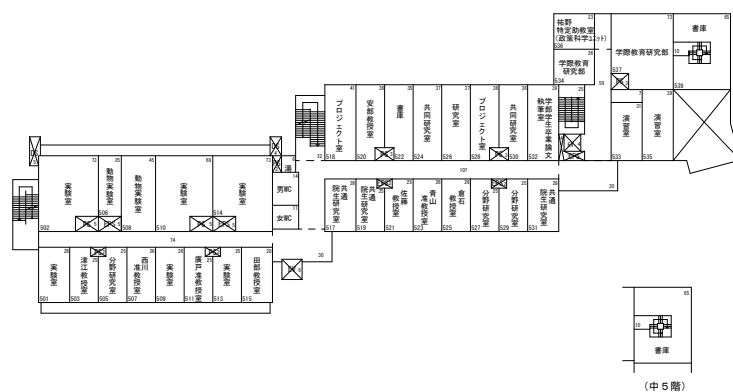
地階



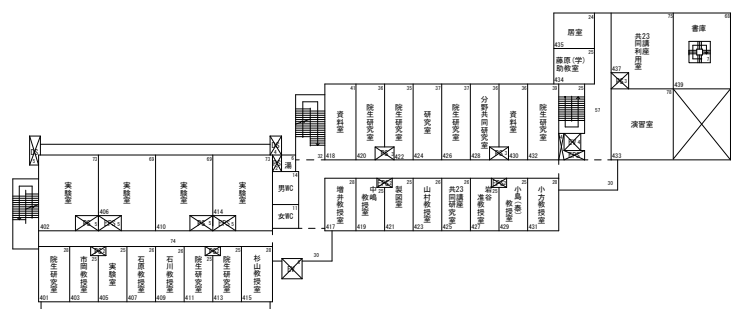
人間・環境学研究科棟 2～5階



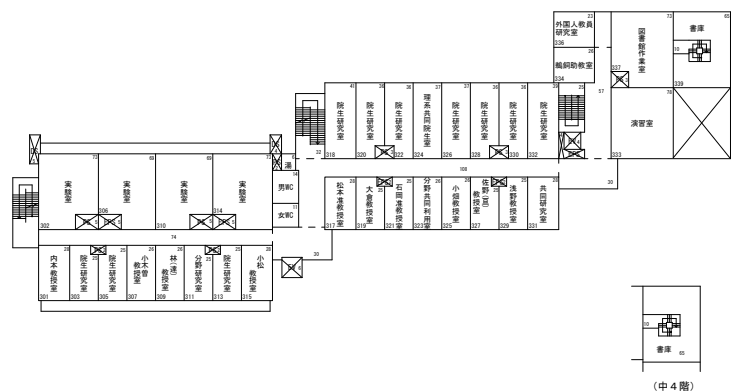
5階



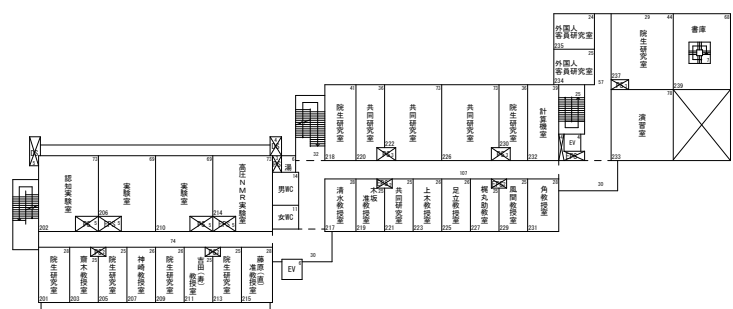
4階



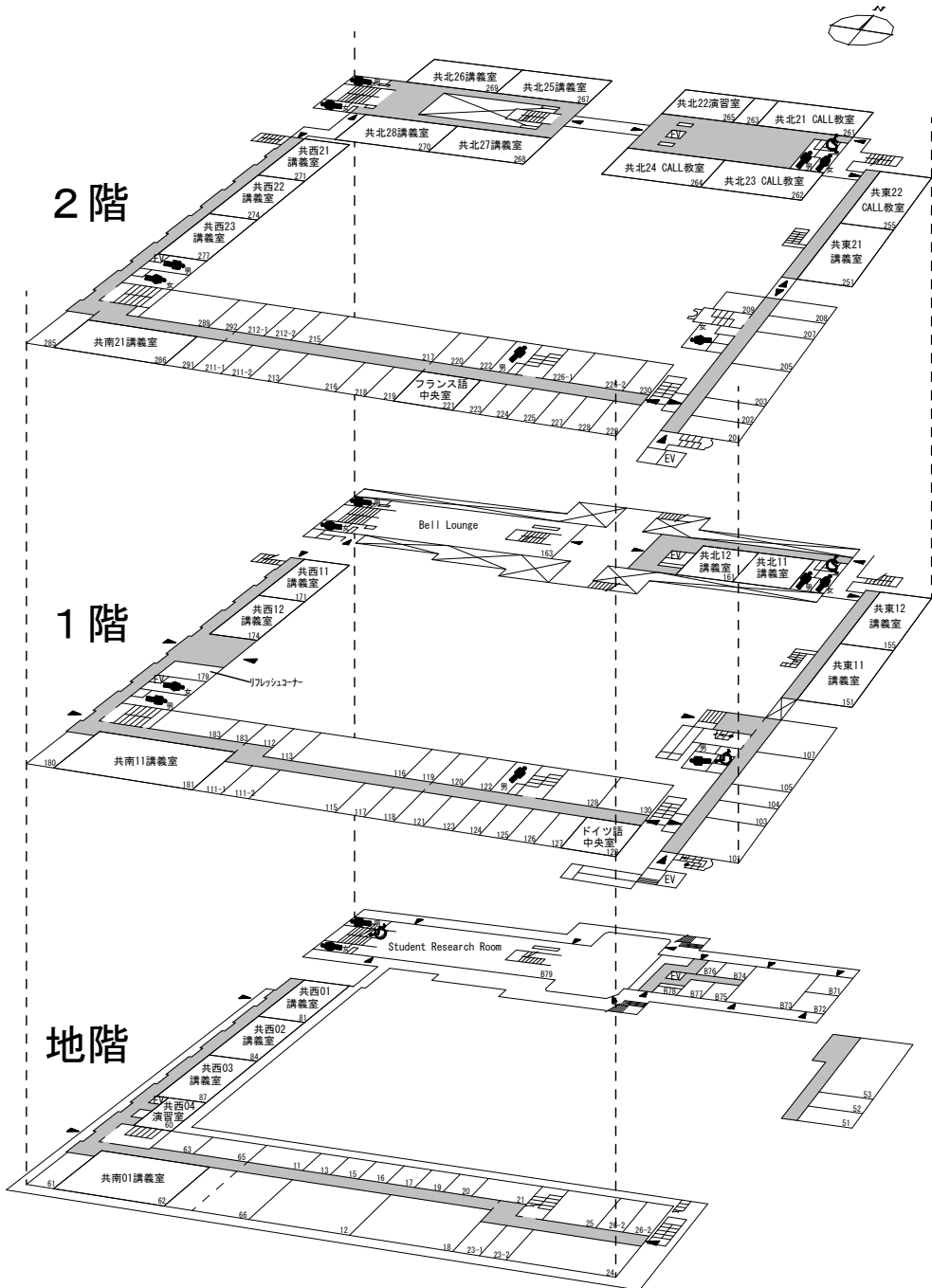
3階



2階



吉田南総合館



●吉田南構内教室設備一覧

建物	教室名	定員(人)		暗幕	電動スクリーン	ブラインド	ビデオ	DVD	ブルーレイ	マイク	モニター	プロジェクター	LAN接続※	教材提示装置	黒板・白板	(ICカードリーダー) (出席登録システム)	摘要
		講義	試験														
総合人間学部棟	地階	1B05	96	64	○	○	○	○		○		○	○	○	白板		スライドプロジェクター設置
		1B06	66	39	○	○	○	○		○		○	○	○	黒板		
		1B07	57	38	○	○	○	○		○		○	○		黒板		
		1B08	30	—	○	○	○	○				○	○		黒板		可動機
		1B09	51	34	○	○	○		○			○	○		黒板		
	1階	1102	132	88	○	○	○		○			○	○	○	黒板		
		1103	30	—	○	○	○		○			○	○		黒板		可動機
		1104	30	—	○	○	○		○			○	○		黒板		可動機
	2階	1206	41	—		○	○			○		○	○		白板		情報処理演習室
		1207	30	—	○	○	○		○			○	○	○	黒板		可動機
	3階	1304	15	—		○	○	○				○	○		白板		可動機
		1305 (CALL)	52	—	○*	○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	プリンタ、センターモニター、カセットデッキ、カーペット、学生卓ネット接続可、学生用端末52台
		1306	30	—	○	○	カーテン	○				○	○	○	黒板		可動機
	4階	1401	—	—									○		白板		セミナー室
		1402	15	—		○	○					○	○		白板		可動機
吉田南1号館	地階	1共01	70	45	○	○	○	○	○	○		○	○	○	黒板	○	
		1共02	115	74	○	○	○		○	○	2	○	○	○	黒板	○	
		1共03	98	55		○	○	○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	スクリーンは黒板の右側に設置
		1共04 (演習室)	36	—		○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	可動機、スクリーンは白板の左側に斜めに設置
	2階	1共21 (演習室)	36	—		○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	可動機、スクリーンは白板の左側に斜めに設置
		1共22 (演習室)	36	—		○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	可動機、スクリーンは白板の左側に斜めに設置
		1共23 (演習室)	36	—		○	○		○	○		○	○	○	白板	○	可動機、スクリーンは白板の左側に斜めに設置
		1共24 (CALL)	54	—	○	○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	プリンタ、センターモニター、カセットデッキ、カーペット、学生卓ネット接続可、学生用端末54台
		1共25 (LL)	64	—	○	○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	センターモニター、MD、CD、全世界対応方式ビデオ、カセットデッキ、カーペット、学生用ノートPC64台
		1共26 (演習室)	45	—		○	○		○	○		○	○	○	白板	○	可動機、スクリーンは白板の左側に斜めに設置、電子黒板
		1共31	132	87	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
	3階	1共32	87	58	○	○	○	○	○	○		○	○	○	黒板	○	
		1共33	90	60	○	○	○	○	○	○		○	○	○	黒板	○	
吉田南4号館	1階	4共10	80	50		○	○	○	○	○	2	○	●	○	黒板	○	
		4共11	254	144		○	○	○	○	○	6	○	○	○	黒板	○	
		4共12	80	50		○	○	○	○	○	2	○	●	○	黒板	○	
		4共13	80	50		○	○	○	○	○	2	○	●	○	黒板	○	
		4共14	80	50		○	○	○	○	○	2	○	●	○	黒板	○	
	2階	4共20	80	50		○	○		○	○	2	○	●	○	黒板	○	
		4共21	258	146		○	○	○	○	○	6	○	○	○	黒板	○	
		4共22	80	50		○	○	○	○	○	2	○	●	○	黒板	○	
		4共23	80	50		○	○	○	○	○	2	○	●	○	黒板	○	
		4共24	80	50		○	○	○	○	○	2	○	●	○	黒板	○	
		4共25 (演習室)	24	—		○	○		○	○		○	○	○	白板	○	可動機
	3階	4共30	376	200		○	○	○	○	○	6	○	○	○	黒板	○	
		4共31	225	121		○	○	○	○	○	4	○	○	○	黒板	○	
		4共32	80	50	○	○		○	○	○	2	○	●	○	黒板	○	
		4共33	80	50	○	○		○	○	○	2	○	●	○	黒板	○	
	4階	4共40	80	50	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
		4共41	80	50	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
マイナ7号館	地階	地下講義室	248	124		○		○	○	○	3	○	○	○	黒板	○	
	3階	301 (CALL)	60	—	○	○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	プリンタ、センターモニター、カーペット、学生卓ネット接続可、学生用端末60台
		302 (CALL)	60	—	○	○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	プリンタ、センターモニター、カーペット、学生卓ネット接続可、学生用端末60台
吉田南2号館	理系総合実習室		81	—	○	○		○	○	○	2	○	○	○	白板		可動機(16台)、机前に着席可能な人数は48人

建物		教室名	定員(人)		暗幕	電動スクリーン	ブラインド	ビデオ	DVD	ブルーレイ	マイク	モニター	プロジェクター	LAN接続※	教材提示装置	黒板・白板	(ICカードリーダー) (出席登録システム)	摘要
			講義	試験														
吉田南総合館	北棟	1階	共北11	48	—	○*	○	○	○	○			○	○	○	白板	○	可動機, カベット
			共北12	48	—	○*	○	○	○	○			○	○	○	白板	○	可動機, カベット
		2階	共北21 (CALL)	52	—	○*	○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	プリンタ, センターモニター, カセットデッキ, カベット, 学生卓ネット接続可, 学生用端末52台
			共北22 (演習室)	64	—	○	○	○		○	○	2	○	○	○	黒板	○	可動機, カベット
			共北23 (CALL)	52	—	○	○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	プリンタ, センターモニター, カセットデッキ, カベット, 学生卓ネット接続可, 学生用端末52台
			共北24 (CALL)	52	—	○	○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	プリンタ, センターモニター, カセットデッキ, カベット, 学生卓ネット接続可, 学生用端末52台
			共北25	125	83	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共北26	125	83	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共北27	125	83	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共北28	125	83	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
		3階	共北31	125	83	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共北32	125	83	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共北33	59	40	○	○	○	○	○			○	○	○	黒板	○	
			共北34	59	40	○	○	○	○	○			○	○	○	黒板	○	
			共北35	59	40	○	○	○	○	○			○	○	○	黒板	○	
			共北36	59	40	○	○	○		○	○		○	○	○	黒板	○	
			共北37	125	83	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共北38	125	83	○	○	○	○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	教室後方に白板有
			共北3A (演習室)	45	—		○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	可動機
			共北3B (演習室)	45	—		○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	可動機
			共北3C (演習室)	45	—		○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	可動機
			共北3D (演習室)	45	—		○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	可動機
	東棟	1階	共東11	120	75	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共東12	80	—	○	○		○	○	○	2	○	○	○	白板	○	可動機
		2階	共東21	120	75	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共東22 (CALL)	52	—	○	○		○	○	○		○	○	○	白板	○	プリンタ, センターモニター, カセットデッキ, カベット, 学生卓ネット接続可, 学生用端末52台
		3階	共東31	120	75	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共東32	120	75	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
		4階	共東41	120	75	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共東42	120	75	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	スクリーンは黒板の左側に設置
	西棟	地階	共西01	72	45	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共西02	72	45	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共西03	72	45	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共西04 (演習室)	24	—		○	○	○	○	○		○	○	○	白板	○	可動機
		1階	共西11	72	45	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共西12	72	45	○	○			○	○	2	○	○	○	黒板	○	
		2階	共西21	72	45	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共西22	72	45	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
			共西23	72	45	○	○		○	○	○	2	○	○	○	黒板	○	
		3階	共西31	135	85	○	○		○	○	○	4	○	○	○	黒板	○	
			共西32	114	72	○	○		○	○	○	4	○	○	○	黒板	○	
		4階	共西41	135	85	○	○		○	○	○	4	○	○	○	黒板	○	
			共西42	103	66	○	○		○	○	○	4	○	○	○	黒板	○	
	南棟	地階	共南01	154	98	○	○		○	○	○	4	○	○	○	黒板	○	
		1階	共南11	181	115	○	○		○	○	○	4	○	○	○	黒板	○	演示実験室
		2階	共南21	100	63	○	○		○	○	○	4	○	○	○	黒板	○	
国際高等教育院棟	2階		演習室21	30	—		○	○		○	○		○	○		白板	○	テーブル付き椅子, カベット
			演習室22	30	—			○		○	○		○*	○		白板	○	テーブル付き椅子, 電子黒板, カベット
			演習室23	30	—			○		○	○		○*	○		白板	○	テーブル付き椅子, 電子黒板, カベット
			演習室24	30	—		○	○		○	○		○	○		白板	○	テーブル付き椅子, カベット
	3階		講義室31	240	160		○	○		○	○	4	○	○	○	白板	○	講義収録システム, カベット
			講義室32	240	160		○	○		○	○	4	○	○	○	白板	○	講義収録システム, カベット

※ LAN接続欄の「●」は無線LANのみ接続可能であることを示しています。

総合人間学部便覧

編集 京都大学総合人間学部
発行

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
電話 075-753-6506, 6507, 7875 (教務掛)